

日本女子体育大学 | 2017年度 |

シラバス



Japan Women's College of Physical Education

科目名	日本国憲法			担当者	中村安菜	
英文名	Constitutional Law					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
【目的とねらい】 日本という国の基本的なあり方を決めている日本国憲法。この法がどのような内容であり、どのように役立っているのかを学ぶ。人権に関する規定、統治機構に関する規定とも出来るだけ具体的・現実的な事件・出来事等と結びつけながら解説する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 なぜ憲法を学ぶのか？ 【 到達目標 】 (1) 体育大学生が必修で日本国憲法について学ぶ理由を理解する。 【授業時間外学習】 教科書第1話・第2話を熟読する。			第9回 社会権 【 到達目標 】 (1) 社会権が保障されることになった歴史的背景を理解する。 (2) 生存権等の社会権の具体的内容を理解する。 【授業時間外学習】 教科書第9話を熟読する。生活保護制度について調べる。			
第2回 憲法とはどのような法か？ 【 到達目標 】 (1) 憲法は権力濫用の防止を目的とする法であることを理解する。 (2) 憲法は国内の最高法規であることを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第3話を熟読する。			第10回 天皇と国民 【 到達目標 】 (1) 憲法上の天皇に関する規定について理解する。 (2) 天皇の存在と国民主義の関係について理解する。 【授業時間外学習】 天皇の職務について調べる。			
第3回 基本的人権総論 【 到達目標 】 (1) 基本的人権が保障されることの意味を理解する。 (2) 基本的人権は誰に、どの範囲で保障されるのかを理解する。 【授業時間外学習】 人権が保障される範囲について、自らで具体例を発見する。			第11回 平和主義 【 到達目標 】 (1) 日本国憲法が規定している平和主義について理解する。 (2) 平和主義の意義と問題点について理解する。 【授業時間外学習】 教科書第11話を熟読する。			
第4回 法の下平等 【 到達目標 】 (1) 法の下平等とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 具体的な事例で不合理な差別とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第4話を熟読する。2014年9月4日最高裁大法廷判決に関する新聞記事をコピーする。			第12回 国会の役割 【 到達目標 】 (1) 国会の地位と構成・役割について理解する。 (2) 国会と国民主義の関係について理解する。 【授業時間外学習】 教科書第12話を熟読する。国会・各議院の権限について調べる。			
第5回 精神的自由権① 【 到達目標 】 (1) 思想・良心の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 信教の自由とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第5話を熟読する。君が代起立斉唱事件に関する新聞記事をコピーする。			第13回 内閣の役割 【 到達目標 】 (1) 内閣の地位と構成・役割について理解する。 【授業時間外学習】 教科書第13話を熟読する。			
第6回 精神的自由権② 【 到達目標 】 (1) 学問の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 表現の自由とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第5話・第6話を熟読する。表現の自由が抑圧された事例を考える。			第14回 裁判所の役割 【 到達目標 】 (1) 裁判所の地位と構成・役割について理解する。 【授業時間外学習】 教科書第14話を熟読する。			
第7回 経済的自由権 【 到達目標 】 (1) 職業選択の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 財産権とはどのようなものであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第7話を熟読する。			第15回 憲法の役割と現実 【 到達目標 】 (1) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。 【授業時間外学習】 この授業を通して自分が関心をもった事柄について簡単にまとめる。			
第8回 人身の自由 【 到達目標 】 (1) 人身の自由が保障されている意味を理解する。 (2) 人身の自由の内容と刑事手続の流れを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第8話を熟読する。						
【学習上の留意点】 講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみる。なお、授業内容の詳細は随時指示する。						
【教科書・参考書など】 「教職教養憲法15話 改訂版」加藤一彦 著、北樹出版、2012						
【関連科目】						
【成績評価方法】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提である）。試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	国語表現Ⅰ			担当者	稲井 達也・影山 陽子 松崎 史周	
英文名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅰ					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
【目的とねらい】 ・ 言語力やコミュニケーション能力を養い、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力を高めることを目的とする。 ・ 新聞や本の読み方を学ぶ中で、自ら主体的に言語生活の充実を図るとともに、言葉に関する視野を広げ、実生活に生きて働く基本的なリテラシーを養う。 ・ 読書に親しむとともに、書評を取り扱い、書評を分析したり実際に書いたりすることを通して、批判的思考力を養う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション (授業概要理解・学習目標設定) 【 到達目標 】 この授業の目的とねらい、学習方法を理解し、各自が学習目標を設定する。 【授業時間外学習】 新聞記事を探す。			第9回 読書生活③ 【 到達目標 】 ・ 教科書として指定された文庫を読み、書評を要約したり意見を持ったりし、批評的な観点を身につける。 ・ 書評を分析する。 【授業時間外学習】 教科書として指定された文庫の書評を分析する。			
第2回 新聞に親しむ① 【 到達目標 】 ・ 新聞の読み方を知り、新聞に親しむ。 ・ 全国紙と地方紙、一般紙と専門紙の違いを知る。 ・ 紙面構成と記事構成を学ぶ。 【授業時間外学習】 興味・関心のある新聞記事を探し、要約する。			第10回 読書生活④ 【 到達目標 】 ・ 教科書として指定された文庫を読み、書評を要約したり意見を持ったりし、批評的な観点を身につける。 ・ 教科書として指定された文庫の書評を分析する。 【授業時間外学習】 教科書として指定された文庫の書評を分析する。			
第3回 新聞に親しむ② 【 到達目標 】 ・ 新聞をもとに、意見を交流する。 ・ 新聞をもとに、自分の意見を組み立てる。 ・ 批判的なものの見方・考え方について理解する。 【授業時間外学習】 新聞記事を参考にして意見文を書く。			第11回 ビブリオバトル① 【 到達目標 】 ・ 本の時内容を把握するとともに、内容の魅力の伝え方を構想し、ビブリオバトルの準備を行う。 【授業時間外学習】 ビブリオバトルを意識して、本を読む。			
第4回 手紙① 【 到達目標 】 手紙のマナーや書き方について理解を深める。 【授業時間外学習】 模擬の手紙を書く。			第12回 ビブリオバトル② 【 到達目標 】 ・ グループごとにビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。 【授業時間外学習】 ビブリオバトルを踏まえて、本の情報を加筆したり修正したりする。			
第5回 手紙② 【 到達目標 】 手紙の書き方について一層の理解を深める。 【授業時間外学習】 模擬の手紙を書く。			第13回 ビブリオバトル③ 【 到達目標 】 ・ 全体でビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。 【授業時間外学習】 ビブリオバトルの記録を完成させる。			
第6回 メール 【 到達目標 】 PCのeメールとケータイメールの使い分けについて理解するとともに、eメールのマナーと書き方の知識を深める。 【授業時間外学習】 模擬のeメールを書く。			第14回 ビブリオバトル④ 【 到達目標 】 ・ 全体でビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。 ・ チャンプ本を選ぶ。 ・ ビブリオバトルを参考にして、書評の構想を練る。 【授業時間外学習】 書評の構想を基にして、書評の執筆をする。			
第7回 読書生活① 【 到達目標 】 ・ 本の選び方と読み方を知る。 ・ 書評を読み、本の批評方法について学ぶ。 ・ 書誌情報について理解する。 【授業時間外学習】 教科書として指定された文庫を読む。			第15回 目標達成度確認・国語表現Ⅱへの課題 【 到達目標 】 自己評価により目標達成度を測り、国語表現Ⅱへの課題を確認する。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返って、自己評価を行う。			
第8回 読書生活② 【 到達目標 】 ・ 書評の批評の特徴について考える。 ・ ネット書店の書評などの他の書評と教科書として読む文庫に取り上げられた書評を比較する。 ・ 批判的思考力を身につける。 【授業時間外学習】 教科書として指定された文庫を読む。						
【学習上の留意点】 ・ 毎授業の始めに、日本語検定試験の問題を使って解説の時間を設けるとともに、適宜、確認テストを行う。 ・ 本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。 ・ 新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組みが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。 ・ 不明な言葉をすぐに調べられるようにするため、国語辞典を持参すること。電子辞書でも構わない。						
【教科書・参考書など】 教科書：『10代のうちに本当に読んでほしい「この一冊」』、河出書房新社編集部編、河出文庫(河出書房新社)						
【関連科目】 国語表現Ⅱ						
【成績評価方法】 毎回の提出物40％・レポート課題30％・発表(ビブリオバトル等)20％・日本語検定確認テスト10％						

科目名	英語 I (基礎)				担当者	加賀 岳彦・大和久吏恵	
英文名	English I (Elementary)						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
【目的とねらい】 この授業では、英語の基礎を確認・再学習する。要点は、1) 基本語彙を覚える、2) 文法・発音の基礎を習得する、3) 平易な英文・対話文でコミュニケーションができるようになる、の3点である。また受講生の必要に応じて、英語の学習法や英語になじむための活動も取り入れる。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーションおよびプレイズメントテストの実施 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の進み方を理解する。 受験上の留意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。				第9回 英語基礎総合演習⑨ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第2回 英語学習上のポイント等の説明・英語基礎総合演習① 【 到達目標 】 プレイズメントテストの結果を踏まえて、基礎クラスの受講生に必要な学習上の工夫・ポイントを理解し、実践する。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。				第10回 英語基礎総合演習⑩ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第3回 英語基礎総合演習② 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。				第11回 英語基礎総合演習⑪ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第4回 英語基礎総合演習③ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。				第12回 英語基礎総合演習⑫ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第5回 英語基礎総合演習④ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。				第13回 英語基礎総合演習⑬ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第6回 英語基礎総合演習⑤ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。				第14回 英語基礎総合演習⑭ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第7回 英語基礎総合演習⑥ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。				第15回 英語基礎総合演習⑮ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第8回 英語基礎総合演習⑦ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。							
【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。							
【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。							

科目名	英語 I (初級)			担当者	大和久吏恵・町田 晶子	
英文名	English I (Lower-Intermediate)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
【目的とねらい】 この授業では、英語の基礎知識の復習・確認をしながら、日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・表現力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生が自立的学習を行えるよう学習指導にも言及する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーションおよびプレイズメントテストの実施 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の進み方を理解する。 受験上の留意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。			第9回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑧ 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第2回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得① 【 到達目標 】 授業時間外学習の方法を把握する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第10回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑨ 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第3回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得② 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第11回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑩ 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第4回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得③ 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第12回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑪ 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第5回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得④ 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第13回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑫ 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第6回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑤ 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第14回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑬ 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第7回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑥ 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第15回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑭ 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。			
第8回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑦ 【 到達目標 】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。						
【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。						

科目名	英語 I (中級)			担当者	大和久吏恵・山田 七恵	
英文名	English I (Intermediate)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
【目的とねらい】 この授業では、英語の基礎知識(語彙・文法・発音等)を踏まえて、コミュニケーションの実践および学術研究に発展していきけるようになるための英語力の養成を図る。また受講生が自立的学習を行っていきけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーションおよびプレイズメントテストの実施 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の進み方を理解する。 受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。			第9回 リスニングを含む英語表現演習⑧ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第2回 Introduction リスニングを含む英語表現演習① 【 到達目標 】 受講にあたっての留意点・学習の進み方を理解する。 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第10回 リスニングを含む英語表現演習⑨ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第3回 リスニングを含む英語表現演習② 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第11回 リスニングを含む英語表現演習⑩ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第4回 リスニングを含む英語表現演習③ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第12回 リスニングを含む英語表現演習⑪ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第5回 リスニングを含む英語表現演習④ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第13回 リスニングを含む英語表現演習⑫ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第6回 リスニングを含む英語表現演習⑤ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第14回 リスニングを含む英語表現演習⑬ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第7回 リスニングを含む英語表現演習⑥ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第15回 リスニングを含む英語表現演習⑭ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習に取り組む。			
第8回 リスニングを含む英語表現演習⑦ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語独自の表現を学び、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。						
【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること(電子辞書可)。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、試験の結果を60%として評価する。						

科目名	英語Ⅱ（基礎）			担当者	加賀 岳彦・大和久吏恵	
英文名	English Ⅱ (Elementary)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
【目的とねらい】 この授業では、「英語Ⅰ（基礎）」を踏まえて、さらに英語の基礎全般を確認・再学習し、コミュニケーション力の向上を図る。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業説明および英語総合演習① 【到達目標】 授業の目標・内容・計画を確認する。 受講生各自が、自己の英語学習の改善点を意識し、自立的学習を行っていけるよう方向づけを行う。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。			第9回 英語総合演習⑨ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第2回 英語総合演習② 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			第10回 英語総合演習⑩ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第3回 英語総合演習③ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			第11回 英語総合演習⑪ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第4回 英語総合演習④ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			第12回 英語総合演習⑫ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第5回 英語総合演習⑤ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			第13回 英語総合演習⑬ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第6回 英語総合演習⑥ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			第14回 英語総合演習⑭ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第7回 英語総合演習⑦ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			第15回 英語総合演習⑮ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項の復習を行う。			
第8回 英語総合演習⑧ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。						
【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
【関連科目】 英語Ⅰ（基礎）						
【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。						

科目名	英語Ⅱ（初級）			担当者	大和久吏恵・町田 晶子	
英文名	English II (Lower-Intermediate)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
【目的とねらい】 この授業では、「英語Ⅰ（初級）」を踏まえ、さらに日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生が自立的学習を継続できるよう、引き続き学習指導にも言及する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 イントロダクション・英語運用能力の習得、読解力の向上① 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の進み方を確認する。 授業時間外学習の方法を振り返り、継続・改善する点を把握する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第9回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑨ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第2回 英語運用能力の習得、読解力の向上② 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第10回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑩ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第3回 英語運用能力の習得、読解力の向上③ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第11回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑪ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第4回 英語運用能力の習得、読解力の向上④ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第12回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑫ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第5回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑤ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第13回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑬ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第6回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑥ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第14回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑭ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第7回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑦ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第15回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑮ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、今後も自立的学習を継続させる。			
第8回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑧ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。						
【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
【関連科目】 英語Ⅰ（初級）						
【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。						

科目名	英語Ⅱ（中級）				担当者	大和久吏恵・山田 七恵	
英文名	EnglishⅡ（Intermediate）						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
【目的とねらい】 この授業では、「英語Ⅰ（中級）」を踏まえて、英語のコミュニケーションの実践および英語を用いた学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 Introduction 英語精読演習① 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。				第9回 英語精読演習⑨ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第2回 英語精読演習② 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。				第10回 英語精読演習⑩ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第3回 英語精読演習③ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。				第11回 英語精読演習⑪ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第4回 英語精読演習④ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。				第12回 英語精読演習⑫ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第5回 英語精読演習⑤ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。				第13回 英語精読演習⑬ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第6回 英語精読演習⑥ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。				第14回 英語精読演習⑭ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第7回 英語精読演習⑦ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。				第15回 英語精読演習⑮ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習に取り組む。			
第8回 英語精読演習⑧ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。							
【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。							
【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。							
【関連科目】 英語Ⅰ（中級）							
【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。							

科目名	教養演習				担当者		
英文名	Preparations for Academic Studies						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
【目的とねらい】 この授業は、大学での学修の基礎となる知識・技術の習得を目的とした初年次教育の授業である。授業では以下の4点を重点的に養成する。①アカデミック・スキルズ(大学での学習・調査・研究に必要な諸技術)の習得、②日本女子体育大学の一員としての自覚と責任の養成、③社会の一員として必要となるソーシャル・スキルズの向上、④教養力の養成。これらの目的を達成するため授業は少人数クラスでの演習形式で行われる。また下記の授業内容に加え、必要に応じて各種の配布物を使った課題およびワークショップ的内容も実施する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 アイスブレイク 【 到達目標 】 クラスメイトと「アイスブレイク」の活動を通して、知らない人たちと打ち解けあい、よりよい集団づくりをしていくには何が必要かを体験的に学ぶ。 【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス、部活動、諸活動などの実践の場で活かすよう工夫する。			第9回 レポート・論文作成の技術(1) 【 到達目標 】 レポート・論文作成に求められる基本姿勢・思考法等を理解し、作成の手順等を、内容と形式の両面から習得する。 【授業時間外学習】 今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。				
第2回 私の学生生活 【 到達目標 】 これまでの学生生活を振り返り、他者の事例との比較考察を通して、自分の大学生活を有意義なものにしていくにはどうすればよいかを自覚的に考える。 【授業時間外学習】 授業で確認した内容を踏まえ、今後の大学生活をどう送るのかについて各自の自覚を深める。			第10回 レポート・論文作成の技術(2) 【 到達目標 】 レポート・論文作成における不正行為を防ぎ、参考文献を正しく利用することで論考の質を高める技術を実践的に習得する。 【授業時間外学習】 今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。				
第3回 日本女子体育大学を知る(1) 【 到達目標 】 日本女子体育大学の創立者である二階堂トクヨの生涯を概観し、本学がどのようにして創立されたのかを理解し、説明できるようになる。 【授業時間外学習】 創立者二階堂トクヨのことを必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。			第11回 プレゼンテーションの技術 【 到達目標 】 プレゼンテーションに求められる姿勢・準備方法等を理解し、その効果的な実施方法や手順を習得する。 【授業時間外学習】 学習内容を今後の授業・ゼミ・部活でのプレゼンに活かすよう工夫する。				
第4回 日本女子体育大学を知る(2) 【 到達目標 】 日本女子体育大学の建学の精神・教育理念を理解し、本学の一員としての自覚と責任を深め、本学で学ぶことの意義を考える。 【授業時間外学習】 本学の建学の精神・教育理念を必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。			第12回 専門への架け橋 【 到達目標 】 「卒業研究」の概要を理解し、先輩たちの体験アンケート結果を参考にして、自分の卒業研究の方向性を考える。 【授業時間外学習】 学習内容を踏まえ、自分が書きたい卒業研究のテーマ・内容を考える。				
第5回 話し合いの技術 【 到達目標 】 集団で物事を決定する際の諸方法の長所・短所を比較考察し、話し合いの目的や決める内容に応じた適切な方法を考える。 【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス・部活動・諸活動などの実践の場で活かせるよう工夫する。			第13回 レポート・プレゼンテーション① 【 到達目標 】 担当教員の指示に従って、レポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。 【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンの準備を行う。				
第6回 ノートテイクの技術 【 到達目標 】 大学で行われる授業の性質・特徴を踏まえて、ノートテイクの意義・留意点を確認する。そして担当教員の指示に従って実践し、各自の改善点を探る。 【授業時間外学習】 ノートテイクの技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。			第14回 レポート・プレゼンテーション② 【 到達目標 】 前回に引き続きレポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。 【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンの準備を行う。				
第7回 データを読む技術 【 到達目標 】 量的データを扱う際の初歩的な統計的計算方法やスキルを、その基本問題の実践を通じて習得する。 【授業時間外学習】 データ解釈の技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。			第15回 レポート・プレゼンテーション③ 【 到達目標 】 担当教員の指示の下に、レポート・プレゼンテーションのまとめの作業を行う。 【授業時間外学習】 受講生各自がレポート・プレゼンの反省点・改善点を確認する。				
第8回 データをまとめる技術 【 到達目標 】 質的データを、整理・分析・考察の有効な資料にしていくための「まとめる」スキルを習得する。 【授業時間外学習】 授業で実践したスキルを、今後の授業・研究などで実践してみる。							
【学習上の留意点】 この授業は、講義ではなく「演習」である。そこでは受講生ひとりひとりが読み、考え、書き、意見交換をし、調べ、報告する様々な「活動」が中心となる。良識ある態度で授業に臨み、教員・クラスメイトと協力し合って、この演習を有意義なものにすることが望まれる。							
【教科書・参考書など】 『教養演習ハンドブック』を用いる。他にも必要に応じて随時ハンドアウト・資料等を配布する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 スキル・課題の習得度・達成度を50%、レポート・プレゼンテーションの達成度50%で評価する。(良好な出席状況は、当然の前提である。)							

科目名	情報処理（情報機器の操作を含む）			担当者	鈴木 信夫・五月女仁子 牧 琢弥	
英文名	Information Literacy					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
【目的とねらい】 ICT（Information & Communication Technology）の基礎を理解した上で、文書作成、表計算等に関するアプリケーションの活用法を学ぶ。また、ネットワークのしくみの基本を理解し、インターネットやメーラーの活用法を学ぶ。さらに、OSやファイル管理、周辺機器やメディアについても理解を深める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 インターネットについての理解と利用1 【 到達目標 】 (1)LANについての基礎知識を理解する。 (2)メーラー設定・パスワード変更・ネット検索について習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			第9回 インターネットについての理解と利用2 【 到達目標 】 (1)ネット上のマナーと著作権およびコンピュータウイルスの知識を得る。 (2)メールによるファイル添付、ネット上の図等の利用について習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第2回 文書作成法の理解 【 到達目標 】 (1)文書の構成の知識と文書作成ソフトウェアの知識を理解する。 (2)テキストデータ作成と編集について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			第10回 周辺機器とメディアについての理解と利用 【 到達目標 】 (1)PC周辺機器についての知識を得る。 (2)プリンタ等の実用的な利用方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第3回 文書作成の方法 【 到達目標 】 (1)Wordによる文書レイアウトの操作に関する知識を得る。 (2)文書のレイアウト方法や編集について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			第11回 プレゼンテーション法の理解 【 到達目標 】 (1)PCを使ったプレゼンテーションについて理解する。 (2)PowerPointによるスライド作成を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第4回 ビジュアル表現法の理解 【 到達目標 】 (1)文書上のオブジェクトについて理解する。 (2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			第12回 プレゼンテーションの方法1 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーション・スライドの応用的利用について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第5回 ビジュアル表現の方法1 【 到達目標 】 (1)文書上の罫線・表の作成・編集について習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			第13回 プレゼンテーションの方法2 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーション・スライドの効果的利用方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第6回 ビジュアル表現の方法2 【 到達目標 】 (1)文書上の図形描画（ドロー系コンテンツ）を習得する。 (2)文書の印刷方法について理解し、習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			第14回 OSとアプリケーションとファイルについての理解 【 到達目標 】 (1)OSとアプリケーションについての知識を得る。 (2)Word文書をPDF形式に保存する方法・EXCELをCSV形式に保存する方法等を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第7回 数値分析・データ加工法の理解 【 到達目標 】 (1)コンピュータによるデータの蓄積と分析の知識を得る。 (2)表計算ソフトEXCELの基本操作ができるようになる。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			第15回 ファイルについての知識および管理の方法 【 到達目標 】 (1)ファイルについての知識および管理方法を習得する。 (2)様々な保存形式について理解する。 (3)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第8回 数値分析・データ加工の方法 【 到達目標 】 (1)EXCELによるデータ分析、シートの編集・印刷についての知識を得る。 (2)数値計算・統計計算への応用ができるようになる。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。						
【学習上の留意点】 単なるアプリケーションの活用と習得だけでなく、その背景にあるコンピュータの仕組みやネットワーク、さらに文書の構成やコンピュータの分析処理の基本的考え方等の基本的知識を学び、専門における応用が可能となるようにする。そのため、基礎知識を学び、毎回授業時にそれに関連した課題を提出してもらう。						
【教科書・参考書など】 別途、授業時に指示する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 毎回の提出課題を100%として評価する。						

科目名	女性と仕事				担当者	齊藤 隆志・影山 陽子	
英文名	Career Development Studies (Women and Work)						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
【目的とねらい】 本学の教育理念に沿い、主体的な生き方を自ら創造するキャリア形成の基礎力を身につけることを目的とする。働く環境がめまぐるしく変化する社会において、「働くこと」の意味や「仕事」について明確な意識を持って4年間の学生生活に取り組む姿勢を確認する。2年次の「社会のしくみとキャリア形成」とともに、女性としての社会的立場を理解し、自らの道を切り開く力の養成を図ることを狙いとする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーションおよび講演 【 到達目標 】 本講義の目的と狙いを理解し、また本学卒業生による講演を通して、現在の自分についての考えをまとめる。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。全15回の授業について概観する。				第9回 自分を知る(2) 自分を知る② 【 到達目標 】 社会人入門として「社会人基礎力」を学び、社会人に必要な力について考える。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。社会人基礎力について調べる。			
第2回 社会を知る(1) 社会状況とライフスタイル① 【 到達目標 】 女性の社会進出と現在の社会状況について学び、自分の考えを整理しまとめる。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。二階堂トクヨ・人見絹枝について学ぶ。				第10回 自分を知る(3) 知識基盤社会とスポーツちから① 【 到達目標 】 知識基盤社会と、その社会で求められる生活技術としてのスポーツちからについて理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。自身のスポーツちからについて考える。			
第3回 社会を知る(2) 社会状況とライフスタイル② 【 到達目標 】 女性を取り巻く就業環境とライフスタイルについて学び考え、自分の意見をまとめる。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。身近な女性(家族など)に就業状況について話を聴く。				第11回 自分を知る(4) 自分を知る③ 【 到達目標 】 日女生のキャリア形成の現状を知り、自分の可能性について考える。 【授業時間外学習】 自分が目指す職業領域について調べる。			
第4回 自分を知る(1) 自分を知る① 【 到達目標 】 パーソナルヒストリー作成や自己分析を通して、自分自身を客観的に見る方法を知る。 【授業時間外学習】 パーソナルヒストリーについて内省を深める。自己啓発について学ぶ。				第12回 自分を知る(5) 知識基盤社会とスポーツちから② 【 到達目標 】 知識基盤社会と、その社会で求められる生活技術としてのスポーツちからについて理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。社会の変化について調べる。			
第5回 社会を知る(3) 講演① 【 到達目標 】 社会人による講演を通して、いろいろな仕事や生き方を学び、自分の意見や考えをまとめる。 【授業時間外学習】 ワーキングマザーの現状について調べる。				第13回 自分らしく生きるために 【 到達目標 】 自分のキャリアデザインやアクションプランを作成し、プレゼンの準備を通して、大学生活と将来についての考えをまとめる。 【授業時間外学習】 プレゼンテーションの準備をする。			
第6回 社会を知る(4) 雇用とキャリア形成① 【 到達目標 】 現代の若者や女性の就業環境と雇用形態の現実を学び、自分の働く姿勢や仕事の価値観についての考えをまとめる。 【授業時間外学習】 キャリアセンターを訪問する。センターの実施講座について知る。				第14回 プレゼンテーション(1) 【 到達目標 】 「大学での学びと私のキャリアプラン」の発表を通して、多人数の人の前でプレゼンテーションの練習をする。また多様な考えに触れ他者への理解を深める。 【授業時間外学習】 プレゼンテーションの準備をする。			
第7回 社会を知る(5) 雇用とキャリア形成② 【 到達目標 】 女性の生き方とワークライフバランスについて学び、女性と仕事のあり方や自分の働き方について考えまとめる。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。ワークライフバランスについて考える。				第15回 プレゼンテーション(2) 【 到達目標 】 「大学での学びと私のキャリアプラン」の発表を通して、多人数の人の前でプレゼンテーションの練習をする。また多様な考えに触れ他者への理解を深める。 【授業時間外学習】 期末レポートを完成させる。			
第8回 社会を知る(6) 講演② ブラック企業について 【 到達目標 】 現代の社会問題について専門家から話を聴き、ブラック企業の実情を理解し、当事者としての対処法を学ぶ。 【授業時間外学習】 ブラック企業やブラックバイトといった社会現象について調べる。							
【学習上の留意点】 各担当者の授業方針を理解し授業を受ける。社会人になるための準備として、講義を受けるときのマナーに留意する。毎時ワークシートを提出するが、誤字脱字に注意し効率的にメモを取り、書く内容を整理し作成する。							
【教科書・参考書など】 テキスト「女性と仕事」 参考資料(各担当による)							
【関連科目】 社会のしくみとキャリア形成							
【成績評価方法】 各回のワークシート50%、プレゼンテーション20%、プレゼンテーションの要旨レポート30%で評価する。							

科目名	栄養学入門				担当者	古泉 佳代・山田 直子	
英文名	Primary Nutrition						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
【目的とねらい】 食生活は心身の健康と密接な関わりがあり、そのバランスや豊かさが生活の安定に直結する。特に幼少期からの食生活習慣の形成は、そのあとに続く成人期、高齢期の生活と健康に重要な意味を持ち、また、食は心の健康や社会生活にも大きな影響を及ぼす。 本授業では、栄養に関する基本的な知識を学ぶことを目的とし、「正しく食べる」ことの意味とその影響について考え、受講生自身の食生活への意識、行動も高めることをねらいとする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 ガイダンス・食生活と社会環境 【 到達目標 】 (1)自分の食生活を振り返り、栄養と食生活の関わりを理解する。 【授業時間外学習】 一日の食事を振り返る。				第9回 食生活と健康④食物と栄養（ミネラル） 【 到達目標 】 (1)ミネラルの種類、体内での働き及び代謝を理解する。 【授業時間外学習】 ミネラルを考えて献立を作成し、食生活を実践する。			
第2回 食を取り巻く環境の変化 【 到達目標 】 (1)フードシステムの複雑化にともなっている課題を認識する。 【授業時間外学習】 食に関するニュースを新聞やインターネットを利用して検索する。				第10回 食生活と健康⑤食生活と健康 【 到達目標 】 (1)青年期の食生活と健康との関わりについて理解する。 (2)エネルギーバランスからウエイトコントロールを考えることができる。 【授業時間外学習】 自分自身の身体活動量を調べる。			
第3回 食料の供給と課題 【 到達目標 】 (1)食料自給率の低下とその背景を理解する。 (2)農業再生に向けた取り組みの現状を把握する。 【授業時間外学習】 フードロスに関するニュースを新聞やインターネットを利用して検索する。				第11回 食生活と健康⑥食の情報を読み解くリテラシー 【 到達目標 】 (1)食情報のリテラシーの重要性について理解する。 (2)「健康食品」の表示の実態を知り、問題点について指摘できるようにする。 【授業時間外学習】 「健康食品」の表示を見て、健康により根拠は何かを考える。			
第4回 食品の安全性①食中毒・リスク分析 【 到達目標 】 (1)食品由来の危害要因と健康へのリスクについて理解する。 (2)食中毒とその危害要因、食中毒の予防について知識を得て行動できるようにする。 (3)リスク分析の考え方と3つの構成要素について理解する。 【授業時間外学習】 食中毒について調べ、生活の中で実践できる予防について考える。				第12回 食生活と文化④食物のおいしさ 【 到達目標 】 (1)おいしさの要因や味わい教育、おいしさの表現方法について知る。 【授業時間外学習】 日常生活の食事を味わいながら食べることで、わかることをまとめる。			
第5回 食品の安全性②食品の安全性を確保するための制度 【 到達目標 】 (1)わが国の食品の安全性を確保するための法律と制度について知る。 (2)「食品表示法」と表示制度について理解し、実生活のなかで表示を活用する。 【授業時間外学習】 食品の容器・包装の表示を読み、表示の役割について考える。				第13回 食生活と文化②共食の現代的課題 【 到達目標 】 (1)共食の意義と家族や地域における共食の歴史変遷を知り、有効的な活用について考えることができる。 【授業時間外学習】 社会的孤立を防ぐための、共食を活用した食企画を考える。			
第6回 食生活と健康①食物と栄養（3大栄養素・エネルギー） 【 到達目標 】 (1)3大栄養素の体内での働き及び代謝を理解する。 (2)エネルギー産生栄養素バランスについて理解する。 【授業時間外学習】 食事バランスガイドを用いて食事の栄養バランスをチェックする。				第14回 食生活と文化③日本の食文化 【 到達目標 】 (1)自然環境と歴史のなかで、日本食文化がどのように形成されたきたかを理解する。 【授業時間外学習】 自分の出身地の郷土料理や特産品を使った料理について調べ、継承方法を考える。			
第7回 食生活と健康②飲み物の糖度 【 到達目標 】 (1)飲み物の糖度について理解できる。 (2)糖質の摂取方法について考えることができる。 【授業時間外学習】 糖質の種類・量に注意して生活する。				第15回 食育とフード・リテラシー 【 到達目標 】 (1)わが国における食育の推進について、現状と課題を理解する。 (2)フード・リテラシーとは何か、自分らしい「食」を実現し、「食」を楽しむために、どのようなリテラシーが必要か考えることができる。 【授業時間外学習】 食に関する話題を調べ、フード・リテラシーを評価する。			
第8回 食生活と健康③食物と栄養（ビタミン） 【 到達目標 】 (1)ビタミンの種類、体内での働き及び代謝を理解する。 【授業時間外学習】 ビタミンB群を考えて献立を作成し、食生活を実践する。							
【学習上の留意点】 授業時にプリントを配布するので、自分で書き入れながら丁寧に読み、教科書とあわせて理解を深めるようにする。 やむを得ず欠席をしたものは、次回の授業までに配付資料を取りにくること。 授業中に理解できなかったことや疑問に思ったことなどは納得いくまで質問すること。栄養に関する本、雑誌、気になる話題があれば日頃からチェックする習慣を身につけること。授業中の飲食・携帯・私語は厳禁とする。							
【教科書・参考書など】 「白熱教室 食生活を考える」編著者 金子佳代子・松島悦子（アイ・ケイコーポレーション出版） 参考書として授業内で指定した食品成分表を使用する場合がある。							
【関連科目】 スポーツ栄養学、スポーツコンディショニング演習B（スポーツ選手の栄養学）、生理・生化学入門							
【成績評価方法】 原則として期末テストの結果（100％）で評価する。 試験は試験期間中に別途実施する。 出席を重視するため、良好な出席状況は当然である。							

科目名	生理・生化学入門				担当者	佐藤 耕平	
英文名	Introduction to Human Physiology and Biochemistry						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
【目的とねらい】 健康科学およびスポーツ科学を学ぶために最低限必要と思われる生理生化学的な基礎知識を学習する。また、身体運動や環境の変化に対する生理的な適応およびそのメカニズムを理解する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション・概論 【 到達目標 】 授業の進め方の説明・生理生化学の学問領域を理解する。 日常生活やスポーツの場面でよく観察される生理応答について考え、その機能を理解する。 【授業時間外学習】 事前に日常生活やスポーツの場面でよく観察される生理応答を記述しておく。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				第9回 呼吸機能 (1) 【 到達目標 】 呼吸器系の構造・機能を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「呼吸機能 (1)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
第2回 骨格筋の構造・筋収縮のメカニズム 【 到達目標 】 骨格筋の種類・微細構造の説明・筋収縮のメカニズムを理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「骨格筋の構造・筋収縮のメカニズム」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				第10回 呼吸機能 (2) 【 到達目標 】 ガス交換システムと酸素輸送を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「呼吸機能 (2)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
第9回 神経系による運動の制御 【 到達目標 】 中枢神経系・末梢神経系の理解・運動制御のメカニズムを理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「神経系による運動の制御」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				第11回 内分泌系 【 到達目標 】 内分泌系による調節作用・各種ストレスに対する体液反応を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「内分泌系」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
第4回 エネルギー代謝 (1) 【 到達目標 】 ATP産生システム・TCAサイクルを理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「エネルギー代謝 (1)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				第12回 体温調節 【 到達目標 】 暑熱・寒冷ストレスに対する体温調節機能を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「体温調節」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
第5回 エネルギー代謝 (2) 【 到達目標 】 糖・脂質・蛋白質によるエネルギー産生のメカニズムを理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「エネルギー代謝 (2)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				第13回 環境生理 【 到達目標 】 低酸素・低圧・無重力環境に対する身体の適応を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「環境生理」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
第6回 栄養素と消化・吸収 【 到達目標 】 栄養素の吸収過程と物質の輸送・変換を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「栄養素と消化・吸収」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				第14回 一過性の運動に対する生理応答 【 到達目標 】 一過性の運動に対する身体の適応を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「一過性の運動に対する生理応答」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
第7回 循環機能 (1) 【 到達目標 】 心臓・血管系の構造と機能を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「循環機能 (1)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				第15回 慢性的な運動トレーニングに対する身体の適応 【 到達目標 】 慢性的な運動の実施に対する身体の適応を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「慢性的な運動トレーニングに対する身体の適応」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
第8回 循環機能 (2) 【 到達目標 】 自律神経系による循環機能の調節・ストレスに対する応答を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「循環機能 (2)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。							
【学習上の留意点】 授業資料は適宜配布する。授業はPC (パワーポイント) によるスライドをもとに進める。また、各単元の終了時には小テストを行い、知識の習得状況・理解度を把握する。レポート課題を課す。							
【教科書・参考書など】 特に購入の必要はないが、図書館などで「生理学」「生化学」「解剖学」などのテキストを借り参考にとすること。							
【関連科目】 スポーツ生理学、運動処方論							
【成績評価方法】 授業内小テストおよびレポートを20%、テストの結果 (試験は試験期間中に別途実施) を80%として総合的に評価する。							

科目名	国語表現Ⅱ			担当者	稲井 達也・影山 陽子 松崎 史周	
英文名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
【目的とねらい】 国語表現Ⅰで培った言語力やコミュニケーション能力の基礎的・基本的な知識を基に、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力の一層の伸長を図るとともに、アカデミック・ライティングについての学びを深める。 新聞やインターネットを活用し、メディア・リテラシーや情報リテラシーを身につける。さらには、新書を読む読書力を養い、質的研究法で用いられるインタビューなど、自身が体験したことの言語化に取り組む。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション (授業概要理解・学習目標設定) 【 到達目標 】 国語表現Ⅰでの学習を振り返り、各自が学習目標を設定する。 【授業時間外学習】 興味や関心のある新聞記事を探す。			第9回 本から学ぶ② 【 到達目標 】 ・書誌情報を知る。 ・インタビューを読み、インタビューの文章の特性を理解する。 【授業時間外学習】 教科書として指定された新書を読む。			
第2回 新聞を活用した意見の構築① 【 到達目標 】 新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。 【授業時間外学習】 記事を要約する。			第10回 本から学ぶ③ 【 到達目標 】 新書等に親しみ、目的に応じた読書の方法を理解する。また、要約力や批評力を培うことを通して、読書力を身につけるとともに、自ら主体的に読書をする能力・態度を養う。 【授業時間外学習】 本を読み、要約などをまとめる。			
第3回 新聞を活用した意見の構築② 【 到達目標 】 新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。 【授業時間外学習】 討議の内容を整理し、要約する。			第11回 本から学ぶ④ 【 到達目標 】 新書等に親しみ、目的に応じた読書の方法を理解する。また、要約力や批評力を培うことを通して、読書力を身につけるとともに、自ら主体的に読書をする能力・態度を養う。 【授業時間外学習】 本を読み、要約などをまとめる。			
第4回 新聞を活用した意見の構築③ 【 到達目標 】 新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。 【授業時間外学習】 記事をもとにして、意見文を書く。			第12回 インタビューを書く① 【 到達目標 】 インタビューのまとめ方について理解するとともに、インタビュー方法の学習を踏まえ、自己を深く見つめて、インタビューをして文章に適切にまとめる。 【授業時間外学習】 インタビューのまとめ方の構想を練る。			
第5回 アカデミック・ライティングの基礎① 【 到達目標 】 文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。 【授業時間外学習】 意見文を書く。			第13回 インタビューを書く② 【 到達目標 】 インタビューのまとめ方について理解するとともに、インタビュー方法の学習を踏まえ、自己を深く見つめて、インタビューをして文章に適切にまとめる。 【授業時間外学習】 インタビューを完成させる。			
第6回 アカデミック・ライティングの基礎② 【 到達目標 】 文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。 【授業時間外学習】 意見文を書く。			第14回 インタビューを読み合う 【 到達目標 】 完成したインタビューを読み合い、入念に推敲した上で、より適切な文章に修正する。 【授業時間外学習】 推敲して修正したインタビューの文章を見直す。			
第7回 アカデミック・ライティングの基礎③ 【 到達目標 】 文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。 【授業時間外学習】 本を読み、要約などをする。			第15回 目標達成度確認・今後の言語生活に向けて 【 到達目標 】 自己評価により目標達成度を測り、今後の言語生活に対する見直しを持つ。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返って、自己評価を行う。			
第8回 本から学ぶ① 【 到達目標 】 ・新書の読み方を知る。 ・本の選び方と読み方を知る。 ・インタビューを読み、インタビューの文章の特性を理解する。 【授業時間外学習】 教科書として指定された新書を読む。						
【学習上の留意点】 ・本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。 ・新聞や新書等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。 ・不明な言葉をすぐに調べられるようにするため、国語辞典を持参すること。電子辞書でも構わない。						
【教科書・参考書など】 教科書 : 『なぜあの時あきらめなかったのか』小松成美著(PHP新書) 参考書1 : 『日本語検定公式練習問題集改訂版 3級』日本語検定委員会編(東京書籍) 参考書2 : 『聞く力』阿川佐和子著(文春新書)						
【関連科目】 国語表現Ⅰ						
【成績評価方法】 毎回の提出物40%・発表20%・課題40%						

科目名	ドイツの言語と文化 I				担当者	藤 由 順 子	
英文名	German Language and Culture I						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 初めてドイツ語を学ぶ学生を対象に、発音および日常会話の基本表現の習得と、生活文化の背景について学習することをめざす。ドイツ語圏、ひいてはヨーロッパ圏に興味・関心をもって自らその情報を調べることにつながるようになる。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 授業概要の説明 【 到達目標 】 ドイツ語の文字と音声（発音とリズム）を習得する。 【授業時間外学習】 アルファベットの発音を復習する。				第9回 日常生活の表現 1 【 到達目標 】 名詞について学習し、名詞に性があることを知る。 単数形か複数形かを意識する癖をつける。 【授業時間外学習】 日常使う物の名前を覚える。			
第2回 アルファベットの歴史と発音 【 到達目標 】 ドイツ語の文化的背景を理解する。 アルファベットと単語の読み方との関係性に気づき、その法則性を意識する。 【授業時間外学習】 単語の発音を復習する。				第10回 日常生活の表現 2 【 到達目標 】 冠詞について学習し、冠詞が果たす役割を理解する。 格という文法用語を知り、これに慣れる。 【授業時間外学習】 定冠詞を暗記する。			
第3回 ドイツ語とドイツ文化 【 到達目標 】 英語とは決定的に異なるドイツ語の文構造を理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った文を暗記する。				第11回 日常生活の表現 3 【 到達目標 】 家族や友人関係の表現を学習する。 不定冠詞類を学ぶことで、「私の、彼の、君たちの」等を使った名詞の表現ができるようになる。 【授業時間外学習】 家族について紹介する。			
第4回 あいさつ表現 【 到達目標 】 日常生活に欠かせないあいさつ表現が使えるようになる。 【授業時間外学習】 あいさつ表現を暗記する。				第12回 日常生活の表現 4 【 到達目標 】 数字を覚えて、20までの規則性を捉える。 24時間制で時刻の表現ができるようになる。 【授業時間外学習】 数字を暗記する。			
第5回 自己紹介 1 【 到達目標 】 主語として使う代名詞「私は、彼は、私たちは…」等を使って簡単な自己紹介ができる。 【授業時間外学習】 自分の名前と出身地を表現する。				第13回 日常生活の表現 5 【 到達目標 】 買物をするための表現を学習する。 ユーロという通貨を使って、買い物のやり取りができるようになる。 【授業時間外学習】 買物の値段を表現する。			
第6回 自己紹介 2 【 到達目標 】 大学で何を専攻しているのかを表現したり、相手に専攻を尋ねたりできるようになる。 【授業時間外学習】 少しずつでも自己紹介をする内容を増やす。				第14回 日常生活の表現 6 【 到達目標 】 月名、曜日、自然現象の表現を学習する。 今、何時なのかを尋ねたり、答えたりできるようになる。 【授業時間外学習】 日付と天気をドイツ語で日記に表現する。			
第7回 人物の紹介 1 【 到達目標 】 動詞について学習して、主語に合わせて動詞が変化することに慣れる。 【授業時間外学習】 家族や友人を紹介する。				第15回 理解度の確認 【 到達目標 】 自分のこと、身の回りのことなどを、実際に文章や口頭で表現できる。 「気温が暑い」、「気分が悪い」等、天候や心理現象などを表現できる。 【授業時間外学習】 自分の分からない所を書き出す。			
第8回 人物の紹介 2 【 到達目標 】 様々な言語やスポーツの表現を学習して、使える言語を示し、得意なスポーツを説明できる。 【授業時間外学習】 自分の好きなスポーツを表現する。							
【学習上の留意点】 特に発音練習と復習を継続し、言語的、文化的特性を理解すること。付録の音声CDを聞く機会を自分で設けて、ドイツ語の音やリズムに慣れることは語学習得への近道です。							
【教科書・参考書など】 『一歩ずつ楽しいドイツ語』小川さくえ・片岡律子著 同公社							
【関連科目】 ドイツの言語と文化 II							
【成績評価方法】 各回の授業中での発表や課題提出を20%、理解度確認のためのテスト結果を80%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。							

科目名	ドイツの言語と文化Ⅱ				担当者	藤 由 順 子	
英文名	German Language and Culture Ⅱ						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 「ドイツの言語と文化Ⅰ」と同様、発音および日常会話の基本表現の習得と文化的背景の学習をめざす。基礎力をさらに養い、基本表現のいっそうの習得と定着を図り、異文化理解の能力を高める。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 授業概要の説明、テキスト等の紹介 【 到達目標 】 音声的基礎を踏まえた発音を改めて習得し、自学自習に役立てる。 【授業時間外学習】 文字と単語の発音練習をする。				第9回 日常生活の表現:気持ちを伝える 【 到達目標 】 話法の助動詞について学習する。 「～したい、～しなければならぬ」等の、感情により即した表現ができる。 【授業時間外学習】 自分のできることや願望を具体的に表現する。			
第2回 基礎知識の確認:発音、あいさつ 【 到達目標 】 基礎的文法を理解し、ドイツ語の文の特徴を踏まえて、文章を読んでその内容を理解する。 【授業時間外学習】 挨拶の表現を復習する。				第10回 日常生活の表現:将来について 【 到達目標 】 近い未来を表現できるようになる。 その際、ドイツ語の時制について触れて、現在形が多用される特徴を理解する。 【授業時間外学習】 自分の将来を想像し、これを文章にしてみる。			
第3回 ドイツの都市(州と州都) 【 到達目標 】 日常生活の表現とその文化的背景を理解する。 【授業時間外学習】 ドイツの主な都市を地図で確認する。				第11回 日常生活の表現:夢 【 到達目標 】 zu不定詞について学習することで、「～すると」ということを表現できるようになる。 【授業時間外学習】 自分の夢を表現する。			
第4回 日常生活の表現:場所を尋ねる表現について 【 到達目標 】 前置詞について学習する。 英語では意識することのなかった、名詞・代名詞との「相性」つまり格支配を理解する。 【授業時間外学習】 場所を尋ね、教える表現を覚える。				第12回 日常生活の表現:週末の予定 【 到達目標 】 分離動詞について学習する。 ドイツ語の辞書を正しく引けるようになる。 【授業時間外学習】 自分の週末の予定を書く。			
第5回 日常生活の表現:1日の行動を表現する 【 到達目標 】 日時を表す前置詞について学習して、「いつ」が表せるようになる。 「～時に・～時ごろに、～曜日に、～曜日まで」など。 【授業時間外学習】 1日の日記を書く。				第13回 日常生活の表現:結婚式 【 到達目標 】 接続詞について学習して、文と文をつなげた少し長い文章を理解できるようになる。 【授業時間外学習】 接続詞を覚える。			
第6回 日常生活の表現:色彩、形容詞について 【 到達目標 】 形容詞について学習する。 形容詞が使用方法によっては形を変えることを理解する。 【授業時間外学習】 色彩の表現を覚える。				第14回 日常生活の表現:古都 【 到達目標 】 従属の接続詞と副文について学習する。 主文と副文という分類を、動詞の位置で示すというドイツ語の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 接続詞を用いた文を作成する。			
第7回 日常生活の表現:年齢、身長 【 到達目標 】 形容詞、副詞について学習する。 辞書での表示方法を理解し、正しく和訳・独訳できるようになる。 【授業時間外学習】 自分の年齢と身長を書く。				第15回 理解度の確認 【 到達目標 】 近い将来の目標を表し、そのために何を行ってきたかを具体的な文章で表現できる。 【授業時間外学習】 表現しきれなかったこと、難しかったことを確認する。			
第8回 日常生活の表現:比較表現、序教 【 到達目標 】 原級、比較級、最高級について学習して、「同じくらい～だ/もっと～だ」等が表せる。 【授業時間外学習】 比較表現を練習する。							
【学習上の留意点】 発音練習と復習に重点を置くこと。課題にしっかり取り組むこと。							
【教科書・参考書など】 『一歩ずつ楽しいドイツ語』小川さくえ・片岡律子著 同出版社							
【関連科目】 ドイツの言語と文化Ⅰ							
【成績評価方法】 授業時の課題20%、理解度確認のためのテスト結果を80%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。							

科目名	世界の民族音楽				担当者	櫻田素子	
英文名	World Music						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 世界のさまざまな地域・民族に見られる音楽文化の多様性を、主として視聴覚資料をもちいて学ぶ。各音楽文化は、それぞれの歴史的背景、社会的背景、価値観によって、独自の音楽を形成してきた。こうした音楽文化のあり様を知り、また、グローバルな知の交流や人々の移動が進むなか、音楽文化がどのように変化してきたのか、現在とはどのような姿であるのかなど、知ることを目的とする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 世界の様々な音楽、芸能を学ぶということ 【 到達目標 】 「民族音楽」と呼ばれてきた音楽とは何かを考察し、それらを学ぶ意味、意義について考えられるようにする。 【授業時間外学習】 メディア等、身の周りにある音楽に注意を向け、どのような音楽であるかを考察する。				第9回 東アジアの音楽文化 【 到達目標 】 東アジア(中国とその周辺、中国文化の影響を受けた地域)に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 東アジアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
第2回 楽器の特徴を知るために-楽器分類法 【 到達目標 】 各地の音楽、芸能に利用される楽器群について理解を深めるために、楽器の理解方法＝楽器分類方法を知る。 【授業時間外学習】 身の周りの音の出るものに注目し、その音の出る仕組みを考察する。				第10回 日本の音楽文化(1) 【 到達目標 】 日本の「伝統音楽・古典音楽」の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 日本の歴史について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
第3回 アフリカの音楽文化 【 到達目標 】 サハラ砂漠以南のアフリカにおける音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 アフリカの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。				第11回 日本の音楽文化(2) 【 到達目標 】 日本の「民俗芸能」の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 日本各地の地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
第4回 ヨーロッパの音楽文化(1) 【 到達目標 】 主として西ヨーロッパを中心とした音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 西ヨーロッパの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。				第12回 オセアニアの音楽文化 【 到達目標 】 オセアニア(環太平洋地域)に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 オセアニアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
第5回 ヨーロッパの音楽文化(2) 【 到達目標 】 主として東ヨーロッパを中心とした音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 東ヨーロッパの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。				第13回 北米の音楽文化 【 到達目標 】 北米の音楽文化に見られる音楽文化の代表的なもの、特に、ポピュラー音楽を中心に学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 北米の地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
第6回 西アジア・中央アジアの音楽文化 【 到達目標 】 西アジア(アラブ文化圏)の音楽とそれに類似する音楽文化をもつ中央アジアの音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 西アジア・中央アジアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。				第14回 中南米の音楽文化(1) 【 到達目標 】 中南米(カリブ海地域)に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 カリブ海地域の地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
第7回 南アジアの音楽文化 【 到達目標 】 インド亜大陸を中心とする地域に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 南アジアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。				第15回 中南米の音楽文化(2) 【 到達目標 】 中南米(南米)に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 南米の地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
第8回 東南アジアの音楽文化 【 到達目標 】 東南アジア(大陸部、島嶼部)に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 東南アジアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。							
【学習上の留意点】 視聴覚資料を多用する授業だが、積極的に参加すること。特に各地の文化を紹介する際、パワーポイントを利用してその特徴を説明するので、自分で適宜メモをとり、その音楽、芸能の特徴をとらえる努力をすること。							
【教科書・参考書など】 授業内にて参考文献等を適宜指示する。							
【関連科目】 西洋音楽							
【成績評価方法】 授業における課題達成度(50%)、学期末レポート(50%)で評価する。							

科目名	日常生活の社会学				担当者	< 未 定 >	
英文名	Introductory Sociology						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 グローバル化（アメリカ標準の資本主義の世界中への広がり）が進み、私たちの日常生活が複雑さを増す中で何が本当に大切かを見分ける知性が求められている。学校、家族、友人関係など日常生活の経験を糸口にして社会学とはどんな考え方をする学問であるのかを学んでいく。特に医療化の様々な弊害と背景にあるものを捉えていく。そしてこのような動きが医療だけの問題ではないことも理解してもらいたい。また社会調査という実証の方法についても学ぶ。実際にそれを活かして日常生活を検証してみる。社会学的思考は、自分の生き方の自由度を広げていくための知的な武器として有効なことを実感していただければと思う。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】(1)「日常生活の社会学」を学ぶことの意義を「役割」「感情労働」などの概念を通して知る。(2)「グローバリゼーション」のインパクトを自分たちの日常生活と結びつけて理解する。 参考書：リズ『遺伝子組換え食品の真実』（白水社）、辛酸なめ子『女子の国はいつも内戦』（河出書房新社） 【授業時間外学習】 予習課題：昨日自分が食べた物の来歴とモンサントという企業のしていることを調べておく。				第9回 近代化の強迫性を理論モデルで考える 【 到達目標 】(1)ウェーバーによる資本主義の担い手についての見解、「合理化」の帰結を学ぶ。(2)フーコーによるパノプティコン（一望監視装置）の効果についての考察を学ぶ。 教科書：第4章2節、参考書：ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（岩波文庫）、フーコー『監獄の誕生』（新潮社） 【授業時間外学習】予習課題：教科書の第4章2節を読み、いわゆる「よい子」の陥り易い病理について考えておく。			
第2回 社会学はどのような考え方をするのか(1) 【 到達目標 】(1)身の回りの「あたりまえ」を疑い、別の視点からも捉え直して考える習慣を身につける。(2)領域を超えて横断的に物事を捉える習慣、そこで何しか語られないかと考える習慣を身につける。 教科書：第2章1節参照、参考書：市野川容孝『ヒューマニティーズ社会学』（岩波書店） 【授業時間外学習】予習課題：ホームズ物語の「赤毛連盟」「唇の曲がった男」「まだらの紐」の粗筋を調べておく。				第10回 戦時における「健康」の強調と昨今のレジリエンスの強調の意味を考える 【 到達目標 】 (1)戦時と「敗戦後」の現在とのある種の類似性から戦時動員体制の継続性について学ぶ。 (2)厳しい選抜をくり抜けた健康優良児の多くが早々と戦死を遂げたことの意味について学ぶ。 教科書：第2章3、4節参照、参考書：若菜みどり『戦争がつくる女性像』（ちくま学芸文庫） 【授業時間外学習】 予習課題：レジリエンス、エンハンスメントとは何かについて調べておく。			
第3回 社会学はどのような考え方をするのか(2) 【 到達目標 】 (1)デュルケム『自殺論』の考えから社会的要因の重要性を学ぶ。 (2)健康不安を煽る力が強く働く社会になっていく我々も巻き込まれていることを理解する。 教科書：プロローグ、第1章参照、参考書：デュルケム『自殺論』（中公文庫） 【授業時間外学習】 予習課題：実際に自殺した人の事例、身内に自殺された人の手記をネットなどで調べておく。				第11回 社会調査の方法とライフヒストリー研究 【 到達目標 】 (1)社会学の実証研究の方法として量的調査、質的調査共に様々なアプローチがあることを学ぶ。 (2)質的調査の方法としてインタビュー調査、戦争体験のライフヒストリー研究の実例を学ぶ。 参考書：松井久子編『何を怖れる』（岩波書店）、谷富夫『ライフヒストリーを学ぶ人のために』（世界思想社） 【授業時間外学習】 予習課題：返還前の沖縄から甲子園にやってきた高校球児について調べておく。			
第4回 人はなぜついに自殺を選んでしまうのか 【 到達目標 】 (1)「疎外された労働」、搾取、格差社会について理解する。 (2)福祉の現場で起きている事例から追い詰められた人の生きづらさを理解する。 参考書：マルクス『経済学・哲学草稿』（岩波文庫）、鈴木大介『最低困シングルマザー』（朝日文庫） 【授業時間外学習】予習課題：児童虐待をした親の生活構造、シングルマザーの労働実態について事例を調べておく。				第12回 日本社会の近代化と出世主義者の問題 【 到達目標 】 (1)明治期以降の日本の急速な近代化を支えた諸要因と身体感覚、性愛感覚の変容について学ぶ。 (2)森鴎外がドイツから帰国した後に記した文書から日本社会の構造的問題を考えてみる。 教科書：第4章3節参照、参考書：佐伯順子『「色」と「愛」の比較文化史』（岩波書店） 【授業時間外学習】 予習課題：森鴎外とはどんな人なのか、江戸元禄期の大坂の様子について調べておく。			
第5回 日常生活の中で働く匿名的権力を考える 【 到達目標 】 (1)心理主義化および医療化によって何が達成されているのかを学ぶ。 (2)見えない形で行使される「やさしげな顔をした」権力の怖さを理解する。 教科書：第1章1節参照、参考書：小沢牧子『心の専門家はいらない』（洋泉社新書） 【授業時間外学習】 予習課題：血圧計が街中のどこにあり、誰が使っていたかを観察しておく。				第13回 人はなぜ「精神の病」に陥るのか、精神科病院はなぜつくられたのか 【 到達目標 】 (1)ウェーバーが「精神の病」に罹った真因について学ぶ。 (2)イタリアの精神医療改革ではなぜ精神科病院をなくせたのかについて学ぶ。 教科書：第5章1、2節参照、参考書：松嶋健『プシコ ナウティカ』（世界思想社） 【授業時間外学習】 予習課題：日本の精神科病院で長期入院が多い理由について調べておく。			
第6回 マクドナルド化、動物化、生活世界の植民地化 【 到達目標 】 (1)効率性、数量化、予測可能性、テクノロジーによる制御によって何が達成されていくかを学ぶ。 (2)「灰色の男たち」の正体、モモがそれと闘うことの意味、時間の価値について理解する。 参考書：エンデ『モモ』（岩波書店）、リッツアー『マクドナルド化する世界』（早大出版部） 【授業時間外学習】 予習課題：エンデの『モモ』を読み、時間貯蓄銀行に預けた時間の行方を考えておく。				第14回 新しい社会運動と「地域」の変革を探る 【 到達目標 】 (1)「地域」の人間関係を取り戻すいくつかの試みを学ぶ。 (2)新しい社会運動が従来型の労働運動とどう違うかを理解する。 教科書：第5章3節、エピソード参照、参考書：メルッチ『現在に生きる遊牧民』（岩波書店） 【授業時間外学習】予習課題：過激な女装で性差をあざ笑うレインボーマーチ、LGBTの運動について調べておく。			
第7回 死のなくなった社会で人はどう生きるか 【 到達目標 】 (1)すぐれた近未来SF作品の有する問題提起力、構想力について学ぶ。 (2)アメリカで統社会が長く続いている経緯について学ぶ。 教科書：第3章4節参照、参考書：ハックスリ『すばらしき新世界』（講談社文庫） 【授業時間外学習】 予習課題：教科書の第3章4節を読み、映画『TIME』にかかわる五つの論点について考えておく。				第15回 全体のまとめと補論 【 到達目標 】 (1)これまで14回かけて学んできたこと全体の復習をする。 (2)「正常病」とは何であり、どのようにしたらそれから自由になれるかを検討する。 教科書：エピソード参照、参考書：加藤典洋『村上春樹は、むずかしい』（岩波新書） 【授業時間外学習】 予習課題：村上春樹『海辺のカフカ』の粗筋について調べておく。			
第8回 「世界が巨大な病院になる」とはどのような事態か 【 到達目標 】 (1)「ゲマインシャフト」「ゲゼルシャフト」「中間集団」「コミュニティ」などの概念を学ぶ。 (2)フランス革命以降の「人権」のある社会の功罪について学ぶ。 教科書：第3章3節参照、参考書：堀田善衛『ゴヤ』（朝日文庫）、パーク『フランス革命の省察』（PHP研究所） 【授業時間外学習】 予習課題：ゲーテとはどんな人なのか、フランス革命とは何だったのかを調べておく。							
【学習上の留意点】 この授業は、社会学的な思考方法とそれに基づく現実の社会についての理解が求められている。それに加えて社会調査入門も兼ねている。学んだことを活かした実習課題も出す。ほぼ毎回何らかの予習課題が用意されている。世の中の動きに目を配るなど授業への主体的な参加が求められる。							
【教科書・参考書など】 教科書として、井上芳保『つくられる病 過剰医療社会と「正常病」』（ちくま新書）を使用。参考書は随時指示。							
【関連科目】 現代文化論、女性と仕事							
【成績評価方法】 レポート課題と学期末のテストとの総合点で評価する。（試験は試験期間中に別途実施する）							

科目名	人間心理の理解				担当者	酒井久実代	
英文名	Personality Psychology						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 本講義は、人の心理的側面の特徴を多面的に捉えるためのパーソナリティ（性格）心理学の知見を理解することを目的とする。代表的な理論として特性論、類型論、相互作用論、精神分析理論について理解し、パーソナリティの遺伝、時間的安定性と変化について理解する。また、パーソナリティと身近な人間関係との関わり、パーソナリティと健康、パーソナリティと自己意識的感情、パーソナリティの変容について理解を深める。これらにより、人の心理的側面の多様性を理解すると共に自己理解を深めることを目的としている。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 パーソナリティ（性格）の定義 【 到達目標 】 (1) パーソナリティの定義について理解する。 (2) 日常的な意味の性格と心理学での性格の違いについて理解する。 【授業時間外学習】 パーソナリティの定義の理解に関する課題を行う。				第9回 防衛機制に基づく個人差とエゴグラムによる自己理解 【 到達目標 】 (1) 防衛機制に基づく個人差について理解する。 (2) エゴグラムを実施し、自己分析する。 【授業時間外学習】 防衛機制に基づく個人差とエゴグラムの理解に関する課題を行う。			
第2回 特性論 【 到達目標 】 (1) アイゼンクの理論について理解する。 (2) 5因子モデルについて理解する。 【授業時間外学習】 特性論の理解に関する課題を行う。				第10回 パーソナリティと友人関係 【 到達目標 】 (1) 現代青年の友人関係のタイプについて理解する。 (2) 友人から嫌われるパーソナリティについて理解する。 【授業時間外学習】 パーソナリティと友人関係の理解に関する課題を行う。			
第3回 特性論と類型論 【 到達目標 】 (1) 5因子性格検査を実施する。 (2) 5因子性格検査の結果を自己分析する。 (3) シェルドンの類型論について理解する。 【授業時間外学習】 5因子性格検査による自己分析に関する課題を行う。				第11回 パーソナリティと親密な関係 【 到達目標 】 (1) パーソナリティと親密な関係のタイプについて理解する。 (2) パーソナリティと親密な関係の維持・悪化について理解する。 【授業時間外学習】 パーソナリティと親密な関係の理解に関する課題を行う。			
第4回 ユングの類型論 【 到達目標 】 (1) ユングの類型論について理解する。 (2) ユングの類型論によるタイプ分けテストに基づき自己分析する。 【授業時間外学習】 ユングの類型論、タイプ分けテストによる自己分析に関する課題を行う。				第12回 パーソナリティと家族関係 【 到達目標 】 (1) 親の養育態度の影響について理解する。 (2) 夫婦の関係性の影響について理解する。 【授業時間外学習】 パーソナリティと家族関係の理解に関する課題を行う。			
第5回 相互作用論 【 到達目標 】 (1) 行動における状況の重要性について理解する。 (2) 通状況の一貫性と首尾一貫性の違いについて理解する。 【授業時間外学習】 相互作用論の理解に関する課題を行う。				第13回 パーソナリティと感情 【 到達目標 】 (1) 感情の情報処理の個人差について理解する。 (2) 感情プライミング効果について理解する。 【授業時間外学習】 パーソナリティと感情の理解に関する課題を行う。			
第6回 パーソナリティと遺伝 【 到達目標 】 (1) 人間行動遺伝学の考え方について理解する。 (2) 遺伝と環境の交互作用について理解する。 【授業時間外学習】 パーソナリティと遺伝の理解に関する課題を行う。				第14回 パーソナリティと自己意識的感情 【 到達目標 】 (1) 自己意識的感情の種類について理解する。 (2) 自己意識的感情の感じやすさと適応について理解する。 【授業時間外学習】 自己意識的感情の理解に関する課題を行う。			
第7回 パーソナリティの時間的安定性と変化 【 到達目標 】 (1) 集団の平均水準の加齢変化について理解する。 (2) 長寿者のパーソナリティについて理解する。 【授業時間外学習】 パーソナリティの安定性と変化の理解に関する課題を行う。				第15回 パーソナリティと健康 【 到達目標 】 (1) パーソナリティと身体疾患のリスクについて理解する。 (2) パーソナリティと精神的健康について理解する。 (3) パーソナリティの変容について理解する。 【授業時間外学習】 パーソナリティと健康・パーソナリティの変容に関する課題を行う。			
第8回 フロイトのパーソナリティ理論とその後の発展 【 到達目標 】 (1) 局所論と構造論について理解する。 (2) 高次の動機について理解する。 【授業時間外学習】 フロイトの理論とその後の発展の理解に関する課題を行う。							
【学習上の留意点】 講義ではパワーポイントを使用し、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成する。授業の中で、心理テストを行うことがある。自己理解に役立てるためにも積極的に取り組むことが望まれる。毎回、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題を通して、分かったこと、分からなかったことを明確にし、知識を整理することが必要である。課題の内容は期末テストと対応しているので、しっかり復習すること。							
【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 毎回出す課題の提出30%、期末テスト（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。							

科目名	ボランティア活動論			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Citizenship Education					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 ボランティア活動を行っている先輩や活動家から現場の生の声を聞き、実際にボランティア活動を体験しながら、現代社会におけるボランティア活動の意義を考察することを目的とする。 授業履修後も継続的にボランティア活動に参加し、自らの専門性や力量を市民参加や社会貢献に結び付けていくことが、本講義の最終的なねらいである。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション（趣旨、学習の進め方） 【到達目標】 (1)「ボランティア活動論」の全体の流れを把握する。 (2)自分の学習目標を決める。 【授業時間外学習】 自分の学習目標を決める。			第9回 日本におけるボランティア活動 【到達目標】 (1)日本におけるボランティア活動の現状と課題を知る。 (2)自分の学校生活におけるボランティア学習を振り返り検証する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			
第2回 ボランティア活動事例の紹介（1） 【到達目標】 (1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。 (2)ボランティア活動事例を、自分の活動に役立てる。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			第10回 ボランティアセンター 【到達目標】 (1)ボランティアセンターの役割を理解する。 (2)ボランティアセンターを、自分の活動に有効に利用できる。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			
第3回 ボランティア活動の留意点 【到達目標】 (1)ボランティア活動を始める際に必要なプロセスを理解する。 (2)ボランティア活動実践に必要な態度やルールを理解する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			第11回 大学の地域貢献 【到達目標】 (1)大学で学ぶ専門性を地域のために活かす方策を考える。 (2)自らの市民参加や社会貢献に結び付けて考察する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			
第4回 サービスラーニング 【到達目標】 (1)サービスラーニングの考え方を理解する。 (2)サービスラーニングを意識したボランティア活動計画を立てる。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			第12回 ボランティア活動体験と報告（1） 【到達目標】 (1)ボランティア活動を実際に体験する。 (2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。 【授業時間外学習】 ボランティア活動を実際に体験する。			
第5回 ボランティア活動事例の紹介（2）（講話） 【到達目標】 (1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。 (2)現場で活躍している方の講話からボランティア活動事例を知り、自分の活動に役立てる。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			第13回 ボランティア活動体験と報告（2） 【到達目標】 (1)ボランティア活動を実際に体験する。 (2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。 【授業時間外学習】 ボランティア活動を実際に体験する。			
第6回 ボランティア活動の役割と背景 【到達目標】 (1)ボランティア活動の果たす役割を理解する。 (2)ボランティア活動を重視する背景を理解する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			第14回 ボランティア活動体験と報告（3） 【到達目標】 (1)ボランティア活動を実際に体験する。 (2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。 【授業時間外学習】 ボランティア活動を実際に体験する。			
第7回 ボランティア活動の歴史 【到達目標】 (1)世界におけるボランティア活動の歴史を理解する。 (2)ボランティア思想の発展史を理解する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			第15回 ボランティア活動レポートの作成・提出 【到達目標】 (1)授業内容とボランティア活動体験をふまえ、ボランティア活動レポートを作成する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動レポートを作成する。			
第8回 ボランティア活動事例の紹介（3）（講話） 【到達目標】 (1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。 (2)現場で活躍している方の講話からボランティア活動事例を知り、自分の活動に役立てる。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。						
【学習上の留意点】 ボランティアセンターの協力を得て学習を進め、ボランティア活動計画書の作成、ボランティア活動体験、プレゼンテーション、活動レポートの作成（2400字以上）を行う。						
【教科書・参考書など】 資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 各回の授業時での課題50%、ボランティア活動レポート50%として評価する。						

科目名	英語EAP I				担当者	加賀 岳彦	
英文名	English for Academic Purposes I						
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 この講座で学ぶのは、学術研究の為の英語である。それは単に英文の表面的意味が理解できるようになることを意味するのではない。英文の意味的構造を見抜き、「行間」を読めるようになり、さらには英文を「味わえる」ようになることを目的とする。そのために授業では、(1)徹底した精読、(2)丹念なノートづくり、(3)語彙力の増強、を課す。予習を前提としている授業なので、受講生は充分に準備した上で授業に臨むことになる。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 Introduction 【 到達目標 】 この授業での学習の進め方・評価方法の説明・受講上の注意点を把握する。精読する際の注意点（文法・語法・語彙に関して）を理解する。 【授業時間外学習】 精読する際の注意点を復習し、与えられた課題に取り組む。				第9回 Positive / Negative ② 【 到達目標 】 引き続き英文の文脈に込められた、positive / negativeの意味合いを正確に把握する訓練を行う。今回はレベルを上げて実践篇を行う。 【授業時間外学習】 このテーマに関連する課題を授業前・授業後に与えるのでしっかりと行う。			
第2回 Get To the Point ① 【 到達目標 】 何を謂わんとしている英文なのか、そのメッセージ・主旨を把握する（見抜く）訓練を行う。入念な予習を前提とした授業を行う。 【授業時間外学習】 英文の主旨を把握する課題を行う。				第10回 Paradox ① 【 到達目標 】 英語を用いた学術研究において、paradoxical thinking は極めて重要である。Paradoxの概念から理解し、英文を精読してその思考内容を把握する。 【授業時間外学習】 Paradoxに関連する課題を授業前・授業後に与えるのでしっかりと行う。			
第3回 Get To the Point ② 【 到達目標 】 引き続き英文のメッセージ・主旨を把握する（見抜く）訓練を行う。この回では、意味の「焦点」、および「新情報」の把握を重点的に行う。 【授業時間外学習】 英文の主旨を把握する課題を行う。				第11回 Paradox ② 【 到達目標 】 Paradoxを把握する読解・思考訓練（実践篇）を行う。 【授業時間外学習】 Paradoxに関連する課題を授業前・授業後に与えるのでしっかりと行う。			
第4回 Critical Analysis ① 【 到達目標 】 英文というものは非常に「機能的」に書かれている。ではどのように「機能的」なのか？英文の隠れた「機能的」を見抜く基礎訓練を行う。 【授業時間外学習】 英文の「機能的」理解のための課題を入念に行う。				第12回 Rhetoric ①: Contrast 【 到達目標 】 英文は意味だけを理解すればいいのではない。表現には、意味を明瞭かつ効果的に伝えるためのレトリック性（修辞性・姿態・フォルム）がある。この回ではcontrastにおけるレトリック性を見抜き、読解力につなげる訓練を行う。 【授業時間外学習】 英文レトリックに関連する課題を授業前・授業後に与えるのでしっかりと行う。			
第5回 Critical Analysis ② 【 到達目標 】 引き続き英文の「機能的」を見抜き、応用するための訓練（実践篇）を行う。 【授業時間外学習】 英文の「機能的」理解のための課題を入念に行う。				第13回 Rhetoric ②: Humour 【 到達目標 】 英文の意味だけでなく、そこに込められたHumourを掴む訓練を行う。Humourが掴めると英文が理解できた実感が掴める。そのための実践的な授業を行う。 【授業時間外学習】 Humourに関連する課題を授業前・授業後に与えるのでしっかりと行う。			
第6回 Speech ① 【 到達目標 】 英語のspeechを精読し、その修辞性、論理性、卓抜な語彙の使い方など、そのspeechのどこが優れているかを明確に理解し、英語の感覚を磨く訓練を行う。 【授業時間外学習】 Speechの課題を入念に行う。				第14回 総復習 ① 【 到達目標 】 これまで学習した内容を総復習する。課題をしっかりと行った上で授業に臨むこと。 【授業時間外学習】 課題の総チェックと総点検を行う。			
第7回 Speech ② 【 到達目標 】 Speech（あるいはrecitation）を実地に行う。受講生一人一人を評価し、助言を与える。 【授業時間外学習】 Speech（あるいはrecitation）のための準備を十分に行ってくる。				第15回 総復習 ② 【 到達目標 】 これまで学習した内容を総復習する。課題をしっかりと行った上で授業に臨むこと。期末試験に向けた課題も出す。 【授業時間外学習】 課題の総チェックと総点検を行う。			
第8回 Positive / Negative ① 【 到達目標 】 英文の文脈に込められた、positive / negativeの意味合いを鋭敏に感受し正確に読み取る基礎訓練を行う。 【授業時間外学習】 このテーマに関連する課題を授業前・授業後に与えるのでしっかりと行う。							
【学習上の留意点】 ・丹念な予習を確実にを行った上で授業に出席すること。受講生一人一人の「自立的学習力」も観察・評価する。 ・小テストにしっかりと取り組み、常に語彙力の向上を図ること。 ・授業には「(電子)辞書」を持参することを義務付ける。携帯電話・スマホの使用は固く禁じる。							
【教科書・参考書など】 プリントを配布する。その他、参考書等は授業内で指示する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 平常点（小テスト、課題、授業内での応答、自立的学習力）を50%、学期末試験を50%として成績を評価する。							

科目名	英語EGCI			担当者	Mensto Flaming	
英文名	English for General Communication I					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】						
This course (English for General Communication I) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 Introductions 【到達目標】 Previewing contents and goals of the course 【授業時間外学習】 Preview syllabus			第9回 Regular and Current Activities 【到達目標】 Practising present tenses 【授業時間外学習】 Review present tense usage			
第2回 Asking / Answering Questions 【到達目標】 Practising question / answer format 【授業時間外学習】 Review question sentence grammar			第10回 Presentations: Invitations 【到達目標】 Discussing schedules 【授業時間外学習】 Prepare presentation			
第3回 Likes and Dislikes 【到達目標】 Practising preference vocabulary/grammar 【授業時間外学習】 Preview preference vocabulary / grammar			第11回 Part-time Work 【到達目標】 Previewing work-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview work-related vocabulary			
第4回 Presentations: Likes and Dislikes 【到達目標】 Discussing preferences 【授業時間外学習】 Prepare presentation			第12回 Duties and Working Conditions 【到達目標】 Previewing additional work-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview additional vocabulary			
第5回 Family 【到達目標】 Practising family vocabulary 【授業時間外学習】 Preview family vocabulary			第13回 Presentations: Part-time Work 【到達目標】 Discussing part-time work 【授業時間外学習】 Prepare presentation			
第6回 People 【到達目標】 Practising descriptive vocabulary 【授業時間外学習】 Preview descriptive vocabulary			第14回 Preparations for Mid-term Presentations 【到達目標】 Previewing the mid-term presentation 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation			
第7回 Preparations for Presentations: Family 【到達目標】 Gathering and organising information 【授業時間外学習】 Prepare presentation			第15回 Mid-term Presentations 【到達目標】 Course Review 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation			
第8回 Presentations: Family 【到達目標】 Discussing family 【授業時間外学習】 Prepare presentation						
【学習上の留意点】						
Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer! I.e. This class will be conducted in English.						
【教科書・参考書など】						
Talk a Lot 1 - D. Martin - EFL Press						
【関連科目】						
【成績評価方法】						
Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30%						

科目名	英語EAPⅡ			担当者	大和久吏恵	
英文名	English for Academic Purposes Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 この授業では、英語による様々な分野の論理的な文章を正確に読み、多様性を受容する素地を作ります。またプレゼンテーションに関する作業（原稿作成・発表・相互評価）を通して、英語で意見を述べる技術の習得を目指します。受講生は担当箇所のみならず課題全体を予習・復習する必要があります。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 英文読解演習（1） 【到達目標】 受講における留意点・授業の進め方を理解する。 時間外学習の方法を把握する。 論理的な文章を正確に読むために必要なポイントを理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第9回 英文読解演習（9） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 演習を通して課題文の内容を把握する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第2回 英文読解演習（2） 【到達目標】 パラグラフの構造を確認する。 演習を通して課題文の内容を把握する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第10回 英文読解演習（10） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 課題文の内容に関して意見を構築する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第3回 英文読解演習（3） 【到達目標】 パラグラフ間の関係を理解する。 演習を通して課題文の内容を把握する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第11回 英文読解演習（11） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの構造を理解する。② 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第4回 英文読解演習（4） 【到達目標】 演習を通して課題文の内容を把握する。 課題文の内容に関して意見を構築する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第12回 英文読解演習（12） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容を把握する。② 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第5回 英文読解演習（5） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む技術を習得する。 プレゼンテーションの構造を理解する。① 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第13回 英文読解演習（13） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容に関して意見を構築する。② 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第6回 英文読解演習（6） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容を把握する。① 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第14回 英文読解演習（14） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 論説文・プレゼンテーションの内容に関して意見を構築する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第7回 英文読解演習（7） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容に関して意見を構築する。① 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第15回 英文読解演習（15） 【到達目標】 論説文・プレゼンテーションに関して意見を発表する。 今後の学習目標を設定する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、今後も自律的学習を継続させる。			
第8回 英文読解演習（8） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 演習を通して課題文の内容を把握する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。						
【学習上の留意点】 担当箇所のみならず、課題全体の予習・復習を行うこと。 復習効果を確認できるよう、小テストにしっかりと取り組むこと。 論説文・プレゼンテーションに関して意見を持ち、発言・レポートを通して表現すること。						
【教科書・参考書など】 プリントを配布します。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めません。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 原則として、平常点(小テスト等)40%、発表20%、期末試験40%で評価します。						

科目名	英語E G C II			担当者	Mensto Flaming	
英文名	English for General Communication II					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】						
This course (English for General Communication II) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 Introductions 【到達目標】 Previewing the contents and goals of the course 【授業時間外学習】 Preview syllabus			第9回 The City 【到達目標】 Practising giving / receiving directions 【授業時間外学習】 Preview directions vocabulary			
第2回 Questions about Past Experiences 【到達目標】 Practising past tense questions / answers 【授業時間外学習】 Review past tense			第10回 Presentations: My Home 【到達目標】 Discussing living space 【授業時間外学習】 Prepare presentation			
第3回 A Holiday in Florida 【到達目標】 Listening in Context 【授業時間外学習】 Preview holiday vocabulary			第11回 School 【到達目標】 Previewing school-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview school-related vocabulary			
第4回 Presentations: Holidays 【到達目標】 Discussing a past experience 【授業時間外学習】 Prepare presentation			第12回 Presentations: School 【到達目標】 Discussing School 【授業時間外学習】 Prepare presentation			
第5回 Countries and Their Kitchens 【到達目標】 Practising food-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview food-related vocabulary			第13回 Reading a Story 【到達目標】 Reading comprehension 【授業時間外学習】 Reading Preparation			
第6回 Locations 【到達目標】 Practising location vocabulary 【授業時間外学習】 Preview location vocabulary			第14回 Preparations for Mid-term Presentations 【到達目標】 Previewing the mid-term presentation 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation			
第7回 Presentations: A Country and its Kitchen 【到達目標】 Discussing Foreign Countries 【授業時間外学習】 Prepare presentation			第15回 Mid-term Presentations 【到達目標】 Course Review 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation			
第8回 The Home 【到達目標】 Practising home-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview home-related vocabulary						
【学習上の留意点】						
Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer! I.e. This class will be conducted in English.						
【教科書・参考書など】						
Talk a Lot 1 - D. Martin - EFL Press						
【関連科目】						
【成績評価方法】						
Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30%						

科目名	教養としてのドイツ言語論			担当者	藤 由 順 子	
英文名	German Language as General Education					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 初級レベルの基礎知識を確かなものにし、これを高め、応用力を養うことに備える。ドイツ語の言語的特徴と全体像をつかむことをめざす。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業内容の説明、テキスト等の紹介 【 到達目標 】 音声的基礎を踏まえ、さらなるコミュニケーション能力を高める。 【授業時間外学習】 文字と単語の発音練習をする。			第9回 前置詞の格支配 【 到達目標 】 状況を説明するフレーズを表現できる。 「～と一緒に・～の後で・～のために・～の上で」等と言える。 【授業時間外学習】 例文を覚える。			
第2回 発音、基本表現、基礎的文法事項の確認 【 到達目標 】 日常生活レベルから教養的レベルの語彙を理解する。 あいさつやとっさの一言を身につける。 【授業時間外学習】 語彙の発音と意味を確認する。			第10回 助動詞 【 到達目標 】 語法の助動詞を学び、ドイツ語特有の語順を理解する。 【授業時間外学習】 自分のしたいこと、できること、好きなことを表現してみる。			
第3回 ドイツ語の文構造 【 到達目標 】 「動詞が二番目にくる」というドイツ語文の特徴を理解する。 規則動詞、不規則動詞の人称変化をおさえて、ドイツ語で表現する。 【授業時間外学習】 基本的な文を覚える。			第11回 従属接続詞 【 到達目標 】 接続詞と複雑な文章を学習する。 【授業時間外学習】 動詞の位置を確認する癖をつけて、文構造を理解する。			
第4回 ドイツ語の名詞を知る 【 到達目標 】 名詞が内包する三要素「性・数・格」を捉えて、その名詞の文中での役割を意識できる。 【授業時間外学習】 格変化の表の見方に慣れる。			第12回 分離動詞 【 到達目標 】 文中に登場する分離動詞を見つけ出し、見出し語の形に戻せるようになる。 分離動詞を使って日常生活を表現できる。 【授業時間外学習】 例文を覚える。辞書を引いて、分離動詞の表記を確認する。			
第5回 冠詞の役目 【 到達目標 】 英語と異なり、「ひとつの」とか「その」という意味を持つだけでないことを再確認する。 【授業時間外学習】 辞書を引いて、格変化表を作成してみる。			第13回 再帰代名詞と再帰動詞 【 到達目標 】 主語と同じものを示す目的語の代名詞と、それを用いた熟語的表現（再帰動詞）を学習する。 【授業時間外学習】 辞書で再帰動詞を引いて、項目や表記を確認する。			
第6回 複数形 【 到達目標 】 sをつけて複数形を作る英語と異なり、名詞を複数形にするのが単純ではないことを学ぶ。 【授業時間外学習】 辞書の見出し語である単数形に戻す練習を重ねる。			第14回 形容詞 【 到達目標 】 形容詞の名詞化を知り、これに慣れる。 【授業時間外学習】 形容詞の格変化表を作成する。			
第7回 所有冠詞 【 到達目標 】 「私の～が」・「彼女の～を」・「君の～に」等の表現を身につける。 【授業時間外学習】 所有冠詞を覚えて自分の持ち物を表現する。			第15回 理解度の確認と補足説明 【 到達目標 】 習得した文法項目を用いて、自分が表現したい事、相手に尋ねたい事を伝える。 【授業時間外学習】 自分の分からない所を書き出す。			
第8回 人称代名詞 【 到達目標 】 主語だけでなく、目的語になる代名詞を学習して、活用する。 「彼に」・「私たちを」・「それを」などを体得する。 【授業時間外学習】 自分が何を愛しているのか、口頭や文章で表現する練習をする。						
【学習上の留意点】 発音練習を繰り返すこと。復習をしっかりと行うこと。ドイツ文化と言語への関心を大事にすること。半期でドイツ語の文法基礎をしっかりとおさえましょう。						
【教科書・参考書など】 『ヴンダー！ヴンダー！』藤由順子・橋本由紀子・平山茂樹著、朝日出版社 独和辞典はできるだけ用意してください。小さいものでも電子辞書でも古いものでも構いません。						
【関連科目】 ドイツの言語と文化Ⅰ、ドイツの言語と文化Ⅱ						
【成績評価方法】 授業時の課題30%、理解度確認のためのテスト結果を70%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。						

科目名	現代の倫理				担当者	宇多村俊介	
英文名	Ethics in Modern Life						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 倫理学は古くかつ新しい学問分野です。古くは古代ギリシャにまで遡る歴史があり、いかに生きるべきかについて幾多の哲学者たちが連綿と考えつづけてきている点でいしえの主題であり、また一方では、ますます混迷化の様相を呈する現代にあって、倫理的諸問題が過去のどの時代にもなかった諸条件のもとで現れている点でつねに新しい主題をなしています。この講義では、こうした裾野から私たちを取りまく具体的な問題を手掛かりに、いくつかの倫理学の基本概念と原則を検討し、現代の倫理的な問への視角を学びます。個々の論題に対し、各受講者が倫理的に何が問題かを把握し、自ら考える端緒としてほしい。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション：倫理的な問い 【 到達目標 】 倫理的な問いのもつ特質を理解するとともに、自分の現状での思想傾向を把握する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第9回 環境倫理：未来に対する責任 【 到達目標 】 現在の個および種としての行為が、未来の他者に及ぼす影響について考え、未来に対する責任を自覚することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第2回 「幸福」「善」とは何か 【 到達目標 】 倫理的な脈絡での「善・よい」を把握し、善の定義を試み、開かれた(未決の)間であることを理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第10回 情報化社会の倫理：情報時代と監視社会 【 到達目標 】 メディア文化の来歴を把握し、監視・管理社会にともなう倫理的な諸論題を理解して、その問題点を理解することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第3回 普遍化可能性1：社会契約 【 到達目標 】 道徳規則が万人に対する要請として現れる仕組みと可能性を考察することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第11回 科学技術時代の倫理：科学者の社会的責任 【 到達目標 】 科学者の社会的責任論の類型の批判的吟味を通して、科学技術の来歴と特質がもつ倫理の含みを考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第4回 普遍化可能性2：自由意志 【 到達目標 】 自由をめぐる二つの考えを把握し、自由意志に基づく道徳的要請が成立する仕組みとその問題点を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第12回 生命倫理1：人間の尊厳 【 到達目標 】 生命倫理の基本概念を把握し、とくに安楽死をめぐる事案を通して現代医療で生じる諸論題の倫理的問題の所在を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第5回 普遍化可能性3：功利の原理(1) 【 到達目標 】 現代社会の行為原則として功利の原理のもつ特質とその倫理的含みを理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第13回 生命倫理2：生殖医療 【 到達目標 】 テクノロジーの発達と介入によって生じる、生殖医療をめぐる倫理的問題の所在を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第6回 功利の原理(2)：自由主義的な行為原則 【 到達目標 】 功利の原理が下敷きにする自由主義のはらむ問題点を、とくに自己決定権、他者危害の原則について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第14回 倫理的相対主義 【 到達目標 】 倫理の相対主義の問題点を理解し、多元的社会での合意形成の可能性について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第7回 正義：自由と平等 【 到達目標 】 自由と平等が民主主義の二つの(別個の)伝統であることを把握し、その両立可能性について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第15回 規範なき時代とニヒリズム 【 到達目標 】 残された、しかし重要な問題として、なぜ道徳的でなければならないか、その可能性を考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第8回 自然と文明：道具的理性 【 到達目標 】 自然と人間、人間と文明がはらむ倫理的問題を、(道具的)理性の批判的検討を仲立ちにして理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>							
【学習上の留意点】 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理するために、授業中に7～8回、ミニレポートを書き、提出してもらいます。原理的に考えることを要しますが、具体的状況のなかで倫理的問題の所在がどこにあるのかをつかむには、知見を要する場合もあります。できるだけ歴史的・社会的背景の吸収・収集にも努めてください。							
【教科書・参考書など】 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 課題ミニレポート40%、定期試験60%で成績を評価する。試験は試験期間中に別途実施する。							

科目名	レクリエーションミュージック・合奏			担当者	今 角 夏 織	
英文名	Recreation music (Ensemble)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 高校までの音楽科の授業を発展させる形で、「音を合わせる」ということを学ぶ。合奏や合唱の経験を通して豊かな表現力を養い、協力して一つの曲を完成させる喜びを味わう。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 楽譜の基礎知識① 【 到達目標 】 基本的な楽譜の読み方を理解する。 【授業時間外学習】 楽譜の読み方を復習する。			第9回 トーンチャイム① 【 到達目標 】 トーンチャイムという楽器の発音の仕組みを理解する。正しい持ち方、鳴らし方を学ぶ。 【授業時間外学習】 トーンチャイム用の楽譜の読み方を習得する。			
第2回 音楽の形式①/声のアンサンブル① 【 到達目標 】 校歌の音楽的特徴を理解したうえで、二部合唱で歌う。 【授業時間外学習】 校歌のメロディーを確認する。			第10回 トーンチャイム② 【 到達目標 】 自らのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。 【授業時間外学習】 楽曲の正しいリズムを習得する。			
第3回 楽譜の基礎知識②/身近なものを使ったアンサンブル① 【 到達目標 】 プラスチックカップを用いていくつかの音色を出し、リズムを理解してアンサンブルを楽しむ。 【授業時間外学習】 楽曲の正しいリズムを習得する。			第11回 トーンチャイム③ 【 到達目標 】 他の演奏者と呼吸を合わせて、正確なリズムで演奏し、美しい和音を味わう。 【授業時間外学習】 第10回で扱った楽曲の復習をする。			
第4回 楽譜の基礎知識③/身近なものを使ったアンサンブル② 【 到達目標 】 前回学習したリズムを応用して、音楽に合わせて正しく演奏する。 【授業時間外学習】 第3回の授業内容を復習する。			第12回 ソプラノリコーダー① 【 到達目標 】 リコーダーの歴史を学ぶ。演奏の姿勢、基本的な指使い、タンギングなどの奏法を学ぶ。 【授業時間外学習】 リコーダーの運指を確認する。			
第5回 音楽の形式②/楽器のアンサンブル：スペインのカスタ① 【 到達目標 】 カスタネットの奏法を学び、正確なリズムで演奏する。 【授業時間外学習】 打楽器の基本的な取扱いを習得する。			第13回 ソプラノリコーダー② 【 到達目標 】 高音や低音の出し方を学び、よりきれいな音で演奏する。 【授業時間外学習】 サミングを習得する。			
第6回 音楽の形式③/楽器のアンサンブル：スペインのカスタ② 【 到達目標 】 カスタネット、トライアングル等によるアンサンブルを楽しむ。 【授業時間外学習】 第5回で扱った楽曲の復習をする。			第14回 リコーダー&トーンチャイム① 【 到達目標 】 リコーダーのチューニングについて学ぶ。正しい音程・相手とのバランスを考えた演奏を心がける。 【授業時間外学習】 担当するパートの復習をする。			
第7回 ボディーパーカッション① 【 到達目標 】 楽譜に書かれたリズムを理解し、正確に叩く。身体を打ち鳴らして出る様々な音を発見する。 【授業時間外学習】 ボディーパーカッションの新しいアイデアを考える。			第15回 リコーダー&トーンチャイム② 【 到達目標 】 今までに学習したことを生かし、より音楽的に仕上げる。 【授業時間外学習】 第14回の授業内容を復習する。			
第8回 ボディーパーカッション② 【 到達目標 】 グループごとに創意工夫をして、ボディーパーカッションで1曲演奏をする。 【授業時間外学習】 第7回で創作したリズムを復習する。						
【学習上の留意点】 アンサンブルはひとりでも欠けると成立しないので、欠席しないことを条件に課す。 またソプラノリコーダーは授業の際、必携。						
【教科書・参考書など】 適宜楽譜を配布する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業における課題達成度および授業内演奏の習熟度50%、授業内課題提出50%で評価する。						

科目名	日常生活の法律				担当者	中村安菜	
英文名	Law in Everyday Life						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 私たちが日常生活の中で実際に接する可能性の高い法律問題を選び、それらに關係する基本的な用語や制度を理解する。あわせて、法的問題を解決する場合に必要な思考方法をも身につけたい。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 私たちの日常生活に関わる様々なルールについて 【 到達目標 】 (1) 私たちの日常生活には様々なルールが存在していることを理解する。 (2) 様々なルールのなかで法律が持つ特性を理解する。 【授業時間外学習】 日本に存在している法律の数を調べる。				第9回 犯罪と法律① 【 到達目標 】 (1) 刑事責任と民事責任の違いについて理解する。 (2) ある行為が犯罪とされるのはどのような場合かについて理解する。 【授業時間外学習】 自分の知っている犯罪の種類を箇条書きでまとめる。			
第2回 道路交通と法律① 【 到達目標 】 (1) 道路交通に関する法律に使われている様々な用語について理解する。 (2) 道路交通法における歩行者、自転車運転者の位置づけを理解する。 【授業時間外学習】 日常生活の中で自分が常に守っている交通ルールなどを箇条書きで挙げる。				第10回 犯罪と法律② 【 到達目標 】 (1) 犯罪に対して科される様々な刑罰について理解する。 (2) 未成年者の犯罪とその取扱いについて理解する。 【授業時間外学習】 自分の知っている刑罰の種類を箇条書きでまとめる。			
第3回 道路交通と法律② 【 到達目標 】 (1) 歩行者、自転車運転者に関わる様々な規定について理解する。 (2) 交通事故における法的責任について理解する。 【授業時間外学習】 世田谷区内で発生した交通事故数(昨年)を調べる。				第11回 市民社会と法律 【 到達目標 】 (1) 市民としての様々な権利義務について理解する。 (2) 身近な届出義務や納税の義務等について理解する。 【授業時間外学習】 届出が必要な身行為について調べる。			
第4回 生命の始まり・終わりとは法律① 【 到達目標 】 (1) 生殖医療の技術進歩に伴う法的問題、法制度の現状について理解する。 (2) 人工妊娠中絶に関する法的規制と権利主張について理解する。 【授業時間外学習】 生殖医療に関して、女性としてどう考えるのかをまとめる。				第12回 高齢化社会と法律 【 到達目標 】 (1) 年金・介護保険制度の意義と問題点について理解する。 (2) 相続の仕組みについて理解する。 【授業時間外学習】 相続に関連する法律の条文を見つけてコピーする。			
第5回 生命の始まり・終わりとは法律② 【 到達目標 】 (1) 末期医療と法制度について理解する。 (2) 安楽死についての議論、外国における法制度について理解する。 【授業時間外学習】 安楽死が問題となった判例を調べてくる。				第13回 女性の地位と法律 【 到達目標 】 (1) 女性に対する差別と法律の役割について理解する。 (2) セクシュアルハラスメントについて理解する。 【授業時間外学習】 セクシュアルハラスメントに関する自分の考えをまとめる。			
第6回 家族と法律① 【 到達目標 】 (1) 婚姻の成立と効果に関する法規定について理解する。 (2) 家庭生活及び婚姻の解消に関する法制度について理解する。 【授業時間外学習】 結婚するために必要な手続について調べる。				第14回 契約と法律 【 到達目標 】 (1) 現代社会における契約の意義について理解する。 (2) 身近な契約と消費者等の保護に関する法制度について理解する。 【授業時間外学習】 契約にはどのような種類があるのかを調べ、箇条書きでまとめる。			
第7回 家族と法律② 【 到達目標 】 (1) 親子関係の発生及び親子間の権利義務に関する法制度について理解する。 (2) 養子に関する法制度について理解する。 【授業時間外学習】 親子関係不存確認訴訟(2014年7月17日)に関する新聞記事をコピーする。				第15回 日々の暮らしと法律 【 到達目標 】 (1) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。 【授業時間外学習】 全体の授業を通して自分が関心をもった事項についてより深く調べ、まとめる。			
第8回 二十歳と法律 【 到達目標 】 (1) 成人することの法制度上の意味を理解する。 (2) 成人することによる具体的な権利の発生、保護の消滅について理解する。 【授業時間外学習】 成人することによって発生する権利について、箇条書きでまとめる。							
【学習上の留意点】 講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみる。なお、授業内容の詳細は随時指示する。							
【教科書・参考書など】 開講時に指示する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 期末試験の結果100%で評価する(良好な出席状況は、当然の前提である)。試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	教養としての経済学			担当者	高橋 信勝	
英文名	Introductory Economics					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 目的：経済社会を俯瞰できるように経済学の基礎理論を習得し、併せて経済学的思考の涵養を図る。 ねらい：この授業では、経済学の基礎理論をベースにして、私たちの生活にとって「政治」とともに係りを断つことができない「経済」について学ぶ。新聞の経済トピックの解説や問題演習を随時取り入れて、受講者の理解を深める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 経済学への誘い（1） 【 到達目標 】 経済社会の成り立ちを知り、経済学を学ぶ意義を考える。 経済システムと経済問題、経済学の3つの部門（理論、歴史、政策）について学ぶ。 経済学の学問的特質を理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（ケネー）。			第9回 有効需要論（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（歳入）。			
第2回 経済学への誘い（2） 【 到達目標 】 希少性、機会費用、サンクコスト等を学ぶ。 経済学的思考が日常生活のなかで、どのように役立つのかを理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（スミス）。			第10回 IS-LM分析（1） 【 到達目標 】 財市場とIS曲線との関係、貨幣市場とLM曲線との関係を学ぶ。 IS-LM分析にもとづく財政政策・金融政策を学ぶ。 市場経済への公的介入についての理解を深める。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（歳出）。			
第3回 企業と経済 【 到達目標 】 企業とは何か、国民経済における企業の役割を学ぶ。 企業経営におけるイノベーションの必要性、企業間の競争の意義について理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（シュンペーター）。			第11回 IS-LM分析（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（国債残高と財政赤字）。			
第4回 GDPと三面等価の原則 【 到達目標 】 GNPとGDP、三面等価の原則、ストックとフロー、経済成長、景気循環について学ぶ。 国民経済の数量的把握について理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（ケインズ）。			第12回 国際収支と為替レート（1） 【 到達目標 】 国際収支、円安と円高、為替レートと貿易収支の関係を学ぶ。 変動相場制と固定相場制、為替レートと物価の関係を学ぶ。 世界経済と日本経済とのかかわりを理解する。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（リカードの比較生産費説）。			
第5回 中央銀行の機能と金融政策（1） 【 到達目標 】 貨幣とは何か、貨幣需要、貨幣供給について学ぶ。 中央銀行の機能と金融政策を学ぶ。 金融政策の枠組みについて理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（イギリスの産業革命）。			第13回 国際収支と為替レート（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（リストの経済発展段階論と貿易論）。			
第6回 中央銀行の機能と金融政策（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（日本の産業革命）。			第14回 戦後の日本経済 【 到達目標 】 高度経済成長、バブル、人口減少社会の到来等、戦後の日本経済史について学ぶ。 戦後の日本経済の歩みを回顧し、今日の日本経済が直面している問題について理解を深める。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（経済のグローバル化）。			
第7回 インフレとデフレ 【 到達目標 】 インフレとデフレとは何かを学び、その国民経済への影響について理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（世界恐慌）。			第15回 授業の総復習と問題演習 【 到達目標 】 授業を振り返り、重要なポイントを再確認する。 問題演習に取り組み、知識の定着を図る。 【授業時間外学習】 経済学上の対抗思想（経済成長至上主義と定常状態論、大きな政府と小さな政府）を調べる。			
第8回 有効需要論（1） 【 到達目標 】 有効需要、45度線分析、乗数、インフレギャップとデフレギャップを学ぶ。 経済のマクロ分析について理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（高度経済成長）。						
【学習上の留意点】 経済学は体系的な学問なので、継続的な出席が望まれる。						
【教科書・参考書など】 教科書は指定しない。参考文献等は、適宜、紹介する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 小テスト（30%）と試験（70%）により、評価する。試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	数と論理				担当者	五月女仁子	
英文名	Arithmetic and Logic						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 具体的な問題を解くことで、基本的な数学についての理解を深めます。数の計算、代数の基礎、いろいろな進法を学び、教員採用試験や企業の適性検査に頻繁に出題されている流水算、旅人算、年齢算などの手法や、集合、論理パズル、表や資料の読み取り方について学習します。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 計算の基礎1、1次方程式と連立1次方程式、特殊な計算1 【 到達目標 】 (1)四則算、計算の順序について復習する。 (2)1次方程式と連立1次方程式の解法を理解する。 (3)鶴亀算について学ぶ。 【授業時間外学習】 腕試し問題の復習。				第9回 計算の基礎9、順列と組み合わせ 【 到達目標 】 (1)連立方程式の計算について復習する。 (2)順列とは何かを理解し、解き方を学ぶ。 (3)組み合わせとは何かを理解し、解き方を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第2回 計算の基礎2、特殊な計算2 【 到達目標 】 (1)小数点の計算について復習する。 (2)年齢算、仕事算、植木算について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				第10回 計算の基礎10、確率 【 到達目標 】 (1)不等式の計算について学習する。 (2)確率について学習する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第3回 計算の基礎3、単位の換算、特殊な計算3 【 到達目標 】 (1)分数の計算について復習する。 (2)単位の換算について復習する。 (3)速度算、流水算、通過算について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				第11回 計算の基礎11、数列 【 到達目標 】 (1)複素数の概念と複素数の計算について学習する。 (2)等差数列と等比数列を理解する。 (3)特殊な数列について理解する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第4回 計算の基礎4、特殊な計算4 【 到達目標 】 (1)小数、分数を含む計算について復習する。 (2)時計算、損益算、濃度について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				第12回 計算の基礎12、n進法 【 到達目標 】 (1)対数の概念と対数の計算について学習する。 (2)普段使っている10進数を理解して、2進数、その他の進数について学習する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第5回 計算の基礎5、数の計算 【 到達目標 】 (1)指数について、指数の計算について理解する。 (2)公約数と公倍数について学ぶ。 (3)比の計算について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				第13回 集合 【 到達目標 】 (1)集合とは何か、要素、部分集合とは何かを学ぶ。 (2)ベン図の作成と集合算について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第6回 計算の基礎6、1次関数、不等式 【 到達目標 】 (1)負の数、負の数の計算について理解する。 (2)グラフを利用することによって、1次関数の基礎を学習する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				第14回 命題と推論 【 到達目標 】 (1)命題とは何かを理解する。 (2)命題の真・偽について論理的に判断する方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第7回 計算の基礎7、2次関数 【 到達目標 】 (1)負の数を含む計算について理解する。 (2)2次関数について理解する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				第15回 論理パズル 【 到達目標 】 (1)論理的な思考を必要とする実践的な問題を学習する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第8回 計算の基礎8、2次方程式 【 到達目標 】 (1)1次方程式の計算問題について復習する。 (2)2次方程式の公式と解法について理解する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。							
【学習上の留意点】 知識を固めるためには、実際に解いてみるのが一番です。講義時間の後半10分から15分は実際に皆さんが課題を解く時間とします。解いた課題については、次回解説を行います。間違えた人は必ず復習をしてください。							
【教科書・参考書など】 講義中に指示します。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 毎回行うミニ課題36%、期末試験64%（試験は試験期間中に別途実施）として評価します。ミニ課題は出された授業時間内で必ず提出して下さい。授業時間外の提出（翌週に出すことや、研究室に持ってくることは、いかなる理由であっても認めません。							

科目名	社会のしくみとキャリア形成				担当者	影山 陽子・杉村 鉄	
英文名	Social System and Basic Career Development						
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 現代社会の特徴を理解し、各人が幸福に生きるためには社会とどのように関わっていくのか、自分のキャリアデザインにおける様々な可能性について考える。また、それらの可能性を実現可能なものとするために、社会人としての基本、社会の仕組みや会社の仕組み・形態を学び、実践体験を通してキャリアデザインについて考え、キャリア形成に関わる実践的スキルを学ぶ。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 ガイダンス・現代社会の特徴について 【 到達目標 】 授業受講のためのガイダンス（必要があれば選抜試験を行う）。現代社会の特徴について知る。 【授業時間外学習】 自分自身の受講目的を明確にする。				第9回 社会の動きとキャリア（2） 【 到達目標 】 社会背景を踏まえ、働く際に求められている資質・能力・考え方について学ぶ。 【授業時間外学習】 学生と社会人との価値観の違いや社会において大切な考え方について復習する。			
第2回 大学と社会、生涯学習について 【 到達目標 】 大学と社会とのつながり、生涯学習について考える。 【授業時間外学習】 「女性と仕事」で学んだ現代社会の特徴について復習とまとめをする。				第10回 社会の動きとキャリア（3） 【 到達目標 】 夢と現実を踏まえ、自分のキャリアを考える。 【授業時間外学習】 自らの希望とそれに向けての準備・努力の確認をする。			
第3回 幸福とキャリア（1） 【 到達目標 】 キャリアデザインにおける幸福について考え、幸福に生きるためのスキルについて知る。 【授業時間外学習】 「キャリアをデザインするとは？」主体的な自己について内省する。				第11回 雇用形態と働き方（1） 【 到達目標 】 仕事の種類と具体的な内容を学ぶ。 【授業時間外学習】 具体的な仕事や働き方について復習する。			
第4回 幸福とキャリア（2） 【 到達目標 】 選択に迷った時、挫折を経験した時の対処について考える。 【授業時間外学習】 「危機的状況に陥った時にどうするのか？」リスクについて考える。				第12回 雇用形態と働き方（2） 【 到達目標 】 大学で学んだ事をどう活かすか、またどう活かせるかについて、実際の仕事に照らし合わせ幅広い視野に立って考える。 【授業時間外学習】 体育大学で学んだことを活かす視点で自らの強みを考える。			
第5回 社会のしくみ・会社の仕組み（1） 【 到達目標 】 法律の変遷と雇用をめぐる変化を通して、働き方について考える。 【授業時間外学習】 自分の卒業後の進路・生き方・働き方について考える。				第13回 実践研究（1） 【 到達目標 】 学生と社会人の違いについて実践研究する。 【授業時間外学習】 新聞を活用し、授業で取り上げたテーマに照らし合わせて再読する。			
第6回 社会のしくみ・会社の仕組み（2） 【 到達目標 】 学歴と雇用（形態）について考える。 【授業時間外学習】 大学と専門学校の違いについて再考し、大学で学ぶ目的を確認する。				第14回 実践研究（2） 【 到達目標 】 企業・社会の価値観について実践研究する。 【授業時間外学習】 新聞を活用し、取り上げられている出来事の背景を考える。			
第7回 社会のしくみ・会社の仕組み（3） 【 到達目標 】 大学卒業後の生き方・働き方について、ケーススタディを通して考える。 【授業時間外学習】 これまでの自分の歩みをふり振り返り、現在の学生生活を考える。				第15回 体育大学で学んだことを社会で活かす 【 到達目標 】 体育大学で学んだことと企業が求める人材像、自分の描くキャリアデザインの接点や予測について考える。 【授業時間外学習】 授業全体を通して学んだことを復習し、自身を内省する。			
第8回 社会の動きとキャリア（1） 【 到達目標 】 社会の変化と雇用のあり方について学ぶ。 【授業時間外学習】 現代社会の実態について復習する。							
【学習上の留意点】 科目の性格上、1クラスの受講者数を60名程度に限定することを予定している。人数が多い場合、抽選とする。なお、通常の授業の他に、学内外における 授業時間外の課外での実践体験活動（職場・会社などの観察・見学等、評価対象外課題）を実施する場合もある。（その場合、時期については社会や企業の動向を考慮し、最適なタイミングを選定する）							
【教科書・参考書など】 『就活準備』杉村鉄（文芸社） 現代社会の動き（主として経済活動）を知るために、新聞を補助教材として使用する。							
【関連科目】 女性と仕事							
【成績評価方法】 授業における課題達成度(50%)、提出レポート(50%)で評価する。							

科目名	現代文化論				担当者	< 未 定 >	
英文名	Modern Culture						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 グローバル化（アメリカ標準の資本主義の世界中への広がり）の渦に私たちも知らず知らずのうちに巻き込まれている。文化や学問の領域も例外ではない。このトレンドに対抗するには人間とはそもそもどのような存在であるかを知る必要がある。また「敗戦後」の継続という歴史認識に基づいて現代日本社会を根幹で支えている対米従属構造を知る必要がある。それらの知見を基に「文化」の多様性を理解し、よりよい自分の生き方の展望が開けてくることを本講義は目的としている。複雑な時代を知性的に生き抜くためにこそ、人間のきれいな部分と逃げずに向き合う強さが求められていると担当教員は考えている。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 「文化」の定義を知る。特にゆとりや遊びの精神がないと「文化」は成立しないことを知る。その上で、ある社会の「現代文化」を学ぶ上での政治・経済的な背景を押さえることの重要性を理解する。 参考書：辛酸なめ子『辛酸なめ子の現代社会学』（幻冬舎）、ホイジンガ『ホモルーデンス』（中公文庫）など。 【授業時間外学習】 予習課題：辛酸なめ子について調べておく。できれば作品を読んでおく。				第9回 精神分析はどのような考え方をするのか 【 到達目標 】 言い間違い、物忘れ、夢の世界などを手がかりに無意識の存在の大きさについて理解する。 参考書：フロイト『精神分析入門』（新潮文庫）、同『自我論集』『エロス論集』（ちくま学芸文庫）、同『人はなぜ戦争をするのか』（光文社文庫）、フロム『自由からの逃走』（東京創元社）など。 【授業時間外学習】 予習課題：「去勢不安」「ペニス羨望」「エディプスコンプレックス」等の語について調べておく。			
第2回 沖縄の基地問題と観光文化を再考する 【 到達目標 】 沖縄を事例として「敗戦後」という視点から現代日本社会を捉えることの重要性を理解する。 参考書：矢部宏治『日本はなぜ、「基地」と「原発」をやめられないのか』（集英社）、白井聡『永続敗戦論』（太田出版）、孫崎亨『戦後史の正体』（創元社）、同『日本の国境問題』（ちくま新書）など。 【授業時間外学習】 予習課題：NHKドラマ「ちゅらさん」のストーリー、日米地位協定について調べておく。				第10回 精神分析を応用すると母娘関係はどう解説できるのか 【 到達目標 】 サディズムが「自己」という幻想の維持に必要な事情を知り、母親と娘の関係の難しさを理解する。 参考書：斎藤環『母は娘の人生を支配する』（NHKブックス）、片岡珠美『母に縛られた娘たち』（宝島社）、磯野真穂『なぜふつうに食べられないのか』（春秋社）など。 【授業時間外学習】 予習課題：摂食障害の事例についてネットなどで調べておく。SMとは何かについて調べておく。			
第3回 戦争時の健康増進文化を考える 【 到達目標 】 「健康」や「清潔」を過度なまでに強制する社会の抑圧性について歴史的視点から理解する。 参考書：プロイユル『ナチ・ドイツ 清潔な帝国』（人文書院）、藤野豊『強制された健康』（吉川弘文館）、武田徹『「隔離」という病』（講談社メチエ）など。 【授業時間外学習】 予習課題：ハンセン病の歴史、ナチスの優生思想、健康優良児表彰の歴史について調べておく。				第11回 ジェンダー論の視点から女性の生き方を再考する 【 到達目標 】 女性兵士問題を糸口に戦時動員体制および業績主義社会との関連について理解する。 参考書：若菜みどり『戦争とジェンダー』（大月書店）、佐藤文香『軍事組織とジェンダー』（慶応大学出版会）、上野千鶴子『ナショナリズムとジェンダー』（青土社）など。 【授業時間外学習】 予習課題：映画「G. I. ジェーン」のストーリーについて調べておく。できれば鑑賞しておく。			
第4回 現代日本の健康増進文化を考える 【 到達目標 】 健康不安が煽られ、「病」がつくられている現状について医療社会学などの知見を得て理解する。 参考書：美馬達哉『リスク化される身体』（青土社）、母里啓子『もうワクチンはやめなさい』（双葉社）、鳥集徹『新薬の罣』（文藝春秋）、斎藤貴男『子宮頸がんワクチン事件』（集英社）など。 【授業時間外学習】 予習課題：子宮頸がんワクチン被害の実態についてネットなどで調べておく。				第12回 ジェンダー論の視点から結婚と近代家族を再考する 【 到達目標 】 「母性」の強調が近代社会のつくりと関係することを知り、それに縛られない家族の形を考える。 参考書：バダンテール『母性という神話』（ちくま学芸文庫）、牟田和恵『家族を超える社会学』（新曜社）、岡田斗司夫『フロン』（幻冬社文庫）、森崎和江『第三の性』（河出書房文庫）など。 【授業時間外学習】 予習課題：シェアハウスなど新しい共住の形や家族に代わる新しい親密圏について調べておく。			
第5回 「恥」の分析を糸口に「日本文化論」とされているものを読み解く 【 到達目標 】 「甘え」、「恥」の文化、世間体などの視点から日本人の行動原理とその問題点を理解する。 参考書：土居健郎『「甘え」の構造』（弘文堂）、中根千枝『タテ社会の人間関係』（講談社現代新書）、井上忠司『「世間体」の構造』（講談社学術文庫）、内田義彦『形の発見』（藤原書店）など。 【授業時間外学習】 予習課題：どんなときに思わず赤面してしまうのか、自分の日常生活から事例を考えておく。				第13回 自律した身体を取り戻す試みを探る 【 到達目標 】 制度化され、記号化した「健康」とは異なる自律的な身体感覚に基づく健康の可能性を探る。 参考書：三木成夫『内臓とこころ』（河出書房文庫）、野口三千三『原初生命体としての人間』（岩波同時代ライブラリ）、影山健/岡崎勝『みんなでトロブス』（風媒社）など。 【授業時間外学習】 予習課題：ヘルシズム、野口体操、自然治癒力思想、進化医学について調べておく。			
第6回 「私」という現象と存在証明の欲望を考える 【 到達目標 】 自分も他人も知る「私」の他にも三つの「私」があることとマイノリティの生きづらさに気づく。 参考書：石川准『アイデンティティ・ゲーム』（新評論）、デイ多佳子『大きい女の存在証明』（彰流社）、ゴッマン『スティグマの社会学』（せりか書房）、石井政之『顔面漂流記』（かもがわ出版）など。 【授業時間外学習】 予習課題：「障害」とは何か、ボランティアとは何か、24時間テレビの功罪について調べておく。				第14回 前衛的アート作品の文化的価値と自文化中心主義を考える 【 到達目標 】 会田誠のある作品の展示は、表現の自由か「猥褻」か、自文化中心主義の落とし穴を考えてみる。 参考書：『現代アートの本当の学び方』（フィルムアート社）、伴野準一『イルカ漁は残酷か』（平凡社新書）など。カンギレム『正常と病理』（法政大学出版局）など。 【授業時間外学習】 予習課題：会田誠のアート作品とそれへの多様な評価、シーシェパードの行動について調べておく。			
第7回 差別と向き合う対抗的文化の可能性を考える 【 到達目標 】 被差別者の解放運動を再考し、アイデンティティ管理の新しい方向性と文化構築について理解する。 参考書：北島行徳『無敵のハンディキャップ』（文春文庫）、伏見憲明『（性）のミステリー』（講談社現代新書）、田中美津『かけがえのない、大したことはない私』（インパクト出版会）など。 【授業時間外学習】 予習課題：1970年代の「青い芝の会」、障害者プロレス「ドッグレッグス」について調べておく。				第15回 全体のまとめと補論 【 到達目標 】 これまで14回かけて学んできたこと全体を復習をする。活動能力を高める人生の選択を考える。文化の価値にはユモアと風刺と諧謔の精神も含まれていることを理解する。 参考書：ニーチェ『ツァラトゥストラ』（ちくま学芸文庫）、スピノザ『エチカ』（岩波文庫）など。 【授業時間外学習】 予習課題：イタリアの精神医療改革について調べ、なぜ精神科病院をなくせたのか考えておく。			
第8回 暴力・憎悪・差別からの脱出を考える 【 到達目標 】 人には「他人が苦しむのを見て快感を覚える」部分があることを知り、それを前提に対処策を考える。 参考書：酒井隆史『暴力の哲学』（河出書房新社）、中島敦『山月記』（新潮文庫）、ニーチェ『道徳の系譜』（岩波文庫）、朴裕河『和解のために』（平凡社ライブラリー）など。 【授業時間外学習】 予習課題：アメリカの1960年代における黒人差別、キング牧師、マルコムXについて調べておく。							
【学習上の留意点】 社会学関連の用語を1年次の「日常生活の社会学」で学んだことを前提とする。多少順番が入り替わることもある。マクドナルド化の基本原則の一つ「予測可能性」に反してシラバス通りではなくなる場合もある。なお、履修登録にあたっては、暴力や差別、怨念、憎悪というおぞましい情動、それらの検討にかかわるフロイト以来の精神分析系の知やニーチェ哲学の紹介など「人間の高尚ではない諸問題」にも触れる機会がある点に留意されたい。「正常病」気味の人には向かないかもしれない。大学の価値は異質なものに直面して驚くことにありと理解している人にはおすすめの講義である。							
【教科書・参考書など】 教科書は使わない。全体の参考書として井上芳保『つくられる病ー過剰医療社会と「正常病」』（ちくま新書）。							
【関連科目】 日常生活の社会学、スポーツ社会学、女性と仕事							
【成績評価方法】 レポート課題と学期末のテストの総合点で評価する。							

科目名	西洋音楽				担当者	森 立 子	
英文名	Western Music						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 「クラシック音楽」という言葉に包括される、グレゴリオ聖歌から現代音楽に至るヨーロッパを源とする音楽を、さまざまな楽器の仕組みと奏法、編成と演奏形態、楽曲の形式、作曲家の生涯、社会背景等、一般的な知識を得ることによって、より深い楽しみ方が出来るようになることを目指す。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 イン트로ダクション 【 到達目標 】 西洋音楽史における時代区分について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。				第9回 20世紀（1） 【 到達目標 】 19世紀末から第一次世界大戦にかけて現れた音楽の諸潮流、およびこれを代表する作曲家について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
第2回 中世・ルネサンス時代 【 到達目標 】 中世からルネサンスにかけての音楽を知る。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。				第10回 20世紀（2） 【 到達目標 】 両大戦間に現れた音楽の諸潮流、およびこれを代表する作曲家について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
第3回 バロック時代（1） 【 到達目標 】 バロック時代の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。対象はイタリア、およびフランス。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。				第11回 オペラ（1） 【 到達目標 】 オペラの歴史と作品を知る。対象はイタリア。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
第4回 バロック時代（2） 【 到達目標 】 バロック時代の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。対象はドイツ。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。				第12回 オペラ（2） 【 到達目標 】 オペラの歴史と作品を知る。対象はドイツ、およびフランス。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
第5回 古典派の時代 【 到達目標 】 古典派の時代の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。				第13回 鍵盤音楽 【 到達目標 】 鍵盤音楽の歴史と作品を知る。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
第6回 ロマン派の時代（1） 【 到達目標 】 ロマン派（特に前期ロマン派）の時代の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。				第14回 歌曲 【 到達目標 】 歌曲の歴史と作品を知る。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
第7回 ロマン派の時代（2） 【 到達目標 】 ロマン派（特に後期ロマン派）の時代の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。				第15回 管弦楽曲 【 到達目標 】 管弦楽曲の歴史と作品を知る。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
第8回 ロマン派の時代（3） 【 到達目標 】 ロマン派の時代に生まれた「国民楽派」の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。							
【学習上の留意点】 音楽という科目の性格上、CD・DVDなど視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席しないことが大前提となる。毎回、授業の終わりにコメントカードを書いてもらう予定。このコメントカードに書かれた内容も成績評価の対象とする。							
【教科書・参考書など】 授業の際に随時紹介する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 コメントカード30%、学期末レポート70%の割合で評価する。							

科目名	フランス語の世界			担当者	山下利枝	
英文名	World French					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、フランス語の持つ豊かで魅力的な世界を味わってもらふ。そのため、フランス語の生まれてきた文化的背景を講義するとともに、フランス語の発音・リズム・表現に触れ、フランス語を使う人々の日常的な表現世界を理解し共有することを目指す。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション：挨拶（アルファベ、綴りと発音）、フランスとフランス文化 【 到達目標 】 (1)挨拶（アルファベ、綴りと発音）に触れ、フランスとフランス文化の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「サッカーは世界の共通語」を読む。			第9回 日常の表現：好き、嫌い、意思、願望 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。好悪や意志や願望についての表現を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「エコ・ライフには自転車」を読む。			
第2回 フランス語について：沿革と発音の特徴、フランス語の魅力 【 到達目標 】 (1)フランス語の歴史と文化的背景を理解して、フランス語の魅力に気づく。 【授業時間外学習】 プリント「ロワール河の北と南」を読む。			第10回 日常の表現：非人称構文、天候、時間、義務 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。天候や時間や義務についての表現を学び、日本語と違う非人称の表現を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「文化を生み出すカフェ」を読む。			
第3回 日常の表現：挨拶（アルファベ、綴りと発音の関係の復習） 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。コミュニケーションの基礎としての挨拶を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「個性競うセーヌの橋」を読む。			第11回 まとめと復習② 【 到達目標 】 (1)7～10回のまとめと復習を実施する。 【授業時間外学習】 プリント「海洋環境復元にむけて（モン・サン・ミシェル）」を読む。			
第4回 日常の表現：自分のことを言う 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。自分を説明できる。 【授業時間外学習】 プリント「魅力あふれる小国モナコ」を読む。			第12回 日常の表現：過去形、未来形の基本 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。過去・未来について表現の規則を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「ツール・ド・フランスの勝者」を読む。			
第5回 日常の表現：相手・第三者のことを言う 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。相手・他人について説明できる。 【授業時間外学習】 プリント「カンヌ映画祭開幕」を読む。			第13回 フランスの映画鑑賞 【 到達目標 】 (1)映画鑑賞を通して、フランス語の世界を具体的に理解する。 【授業時間外学習】 プリント「7月14日は革命記念日」を読む。			
第6回 まとめと復習① 【 到達目標 】 (1)4・5回のまとめと復習を実施する。 【授業時間外学習】 プリント「日仏マンガ交流」を読む。			第14回 フランス語の世界を理解するための注目点 【 到達目標 】 (1)フランス語の世界を理解するために、特に注目すべき点を把握する。 【授業時間外学習】 プリント「ミシュランの三ツ星」を読む。			
第7回 日常の表現：数、時間、お金 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。フランス語の世界の基礎としての数、時間、お金についての表現を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「ストライキ大国フランス」を読む。			第15回 総復習 【 到達目標 】 (1)総復習をして、フランス語の世界への理解を深める。 【授業時間外学習】 プリント「空飛ぶ作家サン＝テグジュペリ」を読む。			
第8回 日常の表現：位置、方向（道を教える・聞く） 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。フランス語の世界の基礎としての位置方向についての表現を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「フランスワインの内憂外患」を読む。						
【学習上の留意点】 予習は必要ありません。しっかり復習し、日常的にフランス語に触れること（映画・歌等）。						
【教科書・参考書など】 「だいじょうぶ！フランス語」（太田浩一・明石伸子著）（白水社）						
【関連科目】						
【成績評価方法】 各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。（試験は試験期間中に別途実施する。）						

科目名	中国語の世界				担当者	道上峰史	
英文名	World Chinese						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 本講義は、初めて中国語を学習する学生を対象に開講します。中国語独特の発音や簡体字に慣れてもらうため、受講生には発音、発声の練習や、基礎的な作文を課します。最終目標としては、中国語で自己紹介が出来る水準を目指します。その他に、中国の社会や文化なども紹介して、中国に対する興味や関心を広げることを目的とします。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション：中国語について 【 到達目標 】 (1) 言語としての中国語の特性を理解する。 【授業時間外学習】 身近な中国語などを探して、中国語に興味を持つ。				第9回 基礎構文(Ⅲ)：形容詞がある構文の応用 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 形容詞がある構文の否定形、疑問形を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。			
第2回 発音の基礎：発音記号と四声 【 到達目標 】 (1) 言語としての中国語の音声（発音・リズム）を習得する。 【授業時間外学習】 授業で習った発音を、繰り返し発声する。				第10回 基礎構文(Ⅳ)：過去形 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 過去形がある構文を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。			
第3回 文字について：中国の簡体字と日本の漢字 【 到達目標 】 (1) 中国の簡体字と日本の漢字の違いについて理解する。 【授業時間外学習】 実際に簡体字を自分で書いてみる。				第11回 基礎構文(Ⅳ)：過去形の応用 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 過去形がある構文の否定形、疑問形を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。			
第4回 基礎構文(Ⅰ)：是の構文 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 是を使った構文を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。				第12回 作文：自己紹介 【 到達目標 】 (1) 自分について紹介する文章を作る。 【授業時間外学習】 自分で作成した中国語の文章を、更に推敲して完成させる。			
第5回 基礎構文(Ⅰ)：是の構文の応用 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 是を使った構文の否定形、疑問形を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。				第13回 作文：日常の表現 【 到達目標 】 (1) 日常表現をするための語彙を増やす。 【授業時間外学習】 普段、目に付いたものを中国語で表現する練習をする。			
第6回 基礎構文(Ⅱ)：目的語がある構文 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 目的語がある構文を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。				第14回 中国の文化(Ⅰ)：中国文化と中国語Ⅰ 【 到達目標 】 (1) 中国語の成り立ちと中国文化を理解する。 (2) 中国語の語彙を増やす。 【授業時間外学習】 授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。			
第7回 基礎構文(Ⅱ)：目的語がある構文の応用 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 目的語がある構文の否定形、疑問形を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。				第15回 中国の文化(Ⅱ)：中国文化と中国語Ⅱ 【 到達目標 】 (1) 中国文化の中で成長した中国語について理解する。 (2) 中国語の語彙を増やす。 【授業時間外学習】 授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。			
第8回 基礎構文(Ⅲ)：形容詞がある構文 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 形容詞がある構文を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。							
【学習上の留意点】 復習を心がけ、中国語に触れる機会を増やしましょう。							
【教科書・参考書など】 『《最新2訂版》中国語はじめの一步』竹島金吾監修/尹景春、竹島毅著(白水社)を元にして、講義用のプリントを配布します。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 授業時の課題が30%、学期末の筆記試験（試験は試験期間中に別途実施）が70%となります。							

科目名	ハングルの世界			担当者	李 貞 暎	
英文名	World Hangeul					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 韓国についての情報や文化が、ようやく詳細に日本にも紹介されてきている。韓国の文字であるハングルに触れ、その理解を通じて、身近な国の韓国について関心度や理解度をさらに高めていきたい。正確な生活や文化の理解には、その国の言葉の理解が不可欠である。韓国語の文字（ハングル）や発音、基礎的な文法、表現を理解することによって、韓国の人々の日常生活や文化を正確に理解し、コミュニケーション能力を高めていくことを目標とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション：ハングルとはどういう言語か 【 到達目標 】 (1) 言語としての韓国語の特性を理解する。 (2) 文字としてのハングルの成立の文化的背景を理解する。 (3) ハングル文字の仕組みについて理解する。 【授業時間外学習】 韓国語と日本語の共通点や相違点、ハングル文字の特性や仕組みについて学習する。			第9回 日常生活の表現：疑問表現 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。質問の仕方や答え方を習得する。 【授業時間外学習】 質問の方法を学習し、趣味の聞き方や答え方などを学習する。			
第2回 ハングルの発音：基本母音字 【 到達目標 】 (1) 文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2) 基本母音を習得する。 【授業時間外学習】 ハングル文字の仕組みを明確に理解したうえで、基本母音を学習する。			第10回 日常生活の表現：否定表現 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の否定表現を習得する。 【授業時間外学習】 「～ではありません」の表現を勉強し、否定の仕方を学習する。			
第3回 ハングルの発音：子音字（1） 【 到達目標 】 (1) 文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2) 子音（平音・激音）を習得する。 【授業時間外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。			第11回 日常生活の表現：用言の表現（1） 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 【授業時間外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その1：ハムニダ体）を学習する。			
第4回 ハングルの発音：子音字（2） 【 到達目標 】 (1) ハングルの子音（濃音）を習得する。 【授業時間外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。			第12回 日常生活の表現：用言の表現（2） 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 【授業時間外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その2：ヘヨ体）を学習する。			
第5回 ハングルの発音：合成母音字 【 到達目標 】 (1) 合成母音を習得する。 【授業時間外学習】 子音と合成母音の組み合わせ及びその発音を学習する。発音の仕組みについて理解する。			第13回 日常生活の表現と韓国文化：過去形 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の過去形の表現を習得する。 【授業時間外学習】 用言の過去形の作り方を勉強し、過去の出来事の説明の仕方を学習する。			
第6回 ハングルの発音：パッチム、挨拶 【 到達目標 】 (1) 文字としてのパッチムを習得する。 【授業時間外学習】 パッチムという概念の理解とその発音を勉強し、基本的な挨拶を学習する。			第14回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（1） 【 到達目標 】 (1) 韓国語の漢数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時間外学習】 漢字語数詞を勉強し、日にちや値段などの言い方を学習する。			
第7回 日本語のハングルの表記 【 到達目標 】 (1) 日本語のハングル表記を習得する。 (2) 辞書の引き方、キーボードの打ち方を習得する。 【授業時間外学習】 日本語のハングル表記を学習し、自分の氏名をハングルで書く、辞書を引く、等を学習する。			第15回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（2） 【 到達目標 】 (1) 韓国語の固有数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時間外学習】 固有語数詞を勉強し、時間や人数や年齢などの言い方を学習する。			
第8回 日常生活の表現：肯定表現 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の肯定表現を習得する。 【授業時間外学習】 「～は～です」の表現を勉強し、自己紹介や挨拶の表現を学習する。						
【学習上の留意点】 予習・復習を継続し、日常的にハングルに触れること（ドラマ・映画・歌等）。						
【教科書・参考書など】 「教科書名」：「楽しく学べる韓国語」（李美賢・李貞暎）著（白水社）						
【関連科目】						
【成績評価方法】 各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	知の哲学				担当者	宇多村俊介	
英文名	Philosophy of Knowledge						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 この授業は「知」をめぐる哲学上のいくつかの局面から主題を選びながら、物事や資料、読み物を理論的に解説する習慣を養うことに主眼を置いています。これは、何を素材にするにせよ、日常的に筋道立って考え解釈するための基礎作業をなして、大学生として最低限、身につけておくべき論理的な思考の諸原則と技能とを含みます。取り上げる主題としては、眼前の身近な素材や事例を用いながら、ことによると普段は当然視しているであろう事柄を批判的に捉え直す視角を学びます。各受講生がことばと思考を自覚的に使用し、みずから暮らしを哲学する端緒として欲しい。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション：哲学することと知へのアプローチ 【 到達目標 】 哲学的な問いのもつ特性を理解するとともに、「考える」という作業の一端を実践して、知へアプローチする上でのその意義を自覚する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の<検討課題>に取り組む。				第9回 感情：感情と認識 【 到達目標 】 感情の三つの様態を弁別し、それぞれの認識能力との対応関係を理解して、みずからの生活意識を反省的に顧みることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第2回 知の成立条件と定義：必要条件と充分条件 【 到達目標 】 知の古典的な定義を通して、定義の構成と充たすべき要件を理解し、みずからの問題と定義のかたちで明晰に述べることを試みる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第10回 思考と行為：プラグマティックな意味基準 【 到達目標 】 プラグマティックな意味基準を理解し、観念や言明を明晰化する方法として適用することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第3回 意味と明晰さ1：曖昧と漠然 【 到達目標 】 定義の種類と、目的に応じたタイプを理解し、適切な分析的定義の満たすべき要件に照らして任意の定義の適切さを批判的に吟味することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第11回 コミュニケーションの哲学：社会的自我 【 到達目標 】 コミュニケーションという用語の意味、その基本要素と諸段階を確認した上で、自我の社会性および主体性を理解し、コミュニケーションの可能性の基盤を考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第4回 意味と明晰さ2：分類 【 到達目標 】 用語の意味を明晰にするもう一つの方法として分類を把握し、適切な分類の満たすべき論理的要件と経験的要件とに照らして、事態の分析に適用することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第12回 現代の知の諸相1：情報化時代の知 【 到達目標 】 現代の知の一形態として集合知の特性を理解し、その正当性の根拠と限界について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第5回 立論の批判的評価の諸段階1：推論の2類型 【 到達目標 】 立論(論証)の構造と、そこに含まれる推論の2つの類型を把握した上で、立論の健全さを評価することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第13回 現代の知の諸相2：科学的接近法 【 到達目標 】 問題解決のための着想を評価する技能として説明上の仮説を理解し、仮説を評価するための検討項目に照らして、任意の仮説を評価することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第6回 立論の批判的評価の諸段階2：問と論駁 【 到達目標 】 対話的な枠組みのなかで立論の目的を理解し、いくつかの問のもつ機能と諸特質を弁別することができる。立論の目的に照らして、論理的思考の裏面をなす欺瞞的な思考の一形式を分析することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第14回 現代の知の諸相3：俗悪なもの形而上学 【 到達目標 】 形而上学的な観点が日常の暮らしに及ぼす影響について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第7回 立論の批判的評価の諸段階3：歪んだ思考 【 到達目標 】 欺瞞的な立論(虚偽)の分類と形式を把握し、個々の欺瞞的な立論をそれと分析することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第15回 知の主体的責任と知的誠実性 【 到達目標 】 授業を振り返り、知を表明し伝達することの意味と責任を自覚することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第8回 知覚経験と認識：現象と実在 【 到達目標 】 知の四つの源泉を把握し、認識の手段、能力として、感覚・知覚、表象、概念の諸特質を理解して、その限界と問題点を考察することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>							
【学習上の留意点】 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理してもらうために、また、いくつかの思考の技能への一定の習熟を図るために、授業時に5～6回、課題ミニレポートを書き、提出してもらいます。予備知識は要りませんが、集中して理解し、実地に適用する心構えでいて下さい。							
【教科書・参考書など】 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 授業内の課題ミニレポート30%、定期試験70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。							

科目名	美の理論				担当者	高橋 進	
英文名	Aesthetics						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 この授業は、美を好き嫌いや趣味として捉えるのではなく、美とはどういうものか、美はいかに成立するか、ということを理論的・客観的に把握することを目的とする。そのために、現代にいたるまでの西洋絵画を中心とする典型的な芸術作品を紹介しながら、美の基準を考察する。また、美についての代表的な理論を紹介し、美が成立する根拠を探る。授業では、画像や映像を多用して視覚的理解も図る。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション：美はどこにあるか 【 到達目標 】 美を考えるに当たり、美のありかが主観/客観、どちらにあるか、問題の所在を理解できる。 【授業時間外学習】 美に触れた体験を想起し自覚しておく。オリエンテーション後、問題の所在を振り返る。				第9回 色彩の科学：印象派 【 到達目標 】 絵画が世界を開く窓ではなく、色と形で表現する平面であることを理解し、色彩の科学としての印象派を考えることができる。 【授業時間外学習】 印象派の代表的な作品を調べる。プリントで光と色との違いを理解し、絵画芸術を確認する。			
第2回 美の様相：自然美・機能美・芸術美 【 到達目標 】 美の様相：美のあり方として自然美・機能美・芸術美を理解し、共通する美の本質について考えることができる。 【授業時間外学習】 配布プリントを予め読む。美のあり方に共通する本質を確認する。				第10回 芸術の精神性の表現 【 到達目標 】 20世紀の変動する世界を表現する精神としての芸術の役割について理解できる。 【授業時間外学習】 20世紀の歴史的変動の特徴を調べる。プリントから、変動を表現する作品を確認する。			
第3回 美の形式の自覚：古代ギリシア・ローマの美、黄金比 【 到達目標 】 美の形式の自覚として、対象に備わる古代ギリシア・ローマの美の秩序、黄金比が理解できる。 【授業時間外学習】 人体美の理想としての八頭身を調べる。プリントから黄金比を確認する。				第11回 感情移入と抽象衝動 【 到達目標 】 感情移入の芸術に対し、抽象絵画の成立を原理的に理解することができる。 【授業時間外学習】 抽象絵画の代表的な作品を調べる。感情移入と抽象との違いを確認する。			
第4回 美の象徴性の自覚：中世キリスト教の美 【 到達目標 】 美の表現形式としての象徴という方法を理解する。典型であるキリスト教美術の特徴を把握することができる。 【授業時間外学習】 サイン(記号)とシンボル(象徴)の違いを調べる。キリスト教美術の特徴を確認する。				第12回 平面と立体性：キュビズム 【 到達目標 】 芸術におけるキュビズムの革命性を把握し、現代芸術の立脚点の理解ができる。 【授業時間外学習】 ピカソの作品を調べる。プリントからピカソのキュビズム(立体主義)の革命性を確認する。			
第5回 美の意識の自覚：美意識、美的判断 【 到達目標 】 美が成立する主観の構造を理解する。固有の領域をもつ美的判断の特性を把握し、美意識がいかなるものか、自覚できる。 【授業時間外学習】 美しいと感じるのはなぜか、予め考える。プリントで授業内容を確認する。				第13回 ●・▲・■ 【 到達目標 】 ●・▲・■の幾何学的形象による純粋絵画の意義について理解ができる。 【授業時間外学習】 モンドリアンの作品を調べる。幾何学的形象の意義を確認する。			
第6回 美の芸術性の自覚：芸術作品の構造、美的範疇 【 到達目標 】 芸術作品の構造と美的範疇を理解し、芸術美の特性が把握できる。 【授業時間外学習】 プリントを読み、風景や人物を描いた絵が芸術作品として成立する根拠を確認する。				第14回 非具象絵画：美の純粋形式性 【 到達目標 】 現代の非具象絵画の見方を把握し、なぜ具象でないのかを考える。 【授業時間外学習】 現代の非具象絵画の作品を調べる。なぜ、具体的な物を描かないか、確認する。			
第7回 視覚の科学：遠近法の象徴性 【 到達目標 】 ルネサンス期に成立した視覚の科学としての遠近法を理解し、その成立の背景となる近代の世界観を考察することができる。 【授業時間外学習】 近代の歴史の流れを調べる。ルネサンス期の絵画等から遠近法の描法を確認する。				第15回 美の現在：多様な美 【 到達目標 】 現在の多様な美の世界について理解することができる。 【授業時間外学習】 プリント等から授業内容を振り返り、芸術の美と、具象から抽象への美の転換を確認する。			
第8回 光と影：陰影の科学 【 到達目標 】 光の研究による陰影の科学として、近代美術を理解することができる。 【授業時間外学習】 ニュートン等の光学について調べる。プリントで光と影の関係を確認する。							
【学習上の留意点】 西欧を中心とした視覚芸術(特に絵画)を講義対象とする。授業内容のレジュメを用意するが、西洋美術に関心を深めることが理解につながる。映像や画像を使って、ビジュアルな理解も図る。							
【教科書・参考書など】 テキストなし。授業内容のレジュメと資料(プリント)を配布する。参考文献は授業時に紹介する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 授業時における課題レポート30%、学期末の課題レポート70%で評価する。							

科目名	ジェンダー論			担当者	藤山新	
英文名	Gender Issues					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 本講義では、日常生活の様々な場面に潜在するジェンダーにまつわる事象や問題について、気づきと理解を深めることを目的とする。また、本学の特徴に合わせ、セクシュアル・マイノリティやセクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント、デートDVなど、学校や体育、スポーツの場面で指導的立場に立つうえで必要な知識を身につけることを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 イントロダクション 【 到達目標 】 (1)セックス、ジェンダー、セクシュアリティの概念とその変遷を理解する。 (2)ジェンダー・ギャップ指数 (GGI) を通じて、国際社会における日本の位置づけを知る。 (3)ジェンダーの視点から、どのような事柄が課題となりうるのかを把握する。 【授業時間外学習】 あらかじめ、自らがどのような事柄を「男らしい」「女らしい」と感じるのか、また、なぜそう感じるのかを考察し、授業に臨む。			第9回 近代スポーツとジェンダー 【 到達目標 】 (1)「近代スポーツ」の概念を理解する。 (2)「近代スポーツ」と「男らしさ」の結びつきを理解する。 (3)女性とスポーツに関する国際的なムーブメントの概要を把握する。 【授業時間外学習】 授業内容のうち、「ブライTON宣言」についてWebで調べ、その内容と意義について理解を定着させる。			
第2回 フェミニズムの歴史 【 到達目標 】 (1)フェミニズムの全体的な歴史を知る。 (2)現代のフェミニズムのありかたを理解する。 【授業時間外学習】 授業内容のうち、特に現代のフェミニズムのありかたについて復習し、理解を定着させる。			第10回 学校体育とジェンダー 【 到達目標 】 (1)トマス・アーノルドと二階堂トクヨの相違点について理解する。 (2)教員の男女比の偏りや、運動部の加入状況など、学校体育におけるジェンダー問題を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、これまでの自身の体験から、体育の授業においてどのような「隠れたカリキュラム」があり、それがあなたにどのような影響を与えたか検討する。			
第3回 男女共同参画社会ってなんですか 【 到達目標 】 (1)男女共同参画社会の理念を理解する。 (2)男女共同参画社会を推進するための具体的な取り組みを知る。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、男女共同参画センターに実際に足を運び、どのような事業が行われているか、どのような人が利用しているのか観察する。			第11回 セクシュアル・マイノリティと学校・スポーツ 【 到達目標 】 (1)多様性を保障する学校体育のあり方について検討する。 (2)当事者の体験を踏まえ、教員やスポーツの指導者として、セクシュアル・マイノリティ当事者と接するうえで必要な知識を理解する。 【授業時間外学習】 第4回及び第10回の授業内容とも関連させながら、ジェンダー論の視点から、体育の教員として注意しなければならないことを考察する。			
第4回 セクシュアル・マイノリティの基礎知識 【 到達目標 】 (1)人間の「性」の多様性について理解する。 (2)「性別二元論」および「異性愛主義」の概念を理解する。 (3)「マジョリティ=正常」「マイノリティ=異常」ではないことを理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、テレビや雑誌などのマス・メディアでセクシュアル・マイノリティがどのように扱われているかを調べる。			第12回 スポーツと身体 【 到達目標 】 (1)身体的性差とスポーツとの関係を理解する。 (2)性別確認検査の経緯と性別二元論の限界について知る。 (3)セクシュアル・マイノリティ当事者のスポーツ参加に伴う課題を知る。 【授業時間外学習】 授業内容を参考に、近代スポーツにおいて、記録や競技成績に男女差をもたらしている要因を考察する。			
第5回 「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」という考え方 【 到達目標 】 (1)「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」の概念を理解する。 (2)「性と生殖に関する自己決定権」が確立されるために必要な事柄を理解する。 (3)性感染症の実態について知る。 【授業時間外学習】 授業内容のうち、「性と生殖に関する自己決定権」と社会との関係について復習し、理解を定着させる。			第13回 メディアとスポーツとジェンダーと 【 到達目標 】 (1)メディアにおけるジェンダー格差について理解する。 (2)メディアにおける女性アスリートの描かれ方とその変化について理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、メディアにおいて女性アスリートがどのように描かれることが望ましいのか、検討する。			
第6回 実は身近なデートDV 【 到達目標 】 (1)デートDVの構造と実態を理解する。 (2)誰もがデートDVの被害者、加害者になりうることを理解する。 (3)「ピア・サポート」の意味と重要性を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に示すデートDV防止に取り組む団体等のWebサイトを閲覧し、ピア・サポートの重要性について、授業内容とも関連させて理解を定着させる。			第14回 スポーツと人権 【 到達目標 】 (1)スポーツ界におけるセクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの構造を理解する。 (2)スポーツ界でのハラスメントを防ぐために必要な取組について検討する。 【授業時間外学習】 授業内容のうち、スポーツ場面におけるセクシュアル・ハラスメントの特徴について復習し、理解を定着させる。			
第7回 スポーツ・ジェンダー学という世界 【 到達目標 】 (1)スポーツ・ジェンダー学の特徴を理解する。 (2)ジェンダーの視点でスポーツをとらえた時に見えてくる課題について知る。 (3)スポーツ界における女性のリーダーシップの現状について知る。 【授業時間外学習】 あらかじめ、『スポーツ・ジェンダー学への招待』の中から任意の1章を選び、自身のスポーツへの取組と関連させながら読んで、授業に臨む。			第15回 日常生活世界に見るジェンダー 【 到達目標 】 (1)家族、就業、政治など、日常生活の場面で現れるジェンダー・バイアスについて理解する。 (2)育児休業の取得率の男女差や育児後の女性の復職率などの実態を知る。 【授業時間外学習】 授業内で指示する男女共同参画白書平成28年版 (Web版) の該当箇所を参照し、日本におけるジェンダー問題の現状を数量的に把握する。			
第8回 女子ボクシングの昨日・今日・明日 【 到達目標 】 (1)女子ボクシングの現状を知る。 (2)ボクサーとして必要なスキルに男女で差がないことを理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、スポーツ新聞やボクシング専門誌に目を通し、男性と女性のボクサーの報じられ方の異同について調べる。						
【学習上の留意点】 毎時間配布するハンドアウトは、講義を聞いたうえで必要な事項を書き込むことで、資料として完成するように作成しています。ただし、授業内容を理解するためには、単なる穴埋めにとどまらず、積極的にノートを取ることを推奨します。受講者は主体的に授業に参加し、わからない点は積極的に質問するなどしてください。授業中に質問にくい場合には、授業の前後、およびメールでの質問にも応じます。						
【教科書・参考書など】 教科書 特 に指定しない。 参考書は、『データで見るスポーツとジェンダー』日本スポーツとジェンダー学会著 (2016) 八千代出版、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子著・伊田久美子著・熊安貴美江著 (2013) ミネルヴァ書房、『スポーツ・ジェンダー学への招待』飯田貴子著・井谷恵子著 (2004) 明石書店						
【関連科目】 女性と仕事、女性のライフステージと運動、スポーツ社会学、スポーツ心理学						
【成績評価方法】 随時実施する小テスト・小レポート30%、期末試験70%で評価する。 ※試験は試験期間中に別途実施						

科目名	データ分析と統計学				担当者	五月女 仁子	
英文名	Data Analysis and Statistics						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 情報化社会の現代では、溢れる情報から必要な情報を的確に読み取る能力が必要不可欠です。この情報をどのように分析して、どのように結論として導いていくか、その手段として統計学が重要な役割を担っています。本講義では、統計学の基本的な考え方や統計手法を、実際のデータを通して学び分析する能力を身につけます。							
【授業内容・到達目標など】							
第 1回 度数分布表とヒストグラム 【 到達目標 】 (1) データの特徴にはばらつきも考えられる。ばらつきをとらえるものとして度数分布表やヒストグラムを学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。				第 9回 その他の分布 【 到達目標 】 (1) 正規分布以外の分布を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第 2回 代表値とは 【 到達目標 】 (1) データの特徴を表すものに代表値がある。代表値とは何か、どのようなものがあるのかを学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				第10回 平均の推定と区間推定 【 到達目標 】 (1) データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。 (2) サンプルから全体的特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第 3回 データのばらつきを数値に表すには 【 到達目標 】 (1) ばらつきの度合いを数値として表すものには何があるかを学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				第11回 分散の推定と区間推定 【 到達目標 】 (1) データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。 (2) サンプルから全体的特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第 4回 散布図と相関、相関係数 【 到達目標 】 (1) 散布図を作成し、パターンを理解する。 (2) 相関係数の求め方を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				第12回 t検定 【 到達目標 】 (1) 実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第 5回 回帰直線 【 到達目標 】 (1) 回帰直線を使って予測する方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				第13回 カイ二乗検定 【 到達目標 】 (1) 仮説検定の考え方を理解する。 (2) カイ二乗値について理解し、求め方と利用方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第 6回 アンケート作成 【 到達目標 】 (1) アンケート作成の基本を学ぶ。 【授業時間外学習】 アンケート項目を考えアンケートを作成する。				第14回 分散分析 【 到達目標 】 (1) 実際の例をとらえながら、分散分析を理解する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第 7回 確率について 【 到達目標 】 (1) 確率の意味を復習する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				第15回 実践課題 【 到達目標 】 (1) 実際のデータを使って分析を行います。 【授業時間外学習】 分析方法と表やグラフについて復習する。			
第 8回 正規分布とその他の分布 【 到達目標 】 (1) どのような分布があるかを学ぶ。 (2) 一般のデータを標準正規分布に変換する方法を学ぶ。 (3) 標準正規分布表から確率を求める方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。							
【学習上の留意点】 講義は、できるだけ実際の例を示しながら解説し、教学の苦手な学生も理解できるように工夫します。 また、講義で行った知識を固めるために、講義の後半10分から15分はOUTPUTする時間をとります。間違えた学生は復習を心掛けてください。							
【教科書・参考書など】 講義中に指示します。							
【関連科目】 数と論理、コンピュータ実践演習、情報処理（情報機器の操作を含む）							
【成績評価方法】 ミニ課題（講義中に出すもの）36%、期末試験（試験は試験期間中に別途実施）64%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。							

科目名	教養総合科目				担当者	鈴木 信夫・牧 琢弥	
英文名	General Educational Studies						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 体育・スポーツの主要分野の中には、生理学や栄養学、バイオメカニクス等の自然科学系の科目が含まれ、それらの科目を充分理解するためにも、自然科学に関する基礎知識をもつことは重要である。本講義を履修し、自然科学に位置づけられる、各学問分野の代表的なトピックスの概要を学ぶことにより、自然科学という学問を総合的に把握し、理解することを目的とする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 自然科学が文明の発展にもなって発達してきた概要を理解する。また、近代の化学者が、目に見えない原子の構造を解明していった手法を知り、実験や仮説から真実を導き出す、自然科学という学問に必要な「科学的手法」について理解する。 【授業時間外学習】 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。				第9回 天文学(1) 【 到達目標 】 古代の人々の地球観・宇宙観を理解し、それらがどのように私たちが知る地球観・宇宙観に発展していったかを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで古代ローマ時代の地球観・宇宙観について調べること。			
第2回 地球科学(1) 【 到達目標 】 地球がどのようにして誕生したか、さらにプレートテクトニクスについて理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				第10回 天文学(2) 【 到達目標 】 宇宙の誕生について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
第3回 地球科学(2) 【 到達目標 】 火山噴火や地震発生メカニズムについて理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				第11回 天文学(3) 【 到達目標 】 恒星の一生について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
第4回 地球科学(3) 【 到達目標 】 大気・海流の特徴や、地球に刻まれた変動の歴史について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				第12回 物理学(1) 【 到達目標 】 古典力学における運動の法則、光の性質、運動の相対性について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
第5回 生物学(1) 【 到達目標 】 生命誕生のシナリオと生命の基本単位である細胞の完成について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				第13回 物理学(2) 【 到達目標 】 原子核とエネルギーについて理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
第6回 生物学(2) 【 到達目標 】 進化論について、ラマルク以前の考え方、ラマルク、ダーウィンやウォーレスの進化論、中立説等について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				第14回 物理学(3) 【 到達目標 】 物質を構成する最小の単位、素粒子について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
第7回 生物学(3) 【 到達目標 】 生物の形態や生態を比較することで、それらの生物の系統を推定したり、DNAの塩基配列から進化を推定する方法を理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				第15回 物理学(4) および理解度の確認 【 到達目標 】 アインシュタインの特殊相対性理論を理解する。 第9回～第15回までの理解度の確認をおこなう。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
第8回 生物学(4) および理解度の確認 【 到達目標 】 現在の地球において、生物多様性を維持することがなぜ、必要なかを理解する。 第1回～第8回までの理解度の確認をおこなう。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。							
【学習上の留意点】 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。第1回目は鈴木・牧が、第2回～8回目は鈴木が、第9回～15回目は牧が担当する。							
【教科書・参考書など】 教科書は特に使用せず、毎回プリントを配布する。							
【関連科目】 人間生活と地球環境							
【成績評価方法】 第8回および第15回で実施する理解度確認テストの成績を総合して評価する。							

科目名	英語E P P				担当者	加賀岳彦	
英文名	English for Professional Purposes						
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 この授業では、これまで学んできた「学習英語」をベースに、さらに実社会(政治・経済等)、職場、ビジネス等を想定した「社会人になるための英語」を学ぶ。ねらいは次の3点である。1)学習英語とは異なる意味で使われる社会人向けの重要語彙を学ぶ、2)実社会(及び国際社会)で「常識」となっている表現等を学び、関連する実用英文を正確に理解できるようになる、3)大人の学習者すなわち「自立的学習者」になるべく、辞書や参考書、その他必要な手段を利用して「自力で」学んでいけるようになる。受講生には毎回入念に準備した上で授業に臨んでもらう。尚この授業は資格試験対策の講座ではないので、対策のための指導は行わない。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 授業説明・学習のポイント 【 到達目標 】 ・この授業の目的とねらいを理解し、どのように学習していくかを把握する。 ・「学習英語」と「社会人になるための英語」はどう違うか、またそれはとはどのようなものかを理解し、その予行演習を行う。 【授業時間外学習】 授業内容を振り返り、今後自分に必要な学習の内容と方向性を意識すること。予習すること。				第9回 Dealing with Problems and Complaints 【 到達目標 】 実社会では様々な「問題・苦情・クレーム」が発生する。この回はそれら関連する必須基本語彙・表現をまず習得し、それに関する英文解説記事を理解する。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。			
第2回 From College to Career 【 到達目標 】 学生から社会人にステップ・アップする過程では様々な「自己検証」を経験する。それらに關係する様々な英語表現に触れ、身に付ける。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				第10回 Effectiveness, Efficiency & Productivity 【 到達目標 】 実社会ではどの場でも「効率性・生産性」が追求される。それに関する必須基本語彙・表現をまず習得し、それに関する実用英文を理解する。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。			
第3回 Application 【 到達目標 】 「応募・出願」に関する必須語彙・表現を習得し、それに関する実用英文を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				第11回 Economy Matters 【 到達目標 】 「経済」に関する必須基本語彙・表現をまず習得し、経済問題に関する英文解説記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。			
第4回 Interview ① 【 到達目標 】 実社会では様々な形のInterview(面接)が行われ、そのために様々な準備が必要となる。それらに密接に關係する英語表現を学び、身に付ける。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				第12回 Social Welfare 【 到達目標 】 「社会福祉・福利厚生」を巡る必須基本語彙・表現を習得し、それに関する英文記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。			
第5回 Interview ② 【 到達目標 】 Interviewの最中における質問・対応、またその結果を受けてからの対応などに関連した英語表現を学び、身に付ける。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				第13回 Rating & Research 【 到達目標 】 「評価・調査」を巡る必須基本語彙・表現を習得し、それに関する英文記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 これまでの学習内容・重要事項をよく復習して授業に臨むこと。			
第6回 The Work Must Go On 【 到達目標 】 職は継続しなければならず、そのためには「コミュニケーションのあり方」が重要になる。この回はそれらに関連する英語表現・英文記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				第14回 Review 1 【 到達目標 】 これまでの学習内容を復習し、小テストでその習得度・定着度を測り、重要語彙等をもう一度確認する。この回は、口頭でのチェックを行う。 【授業時間外学習】 これまでの学習内容・重要事項をよく復習して授業に臨むこと。			
第7回 Policy, Rules, and Strategies 【 到達目標 】 団体や職場における「やり方」(ポリシー、規則、戦略)を巡る必須語彙・表現を習得し、それに関する英文記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				第15回 Review 2 【 到達目標 】 今学期の習得内容を総チェックし、各自の今後の課題と努力点を明らかにする。この回は、筆記による復習・確認作業を行う。 【授業時間外学習】 これまでの学習内容・重要事項をよく復習して授業に臨むこと。			
第8回 Changes, Transfer & Innovation 【 到達目標 】 さまざまな「変更・移転・異動」等に関する必須基本語彙・表現をまず習得し、それらに関する実用英文および英文解説記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。							
【学習上の留意点】 ・丹念な予習を確実にすること。「自立的学習力」の養成も大事な目標とする。 ・小テストにしっかりと取り組み、常に語彙力・表現力の向上に努めること。							
【教科書・参考書など】 テキスト・参考書・辞書等は随時授業内で指示する。もしくはハンドアウトを配布する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 授業での課題(宿題、小テスト、授業での応答等)50%、テスト50%で評価する。							

科目名	コンピュータ実践演習				担当者	五月女 仁子	
英文名	Lecture and Practice in Information and Communication Technology						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 会社や大学、家庭など、ありとあらゆるところに情報技術が利用されています。そのような社会に生きる私たちにとって、情報技術は理論的にも実践的にも重要です。本講義では、情報技術の進歩が私たちの生活や社会にどのように影響を及ぼしているか、どのような利点と欠点が出てきたかをとらえます。また、実践として、インターネットやメールを利用した情報操作、レポート作成、データ分析やデータベース操作を身に付けます。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 情報技術について 【 到達目標 】 (1) 情報技術とは何かを理解する。 (2) 電子商取引の例を見ながら理解を深める。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。				第9回 データベースについて 【 到達目標 】 (1) データベースとは何かについて学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。			
第2回 レポート作成と論文作成の基礎 【 到達目標 】 (1) レポート作成に必要なWordの技術を学ぶ。 (2) 長い文章を意識したWordの技術を学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。				第10回 データベースの基本操作 【 到達目標 】 (1) フィルタについて学ぶ。 (2) ピボットの操作について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。			
第3回 プレゼンテーション資料の作成 【 到達目標 】 (1) プレゼンテーションについての技法を学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。				第11回 データベース関数について 【 到達目標 】 (1) データベース関数について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。			
第4回 クラウドについて 【 到達目標 】 (1) GoogleDriveやOneDriveについて学ぶ。 【授業時間外学習】 アンケート項目を考える。				第12回 Excelを利用したデータ分析の基礎 【 到達目標 】 (1) Excelの分析ツールを利用して、基本的統計量やヒストグラムの作成を学ぶ。 (2) Excelの分析ツールを利用して、回帰分析を学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。			
第5回 グループにおけるコミュニケーション実践1 【 到達目標 】 (1) GoogleDriveを利用したアンケートの作成方法、集計技術を理解する。 【授業時間外学習】 アンケートフォームからアンケートを体験する。				第13回 Excelを利用したデータ分析の応用 【 到達目標 】 (1) 実際のデータを使いながら、第9回と第10回で学んだデータ分析方法を使い、どのようなことがいえるのかを理解する。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。			
第6回 インターネットの仕組みと現状、情報倫理について 【 到達目標 】 (1) インターネットの仕組みを理解する。 (2) インターネットの現状を把握し、利点と欠点を理解する。 (3) 情報についてのマナー、セキュリティ、プライバシー、知的財産権について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。				第14回 グループにおけるコミュニケーション実践3 【 到達目標 】 (1) 第5回と第7回で行ったコミュニケーション実践1と2についての発表を行い、実践を通してプレゼンテーション方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。			
第7回 グループにおけるコミュニケーション実践2 【 到達目標 】 (1) 実践を通して、情報コミュニケーションの技術を理解する。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。				第15回 Excelの総復習 【 到達目標 】 (1) 第8回から第13回まで学習した内容を総合的に学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。			
第8回 Excelの応用 【 到達目標 】 (1) Excelの応用関数(IF関数やVLOOKUP関数など)について学ぶ。 (2) シートの操作について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。							
【学習上の留意点】 1年生前期に行った情報処理の知識を基礎として、応用的な内容を学習します。講義時間の後半10分から15分は実際に皆さんが課題を解く時間とします。解いた課題については、次回解説を行います。間違えた人は必ず復習をしてください。							
【教科書・参考書など】 資料を配付します。							
【関連科目】 情報処理（情報機器の操作を含む）							
【成績評価方法】 毎回行われるミニ課題（講義中に出すもの）30%、グループ課題（第5回、第7回、第14回）35%、総復習問題（第15回）35%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。							

科目名	カウンセリング論				担当者	角田和也	
英文名	Basic Counseling						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 本来カウンセリングは、「心の専門家」と呼ばれる人が行うが、その基本や技法には日常生活において人とかかわる際にも活かせる有用な知見が少なからず含まれている。本講義では、こうした知識や技術を学習する。 本講義は教職科目にもなっているため、学校現場で教員が生徒への指導や相談を行う際に生じる問題についても学習し、さらにスクール・カウンセリングの実際にも触れていきたい。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション／カウンセリングとは何？ 【到達目標】 (1)自分の理解している「カウンセリング」とは何かを説明できる。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			第9回 「みる」ことについて① 【到達目標】 (1)カウンセリングの「みる」ということを理解する。 (2)「みる」ということを体験的に理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
第2回 カウンセリングの実際 【到達目標】 (1) カウンセリングの正しい認識をもつことができる。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			第10回 「みる」ことについて② 【到達目標】 (1)引き続き「みる」ということを体験し、さらに理解を深める。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
第3回 教員がカウンセリングを学ぶ意義 【到達目標】 (1)教員を目指す学生がなぜカウンセリングを学ぶのか、その意義を理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			第11回 「みる」ことについて③ 【到達目標】 (1)みられている側の気持ちを理解する。 (2)みる際に注意するポイントを理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
第4回 「きく」ことについて① 【到達目標】 (1)カウンセリングの「きく」ということを理解する。 (2)きく際に注意するポイントを理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			第12回 スクール・カウンセリングの実際① スクール・カウンセリングと教育相談 【到達目標】 (1)スクール・カウンセリングの現状のうち、主に学校内での教育相談の実際について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
第5回 「きく」ことについて② 【到達目標】 (1)「きく」ということを体験的に理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			第13回 スクール・カウンセリングの実際② 連携を中心に 【到達目標】 (1)スクール・カウンセリングの現状のうち、主に学校内・外における連携の実際について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
第6回 「きく」ことについて③ 【到達目標】 (1)前回の授業をうけて、さらにきく際に注意するポイントについての理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			第14回 スクール・カウンセリングの実際③ 教育相談の難しさについて 【到達目標】 (1)教員の立場で実際に教育相談（カウンセリング）を行う際の課題について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
第7回 「話す」ことについて① 【到達目標】 (1)カウンセリングの「話す」ということを理解する。 (2)話す際に注意するポイントを理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			第15回 スクール・カウンセリングの課題と今後について 【到達目標】 (1)（前回までの授業を受けて）スクール・カウンセリングが抱えている課題と今後の方向性について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。				
第8回 「話す」ことについて② 【到達目標】 (1)不快に思われない話し方について理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。							
【学習上の留意点】 ①基本的には、毎回、板書の代わりにPCおよびプロジェクターを使用して授業を行います。板書に費やす時間を省略するのが主なねらいです。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていただきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。 ③期末試験は、授業で伝えた内容の理解度を確認するためだけではなく、その知識をもとにした実践力を問うためにも実施しています。受講の際にメモをとるだけでなく、普段からの自主的な学習・復習が単位取得には必要です。							
【教科書・参考書など】 ・1回目の授業時に、本授業用に作成したテキストを販売します。受講する学生は、必ず購入してください。 ・テキストには、各回ごと、授業内容に基づいた参考文献を示してありますので、そちらを参考にしてください。							
【関連科目】 生徒指導法							
【成績評価方法】 ・提出物の評価……50% 期末試験の結果……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。							

科目名	スポーツとドイツ語			担当者	都 筑 真	
英文名	Sports Culture and German					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 スポーツの文化的側面を概観し、スポーツ文化に関する教養を高めるために、スポーツ先進国といわれるドイツ語圏のスポーツ文化およびスポーツに関する専門的ドイツ語を理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。 【授業時間外学習】 ドイツのスポーツ文化に関する資料を図書館などで調べる。			第9回 ドイツのスポーツ事情 2 【 到達目標 】 ドイツのスポーツ政策とシステムについて理解する。 【授業時間外学習】 ドイツのスポーツ政策とシステムについて復習する。			
第2回 文字と発音、あいさつ表現 【 到達目標 】 ドイツ語の文字と発音を習得する。 【授業時間外学習】 文字の発音とあいさつ表現を復習する。			第10回 スポーツ観戦ミニ会話 1 (施設について) 【 到達目標 】 スポーツ観戦のための表現を理解する。 【授業時間外学習】 授業で学習したドイツ語表現を復習する。			
第3回 スポーツの基本語彙 【 到達目標 】 スポーツに関するドイツ語の基本語彙を学習する。 【授業時間外学習】 基本語彙を復習する。			第11回 スポーツ観戦ミニ会話 2 (試合について) 【 到達目標 】 スポーツ観戦のための表現を理解する。 【授業時間外学習】 授業で学習したドイツ語表現を復習する。			
第4回 スポーツの基本語彙とドイツ語の基礎 1 【 到達目標 】 ドイツ語の名詞、代名詞、動詞についての基本的文法と文構造を理解する。 【授業時間外学習】 名詞、代名詞、動詞の文法を復習する。			第12回 スポーツ観戦ミニ会話 3 (試合後の感想) 【 到達目標 】 スポーツ観戦のための表現を理解する。 【授業時間外学習】 授業で学習したドイツ語表現を復習する。			
第5回 スポーツの基本語彙とドイツ語の基礎 2 【 到達目標 】 ドイツ語の人称変化についての基本的文法と文構造を理解する。 【授業時間外学習】 人称変化の文法を復習する。			第13回 スポーツ映画 【 到達目標 】 ドイツ語のスポーツ映画の中で用いられたスポーツ用語を理解する。 【授業時間外学習】 映画の中で使われるスポーツ用語を復習する。			
第6回 スポーツの基本語彙とドイツ語の基礎 3 【 到達目標 】 ドイツ語の接続詞についての基本的文法と文構造を理解する。 【授業時間外学習】 接続詞の文法を復習する。			第14回 「スポーツ」の語源と意味 【 到達目標 】 「スポーツ」という言葉の語源と意味を理解する。 【授業時間外学習】 「スポーツ」という言葉の語源と意味について復習する。			
第7回 ドイツ語の基礎の復習 【 到達目標 】 前回までのドイツ語文法と文構造を理解する。 【授業時間外学習】 前回までに学習した語彙や文法の復習をする。			第15回 理解度の確認と補足説明 【 到達目標 】 「スポーツ」の言語的・文化的意味の理解度を確認する。 【授業時間外学習】 前回までに配布した資料を復習する。			
第8回 ドイツのスポーツ事情 1 【 到達目標 】 ドイツのスポーツクラブの状況について理解する。 【授業時間外学習】 ドイツのスポーツクラブの状況について復習する。						
【学習上の留意点】 語学の習得には継続と反復が求められる。授業時の学習だけでなく、授業の前後においても語彙、文法、会話の復習をしっかりと行うこと。						
【教科書・参考書など】 特定の教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。						
【関連科目】 ドイツの言語と文化Ⅰ、ドイツの言語と文化Ⅱ、教養としてのドイツ言語論						
【成績評価方法】 授業時の課題 (50%) と学期末レポート (50%) で評価する。						

科目名	教養としての日本文学			担当者	稲井達也	
英文名	Introduction to Japanese Literature					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 宮澤賢治は童話や膨大な詩を書き、いまでも多くの人々の心を魅了してやまない。東日本大震災後、賢治の作品は改めて注目されている。本科目では、没後80年余を迎えた賢治のひとと生涯について理解を深める。賢治の主要な童話や詩の鑑賞と分析を行いながら、賢治が私たちに伝えようとした思想に少しでも近づくことを目指す。また、作品を通して、自ら文学を楽しむ態度を養うとともに、文学作品の分析力を身に付ける。受講者は自ら主体的に「読者」として作品と向き合い、作品への理解を深めることを通して、問題意識を持って現代社会を問い直す視点を持つことが必要とされる。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 この授業の目的とねらい、宮澤賢治の生涯、同時代の作家との違い 【 到達目標 】 教養として文学を読むことの意義、授業のねらいと方針、学習方法を理解する。また、宮澤賢治の生涯について知る。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。			第9回 イーハトーブ② 【 到達目標 】 『どんぐりと山猫』『狼森と筑森と盗森』を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。			
第2回 自己犠牲① 【 到達目標 】 『グスコブドリの伝記』を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。			第10回 イーハトーブ③ 【 到達目標 】 『風の又三郎』を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。			
第3回 自己犠牲② 【 到達目標 】 『戌十公園林』を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。			第11回 生命と宇宙① 【 到達目標 】 『銀河鉄道の夜』を読み解く① 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。			
第4回 生命① 【 到達目標 】 『よだかの星』を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。			第12回 生命と宇宙② 【 到達目標 】 『銀河鉄道の夜』を読み解く② 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。			
第5回 生命② 【 到達目標 】 『なめとこ山の熊』を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。			第13回 生命と宇宙③ 【 到達目標 】 『銀河鉄道の夜』を読み解く③ 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。			
第6回 家族① 【 到達目標 】 『疾中』（『病中』『眼にて云ふ』『夜』など）を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。			第14回 生命と宇宙④ 【 到達目標 】 『銀河鉄道の夜』を読み解く④ 【授業時間外学習】 授業記録の内容を充実させるため、授業全体を振り返り、加筆や訂正を行う。			
第7回 家族② 【 到達目標 】 『青森挽歌』『オホーツク挽歌』を読み解く。また兄・清六の随筆を読む。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。			第15回 宮澤賢治と現代社会 【 到達目標 】 東日本大震災後に宮澤賢治をどう読むべきかについて考え、賢治が私たちに問いかけてくることや、自然科学が私たちの生活に果たす役割について考え、現代社会を深く問い直すための視点を持つ。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、自己評価を行う。			
第8回 イーハトーブ① 【 到達目標 】 『注文の多い料理店』を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録にあらすじの要約、意見などをまとめる。						
【学習上の留意点】 ・文庫本3冊をテキストとするので、履修者は第2回の授業までに各自で購入しておくこと。 ・宮澤賢治の諸作品を精読し、作品分析を行う。次回の授業で取り扱う作品を事前に読むのを前提に講義を進める。 ・定期試験を実施する。試験は試験期間中に別途実施。定期試験では指定された新潮文庫3冊（教科書）を使用する。それ以外の持ち込みは認めない。 ・自主学習が多いためハードである。積極的に学習に取り組む覚悟がなければ本科目は単位習得できないので、中途半端な気持ちで選択しないようにすること。						
【教科書・参考書など】 教科書 『新編風の又三郎』宮澤賢治著（新潮文庫）、『銀河鉄道の夜』宮澤賢治著（新潮文庫）、 『注文の多い料理店』宮澤賢治著（新潮文庫） ※3冊とも使用する。必ず指定された「新潮文庫」を購入すること。 参考書 『宮澤賢治-存在の祭りの中へ-』見田宗介著（岩波現代文庫）、『宮澤賢治』吉本隆明著（ちくま学芸文庫）						
【関連科目】						
【成績評価方法】 ・授業時の提出物（40%）：授業の講義記録や作品を読んだ意見等を評価する。 ・定期試験（60%）：作品、及び授業内容への理解度を評価する。						

科目名	ヨーロッパの文学と文化				担当者	加賀岳彦	
英文名	European Literature and Culture						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	4	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 ヨーロッパの文学は、日本を含む世界中の文学・芸術・思想に多大な影響を及ぼしてきた。この授業では、ヨーロッパ文学の古典から現代までの代表的作品を、まずはその文化的背景、時代、社会と関連づけながら理解し、そして現代に生きる我々の諸問題と結び付けて考察していく。なお講義の性質上、ヨーロッパ文学と類縁関係にあるアメリカ文学、およびヨーロッパ文学から大きな影響を受けた近代日本文学をも視野に置き、頻繁に言及する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 授業概要の説明・ヨーロッパの地理・歴史の概観 【到達目標】 授業内容を理解する。 ヨーロッパの地理・歴史についての基礎概念を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。				第9回 ヨーロッパ中世の文学 【到達目標】 ヨーロッパ中世文学を考察する。ここでは中世期にヨーロッパ中に広まった「アーサー王伝説」およびその物語群を考察し、19～20世紀への影響を追っていく。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
第2回 ヨーロッパ文学の源流 ギリシャ神話 【到達目標】 ヨーロッパ文化の源流であるギリシャ神話の自然観・世界観・人間観を理解し、20世紀文学への影響等を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。				第10回 ルネサンスの文学① 【到達目標】 中世からの時代の変化を十分踏まえながら、ルネサンス文学の特徴と本質は何かを、セルヴァンテスの『ドン・キホーテ』の主要個所の精読を通して考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
第3回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学① 【到達目標】 ギリシャ神話を知識を基に、西洋最古の文学であるホメロスの英雄叙事詩『イリアス』を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。				第11回 ルネサンスの文学② 【到達目標】 前回到続きルネサンスの文学を考察する。ここではウィリアム・シェイクスピアの作品を題材に、その表現方法やテーマから、ルネサンス文学の特徴と魅力を掴む。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
第4回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学② 【到達目標】 『イリアス』に続き、ホメロスの英雄叙事詩『オデュッセイア』を概観し、20世紀文学への影響などを考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。				第12回 宗教改革 【到達目標】 宗教改革（Reformation）は単に宗教上の運動にとどまらず、その後のヨーロッパ近代社会の発展に様々な影響を与えた。その内実を、ルター、カルヴァンのテキストを通して理解していく。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
第5回 ヨーロッパの古典思想 古典ギリシャ哲学 【到達目標】 その後のヨーロッパ文明に大きな影響を与えたギリシャ哲学を概観し、特にプラトンの思想を具体的に考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。				第13回 ヨーロッパ近代の文学① 【到達目標】 宗教改革以降、ヨーロッパの近代文学には何がどのように描かれ、どのような発展と分岐を経ていったのかを概観し、その多様な特徴を理解する。デフォー、スウィフト、ディケンズの作品を扱う。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
第6回 ユダヤ＝キリスト教① 『旧約聖書』 【到達目標】 ギリシャ文学と並び、後世のヨーロッパ文化を決定づけた『旧約聖書』の主要個所を精読し、その世界観・特徴・歴史的重要性を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。				第14回 ヨーロッパ近代の文学② 【到達目標】 18～19世紀のヨーロッパ・アメリカにおけるデモクラシー・平等といった近代諸概念を、文学はどう扱い表現していったのか、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
第7回 ユダヤ＝キリスト教② 『新約聖書』 【到達目標】 前回の『旧約聖書』を踏まえて、『新約聖書』の主要個所を精読し、イエスの思想およびキリスト教の特徴を理解し、後世のヨーロッパ文化に与えた影響を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。				第15回 ヨーロッパの現代文学 【到達目標】 「戦争の世紀」と言われる20世紀、ヨーロッパでは多くの新思潮が抬頭してきた。それらの傾向と方向性を捉えた上で、モダニズム、実存、不条理など、20世紀ヨーロッパ文学が描き出した人間存在の諸問題を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
第8回 ヨーロッパ中世の文化 【到達目標】 ヨーロッパ「中世」という時代の歴史的背景を捉えた上で、カトリック、マリア崇敬などに見られる中世文化の諸特徴を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。							
【学習上の留意点】 授業時に配布するテキストをしっかり読み、毎回の授業の復習として授業の要点を各自ノートにまとめておくことを勧める。また授業で触れた作品を自分で読んでみたり、その映画作品を観たりすると、理解が格段に深まる。							
【教科書・参考書など】 授業時にテキストをプリントで配布する。また随時、重要文献を指示する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 授業時での課題50%、理解度確認のためのテスト50%で評価する。							

科目名	国際関係と政治				担当者	中村安菜	
英文名	International Relations and Politics						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 日々の新聞やテレビニュースに登場するさまざまな政治問題を理解するためには、関連する歴史的背景や国際関係についての理解が必要である。この講義を受講することによって、一つでも多くの問題に関心を持ち、理解を深めることが出来るようにしたい。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 「国際関係」とはどのようなものか 【 到達目標 】 (1) 国際関係を理解するには、今日存在する国家や国家機関について知るだけでなく、それらの歴史的背景を知る必要があることを理解する。 【授業時間外学習】 現在の国際社会の中で問題になっている事例を新聞で調べる。				第9回 日本の領土問題① 【 到達目標 】 (1) 北方領土問題とはどのようなものであるのか。その歴史の経緯について理解する。 【授業時間外学習】 北方領土が載っている日本地図をコピーする。			
第2回 国際社会の成立と展開① 【 到達目標 】 (1) 「国際社会」が成立した過程とその展開について、ヨーロッパを中心に理解する。 【授業時間外学習】 ウェストファリア体制について調べる。				第10回 日本の領土問題② 【 到達目標 】 (1) 竹島問題、尖閣諸島問題とはどのようなものであるのか。その歴史の経緯について理解する。 【授業時間外学習】 竹島と尖閣諸島が載っている日本地図をコピーする。			
第3回 国際社会の成立と展開② 【 到達目標 】 (1) 第二次世界大戦以降の冷戦時代について、その始まりと当時の世界について理解する。 【授業時間外学習】 ヤルタ会談で話し合われた内容を簡易書きでまとめる。				第11回 日本の戦争・戦後責任 【 到達目標 】 (1) 昭和の大戦に関連する責任について、日本がどのような姿勢をとっているかについて理解する。 【授業時間外学習】 中国残留日本人とはどのような人たちかを調べる。			
第4回 国際社会の成立と展開③ 【 到達目標 】 (1) 冷戦の終焉と、その後の世界がどのような時代を迎えたのかについて理解する。 【授業時間外学習】 ベルリンの壁崩壊を伝える新聞記事・ニュースなどに目を通しておく。				第12回 防衛と日米安全保障条約 【 到達目標 】 (1) 今日の日本がどのような仕組みで自分の国を守ろうとしているのか、憲法と自衛隊、日米安全保障条約について理解する。 【授業時間外学習】 日本国憲法第9条は、どのように解釈するべきかを考える。			
第5回 植民地の歴史① 【 到達目標 】 (1) かつての欧米諸国がどのような植民地分割競争を繰り広げたのかについて理解する。 【授業時間外学習】 かつての植民地で、現在独立国となっている国を調べる。				第13回 今日の日本① 【 到達目標 】 (1) 国際的に、ずば抜けた経済繁栄を誇る日本。そのアキレス腱、エネルギー供給問題について理解する。 【授業時間外学習】 日本における具体的なエネルギー供給方法について調べる。			
第6回 植民地の歴史② 【 到達目標 】 (1) かつての植民地が現在どのような状況になっているのかを理解する。 【授業時間外学習】 南アフリカではどのような植民地政策が採られていたかを調べる。				第14回 今日の日本② 【 到達目標 】 (1) 良好な国際関係を抜きにしては日々の食事にさえ事欠く日本の食糧供給状況について理解する。 【授業時間外学習】 自分の好きな食べ物について、どれくらいの分量が毎年輸入されているかを調べる。			
第7回 日本の国際関係① 【 到達目標 】 (1) 日本と国際社会とのかかわりについて、明治から昭和初期までの経緯について理解する。 【授業時間外学習】 明治時代以降、日本が参加した戦争にはどのようなものがあるかを調べる。				第15回 国際関係と歴史 【 到達目標 】 (1) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。 【授業時間外学習】 自分が関心をもつ国際問題について、ミニ・レポートにまとめる。			
第8回 日本の国際関係② 【 到達目標 】 (1) 日本と国際社会とのかかわりについて、昭和の大戦から今日までの経緯について理解する。 【授業時間外学習】 大戦以降、日本はどのようにして国際社会へ復帰したかを調べる。							
【学習上の留意点】 講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみる。なお、授業内容の詳細は随時指示する。							
【教科書・参考書など】 開講時に指示する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提である）。試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	人間生活と地球環境				担当者	鈴木信夫	
英文名	Human life and Earth Environment						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	4	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 環境問題が大きく取り上げられる現代であるが、この授業では、まず最初に原始地球の環境はどのようなものであったのか、その後、生物の出現にともなって地球環境はどう変化したのかを知る。 次に、人類誕生後、我々の日々の営みが、地球上の生物にどのような影響を与えてきたか、また、限りある資源をどう利用すればいいかを考える。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 「人間生活と地球環境」の授業の概要とねらいを理解する。 【授業時間外学習】 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。				第9回 温室効果ガス 【 到達目標 】 中国の驚異的な工業化、米国における排出権取引ビジネスの成功、海面上昇により国家存亡の危機にあるツバルの現状等を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで京都議定書成立後の二酸化炭素排出規制に関する問題点を調べること。			
第2回 原始地球の環境(1) 【 到達目標 】 原始地球の環境が現在と大きく異なること、特に全海洋蒸発が起きたことを理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。				第10回 崩れる生態系 【 到達目標 】 外来種の侵入が及ぼす影響、巨大ダム建設による生態系の破壊、大型肉食動物の駆除が生態系に与える影響などを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで外来生物法について調べ、外来生物の問題点を理解すること。			
第3回 原始地球の環境(2) 【 到達目標 】 今から6億年ほど前に起きた全球凍結のメカニズムを知り、その後、生物が爆発的に進化したことを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでカンブリア紀の生物の特徴を調べ、さらに授業の理解を深めること。				第11回 リサイクル法(1) 【 到達目標 】 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃棄物規制令)の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでドイツのリサイクルに関する現状(問題点)を調べること。			
第4回 恐竜の絶滅 【 到達目標 】 生物が絶滅するメカニズムを恐竜の絶滅を例に理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで恐竜絶滅の原因を調べ、さらに授業の理解を深めること。				第12回 リサイクル法(2) 【 到達目標 】 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃車政令)の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで自動車メーカーのリサイクルに対する対策を調べること。			
第5回 人為圧による野生生物の絶滅 【 到達目標 】 野生生物の絶滅の中で、人為圧による絶滅のメカニズムをドードーやタスマニアタイガーの絶滅を例に理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでドードー・タスマニアタイガー以外の絶滅動物について調べること。				第13回 リサイクル法(3) 【 到達目標 】 日本におけるリサイクル法(容器包装リサイクル法や家電リサイクル法など)の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで日本におけるゴミリサイクルの現状(問題点)を調べること。			
第6回 酸性雨 【 到達目標 】 酸性雨の発生する仕組みを知り、その影響を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでヨーロッパにおける最近の酸性雨の影響を調べること。				第14回 環境監査(1) 【 到達目標 】 環境監査の概念を理解し、EUで導入されているEMAS(Eco-Management and Audit Scheme)の意義を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでEMASについて調べ、現状と問題点を理解すること。			
第7回 水問題 【 到達目標 】 人口増加による水不足の問題や、森林の荒廃による河川の生態系の崩壊など、水にまつわる問題を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで水問題について調べ、さらに授業の理解を深めること。				第15回 環境監査(2) 【 到達目標 】 EMASを手本にできたISO14001について、取得に取り組む、ある中小企業の例を参考に、その意義を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでISO14001認証取得の方法について調べ、理解すること。			
第8回 温室効果ガス 【 到達目標 】 温室効果ガスの一つである二酸化炭素の排出量を規制する条約、京都議定書が成立するまでの各国の思惑を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで京都議定書について調べ、さらに授業の理解を深めること。							
【学習上の留意点】 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。							
【教科書・参考書など】 教科書は特に使用せず、プリントを配布する。							
【関連科目】 教養総合科目							
【成績評価方法】 レポート課題を100%として評価する。							

科目名	人間の観察			担当者	水戸和幸	
英文名	Observation of Man					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 人間の観察は今、生きている人間をよく観察し、よりよい人間、生活、生き方、また人類の健やかな未来を見出せる目や行動につながる糸口になることを目的としている。まず、ヒトの顔、身体の形、形質やしぐさ、表情、動作、行動の観察を行う。次に、観察法やまとめ方、発表の仕方を学ぶ。さらに、その視点を身体内部や、普段身近に見られないさまざまな極限状態の人間へ広げ、人間の多様な変異と可能性を観察する。また、自分で調査したものを客観的データとしてまとめ、考察し、発表する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 イントロダクション ～なぜ人間の観察が必要か～ 【 到達目標 】 人間の観察は医療・福祉、スポーツ、教育、労働、広告デザインなど人間の生活を営む上で重要なことである。様々な分野における人間観察の例を挙げ人間観察の必要性を学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第9回 人間観察の実施1 ～写真観察法～ 【 到達目標 】 人間の行動や生活の中にはいろいろな問題が隠れている。写真観察法を通じて、社会を凝視、観察し、「見る」ことのできるデータを分析し、結果を「見える」ようにする方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第2回 人間観察の対象、目的 【 到達目標 】 具体的な例を挙げて、人間観察の目的、その意義を認識してゆく。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第10回 人間観察の実施2 ～企画書の作成～ 【 到達目標 】 人間観察研究の例を提供し、研究の成果が我々の生活にどのように影響してゆかかを考えてみる。実際に観察を試みるための企画書の作成法について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第3回 人間の観察の実際 ～顔、身体、性格などの観察～ 【 到達目標 】 最も身近に観察できる自分の顔、手、からだの感覚、性格などを観察してゆく。毎日見ている顔や手など観察し、描画することで、その存在を正確に把握することを学ぶ。 【授業時間外学習】 授業中に観察した内容をレポートにまとめる。			第11回 人間観察の実施3 ～観察～ 【 到達目標 】 人間観察研究の例を提供し、研究の成果が我々の生活にどのように影響してゆかかを考えてみる。実際に調査を試みる。 【授業時間外学習】 社会や自分の身の回りで問題となっている人間サイドのテーマを自ら見つけ出し、観察、考察する。			
第4回 からだの中を観る1 ～感覚～ 【 到達目標 】 ヒトはすべての情報を五官（目、耳、皮膚、舌、鼻）で受け取り、脳でその意味を理解し、行動している。五官のしくみや特性について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第12回 人間観察の実施4 ～結果の集計～ 【 到達目標 】 人間観察研究の例を提供し、研究の成果が我々の生活にどのように影響してゆかかを考えてみる。観察結果の集計方法、まとめ方について学ぶ。 【授業時間外学習】 社会や自分の身の回りで問題となっている人間サイドのテーマを自ら見つけ出し、観察、考察する。そして、その成果を発表できるようにまとめる。			
第5回 からだの中を観る2 ～認知～ 【 到達目標 】 ヒトはすべての情報を五官（目、耳、皮膚、舌、鼻）で受け取り、脳でその意味を理解し、行動している。情報の理解である認知特性について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第13回 人間観察調査の発表1 【 到達目標 】 観察した結果を発表、問題点を挙げ、質疑応答する。 【授業時間外学習】 発表内容および質疑応答の内容をレポートにまとめる。			
第6回 からだの中を観る3 ～行動～ 【 到達目標 】 ヒトはすべての情報を五官（目、耳、皮膚、舌、鼻）で受け取り、脳でその意味を理解し、行動している。ヒトの行動特性について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第14回 人間観察調査の発表2 【 到達目標 】 観察した結果を発表、問題点を挙げ、質疑応答する。 【授業時間外学習】 発表内容および質疑応答の内容をレポートにまとめる。			
第7回 人間観察の方法1 【 到達目標 】 人間の様々な特性を観察するための方法について学ぶ。参与観察および非参与観察法について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第15回 人間観察調査の発表3 【 到達目標 】 観察した結果を発表、問題点を挙げ、質疑応答する。 【授業時間外学習】 発表内容および質疑応答の内容をレポートにまとめる。			
第8回 人間観察の方法2 【 到達目標 】 人間の様々な特性を観察するための方法について学ぶ。背景や問題意識と仮説、観察対象、および観察項目の設定方法について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。						
【学習上の留意点】 顔、手などの観察では鏡で自分の顔を描画して観察を確かなものとする。人間観察の野外調査法を学び、簡単な調査を自分で行う。データのまとめ方、発表の仕方なども学んでゆく。授業は主として視覚メディアを利用して説明する。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜、関連資料を配布する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業中の小テスト30%、調査のプレゼン20%、レポート50%						

科目名	メディアテクノロジー				担当者	牧 琢 弥	
英文名	Media Technology						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 ICT (Information & Communication Technology) の発展およびマルチメディア技術の発達には、これまでのメディアの形態やコンテンツ製作の現場を大きく変えつつある。スポーツ、舞踊や教育の分野においても、このコンピュータ・メディアという側面からアプローチしようとするとき、そのテクノロジーについての知識が必要となってくる。この授業においては、画像・音声・映像といったデジタル素材をそれぞれの分野に活かすための基礎を、実践を通して学ぶ。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 マルチメディアの基礎知識 【 到達目標 】 (1)マルチメディアとその利用について理解する。 (2)メディアとしてのコンピュータ・ネットワークの知識を得る。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				第9回 マルチメディアを使った分析の基礎知識 【 到達目標 】 (1)映像分析についての基礎知識を得る。 (2)映像分析への利用方法の初歩を習得する。(フレーム書き出し等) 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第2回 映像編集の基礎1 【 到達目標 】 (1)映像編集ソフトの利用方法について理解する。 (2)映像ファイルの読み込みについて習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				第10回 マルチメディア・コンテンツの利用 【 到達目標 】 (1)マルチメディア・コンテンツの利用形態の知識を理解する。 (2)コンテンツのネットワークにおける利用方法を理解する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第3回 映像編集の基礎2 【 到達目標 】 (1)映像編集の基本操作を習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				第11回 周辺機器とメディアについての理解と利用 【 到達目標 】 (1)より高度な映像・音声の編集方法を習得する。 (2)総合課題の準備について理解する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第4回 周辺機器と機材についての知識と利用方法 【 到達目標 】 (1)マルチメディアに利用する機材についての知識を得る。 (2)機材の使い方の基本を習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				第12回 総合課題1 【 到達目標 】 (1)総合課題の撮影を行い、キャプチャについて理解する。 (2)各自映像・音声編集方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第5回 映像と音声の取り込み 【 到達目標 】 (1)周辺機器からのマルチメディア・コンテンツの取り込みについて習得する。(とくにビデオ撮影とキャプチャ) 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				第13回 総合課題2 【 到達目標 】 (1)総合課題を完成させ、ファイルとして書き出すまでを習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第6回 マルチメディア編集の実際1 【 到達目標 】 (1)実際にビデオで撮った映像の編集方法を実践的に習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				第14回 PCによるDVD編集・作成方法1 【 到達目標 】 (1)DVD作成について理解する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第7回 マルチメディア編集の実際2 【 到達目標 】 (1)映像編集の仕上げとレンダリングについて理解する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				第15回 PCによるDVD編集・作成方法2 【 到達目標 】 (1)総合課題のDVD編集を習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第8回 データの知識とファイルへの書き出し 【 到達目標 】 (1)映像・音声ファイルについての基礎知識を理解する。 (2)編集した映像の書き出し方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。							
【学習上の留意点】 マルチメディア・コンテンツの作成とその利用方法を、背景となる知識とともに、実践的に学ぶ。そのため、毎回の小さな課題による練習と総合的な課題を行う。							
【教科書・参考書など】 別途、授業時に指示する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 毎回の提出課題を100%として評価する。							

科目名	スポーツ生理学			担当者	大澤拓也	
英文名	Sport Physiology					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別			専門基礎・必修	
【目的とねらい】 運動の発現、運動に対する生体応答および適応について学び、運動やスポーツを生理学的側面から理解できる基礎的な力を身につける。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 スポーツ生理学とは何か 【到達目標】 スポーツ生理学の定義と本講義における学習到達目標を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ生理学の定義と講義の学習到達目標を振り返る。教科書を元に次回の予習をする。			第9回 運動に対する生体応答(2) 呼吸循環系機能の変化 【到達目標】 運動時の呼吸循環機能変化を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			
第2回 運動の発現とその調節の仕組み(1) 神経系の基礎 【到達目標】 神経系の解剖、生理について理解を深め、運動発現とその調節の仕組みについての学習に備える。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			第10回 運動に対する生体応答(3) 呼吸循環系機能の変化 【到達目標】 運動時の呼吸循環機能変化を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			
第3回 運動の発現とその調節の仕組み(2) 運動の発現と調節 【到達目標】 神経系における運動発現と調節の仕組みの基礎を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			第11回 内分泌と運動 【到達目標】 運動時の内分泌応答について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			
第4回 トレーニングによる神経系の適応 【到達目標】 運動に伴う神経系の適応の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			第12回 運動に対する生体応答(4) 運動時の呼吸機能変化とその調節機構 【到達目標】 運動時の呼吸循環機能変化の目的とその調節機構を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			
第5回 運動の発現とその調節の仕組み(3) 筋系の基礎 【到達目標】 筋系の解剖、生理について理解を深め、神経系からの指令を受けた筋が収縮し運動が発現する仕組みの学習に備える。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			第13回 トレーニングによる呼吸循環系の適応 【到達目標】 運動に伴う呼吸循環系の適応の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			
第6回 運動の発現とその調節の仕組み(4) 筋力を決定する因子 【到達目標】 筋力を決定する種々の因子について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			第14回 高温環境、水中環境における運動 【到達目標】 高温環境および水中環境における運動の特性を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			
第7回 トレーニングによる神経・筋系の適応 【到達目標】 運動に伴う神経および筋の適応の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。			第15回 免疫能と運動 【到達目標】 運動と免疫能の関係を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。			
第8回 運動に対する生体応答(1) 呼吸循環系の基礎 【到達目標】 呼吸循環系の解剖、生理について理解を深め、運動に対する生体応答に関する学習に備える。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書および自筆ノートにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。						
【学習上の留意点】 授業は教科書とパワーポイントを用いて進め、資料は適宜配布する。 また、講義後、知識の理解度を把握するため講義内容に関する小課題を実施する場合がある。						
【教科書・参考書など】 「運動生理学の基礎と発展」 春日規克、竹倉宏明編著、フリースペース						
【関連科目】 機能解剖学、生理・生化学入門						
【成績評価方法】 小課題を20%、定期試験(試験は試験期間中に別途実施する)を80%で評価する。						

科目名	健康科学論			担当者	沢井史穂	
英文名	Introduction to Health Science					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・必修	専門基礎・選択
【目的とねらい】 現代人の抱える健康問題を、主に生活環境の変化との関わりから理解する。特に、日本における疾病構造の変化と主な死因の推移、メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームのリスクファクターとその予防について、運動を中心とするライフスタイルとの関連で理解すること、また、年齢、食生活、休養、ストレスと健康との関わりについて理解することを目的とする。これらの理解を通して、現代の健康の問題に対する科学的見方を身につけることがねらいである。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 健康とは何か。健康観の変遷。現代における健康観。 【 到達目標 】 (1)「健康」の定義を理解する。 (2)健康観の歴史的推移を知り、現代における望ましい健康観を考える。 【授業時間外学習】 各種メディアの発信する「健康」関連情報に関心を持ち、視聴したり読んだりする。			第9回 子どもの運動と健康 【 到達目標 】 (1)現代の生活環境が子どもの健康に及ぼす影響について理解する。 (2)成長に伴う身体構造と機能の変化を知り、成長期における運動と健康との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 子どもの健康に関する文献や資料を探して読む。			
第2回 日本人の健康問題 人口構成の推移、疾病構造の変化 【 到達目標 】 (1)死因順位の大きな変化とその要因について理解する。 (2)現代日本人の抱える健康問題を、人口構成の推移、疾病構造の変化とともに理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った健康問題の資料を整理し、復習しておくこと。			第10回 女性の運動と健康 【 到達目標 】 (1)女性特有の健康問題を知り、女性の健康と運動との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 女性の健康に関する文献や資料を探して読む。			
第3回 生活習慣病とは 【 到達目標 】 (1)健康な生活を送る上での良い生活習慣について理解する。 (2)生活習慣病の定義、危険因子、予防策について理解する。 【授業時間外学習】 良い生活習慣について復習し、自分の生活習慣を見直して行動変容につなげる。			第11回 高齢者の運動と健康 【 到達目標 】 (1)加齢に伴う身体構造と機能の変化を知り、中高齢者、高齢者の健康に運動が果たす役割や意義について理解する。 【授業時間外学習】 高齢者の健康に関する文献や資料を探して読む。			
第4回 循環系疾患とライフスタイル 【 到達目標 】 (1)心臓病と脳血管病、その基礎疾患としての動脈硬化、高血圧、糖尿病とライフスタイルとの関連を理解する。 【授業時間外学習】 循環系疾患に関連するライフスタイルについて復習し、予防行動につなげる。			第12回 食生活と健康 【 到達目標 】 (1)現代日本人の食生活と健康との関わりについて理解する。 (2)喫煙や飲酒がもたらす健康への影響について理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習し、健康的な食生活行動につなげる。			
第5回 代謝異常・肥満とライフスタイル 【 到達目標 】 (1)脂質代謝異常、肥満症をもたらすライフスタイルを理解する。 (2)肥満の判定基準と日本の現状を知り、予防・改善策を考える。 【授業時間外学習】 肥満の予防につながるライフスタイルについて復習し、自らの日常生活に還元する。			第13回 休養と健康 【 到達目標 】 (1)睡眠や休息と健康との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習し、毎日の生活の中で適切な休養を心がける。			
第6回 メタボリックシンドロームの判定と予防 【 到達目標 】 (1)メタボリックシンドロームの定義と判定基準を理解する。 (2)メタボリックシンドロームの現状、危険因子を理解し、予防・改善策を考える。 【授業時間外学習】 授業の内容を復習し、メタボリックシンドロームの予防行動につなげる。			第14回 メンタルヘルス 【 到達目標 】 (1)現代社会におけるストレスと健康との関わり、心の健康に運動が果たす役割について理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習し、自分のストレスマネジメントに積極的に取り組む。			
第7回 骨の健康 骨粗鬆症の予防 【 到達目標 】 (1)人の一生を通じた骨量、骨代謝の変化を知り、丈夫な骨を形成し、骨粗鬆症を予防するための生活習慣を考える。 【授業時間外学習】 授業の内容を復習し、丈夫な骨を作るための生活習慣を心がける。			第15回 健康づくり施策 概念と歴史 日本における施策 【 到達目標 】 (1)健康づくり施策の概念と歴史を理解し、日本における健康施策とその課題について考える。 【授業時間外学習】 授業で扱った健康問題の資料を整理し、復習しておくこと。			
第8回 ロコモティブシンドロームの概念と予防 【 到達目標 】 (1)ロコモティブシンドロームの概念、定義、危険因子を理解し、予防策を考える。 【授業時間外学習】 授業の内容を復習し、将来のロコモティブシンドロームの予防につながる生活行動を身につける。						
【学習上の留意点】 授業では、パワーポイントと配布資料を使って講義を行う。毎回の講義で重要なポイントを確認しながら資料に書き込んでいくので、受け身ではなく積極的に学習する姿勢を持つこと。						
【教科書・参考書など】 とくに指定はない。必要な資料をその都度配布する。						
【関連科目】 衛生学・公衆衛生学、女性のライフステージと運動、保健体育科教育法Ⅰ（教育の方法・技術含む）						
【成績評価方法】 授業内での課題達成度30%、定期試験（試験は試験期間中に別途実施する）70%で評価する。						

科目名	機能解剖学				担当者	永野康治	
英文名	Functional Anatomy						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・必修	専門基礎・選択	
【目的とねらい】 本講義の目的は骨格と各関節の構造、特徴、運動を学び、身体の動きを関節運動や筋肉の働きから理解することである。本講義のねらいは、体育・スポーツに関わる者として、筋骨格系の知識を得る事で自らのスポーツ活動におけるパフォーマンス向上や怪我の予防に生かし、さらには運動を指導する立場において効果的な評価、処方、指導ができるようになることである。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 機能解剖学概論 (機能解剖学の基礎) 【 到達目標 】 (1)機能解剖を学ぶうえで必要な基礎事項を理解する。 (2)骨の構造を理解し、全身の骨の名称とその位置を把握する。 【授業時間外学習】 全身の骨の名称とその位置を覚える。				第9回 関節の構造と関節運動 上肢1 【 到達目標 】 (1)肩甲胸郭関節、肩甲上腕関節の構造を理解する。 (2)肩甲胸郭関節の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
第2回 骨格の理解 上肢1 【 到達目標 】 (1)上肢(鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 上肢の骨の特徴を覚える。				第10回 関節の構造と関節運動 上肢2 【 到達目標 】 (1)肘関節、前腕、手関節、手指の構造を理解する。 (2)肘関節、前腕、手関節、手指の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
第3回 骨格の理解 上肢2 【 到達目標 】 (1)上肢(尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 上肢の骨の特徴を覚える。				第11回 関節の構造と関節運動 下肢1 【 到達目標 】 (1)股関節、膝蓋大腿関節の構造を理解する。 (2)股関節の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
第4回 骨格の理解 下肢1 【 到達目標 】 (1)下肢(寛骨、大腿骨、膝蓋骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 下肢の骨の特徴を覚える。				第12回 関節の構造と関節運動 下肢2 【 到達目標 】 (1)脛骨大腿関節の構造を理解する。 (2)脛骨大腿関節の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
第5回 骨格の理解 下肢2 【 到達目標 】 (1)下肢(脛骨、腓骨、足根骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 下肢の骨の特徴を覚える。				第13回 関節の構造と関節運動 下肢3 【 到達目標 】 (1)足関節、足部の構造を理解する。 (2)足関節、足部の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
第6回 骨格の理解 体幹1 【 到達目標 】 (1)体幹(脊柱、椎骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 体幹の骨の特徴を覚える。				第14回 関節の構造と関節運動 体幹1 【 到達目標 】 (1)体幹、脊柱の関節(椎間関節、椎体間関節)の構造を理解する。 (2)脊柱の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
第7回 骨格の理解 体幹2 【 到達目標 】 (1)体幹(椎骨、肋骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 体幹の骨の特徴を覚える。				第15回 関節の構造と関節運動 体幹2 【 到達目標 】 (1)体幹、胸郭の関節の構造を理解する。 (2)胸郭の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
第8回 関節の構造と関節運動 概論 【 到達目標 】 (1)関節の大まかな構造と種類を理解する。 (2)関節運動の定義を理解する。 (3)肩甲上腕関節を例に関節運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。							
【学習上の留意点】 配布される講義ノートへの記述を中心に授業を進める。覚えるべきことが多いため、各授業ごとに内容をノートに整理しておくことが望まれる。毎回の授業の際にその日の授業内容を問う小テストを実施する。また、復習用の課題を適時提示する。							
【教科書・参考書など】 教科書：特に指定しない 参考書：筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版) 骨・関節・筋肉の構造と動作のしくみ(ナツメ社)							
【関連科目】							
【成績評価方法】 課題 20% 期末試験(試験は試験期間中に別途実施) 80%							

科目名	生涯スポーツ論			担当者	齊藤隆志	
英文名	Lifelong Sports					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別			専門基礎・必修	
【目的とねらい】 本人の生涯学習活動として、新しい公共の担い手として、生涯スポーツ社会を形成する指導者としての生涯スポーツの基礎的知識を獲得する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 生涯スポーツ論概説 【 到達目標 】 (1)授業ガイダンス、生涯スポーツ関連用語を理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習とは何かをインターネットで調べる。			第9回 生涯学習としてのスポーツ活動について (2) 【 到達目標 】 (1)社会構築の主体としての生涯スポーツ活動を理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習社会におけるスポーツ活動についてインターネットで調べる。			
第2回 生涯学習について (1) 【 到達目標 】 (1)生涯学習の考え方の歴史の変遷を理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習とは何かをインターネットで調べる。			第10回 生涯学習社会におけるスポーツについて (1) 【 到達目標 】 (1)生涯学習社会における文化としてのスポーツを理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習社会におけるスポーツ活動についてインターネットで調べる。			
第3回 生涯学習について (2) 【 到達目標 】 (1)現在の「生涯学習」の考え方を理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習とは何かをインターネットで調べる。			第11回 生涯学習社会におけるスポーツについて (2) 【 到達目標 】 (1)生涯学習社会におけるコミュニティスポーツを理解する。 (2)新しい公共、社会関係資本としてのスポーツを理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習社会におけるスポーツ活動についてインターネットで調べる。			
第4回 生涯学習について (3) 【 到達目標 】 (1)人間の存在的意義としての「学習」について理解する。 【授業時間外学習】 人間にとって学習とは何かをインターネットで調べる。			第12回 生涯学習社会におけるスポーツについて (3) 【 到達目標 】 (1)生涯学習社会における総合型地域スポーツクラブを理解する。 【授業時間外学習】 総合型地域スポーツクラブについてインターネットで調べる。			
第5回 生涯学習社会について (1) 【 到達目標 】 (1)生涯学習社会における人間と社会について理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習社会とは何かをインターネットで調べる。			第13回 みんなのスポーツについて (1) 【 到達目標 】 (1)ヨーロッパ型スポーツについて理解する。 【授業時間外学習】 ヨーロッパのスポーツ活動についてインターネットで調べる。			
第6回 生涯学習社会について (2) 【 到達目標 】 (1)新しい公共、公共圏について理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習社会とは何かをインターネットで調べる。			第14回 みんなのスポーツについて (2) 【 到達目標 】 (1)ヨーロッパ型スポーツシステムについて理解する。 【授業時間外学習】 ヨーロッパのスポーツ活動についてインターネットで調べる。			
第7回 生涯学習社会について (3) 【 到達目標 】 (1)社会関係資本について理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習社会とは何かをインターネットで調べる。			第15回 生涯スポーツの展望と課題 【 到達目標 】 (1)生涯学習思想を述べることができる。 (2)豊かなスポーツライフを述べることができる。 (3)生涯学習社会でのスポーツのあり方を述べることができる。 【授業時間外学習】 第1回目から第14回目までの授業内容を復習する。			
第8回 生涯学習としてのスポーツ活動について (1) 【 到達目標 】 (1)個人の教養として生涯スポーツ活動を理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習としてのスポーツ活動についてインターネットで調べる。						
【学習上の留意点】 授業中の私語、携帯電話使用、飲食を禁じる。						
【教科書・参考書など】 特に指定しない。 適宜、印刷物を配布する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業における課題達成度(50%)、4回程度のテスト(50%)で評価する。						

科目名	スポーツ心理学			担当者	佐々木万丈	
英文名	Sport Psychology					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1				専門基礎・必修	
【目的とねらい】 スポーツ心理学の研究領域で提出された知見と最新の研究成果に関わる基礎的事項を学習することが目的である。さらに、本講義では、受講者が将来的に競技スポーツのみならず、広い視野に立ってスポーツや運動の研究・指導を行うことができるように、競技スポーツに関わるトピックと同時に健康運動活動に取り組む人々の心理行動的問題や課題についても取り上げる。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 体育学における心理学研究領域の概説 【到達目標】 (1) 体育・スポーツ・健康運動に関わる心理学の課題を説明できる。			第9回 スポーツ・キャリア・トランジション 【到達目標】 (1) スポーツ選手の競技引退に関わる問題や課題を理解し、説明できる。			
【授業時間外学習】 関連する研究課題の中から関心のある内容を一つ選び、提出されている知見を整理する。			【授業時間外学習】 選手のキャリアトランジションを考慮した学校部活動の長期的展開について考案する。			
第2回 不安 【到達目標】 (1) 不安には2つの側面（状態不安と特性不安）が仮説的に定義されていることを理解し、説明できる。			第10回 心理社会的スキルとライフスキル 【到達目標】 (1) スポーツ活動の効果に心理社会的スキルの習得があげられることを理解し、その内容について説明できる。(2) 運動やスポーツ活動場面の心理社会的スキルが日常生活場面のライフスキルに般化するメカニズムを理解し、説明できる。			
【授業時間外学習】 Anshe1の「不安制御の指針」を参考に自分の不安コントロールに関わる課題を整理する。			【授業時間外学習】 般化の過程及び要因を考慮したライフスキル形成に寄与する運動部活動のあり方を考案する。			
第3回 ストレス 【到達目標】 (1) 運動やスポーツの実践に関わる行動の理解と改善に心理学的ストレス研究がいかに貢献できるかを説明できる。			第11回 スポーツとジェンダー 【到達目標】 (1) スポーツ活動場面におけるジェンダーに関わる問題や課題を理解し、説明することができる。			
【授業時間外学習】 運動やスポーツ中のストレスに適応するための認知的評価と対処行動の要点をまとめる。			【授業時間外学習】 スポーツプログラムや運動部活動におけるハラスメントを防ぐための方策を考案する。			
第4回 動機づけ 【到達目標】 (1) 動機づけに関する主な理論を説明できる。 (2) 運動やスポーツ行動のやる気の高め方を具体的に説明できる。			第12回 運動やスポーツのメンタルヘルス効果 【到達目標】 (1) 運動やスポーツがメンタルヘルスに及ぼす影響について理解し、説明できる。			
【授業時間外学習】 動機づけの諸理論をふまえ、効果的な運動・スポーツプログラムを考案する。			【授業時間外学習】 健康日本21を読み、現在国内においてどのようなことが問題になっているのかをまとめる。			
第5回 運動学習 【到達目標】 (1) 運動技能と認知技能について理解し、説明できる。 (2) 効果的な運動学習の方法について理解し、説明できる。			第13回 行動変容理論 【到達目標】 (1) 行動変容理論や各種のプログラムについて理解し、説明できる。			
【授業時間外学習】 ランダム練習の有効性、効果的なフィードバックの方法をまとめ、自らの活動内容を見直す。			【授業時間外学習】 諸外国や国内の運動処方に関する取り組みをまとめる。			
第6回 心理的競技能力 【到達目標】 (1) スポーツ選手に必要な心理的要素について理解し、説明できる。 (2) DIPCAⅢにより自らの心理的競技能力を把握し分析できる。			第14回 運動の実践に対する介入 【到達目標】 (1) 行動変容技法を中心に運動処方や介入の仕方について理解し、説明できる。			
【授業時間外学習】 DIPCAⅢの結果を考慮した学校部活動やスポーツプログラムの展開を考える。			【授業時間外学習】 自分が居住する地域（あるいは出身地）の住民の行動変容を促すプログラムを考案する。			
第7回 スポーツ障害 【到達目標】 (1) 運動やスポーツで生じる障害について理解し、説明できる。 (2) ストレス理論を用いたスポーツ障害の予防と対策方法を理解し、説明できる。			第15回 運動やスポーツに関わる心理・行動の研究法 【到達目標】 (1) 運動やスポーツの心理学的研究方法を理解し、説明できる。			
【授業時間外学習】 リハビリにおける心理的側面の留意点を整理し、ケガによる無力感からの脱出方法を考える。			【授業時間外学習】 研究法を整理し、自分が取り組みたい研究課題はどのような方法が可能かをまとめる。			
第8回 パーンアウト 【到達目標】 (1) スポーツ選手のパーンアウト発症機序を理解し、説明できる。(2) 学習性無力感について理解し、説明できる。(3) パーンアウトや学習性無力感に陥らないようにするための方法を理解し、説明できる。						
【授業時間外学習】 パーンアウト及び学習性無力感の予防的対処のポイントをまとめる。						
【学習上の留意点】 授業ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、さらに口頭でその詳細を説明する。受講者は提示された要点のみをノートに書き写すだけでは、学習としては不十分であることを理解しておく必要がある。集中をしてメモを取り、運動やスポーツ活動の理解と実践に役立つオリジナルのスポーツ心理学ノートを作り上げる努力をすることが求められる。また、毎時間、その時間に取り上げられた内容に関する復習課題を提示する。授業以外の時間を有効に使うことで復習に取り組む、学習した知識の定着を図る努力が必要である。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配付する。 「スポーツ心理学の世界」杉原 隆他・編著（福村出版）						
【関連科目】 人間心理の理解、ジェンダー論、データ分析と統計学、女性のライフステージと運動、スポーツ社会学、スポーツ調査法、生活習慣と健康						
【成績評価方法】 期末テストの結果（100%：試験は別途試験期間中に実施）により評価する。						

科目名	スポーツマネジメント			担当者	畑 攻	
英文名	Sport Management					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別			専門基礎・必修	
【目的とねらい】 スポーツマネジメントは、経営学の理論や発想をベースにして、体育やスポーツ及び関連の活動のための条件整備を中心に、諸原則や実践的な働きかけを追究する分野である。本講義をとおして、各種のスポーツや関連の活動を支えるためのマネジメントの基礎基本を十分に習得する。また、スポーツビジネスやプロスポーツのマネジメントなどのような今日的な状況に適合するためのマネジメントのあり方についても、発展的にその理解を深めたい。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 スポーツとマネジメント 【 到達目標 】 (1) スポーツ活動の様々な側面とその成立条件を理解する。 (2) マネジメントの目標と価値、組織性、時間軸を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツマネジメントとはなんだろう？と今の自分なりに考えてみる。			第9回 スポーツマーケティングの仕組み 【 到達目標 】 (1) 一般的なマーケティングの仕組みや考え方を理解する。 (2) スポーツとマーケティングの関係を理解する。 【授業時間外学習】 マーケティングとはどういうことかを自分なりに考えてみる。			
第2回 製品としてのスポーツ 【 到達目標 】 (1) 一般的な製品の考え方及び代表的なモデルを理解する。 (2) スポーツを製品としてとらえる基本的な視点を考察する。 【授業時間外学習】 スポーツ関連の様々な製品の場合と、スポーツそのものを製品として見た場合の違いは？どのような違いがあるかを考えてみる。			第10回 スポーツマーケティングの基本戦略 【 到達目標 】 (1) 現状のスポーツマーケティングの動向を理解する。 (2) スポーツに関わるマーケティング戦略のあり方を検討する。 【授業時間外学習】 一般的によく売れる製品を具体的に浮かべてみる。なぜ売れるかを考えてみる。			
第3回 スポーツプロダクトの機能と構造 【 到達目標 】 (1) 欧米の代表的なスポーツプロダクトモデルを理解する。 (2) プロダクトとしての代表的な日本のスポーツを検討する。 【授業時間外学習】 スポーツが製品となる場合にはその具体的な仕組みはどのようにになっているかを考えてみる。			第11回 スポーツ組織の活性化1 【 到達目標 】 (1) 基本的な組織論とその根底にある人間観を理解する。 (2) 組織の能動性、活性化、モラルの向上を理解する。 【授業時間外学習】 集団や組織の中の人間にどのような問題があるか、また、うまく機能している組織とはどのような組織なのかを考えてみる。			
第4回 スポーツプロダクトの進化とマネジメント 【 到達目標 】 (1) プロダクトとしてのスポーツの進化モデルを理解する。 (2) 各スポーツの位置づけやマネジメントのあり方を理解する。 【授業時間外学習】 それぞれのスポーツは「進化する」という視点でどのような特徴があるかを考えてみる。			第12回 スポーツ組織の活性化2 【 到達目標 】 (1) スポーツにおける組織研究の必要性を理解する。 (2) スポーツにおけるリーダーシップのあり方を検討する。 【授業時間外学習】 スポーツの組織をよくするにはどうしたらいいかを考えてみる。			
第5回 サービス商品としてのスポーツ 【 到達目標 】 (1) スポーツをめぐる様々なサービスを理解する。 (2) サービスプロダクトとしてのスポーツを検討する。 【授業時間外学習】 サービスということとスポーツはどのような関係か？を考えてみる。			第13回 トピックス1：社会の活性化とスポーツマネジメント 【 到達目標 】 (1) 様々な社会の活性化の要因を広く理解する。 (2) そのためのスポーツマネジメントのあり方を検討する。 【授業時間外学習】 人々が感動をするスポーツの種類やその具体的な様子を思い浮かべてみる。			
第6回 サービス業としてのスポーツ施設・組織 【 到達目標 】 (1) スポーツやその活動を扱う施設や組織の状況を理解する。 (2) スポーツ施設や組織のあり方を検討する。 【授業時間外学習】 一般的にスポーツ施設はどのようなものか、何をするとところかを調べ、考えてみる。			第14回 トピックス2：スポーツ教育とマネジメント 【 到達目標 】 (1) 今日のスポーツ教育に関わる問題点を理解する。 (2) そのような問題点に対するマネジメントを検討する。 【授業時間外学習】 これまでの自分の経験からスポーツ教育の問題点を考えてみる。			
第7回 スポーツビジネスとマネジメント 【 到達目標 】 (1) 今日のスポーツビジネスの概要を理解する。 (2) スポーツのビジネスとスポーツによるビジネスを理解する。 【授業時間外学習】 ビジネスということはどういうことか、スポーツとビジネスの関係を考えてみる。			第15回 総括：スポーツマネジメントの課題と展望 【 到達目標 】 (1) スポーツマネジメントの基礎基本を総復習し理解を深める。 (2) スポーツマネジメントの今後の課題と可能性を検討する。 【授業時間外学習】 このスポーツマネジメントで自分が最も感じたことを整理し、今後を考えてみる。			
第8回 社会文化事業としてのスポーツイベント 【 到達目標 】 (1) スポーツイベントの様々なインパクトを理解する。 (2) 社会文化事業としてのイベントのあり方を検討する。 【授業時間外学習】 どのようなスポーツイベントがあるのか、その影響力は何かを考えてみる。						
【学習上の留意点】 大学で初めて学ぶ分野であり、その内容及び考え方に早く慣れることが必要である。この分野の学習の第一歩であることから、基礎基本を確実に理解し、十分に習得することが必要である。また、そのような基礎基本を踏まえて、現状のスポーツマネジメントの状況や課題について調べてみたり、踏み込んで考えてみる事が望まれる。						
【教科書・参考書など】 「スポーツ経営学（改訂版）」山下、畑、富田（編著）大修館書店をテキストとする。 その他参考資料を授業で配布する。						
【関連科目】 スポーツサービス論、スポーツ施設管理論、スポーツ調査法、スポーツ産業論など						
【成績評価方法】 数回の授業内の小テスト及びレポートを50%、定期試験の結果を50%として総合評価する。 試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	スポーツ方法実習A（体操・器械運動）			担当者	笹本 重子・木皿久美子	
英文名	Practice of Sport Methods A (Gymnastics / Apparatus Exercise)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1				専門基礎・必修	
【目的とねらい】 健康運動指導士養成講習会カリキュラムに提示されているストレッチングと柔軟体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウンについて学習する。また、学校体育の教材として行われる、体ほぐしの運動と体力を高める運動（ストレッチ体操、徒手体操、トレーニング体操、リズム体操、手具体操）を取り上げ、見本となるデモンストレーションができるように良い動き方を習得する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーションと体きづき、体ほぐし 【 到達目標 】 (1)体操のねらい、学習の方法、授業の進め方について理解する。			第9回 手具体操：ボールを用いた体ほぐしと体操 【 到達目標 】 (1)ボールの特性を理解し、動きを開発したり発展させる。			
第2回 ストレッチ体操：アライメントチェックとストレッチの基本 【 到達目標 】 (1)体のゆがみをチェックし、体操で整える方法を知る。			第10回 リズム体操：キット式リズム体操 【 到達目標 】 (1)キットを覚え、良い動き方を習得する。			
第3回 ストレッチ体操：2人組のストレッチ体操 【 到達目標 】 (1)自分と相手の体と心に気づき、調整しながら運動が行える。			第11回 リズム体操：パターン式リズム体操 【 到達目標 】 (1)パターンで動きを覚え、良い動き方を習得する。			
第4回 ストレッチ体操：PNFストレッチ 【 到達目標 】 (1)PNFの原理を理解し、正しい補助の仕方を実施する。			第12回 保健体操：気功呼吸法とボディメンテナンス 【 到達目標 】 (1)心と体の整え方を知り、応用できるようにする。			
第5回 ストレッチ体操：音楽に合わせて一連の柔軟体操 【 到達目標 】 (1)音楽に合わせて一連のストレッチ運動を覚えて実施する。			第13回 良い動きの習得：体操の目的と方法 【 到達目標 】 (1)これまで習得した良い動きの一連の体操ができる。			
第6回 トレーニング体操：体ほぐしとレジスタンス系の体操 【 到達目標 】 (1)自体重での運動と相手の体を利用した運動でトレーニングする。			第14回 良い動きの習得：動きの修正 【 到達目標 】 (1)修正を加えながら良い動きの一連の体操ができる。			
第7回 トレーニング体操：体ほぐしとエアロビクス系の体操 【 到達目標 】 (1)エアロビクスの原則を理解し、運動を実施する。			第16回 体操（良い動き）の発表 【 到達目標 】 (1)自信を持って良い動きを発表できる。			
第8回 手具体操：フープを使った体ほぐしと体操 【 到達目標 】 (1)フープの特性を知り、動きを開発したり発展させる。						
【授業時間外学習】 学習したストレッチ体操や徒手体操を日常生活に取り入れ、自身のからだを管理し、良い姿勢・立ち方・歩き方などの改善を図る。						
【学習上の留意点】 二人組や数人のグループで行う内容が多いので、互いに不快感を与えないような服装や身だしなみ、態度を大切にほしい。自分の「からだ」について理解を深め、ひとの動き方などを参考にして、できない動きや不慣れた動きのコツを習得できるよう工夫し、良い動き方を身に付けられるよう努める。 *スポーツ方法実習Aは、体操と器械運動の両方を履修して1科目分とする。						
【教科書・参考書など】 教科書は特になし。						
【関連科目】 スポーツ指導演習（体づくり運動）						
【成績評価方法】 関心・意欲・態度30%、実技テスト70%で総合的に評価する。						

科目名	スポーツ方法実習A（体操・器械運動）			担当者	小海 隆樹・佐藤麻衣子 中村 剛	
英文名	Practice of Sport Methods A (Gymnastics / Apparatus Exercise)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別			専門基礎・必修	
【目的とねらい】 達成スポーツとしての器械運動では、さまざまな運動が行われる。その運動は「技」と呼ばれ、「技」は運動構造によって易しいものからむずかしいものへと体系的に分類されている。その体系にしたがって基本的な技を正しく習得すると発展的な技の習得も容易となる。本授業では、器械運動の基本的な技について、その基礎技能も含めいろいろな段階的練習方法を通して身につけていく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 マット運動の基礎技能 【 到達目標 】 (1) 器械運動に必要な動きと練習方法を理解する。 (2) マット運動の基礎技能の習熟を図る。			第9回 マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）④ 【 到達目標 】 (1) ハンドスプリングの技能テスト			
第2回 マット運動（倒立の基礎・接転系の技）① 【 到達目標 】 (1) 倒立の基礎知識・技能を習得する。 (2) 前転、後転の基礎知識・技能を習得する。			第10回 とび箱運動（反転系の技の基礎技能） 【 到達目標 】 (1) 反転系の技の基礎知識・技能を習得する。			
第3回 マット運動（倒立の基礎・接転系の技）② 【 到達目標 】 (1) 倒立の静止技能および歩行技能を習得する。 (2) 前転、後転の変形技を習得する。			第11回 とび箱運動（反転系の技・開脚とび） 【 到達目標 】 (1) 開脚とびの技能を習得する。 (2) 開脚とびの技能テスト			
第4回 マット運動（倒立の基礎・接転系の技）③ 【 到達目標 】 (1) 倒立前転の技能を習得する。 (2) 伸膝後転の技能を習得する。			第12回 とび箱運動（反転系の技・開脚とび） 【 到達目標 】 (1) 開脚とびの技能を習得する。 (2) 開脚とびの技能テスト			
第5回 マット運動（倒立の基礎・接転系の技）④ 【 到達目標 】 (1) 倒立前転の技能テスト (2) 伸膝後転の技能テスト			第13回 鉄棒運動（支持回転系の技）① 【 到達目標 】 (1) 鉄棒運動の基礎知識・技能を習得する。			
第6回 マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）① 【 到達目標 】 (1) 側方倒立回転習得のための基礎知識・技能を習得する。 (2) ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。			第14回 鉄棒運動（支持回転系の技）② 【 到達目標 】 (1) 支持回転系の技の技能を習得する。 (2) 支持回転系の技の技能テスト			
第7回 マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）② 【 到達目標 】 (1) 側方倒立回転の技能を習得する。 (2) ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。			第16回 課題の達成度と身体知 【 到達目標 】 (1) 技の習得に必要な身体知について理解する。 (2) 達成できた動きの身体知について理解する。			
第8回 マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）③ 【 到達目標 】 (1) 側方倒立回転の技能テスト (2) ハンドスプリングの技能を習得する。						
【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ（動感）を思い出しながら（想起）、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。						
【学習上の留意点】 課題として取り上げられた技は、体育教員として身につけておきたい最低限のものである。授業では、それぞれの技の感覚を順を追って習得していく。すでに、課題をできる受講生にとっては、あらかじめ動きができるための「道しるべ」を確認することになり、中学・高等学校時に器械運動の授業を受けていない学生にとっては、新たな「身体知」を獲得する場となる。積極的な参加を望む。*スポーツ方法実習Aは、体操と器械運動の両方を履修して1科目分とする。						
【教科書・参考書など】 <参考書> 「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友（大修館書店）						
【関連科目】 スポーツ方法応用演習（器械運動）、スポーツ指導演習（器械運動）						
【成績評価方法】 課題技の達成度 100%						

科目名	スポーツ方法実習B（陸上競技・水泳）			担当者	吉田 孝久・大橋 祐二 眞鍋 芳明	
英文名	Practice of Sport Methods B (Track and Field / Swimming)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1				専門基礎・必修	
【目的とねらい】 陸上競技は走・跳・投運動による最大達成を競う種目である。多くの種目の中から、走種目として100m走、跳種目として走り幅跳び、投種目として砲丸投げを取り上げ、それぞれの種目を実習し、基本技能を習得する過程を経験すること、それぞれの種目の学習方法について理解することを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業内容の説明（採点表） 【 到達目標 】 100m、走り幅跳び、砲丸投げの種目特性を理解する。単位認定の条件（達成記録、習熟度）を確認する。			第9回 全助走跳躍 【 到達目標 】 自分にあつたおおよその助走距離を見つけ、同時に踏み切り板に足が合う正確な距離を見つけ出す。			
第2回 100m走の走り方：中間疾走 【 到達目標 】 短距離走の走り方として、中間疾走を行う中でまず支持局面を意識して実践してみる。			第10回 走り幅跳び記録測定1 【 到達目標 】 走り幅跳びの記録測定を行う。達成距離がどのレベルにあるかを把握する。			
第3回 クラウチングスタートのしかた 【 到達目標 】 自分にあつたクラウチングスタートの方法を身につける。			第11回 走り幅跳び記録測定2 【 到達目標 】 前回の達成距離を更新するために、改善点を見つけ出しより高いレベルにチャレンジする。			
第4回 スタート～加速のしかた 【 到達目標 】 クラウチングスタートからトップスピードを作り出す加速局面で、問題点を把握してその改善を図る。			第12回 砲丸投げの基本技術とルール 【 到達目標 】 砲丸投げの基本技術であるつき出し動作のドリルを実習することによってつき出しの動き方を確認する。同時に、砲丸投げのルールを理解する。			
第5回 スタート、加速疾走、中間疾走 【 到達目標 】 100m記録測定の準備として、100mという距離を走る体験をする。その中で、前半と後半の身体への負担がどのようであるかを実感し、特に後半の走り方をイメージできるようにする。			第13回 メディシンボールによるつき出し 【 到達目標 】 メディシンボールによるつき出し、砲丸を用いてのつき出しを繰り返し行うことによって、合理的なつき出し動作を身につける。			
第6回 100m記録測定 【 到達目標 】 100mの記録測定を行う。達成記録がどのレベルにあるかを把握する。			第14回 ホップ、グライドからの投げ 【 到達目標 】 つき出しがより力強く行われるように、サークル内でホップ、ステップの「助走」をつけて行う。うまく加速できる方法を見つけ出す。			
第7回 走り幅跳びの基本技術とルール 【 到達目標 】 走り幅跳びの一連の動きを実習しながら、基本技術及びルールを身につける。			第16回 砲丸投げ記録測定 【 到達目標 】 砲丸投げの記録測定を行う。その記録がどのレベルにあるかを把握する。			
第8回 短助走跳躍 【 到達目標 】 短助走跳躍を実践する中で、自分にあつた効果的な踏み切り技術を探り当てる。						
【授業時間外学習】 日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指すこと。						
【学習上の留意点】 過去の運動経験を生かし、より高いレベルの記録を達成するようにして欲しい。そのためには、陸上競技の専門性を理解し、その中で自分の運動経験を生かすようにすることが必要である。 *スポーツ方法実習Bは、陸上競技と水泳の両方を履修して1科目分とする。						
【教科書・参考書など】 『教師のための運動学』金子明友監修、吉田茂 三木四郎編（大修館書店）						
【関連科目】 スポーツ指導演習（陸上競技）						
【成績評価方法】 各種目の実技試験における達成記録による評価を70%、動きの習熟度による評価を30%として評価する。						

科目名	スポーツ方法実習B（陸上競技・水泳）			担当者	山川 啓介・浅井 泰詞	
英文名	Practice of Sport Methods B (Track and Field / Swimming)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1				専門基礎・必修	
【目的とねらい】 水の特性に慣れることからはじめ、4種目泳法の各種技術練習を通して水泳の基本技能を修得すると共に、水泳運動の学習方法を理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 水慣れ 【 到達目標 】 水に入る、浮く、沈む、歩く、走る、跳ぶ、泳ぐ。			第9回 バタフライの泳法実習 【 到達目標 】 バタフライの呼吸法を修得する。 バタフライのストロークを修得し、手足のタイミングを整える。			
第2回 けのび、グライダー姿勢、クロールの導入 【 到達目標 】 正しいけのびの型を理解し、修得する。グライダー姿勢を理解し、修得する。クロールのバタ足を修得する。			第10回 平泳ぎとバタフライの完成 【 到達目標 】 平泳ぎおよびバタフライにおいて、競技規則に則った正しいフォームを完璧に修得する。			
第3回 クロールの泳法実習 【 到達目標 】 クロールのキックおよびストロークを修得する。 クロールの呼吸法を修得する。			第11回 周辺技術（スタートおよびターン）の修得① 【 到達目標 】 水面上からの飛び込み型スタートを段階的に修得する。 クロールおよび平泳ぎのターンを修得する。			
第4回 クロールの泳法実習と背泳ぎの導入 【 到達目標 】 クロールにおいて随時呼吸を行い、正しいフォームを修得する。 背泳ぎの導入としての背浮きを修得する。			第12回 周辺技術（スタートおよびターン）の修得② 【 到達目標 】 水面上からの飛び込み型スタートを段階的に修得する。 クロールおよび平泳ぎのターンを修得する。			
第5回 背泳ぎの泳法実習 【 到達目標 】 背泳ぎのキックおよびストロークを修得する。 背泳ぎの呼吸法を修得する。			第13回 4泳法のまとめとクロールのトレーニング 【 到達目標 】 4泳法の競技規則に則ったフォームを再確認する。 100mクロールに向けたトレーニングを行う。			
第6回 クロールと背泳ぎの完成 【 到達目標 】 クロールおよび背泳ぎについて、競技規則に則った正しいフォームを完璧に修得する。			第14回 4泳法のまとめと平泳ぎのトレーニング 【 到達目標 】 4泳法の競技規則に則ったフォームを再確認する。 100m平泳ぎに向けたトレーニングを行う。			
第7回 平泳ぎの導入と泳法実習 【 到達目標 】 平泳ぎのキックを修得する。 あおり足とかえる足の違いを理解する。			第15回 100mクロールおよび100m平泳ぎの確認 【 到達目標 】 100mクロールおよび100m平泳ぎを泳ぐ。			
第8回 平泳ぎの泳法実習とバタフライの導入 【 到達目標 】 平泳ぎのストロークを修得し、手足のタイミングを整える。 バタフライのキックを修得する。						
【授業時間外学習】 書籍およびメディア等を活用して4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。						
【学習上の留意点】 プールでの安全管理および安全対策の理解の一環として、アクセサリ系の着用は不可とする。 水泳は、普段の生活とは異なる水中環境下での運動となるため、様々な身体への影響が生じる。そのため、実習への参加に際し、健康状態に配慮することが必要である。 *スポーツ方法実習Bは、陸上競技と水泳の両方を履修して1科目分とする。						
【教科書・参考書など】 「水泳指導教本」 財団法人日本水泳連盟編、大修館書店 「基礎からの水泳」 柴田義晴著、ナツメ社						
【関連科目】 健康スポーツ演習（アクアスポーツ）、スポーツプログラミング演習、スポーツ指導演習（水泳）						
【成績評価方法】 1. 泳法試験（70%）、2. クロールおよび平泳ぎの泳力試験（30%）とする。 評価は、上記に加えて受講態度を含め、総合的に判定する。						

科目名	スポーツ方法実習C (バスケットボール・バレーボール)		担当者	柴田 雅貴・橋本 早予 茂泉 圭治	
英文名	Practice of Sport Methods C (Basketball / Volleyball)				
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻
履修年次	1				専門基礎・必修
【目的とねらい】 バスケットボールのゲームを行うために必要とされる基礎的な個人技術を習得し、その上でグループ・チーム戦術へと発展させ、ゲームの中で習得した個人技術、グループ・チーム戦術を発揮することが目的である。さらに、ルールを理解することも目的である。3・4年次履修のスポーツ指導演習（バスケットボール）では、本実習で習得したことを適用し、実際に指導することへ応用する。したがって、習得した個人技術、グループ・チーム戦術を実際に指導するための基礎作りが本実習のねらいとなる。					
【授業内容・到達目標など】					
第1回 授業のねらいと進め方 【 到達目標 】 (1)授業のねらいと進め方、バスケットボールの特性を理解する。 (2)導入としてコーディネーショントレーニングの必要性を理解し、実践する。			第9回 基礎的な個人技術 フリースロー① 【 到達目標 】 (1)ゲームの中でフリースローが起こる状況について理解する。 (2)フリースローの技術を習得する。 (3)ゲームを実践する。		
第2回 基礎的な個人技術 コントロール 【 到達目標 】 (1)ボディコントロール（フットワークとハンドワークを含む）の技術を理解し、習得する。 (2)ボールコントロール（ボールハンドリング）の技術を理解し、習得する。 (3)ミニゲームを実践する。			第10回 グループ戦術 パス&ラン 【 到達目標 】 (1)グループ戦術としてのパス&ランの原則を理解する。 (2)パス&ランのグループ戦術を習得する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。		
第3回 基礎的な個人技術 ワンハンドシュート① 【 到達目標 】 (1)ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。 (2)ミニゲームを実践する。			第11回 チーム戦術 ドライブ&合わせ 【 到達目標 】 (1)グループ戦術としての1対1（ドライブ）とそこからの合わせの原則を理解する。 (2)ドライブ&合わせのグループ戦術を習得する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。		
第4回 基礎的な個人技術 セットシュートとジャンプシュート 【 到達目標 】 (1)セットシュートとジャンプシュートの違いを理解する。 (2)セットシュートとジャンプシュートそれぞれの技術を習得する。 (3)ミニゲームを実践する。			第12回 基礎的な個人技術 ワンハンドシュート② 【 到達目標 】 (1)ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。 (2)いろいろなワンハンドシュート（フック系・フローター系）の技術を実践する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。 (4)ルールを理解する。		
第5回 基礎的な個人技術 パスとキャッチ 【 到達目標 】 (1)ボールキャッチの技術を習得する。 (2)いろいろなパスの技術を習得する。 (3)ミニゲームを実践する。			第13回 基礎的な個人技術 レイアップシュート② 【 到達目標 】 (1)ドリブルからのレイアップシュートの技術を習得する。 (2)いろいろなレイアップシュート（バックシュート系・ステップの変化）の技術を実践する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。 (4)ルールを理解する。		
第6回 基礎的な個人技術 レイアップシュート① 【 到達目標 】 (1)ドリブルからのレイアップシュートの技術を習得する。 (2)ミニゲームを実践する。			第14回 基礎的な個人技術 フリースロー② 【 到達目標 】 (1)フリースローの技術を習得する。 (2)ゲームの状況下でのフリースローを実践する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。 (4)ルールを理解する。		
第7回 基礎的な個人技術 ドリブル 【 到達目標 】 (1)ドリブルのチェンジ・オブ・ディレクションの技術を習得する。 (2)ドリブルのチェンジ・オブ・ベースの技術を習得する。 (3)ミニゲームを実践する。			第15回 スキルの総合的検証 【 到達目標 】 (1)本実習で習得した基礎的な個人技術ができる。		
第8回 基礎的な個人技術 リバウンド 【 到達目標 】 (1)オフENSリバウンドの技術を習得する。 (2)ミニゲームを実践する。					
【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。					
【学習上の留意点】 実習の授業となるため服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリ類は決して身につけない。本実習はすべてグループ毎に活動するので、ただ参加するのではなく、積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、バスケットボールのルールを理解し、ゲームでは審判を行うこともあるので、ゲームの知識・理解を深めるように努める。 *スポーツ方法実習Cは、バスケットボールとバレーボールの両方を履修して1科目分とする。					
【教科書・参考書など】 参考書 「バスケットボール指導教本改訂版 上・下巻」（公財）日本バスケットボール協会編（大修館書店）					
【関連科目】 スポーツ指導演習（バスケットボール）					
【成績評価方法】 平常授業での到達度を70%、スキルテストを30%として評価する。					

科目名	スポーツ方法実習C (バスケットボール・バレーボール)		担当者	湯澤 芳貴・古瀬 由佳	
英文名	Practice of Sport Methods C (Basketball / Volleyball)				
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻
履修年次	1				専門基礎・必修
【目的とねらい】 バレーボールでは個人の基礎技能(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブ)の定着を図り、バレーボールゲームをおこなう上で必要な基礎技術・戦術を理解・実践し、それらをチームとしての戦術へと発展させていきスムーズなゲームの完成を目指す。またルールやゲームの進め方および審判法を理解し、ゲームの運営について学ぶことも目的とする。					
【授業内容・到達目標など】					
第1回 バレーボールの歴史と発展 【 到達目標 】 (1)バレーボールの起源、発展、ルールの変遷等を理解する。			第9回 ゲームの進め方・ルール・審判法の理解 【 到達目標 】 (1)ゲームを行う上での主なルールを理解する。 (2)主審・線審の役割とシグナル方法を理解する。		
第2回 基礎技能の習得Ⅰ(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) 【 到達目標 】 (1)各パスをおこなうための体の使い方を理解する。 (2)ボールを正確にコントロールする能力を身につける。			第10回 ゲーム実践Ⅰ 【 到達目標 】 (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。		
第3回 基礎技能の応用Ⅰ(各種レシーブ・トス) 【 到達目標 】 (1)強いボールに対する対応、移動しながらの技能を身につける。 (2)方向転換しているいろいろな方向へコントロールできる。			第11回 ゲーム実践Ⅱ 【 到達目標 】 (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。		
第4回 基礎技能の習得Ⅱ(サーブ) 【 到達目標 】 (1)アンダーハンドサーブ、フロッターサーブの打ち方をマスターする。 (2)狙ったコースへコントロールできる。			第12回 個人技能の評価方法と技能修正方法 【 到達目標 】 (1)個人技能の評価方法を理解し、実践できる。 (2)個人技能の正しい方法への修正をすることができる。		
第5回 基礎技能の習得Ⅲ(スパイク) 【 到達目標 】 (1)助走のステップ、スイングを身につける。 (2)タイミングを合わせてボールを打つことができる。			第13回 バレーボールのポジションとその役割の理解 【 到達目標 】 (1)セッター・リベロ・スパイカーについて理解・実践する。		
第6回 集団技能の理解と集団での技術・戦術 【 到達目標 】 (1)基礎技能と集団技能の結びつきについて理解する。 (2)集団で発揮する技術・戦術を理解する。			第14回 ゲーム実践Ⅲ 【 到達目標 】 (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。		
第7回 基本戦術の習得Ⅰ(3段攻撃) 【 到達目標 】 (1)「レシーブ→トス→スパイク」の流れを理解・実践する。			第16回 ゲーム実践Ⅳ 【 到達目標 】 (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。		
第8回 基本戦術の習得Ⅱ(フォーメーション) 【 到達目標 】 (1)基礎的な守備フォーメーションを理解・実践する。					
【授業時間外学習】 基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。					
【学習上の留意点】 実習の授業なので、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特にアクセサリ類の着用は禁止とし、また髪が長い者は必ず束ねて授業に参加すること。バレーボールはチームスポーツである。そのため、基本的にグループ単位で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。 不明な点はそのまませず、教員に質問する等解決のための努力を怠らないようにすること。 *スポーツ方法実習Cは、バスケットボールとバレーボールの両方を履修して1科目とする。					
【教科書・参考書など】 教科書は特になし。					
【関連科目】 スポーツ指導演習 (バレーボール)					
【成績評価方法】 基礎技能の実技テストを80%、ゲーム実践の達成度を20%として評価する。					

科目名	ダンス・ファンダメンタル			担当者	岩淵多喜子・國本眞由子 蛭間 純子	
英文名	Dance Fundamental					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2				専門基礎・必修	
【目的とねらい】 前半では、エアロビックダンスの特性及び効果を知ると同時に、プログラムの基本構成を理解し、特有のステップを体得する。また音に合わせて、見本となりながら、指示を出す、エアロビックダンス特有の集団の指導法についても学ぶ。 後半では音楽と融合したナチュラルで快い情緒的な動きやリズムミカルな動きなど、ダンスムーブメントの基礎的な技能を習得し、ダンスの表現特性について理解するとともに、自己の表現力も高め、豊かな心身の育成を図る。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 エアロビックダンスの歴史及びフィットネス概論 【 到達目標 】 エアロビックダンスの歴史を学び、フィットネスを目的とするエアロビックダンスの考え方を理解する。エアロビックダンスの30分プログラムを体験する。			第9回 エアロビックダンス指導法③ (32カウントコンビネーション作成) 【 到達目標 】 エアロビックダンスのステップを組み合わせて32カウントのオリジナルコンビネーションを作成し、指導する演習を行う。			
第2回 エアロビックダンスの基礎理論、基本構成、運動強度の考え方 【 到達目標 】 エアロビックダンスプログラムの理論、基本構成について理解し運動強度についても正しい認識を持つ。エアロビックダンスの30分プログラムを体験する。			第10回 エアロビックダンス指導法④ (32カウントコンビネーション指導) 【 到達目標 】 作成した32カウントコンビネーションをグループに対して指導し、指導内容についてフィードバックを受ける。			
第3回 基本ステップの習得(ローインパクト) 【 到達目標 】 基本ステップ(ローインパクト)を習い、正確に動けるように注意しながら30分プログラムを体験する。			第11回 グループワーク プログラムの理解 【 到達目標 】 グループワーク・・・目的にあったプログラムについて理解を深め、その方法を学ぶ。			
第4回 基本ステップの習得(ハイインパクト)及び運動強度の変化要因 【 到達目標 】 基本ステップ(ハイインパクト)を習い、正確に動けるようにする。また運動強度を変化させる要因についても理解する。運動強度の高い40分プログラムを体験する。			第12回 グループワーク プログラムの作成・振り付け① 【 到達目標 】 グループワーク・・・各自が32カウントコンビネーションを作成し、それをつなげたプログラムを作る。			
第5回 メインエクササイズの目的・効果の理解 【 到達目標 】 メインエクササイズの目的・効果を理解する。エアロビックダンスの特性について学ぶ。30分プログラムを目標心拍数を計脈しながら体験する。			第13回 グループワーク プログラムの作成・振り付け② 【 到達目標 】 グループワーク・・・下肢の動きに、上肢の動き、方向の変化を加えるなど、バリエーションをつけプログラムを完成させる。			
第6回 ウォーミングアップの目的・効果の理解 【 到達目標 】 ウォーミングアップの目的・効果を理解し、そこに含まれるストレッチングについて学ぶ。より複雑な30分プログラムを体験する。			第14回 実技発表および評価 【 到達目標 】 これまで取り組んできたプログラムを発表し、意見交換をする。			
第7回 エアロビックダンス指導法①(キューイングの理解・背面指導) 【 到達目標 】 エアロビックダンス特有の見本の動きを実施しながら指導するテクニックを学び、グループ指導の演習をする。			第16回 理論理解の確認とエアロビックダンス指導者のめざすもの 【 到達目標 】 エアロビックダンス全般の理論を復習し、エアロビックダンス指導に必要なことを再確認する。			
第8回 エアロビックダンス指導法②(規定コンビネーション指導) クーリングダウンの目的・効果の理解 【 到達目標 】 演習してきた指導テクニックをもとに、規定の32カウントコンビネーションをグループに対して指導し、指導内容についてフィードバックを受ける。 クーリングダウンの目的・効果を理解する。						

次ページに続く

科目名	ダンス・ファンダメンタル			担当者	岩淵多喜子・國本眞由子 蛭間 純子	
英文名	Dance Fundamental					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2				専門基礎・必修	
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 身近にあるダンスの素① 【 到達目標 】 あるく、はしる、とぶ、ころがる…何でもダンスになってしまう。ダンスについてのイメージを刷新する。			第24回 イメージとダンス① 【 到達目標 】 動きの中から生まれるイメージを引き出し、これを大切に動く。			
第17回 身近にあるダンスの素② 【 到達目標 】 モノが引き出す身体の動きを体験し、ダンスにはいろいろな入口があることを知る。			第25回 イメージとダンス② 【 到達目標 】 特定のイメージを表すための動き方を探り、最大限に効果的な動き方を体験する。			
第18回 舞踊文化(舞踊の歴史と地理)を体験しよう 【 到達目標 】 ダンスが生まれてきた場面を想像し、人々の暮らしとダンスの関係を考えながら動く。			第26回 課題による身体表現に挑戦！①規定ムーブメント 【 到達目標 】 課題ムーブメントを習得し、各自にとっての努力目標を見極める。			
第19回 からだのつくりと動きの関係① 上肢 体幹 【 到達目標 】 上肢や体幹の持つ機能や動きの特性とイメージの関係を体験する。			第27回 課題による身体表現に挑戦！②独自表現のグループ創作 【 到達目標 】 独自表現のパートをグループで考案する。イメージ通りに動くことができているか、仲間の意見も取り入れる。			
第20回 からだのつくりと動きの関係② 下肢 体幹 【 到達目標 】 下肢や体幹の持つ機能や動きの特性とイメージの関係を体験する。			第28回 課題による身体表現に挑戦！③独自表現のグループ創作 【 到達目標 】 独自表現のパートをグループで考案する。イメージ通りに動くことができているか、仲間の意見も取り入れる。			
第21回 空間と動き 【 到達目標 】 動きが持つ空間的特質に注目し、イメージとの関係を体験する。			第29回 課題による身体表現に挑戦！④完成 【 到達目標 】 全体を一貫して踊れるようにする。集中して踊りきるための練習をする。			
第22回 ひとりで動く VS みんなで動く 【 到達目標 】 複数の人が共に動く様々なパターンを体験し、その広がりを知る。			第30回 課題による身体表現に挑戦！⑤発表と講評 【 到達目標 】 発表と相互講評。発表会を行い、成果について意見交換をする。			
第23回 音楽とダンス 【 到達目標 】 動きをびったりあわせたり、わざと崩したり、無音で動いたり、音楽とダンスの様々な関係を体験し、ダンスを豊かにする音楽の活用法を知る。						
【授業時間外学習】 (前半)日常生活の中でできるだけ積極的に身体を動かすことを心がけ、有酸素能力、筋持久力、柔軟性の向上に努める。 (後半)エアロビックダンスやダンスに常に興味を持ち、怪我の予防のためにも、普段からストレッチ運動を行うよう努める。授業ノートを完成させて次回に臨む。						
【学習上の留意点】 積極的に取り組み、エアロビックダンスやダンスムーブメントを身体で習得する必要がある。						
【教科書・参考書など】 (前半) 参考書：健康運動実践指導者養成用テキスト 著：財団法人健康・体力づくり事業財団 (後半) 特になし。						
【関連科目】 (前半)レジスタンス・エクササイズ、スポーツ方法実習A(体操・器械運動)、(後半)エアロビクス・エクササイズ、ダンス・メソッド						
【成績評価方法】 (前半) 提出物20%、実技試験20%、筆記試験20%、授業における課題達成度40%で総合的に評価する。 (後半) 提出物10%、実技試験30%、授業における課題達成度60%で総合的に評価する。 両方を統合して成績判定する。						

科目名	発育発達論				担当者	井筒紫乃	
英文名	Growth and Development						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
【目的とねらい】 ヒトの一生における発育発達と老化の特性についての知識を身につけるとともに、それぞれの年齢における発育発達特性を考慮したスポーツへの取り組みや運動指導の重要性を理解する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 発育発達概念 【 到達目標 】 (1)授業の進め方、諸注意、参考図書等について理解する。 【授業時間外学習】 発育発達に関する予備知識について書籍等で予習する。			第9回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性5 【 到達目標 】 (1)青年期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)インディペンデント・エイジ期の運動との関わりを理解する。 【授業時間外学習】 第8回の授業内で提示した専門用語について予習する。				
第2回 人類学からみた発育発達 【 到達目標 】 (1)生物の誕生からヒトはどのように進化してきたのか理解する。 (2)人類の進化に興味を持つ。 【授業時間外学習】 第1回の授業内で提示した専門用語について予習する。			第10回 女性の身体的特性1 【 到達目標 】 (1)女性の身体的特性、性周期を理解する。 (2)貧血のメカニズムを理解する。 【授業時間外学習】 第9回の授業内で提示した専門用語について予習する。				
第3回 形態・体格指数と生物学的年齢 【 到達目標 】 (1)発育を評価するための形態指数・体格指数、生物学的年齢について理解する。 【授業時間外学習】 第2回の授業内で提示した専門用語について予習する。			第11回 女性の身体的特性2 【 到達目標 】 (1)女性アスリートの3主徴の問題について理解する。 (2)女性アスリートの加齢変化について理解する。 【授業時間外学習】 第10回の授業内で提示した専門用語について予習する。				
第4回 受精から誕生そして歩行獲得までの発育発達特性 【 到達目標 】 (1)胎児の発育について理解する。 (2)乳児期の身体的・心理的・社会的特性について理解する。 【授業時間外学習】 第3回の授業内で提示した専門用語について予習する。			第12回 妊娠・出産 【 到達目標 】 (1)妊娠と出産について理解する。 【授業時間外学習】 第11回の授業内で提示した専門用語について予習する。				
第5回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性1 【 到達目標 】 (1)幼児期前期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)運動神経の発達特性について理解する。 【授業時間外学習】 第4回の授業内で提示した専門用語について予習する。			第13回 中高年期のからだどころ 【 到達目標 】 (1)中高年期の身体的特性とエイジングについて理解する。 【授業時間外学習】 第12回の授業内で提示した専門用語について予習する。				
第6回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性2 【 到達目標 】 (1)幼児期後期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)プレゴールデンエイジ期の運動との関わり方を理解する。 【授業時間外学習】 第5回の授業内で提示した専門用語について予習する。			第14回 加齢に伴う体力・運動能力の変化 【 到達目標 】 (1)加齢に伴う身体的・心理的・社会的特性、体力・運動能力の変化について理解する。 【授業時間外学習】 第13回の授業内で提示した専門用語について予習する。				
第7回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性3 【 到達目標 】 (1)学童期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)ゴールデンエイジ期の運動との関わり方を理解する。 【授業時間外学習】 第6回の授業内で提示した専門用語について予習する。			第15回 ライフステージと生涯スポーツ 【 到達目標 】 (1)運動継続のためのスポーツへの関わりについて理解する。 (2)それぞれのステージでの運動プログラムを作成する。 【授業時間外学習】 作成したノートを整理する。				
第8回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性4 【 到達目標 】 (1)思春期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)ポストゴールデンエイジ期の運動との関わりを理解する。 【授業時間外学習】 第7回の授業内で提示した専門用語について予習する。							
【学習上の留意点】 授業ノートを作成し、要点を自分なりにわかりやすくまとめ、後で読み返しても十分理解できるように工夫すること。また、どんな小さなこと、細かいことにも興味を持って受講し、疑問があれば積極的に質問すること。 ※2014年度入学生までは、科目名「身体発達」							
【教科書・参考書など】 教科書：指定しない							
【関連科目】							
【成績評価方法】 定期試験の成績70%、ノート作成の内容20%、毎授業後のレポート10%で評価する。 なお、試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	スポーツ運動学				担当者	石塚 浩	
英文名	Sport Movement Theory						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	専門基礎・必修	専門基礎・選択	専門基礎・選択		
【目的とねらい】 運動技術の階層概念について認識を深め、他の要因である体力や戦術との相互関係について、さらに体力の内容と技術や戦術との関連性が深い専門的体力について理解する。さらに、戦術の特性とそのゲシュタルトの捉え方について理解を深める。一方で、運動構造について局面構造を理解し、さらに動感（キネステーズ）との関連から「コツ」や「カン」の発生について理解を深める。また、運動の習熟過程として「できない」から「いつでも上手にできる」に至るまでの位相構造について、実践的に理解する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 運動技能の構造 【 到達目標 】 運動技能を構成する要因である「技術」「戦術」「体力」の関係について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。			第9回 運動技能の構造に関する諸要因とその関連性 【 到達目標 】 運動技能の構造に関する諸要因を理解し、個々の要因との関連を関連づけながら理解を深める。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。				
第2回 技術や戦術と専門的体力の関係 【 到達目標 】 複合した要因となる専門的体力について技術の側面、また戦術の側面について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。			第10回 運動の構造(局面構造に着目して) (1) 【 到達目標 】 運動形式(循環性運動、非循環性運動、運動組み合わせ)から、その構造と実際のスポーツ場面での応用について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。				
第3回 運動技能と発育発達との関係 【 到達目標 】 年齢段階によって運動技能を構成する要因を育成する方向性に変化があることを理解し、自己の経験と比較対照する。 【授業時間外学習】 中学・高校での「運動経験」と配布プリントの内容との照合。			第11回 運動の構造(リズム構造に着目して) (2) 【 到達目標 】 運動の構造に関する具体例について分析・検討し、実習授業等で課題となっている内容について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。				
第4回 宮本武蔵の「五輪書」や孫子の「兵法」における技術と戦術 【 到達目標 】 武道という日本古来の古書から技術、戦術の分類をし、また中国の孫子の兵法からも理解を深める。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。			第12回 運動技能の上達過程「できない」から「できる」の階層 【 到達目標 】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、粗協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。				
第5回 戦術に関する要因とその具体例(1) 【 到達目標 】 代表的なスポーツ種目における戦術を取り上げるとともに、戦略、作戦といった概念についても理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。			第13回 運動技能の上達過程「できる」から「上手にできる」の階層 【 到達目標 】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。				
第6回 戦術に関する要因とその具体例(2) 【 到達目標 】 技術の獲得と戦術を利用した指導場面から、その基礎となる「状況判断能力」と、その代表的なモデル例を理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。			第14回 運動技能の上達過程「上手にできる」から「いつでも上手にできる」の階層 【 到達目標 】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、最高精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。				
第7回 技術練習の方法 【 到達目標 】 技術練習を行う際の手順に隠されている運動表象、運動投企、運動記憶といった概念を知り、動きのコツ獲得の方法論を理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。			第15回 運動技能の上達過程における「コツ」と「カン」の獲得 【 到達目標 】 運動技能の上達過程で発生する「コツ」や「カン」について、実践例を映像資料などから分析し、総合的に理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。				
第8回 戦術練習の方法 【 到達目標 】 戦術練習を行う際に必要な「アイコンタクト」「トライアングル」「サポーティング」「コーチング」という内容を理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。							
【学習上の留意点】 スポーツ運動学における発生論、構造論、伝承論の領域を相互関連的に理解する必要があり、板書を写すだけでは表層的な理解に留まる恐れがある。自らメモをとるとともに、自己のスポーツやダンスの経験と照らし合わせながら理解することが最も重要である。また、書く力、表現する力といった総合的な能力を陶冶することが求められる。さらに、スポーツ運動学では、一つの正解を覚える、または、一つの正解しかないという発想を捨てることが求められる。							
【教科書・参考書など】 教科書：「教師のための運動学」金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店） 参考書：「マイネル スポーツ運動学」K. マイネル著、金子明友訳（大修館書店） 「運動学講義」金子明友、朝岡正雄・編著（大修館書店）、「スポーツ運動学序説」朝岡正雄・著（不味堂出版）							
【関連科目】 スポーツ方法実習A（体操・器械運動）、スポーツ方法実習B（陸上競技・水泳）、スポーツ方法実習C（バスケットボール・バレーボール）、スポーツコーチング論、スポーツ技術論、スポーツ戦術論、スポーツコンディショニング論、トレーニング計画論、運動技能評価法など							
【成績評価方法】 全体の20％は教回配付される授業内容の考察用紙の内容、小テストの結果、授業時の挙手による、または、指名による回答であり、残りの80％はレポートもしくは試験の結果から評価する。試験の場合は、試験期間中に別途実施。							

科目名	スポーツ原論			担当者	都 筑 真	
英文名	Principle of Sports					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別	専門基礎・必修		専門基礎・選択	
【目的とねらい】 本講義では、古代から現代に至るまでのスポーツや体育の展開を概観しながら、これまでのスポーツや体育の在り様や諸問題について理解を深めることを目的とする。これまでのスポーツや体育の在り様を学ぶことを通じて、現在のスポーツや体育が抱える諸問題をより深く理解し、さらにそのことを通じて、これからのスポーツや体育の在り方を考察することをねらいとする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 (1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。 【授業時間外学習】 参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。			第9回 体育の理念の変遷 【 到達目標 】 (1)体育の理念の変化と、体育において求められる人間像の変化について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第2回 古代のスポーツ 【 到達目標 】 (1)ギリシャやローマなどの古代のスポーツの在り様を理解し、現在のスポーツとの類似点や相違点について考察する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			第10回 社会変化と今後の体育 【 到達目標 】 (1)社会の変化やスポーツ需要の変化を理解し、今後の体育の在り方について考察する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第3回 中世のスポーツ 【 到達目標 】 (1)ヨーロッパや日本などの中世のスポーツの在り様を理解し、現在のスポーツとの類似点や相違点について考察する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			第11回 スポーツのグローバリゼーションとナショナリズム 【 到達目標 】 (1)スポーツのグローバリゼーションの背景や具体例を踏まえ、この現象がもたらす長所や問題点について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第4回 近代のスポーツ① 【 到達目標 】 (1)イギリスにおける近代スポーツの発展過程を理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			第12回 スポーツと政治 【 到達目標 】 (1)スポーツ界が掲げる「政治のスポーツへの不介入」という理想と現実の乖離について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第5回 近代スポーツ② 【 到達目標 】 (1)近代スポーツが国際的に普及していく過程を理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			第13回 スポーツとドーピング 【 到達目標 】 (1)スポーツ界におけるドーピング問題とアンチ・ドーピングの取り組みを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第6回 近代オリンピックの創始 【 到達目標 】 (1)近代オリンピックが何故創始されたのかを理解する。 (2)日本の近代オリンピックとの関わりを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			第14回 スポーツとジェンダー 【 到達目標 】 (1)スポーツ界における男性中心主義とそれを解消する取り組みについて理解する。 (2)性の多様な在り方が引き起こす問題について考察する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第7回 近代オリンピック開催を脅かしてきた様々な問題 【 到達目標 】 (1)戦争、テロ、ボイコットなど近代オリンピックの開催を脅かしてきた問題について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			第15回 「スポーツ・フォー・オール」運動 【 到達目標 】 (1)ヨーロッパにおける「スポーツ・フォー・オール」運動の背景や展開、そしてその影響を受けて日本で展開されてきた「生涯スポーツ」の推進について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。			
第8回 体育とスポーツの違いと体育の目的 【 到達目標 】 (1)体育とスポーツの概念を整理し、両者の違いを理解する。 (2)体育は何を目的として行われているのかを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。						
【学習上の留意点】 講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義では毎回、講義内容の理解を深めるために、小レポートを課す。「スポーツ史」と併せて履修することが望ましい。						
【教科書・参考書など】 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。 『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『教養としての体育原理』（友添秀則／岡出美則編、大修館書店）を講義の参考書として利用すること。						
【関連科目】 スポーツ史						
【成績評価方法】 講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	社会福祉			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Social Welfare					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1				専門基礎・選択	
【目的とねらい】 目的：生涯スポーツの基礎となる社会福祉の理論と施策を学ぶ。 ねらい：21世紀に入り、日本では少子高齢社会が加速度的に進み、多様な生活問題のリスクが増えつつある。社会福祉にかかわる基本的知識を習得し、ライフステージに立った対象者の生活課題とその支援について理解することをねらいとする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 (1) 社会福祉の理念と歴史の変遷を理解する。 (2) 現代社会における社会福祉の意義を考える。 【授業時間外学習】 テキスト・資料等の復習。福祉に関連したニュース報道に目を向ける。ボランティア体験。			第9回 障害者とスポーツ 【 到達目標 】 (1) 障害者スポーツの歴史を知る。 (2) 障害のある人とスポーツの福祉的意義について、当事者を招いてともに考える。 【授業時間外学習】 テキスト・資料等の復習。福祉に関連したニュース報道に目を向ける。ボランティア体験。			
第2回 少子高齢社会 【 到達目標 】 (1) 少子高齢化の進行をめぐる社会の変容について理解する。 (2) 少子高齢化社会への対応と今後の課題を考える。 【授業時間外学習】 テキスト・資料等の復習。福祉に関連したニュース報道に目を向ける。ボランティア体験。			第10回 障害分野の課題と支援（1） 【 到達目標 】 (1) 障害の概念を理解する。 (2) 発達障害のある子どもへの理解を深め、具体的な支援方法について知る。 【授業時間外学習】 テキスト・資料等の復習。福祉に関連したニュース報道に目を向ける。ボランティア体験。			
第3回 現代の生活問題 【 到達目標 】 (1) 現代の生活問題とその対応について、多角的に理解する。 (2) 日常的に社会福祉の動向と課題を捉え、主体的に考察できる。 【授業時間外学習】 テキスト・資料等の復習。福祉に関連したニュース報道に目を向ける。ボランティア体験。			第11回 障害分野の課題と支援（2） 【 到達目標 】 (1) 「障害者総合支援法」など、障害福祉施策について理解する。 (2) 障害児者家族への支援について考える。 【授業時間外学習】 テキスト・資料等の復習。福祉に関連したニュース報道に目を向ける。ボランティア体験。			
第4回 権利擁護と虐待防止（1） 【 到達目標 】 (1) 「児童の権利条約」「障害者の権利条約」など、国際的取り組みについて理解する。 (2) 児童虐待の防止、障害者の虐待防止に関する一連の取り組みについて理解する。 【授業時間外学習】 テキスト・資料等の復習。福祉に関連したニュース報道に目を向ける。ボランティア体験。			第12回 差別と偏見の解消 【 到達目標 】 (1) 「障害者差別解消法」について理解する。 (2) マイノリティとマジョリティについて、当事者を招いてともに考える。 【授業時間外学習】 テキスト・資料等の復習。福祉に関連したニュース報道に目を向ける。ボランティア体験。			
第5回 権利擁護と虐待防止（2） 【 到達目標 】 (1) 成年後見制度など、権利擁護に関する一連の取り組みについて理解する。 (2) 高齢者の虐待防止、配偶者の暴力防止に関する一連の取り組みについて理解する。 【授業時間外学習】 テキスト・資料等の復習。福祉に関連したニュース報道に目を向ける。ボランティア体験。			第13回 生命倫理 【 到達目標 】 (1) 生殖補助医療の現状と課題を知る。 (2) 出生前診断について考える。 【授業時間外学習】 テキスト・資料等の復習。福祉に関連したニュース報道に目を向ける。ボランティア体験。			
第6回 児童分野の課題と支援（1） 【 到達目標 】 (1) 子ども・子育て支援施策、母子保健施策について理解する。 (2) 子どもの豊かな育ちを支援することについて考える。 【授業時間外学習】 テキスト・資料等の復習。福祉に関連したニュース報道に目を向ける。ボランティア体験。			第14回 高齢者への支援（1） 【 到達目標 】 (1) 介護福祉の歴史と概念について知る。 (2) 介護保険制度について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト・資料等の復習。福祉に関連したニュース報道に目を向ける。ボランティア体験。			
第7回 児童分野の課題と支援（2） 【 到達目標 】 (1) 要保護児童対策について理解する。 (2) 非行児童、情緒障害児への支援について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト・資料等の復習。福祉に関連したニュース報道に目を向ける。ボランティア体験。			第15回 高齢者への支援（2） 【 到達目標 】 (1) 高齢者福祉のサービス体系について理解する。 (2) 高齢者を支援することについて考える。 【授業時間外学習】 テキスト・資料等の復習。福祉に関連したニュース報道に目を向ける。ボランティア体験。			
第8回 貧困問題と社会的包摂 【 到達目標 】 (1) 「貧困」「格差」に関わる諸問題(ニート・ワーキングプア・ホームレスなど)を知る。 (2) 生活保護制度、生活困窮者への支援について理解し、社会的包摂について考える。 【授業時間外学習】 テキスト・資料等の復習。福祉に関連したニュース報道に目を向ける。ボランティア体験。						
【学習上の留意点】 社会福祉の内容は多岐にわたり、理論も施策も複雑である。この授業ではそれらを理解し、健康スポーツ学専攻の基礎となる内容を中心としている。生涯スポーツについて学んでゆく際の基礎知識として身につけてほしい。						
【教科書・参考書など】 「社会福祉原論～現代社会福祉の課題を理解する」加藤洋子・工藤隆治編著／雨宮由紀枝ほか共著（ふくろう出版） 別途資料を配布する。						
【関連科目】 日常生活の法律、障害者スポーツ論、健康福祉スポーツ論（高齢者）						
【成績評価方法】 各回の授業時での課題60%、理解度確認のための試験結果を40%として評価する。 試験期間中に期末試験を行う。						

科目名	スポーツバイオメカニクス			担当者	湯 田 淳	
英文名	Sport Biomechanics					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別	専門基礎・選択		専門基礎・選択	
【目的とねらい】 日常の動作からスポーツにいたる様々な身体運動を、力学的観点から解明する領域がスポーツバイオメカニクスである。本講義では、力学の基礎知識や必要な計測法などについて学び、それに基づいて具体的なからだの動きやスポーツ場面の運動について解説する。なお、本講義のより良い理解のためには、1年次で履修した機能解剖学による身体構造に関する基礎的知識の習得が必須である。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 スポーツバイオメカニクス概論（スポーツバイオメカニクスの位置づけ） 【 到達目標 】 (1)スポーツバイオメカニクスとはどのような学問であり、何を学ぶかを理解する。 【授業時間外学習】 スポーツバイオメカニクスに関連する書籍を確認する。			第9回 身体の構造 【 到達目標 】 (1)様々な関節の特徴を動きと関連づけて把握する。 (2)筋の収縮様式を理解し、動きと関連づけて説明できる。 【授業時間外学習】 筋骨格系の構造について把握する。			
第2回 スポーツバイオメカニクス概論（スポーツバイオメカニクスの捉え方） 【 到達目標 】 (1)身体運動の分析へのバイオメカニクスのアプローチを把握する。 【授業時間外学習】 他の関連学問との分析方法の違いについて検討する。			第10回 上肢および肩甲骨の運動 【 到達目標 】 (1)上肢の関節（肩、肘、手関節）および肩甲骨における動きを、それに関与する筋の働きとともに理解し、スポーツ現場におけるトレーニングに役立てることができる。 【授業時間外学習】 上肢の関節の運動に関係する筋を把握する。			
第3回 スポーツバイオメカニクスの活用法（映像の活用法） 【 到達目標 】 (1)定量的および定性的分析についてそれぞれの特徴を理解する。 【授業時間外学習】 各種計測機器の特徴を把握する。			第11回 下肢および骨盤帯の運動 【 到達目標 】 (1)下肢の関節（股、膝、足関節）および骨盤帯における動きを、それに関与する筋の働きとともに理解し、スポーツ現場におけるトレーニングに役立てることができる。 【授業時間外学習】 下肢の関節の運動に関係する筋を把握する。			
第4回 スポーツバイオメカニクスの活用法（映像活用の実際） 【 到達目標 】 (1)映像を用いた動作改善法について理解し、バイオメカニクスがスポーツ現場でどのように活用されているかを把握する。 【授業時間外学習】 様々なスポーツにおけるバイオメカニクスの分析の活用事例を把握する。			第12回 運動・動作の力学的解釈 【 到達目標 】 (1)姿勢とモーメントの関係について理解し、説明できる。 (2)力学的データとパフォーマンスとの関係について理解し、スポーツバイオメカニクスにおける研究成果をスポーツ現場に活かす方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 スポーツ現場において、どのようなスポーツバイオメカニクスのデータが収集されているかを把握する。			
第5回 運動の力学（力の作用、ニュートンの運動の法則） 【 到達目標 】 (1)力の要素について理解し、力の作用によってどのような運動が生じるかを説明できる。 (2)ニュートンの運動の法則を理解し、スポーツ活動における運動の説明に活用できる。 【授業時間外学習】 親学問となる力学について、関連書籍等を用いてその概要を把握する。			第13回 スポーツバイオメカニクスにおける計測（動作分析におけるデータ収集法） 【 到達目標 】 (1)動作分析が具体的にどのように行われるかを把握する。 (2)動作分析における様々な座標算出法について理解する。 【授業時間外学習】 動作分析のためのデータ収集において、どのような機器が使用されているのかを把握する。			
第6回 運動の力学（静的なつりあい、求心力、流体力） 【 到達目標 】 (1)回転運動において発生する力について説明できる。 (2)流体力について理解し、空気抵抗について説明できる。 【授業時間外学習】 親学問となる力学について、関連書籍等を用いてその概要を把握する。			第14回 スポーツバイオメカニクスにおける計測（動作分析におけるデータ算出法） 【 到達目標 】 (1)身体重心や関節角度などの各種パラメータの算出方法について把握する。 【授業時間外学習】 スポーツバイオメカニクスにおいて、どのようなパラメータを算出することができるのかを把握する。			
第7回 運動の力学（運動量と力積、運動と力のモーメント） 【 到達目標 】 (1)運動量と力積の関係について説明できる。 (2)運動における力のモーメントの効果について説明できる。 【授業時間外学習】 親学問となる力学について、関連書籍等を用いてその概要を把握する。			第15回 スポーツバイオメカニクスとスポーツ活動 【 到達目標 】 (1)講義で取り上げたスポーツバイオメカニクスの学習内容について理解し、自己のスポーツ活動や関連領域における学習内容のより良い理解に役立てることができる。 【授業時間外学習】 自身の専門とするスポーツ種目におけるバイオメカニクスのデータの活用事例を把握する。			
第8回 運動の力学（運動と角運動量、よい動きのバイオメカニクスの原則） 【 到達目標 】 (1)角運動量について理解し、それに影響を及ぼす要因について説明できる。 (2)よい動きのバイオメカニクスの原則について、例を用いて説明できる。 【授業時間外学習】 親学問となる力学について、関連書籍等を用いてその概要を把握する。						
【学習上の留意点】 授業はパワーポイントを用いて進められ、毎回の授業において内容に関する資料が配付される。受講者は講義内容における必要な箇所を素早く資料に書き取り、自分用のスポーツバイオメカニクスノートとしてまとめあげる努力が求められる。また、ほぼ毎回、その回の講義内容に関する小課題を実施する。受講者はただ単にノートをとるだけではなく、講義内容についての理解も求められる。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配付する。 「スポーツバイオメカニクス20講」 阿江通良・藤井範久・著（朝倉書店） 「目でみる動きの解剖学 新装版」 ロルフ・ヴィルヘルド・著、金子公有・松本迪子・訳（大修館書店）						
【関連科目】 機能解剖学						
【成績評価方法】 小課題を60%、期末試験を40%の割合として評価する（試験は試験期間中に別途実施）。						

科目名	スポーツ栄養学			担当者	古泉佳代	
英文名	Sports Nutrition					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別			専門基礎・選択	
【目的とねらい】 日常の食生活が体格や健康状態に影響を及ぼすこと、すなわちウェイトコントロール、骨密度の増加、貧血を予防するためには日常生活において食生活と健康運動とのかわりが重要であることに気付く。そして炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル、水に関する知識を習得し、代謝のメカニズムを理解する。さらに身体活動量の定量方法に関する知識を習得し、理解する。栄養・食事アセスメントの目的、方法、栄養・食事ケアの結果を理解し、日常生活での実践を目指す。さらに、学校や地域での指導者としての能力を養う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 (1)「健康的な食事」について考えることができる。 (2)「食」とスポーツの関係を考えることができる。 【授業時間外学習】 一日の食事を見直す。			第9回 からだづくりとウェイトコントロール④たんぱく質2 【 到達目標 】 (1)必須アミノ酸を説明できる。 (2)アミノ酸価を算出し、たんぱく質の質を理解できる。 【授業時間外学習】 「いつ」「何を」食べるかを考えて食事をする。			
第2回 栄養バランスの評価① 【 到達目標 】 (1)栄養バランスの評価方法を理解する。 (2)自分の一日の食事の栄養バランスを評価できる。 【授業時間外学習】 一日の食事の栄養バランスを見直す。			第10回 エネルギー摂取と消費からダイエットを考える① 【 到達目標 】 (1)体重の増減とエネルギー消費と摂取の関係を理解できる。 (2)様々な身体組成の測定方法の長所と短所に気付く。 【授業時間外学習】 身体組成の測定をする。			
第3回 栄養バランスの評価② 【 到達目標 】 (1)期分けによる食事の違いに気付く。 (2)様々な状況下での食事を考えることができる。 【授業時間外学習】 一日の食事の栄養バランスを見直す。			第11回 エネルギー摂取と消費からダイエットを考える② 【 到達目標 】 (1)サプリメントとエルゴジェニックエイドの特徴を理解する。 (2)食事、食品の安全性に関する様々な視点を理解する。 【授業時間外学習】 サプリメント、エルゴジェニックエイドについてインターネットを利用し調べる。			
第4回 水分補給① 【 到達目標 】 (1)飲み物の糖度を測定し「味覚」に気付く。 (2)糖度や甘さと炭水化物の量の関係を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ中の水分補給を実践する。			第12回 エネルギー摂取と消費からダイエットを考える③ 【 到達目標 】 (1)骨障害、月経障害、摂食障害の関係を説明できる。 (2)エネルギー有用性を理解できる。 【授業時間外学習】 ミネラル(鉄・カルシウム)の摂取を意識して食事をする。			
第5回 水分補給② 【 到達目標 】 (1)運動時の水分補給について理解する。 (2)飲み物について多面的に考えることができる。 【授業時間外学習】 スポーツ中の水分補給を考え実践する。			第13回 「いつ」「どのように」「何を」食べるのかを考える① 【 到達目標 】 (1)エネルギー消費量を把握する方法を説明できる。 (2)運動強度と時間の関係を理解できる。 (3)一日のエネルギー消費量を算出できる。 【授業時間外学習】 運動強度を意識して生活する。			
第6回 からだづくりとウェイトコントロール①炭水化物 【 到達目標 】 (1)炭水化物の種類と吸収の関係を理解できる。 (2)炭水化物の摂取方法について考えることができる。 【授業時間外学習】 様々な主食の量を計測して、適切な量を把握する。			第14回 「いつ」「どのように」「何を」食べるのかを考える② 【 到達目標 】 (1)グリコーゲンローディングを説明できる。 (2)血糖値と食事の関係を理解できる。 【授業時間外学習】 「いつ」「どのように」「何を」食べるのかを意識して生活する。			
第7回 からだづくりとウェイトコントロール②ビタミン 【 到達目標 】 (1)ビタミンの特徴を説明できる。 (2)食事におけるビタミンB群の摂取方法について考えることができる。 【授業時間外学習】 「いつ」「どのように」食べるかを考えて食べる。			第15回 試合前後の食事 【 到達目標 】 (1)試合を想定して、自分の食事を考えることができる。 【授業時間外学習】 自分自身の期分けに沿って食生活をまとめ、実践する。			
第8回 からだづくりとウェイトコントロール③脂質・たんぱく質1 【 到達目標 】 (1)脂質の質を理解し、摂取方法を考えることができる。 (2)たんぱく質の種類とたんぱく質の質を理解できる。 (3)たんぱく質の摂取方法について考えることができる。 【授業時間外学習】 たんぱく質と炭水化物を同時に摂れる献立を考え、調理する。						
【学習上の留意点】 講義ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、さらに口頭でその詳細を説明する。受講者は提示された要点のみをノートに書き写すだけでなく、積極的にメモをとること。配布されたプリントはファイリングする等、各自整理して保存し、テストに備えること。簡単な測定や実験を授業内で行うことがあるが、持ち物等に関しては事前に説明するので、忘れずに用意すること。 授業にとどまらず、日常生活での自分自身の食事に興味を持ち、実践することがスポーツ栄養学を理解する近道である。						
【教科書・参考書など】 ・「ビジュアルワイド食品成分表 文部科学省科学技術・学術審議会 資源調査分科会 報告 五訂増補日本食品標準成分表」東京書籍 ・計算が苦手な受講者は電卓を用意しておくこと ・参考図書に関しては授業内で適宜、紹介する						
【関連科目】						
【成績評価方法】 原則として期末テストの結果(100%)で評価する。 試験は試験期間中に別途実施する。 出席を重視するため、良好な出席状況は当然である。						

科目名	精神発達			担当者	酒井久実代	
英文名	Developmental Psychology					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の區別			専門基礎・選択	
【目的とねらい】 本講義は、子どもから大人、老人に至るまでの精神発達を生涯発達心理学の枠組みで学習することを目的とする。乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人前期、中年期、老年期の各発達時期における知的発達と対人関係や感情の発達について取り上げる。各時期の発達課題とそれらに対する対処について理解し、生まれてから老人になるまでの一生涯の精神発達についての展望をもてるようにする。様々な年代の人たちに運動やスポーツなどを指導するための基礎的な知識を得ることがねらいである。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 胎児期・新生児期の知覚 【到達目標】 (1)胎児・新生児の知覚の特徴と乳児期の微笑の発達を理解する。 (2)妊婦のアルコール・タバコの摂取による胎児への影響を知る。 【授業時間外学習】 胎児・新生児の知覚発達に関する課題を行う。			第9回 思春期の性的受容と対人関係、青年期の知的発達 【到達目標】 (1)性的成熟の受容と対人関係の発達について理解する。 (2)思考の発達とアイデンティティの確立について理解する。 【授業時間外学習】 思春期の性的成熟と青年期の発達に関する課題を行う。			
第2回 乳児期の性格の違いと愛着の発達 【到達目標】 (1)乳児の気質の違いと母親の個人特性について理解する。 (2)愛着の発達段階を理解する。 【授業時間外学習】 乳児の気質と愛着の発達に関する課題を行う。			第10回 恋愛の発達と親密性の発達 【到達目標】 (1)恋愛の発達の变化について理解する。 (2)親密性の達成について理解する。 【授業時間外学習】 恋愛の発達と親密性の達成に関する課題を行う。			
第3回 愛着の個人差と乳幼児期の遊びの発達 【到達目標】 (1)愛着の個人差と養育者の要因について理解する。 (2)遊びと精神発達との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 愛着の個人差、遊びの発達に関する課題を行う。			第11回 成人期の発達1 【到達目標】 (1)仕事を選ぶこと・続けることについて理解する。 (2)親となることについて理解する。 【授業時間外学習】 仕事につくこと・親になることの理解に関する課題を行う。			
第4回 幼児期の言葉の発達と記憶容量 【到達目標】 (1)乳幼児期の言葉の発達過程を理解する。 (2)幼児期の記憶容量について理解する。 【授業時間外学習】 言葉の発達と記憶に関する課題を行う。			第12回 成人期の発達2 【到達目標】 (1)仕事と育児の両立について理解する。 (2)ワーク・ライフ・バランスについて理解する。 【授業時間外学習】 仕事と育児の両立、ワーク・ライフ・バランスの理解に関する課題を行う。			
第5回 感情の発達 【到達目標】 (1)乳幼児期の感情の発達について理解する。 (2)感情調節の発達について理解する。 【授業時間外学習】 乳幼児期の感情の発達と感情調節に関する課題を行う。			第13回 中年期の発達の特徴と危機 【到達目標】 (1)中年期の身体的・知的発達の特徴について理解する。 (2)中年期の対人関係について理解する。 【授業時間外学習】 中年期の発達の理解に関する課題を行う。			
第6回 幼児期の発達の特徴 【到達目標】 (1)反抗期、自己主張、自己制御について理解する。 (2)幼児期から児童期の知的発達に関する理論を理解する。 【授業時間外学習】 幼児の発達の理解に関する課題を行う。			第14回 高齢期の発達の特徴 【到達目標】 (1)高齢期の知的・性格の特徴について理解する。 (2)長寿者の特徴について理解する。 (3)高齢期の対人関係について理解する。 【授業時間外学習】 高齢期の発達の理解に関する課題を行う。			
第7回 児童期の自己概念と仲間関係の発達 【到達目標】 (1)自己概念、自己評価の発達について理解する。 (2)仲間関係の発達について理解する。 【授業時間外学習】 児童期の自己概念と仲間関係に関する課題を行う。			第15回 生涯にわたる発達 【到達目標】 (1)思考の発達理論について理解する。 (2)人格の発達理論について理解する。 【授業時間外学習】 生涯発達の理論に関する課題を行う。			
第8回 友人関係の発達と児童期における学習の目標 【到達目標】 (1)児童期の友人関係の発達について理解する。 (2)児童期における学習の目標について理解する。 【授業時間外学習】 友人関係の発達と学習目標に関する課題を行う。						
【学習上の留意点】 講義はパワーポイントを用い、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながら、メモを取り、自分なりのノートを作成する。感情発達に関する事例を複数読み、理解を深める。毎回、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題の内容は期末テストと対応しているため、しっかり復習すること。						
【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 毎回出す課題提出30%、期末テスト（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。						

科目名	体力トレーニング論			担当者	佐伯徹郎	
英文名	Theory of Exercise Training					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別			専門基礎・選択	
【目的とねらい】 体力トレーニングの理論と実際について、パフォーマンス（運動能力、競技力）の構成要素である心技体の位置づけから理解し、トレーニングの原理原則および実施手順、そして体力および技術等に関するスポーツ科学的知見と関連付けて学習することを目的とする。また、体力の各要素および各トレーニング法について、体力学、バイオメカニクス、解剖学、運動生理学などの自然科学系の知識を活用して理解を深める。最終的に、受講生それぞれで体力トレーニング論が展開できることをねらいとする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業概要の説明：体力トレーニングとは？ 【 到達目標 】 体力トレーニングに関わる各学問分野および実践現場との関連性について理解し、自分の考えを示せるようになる。 【授業時間外学習】 体力トレーニングについて幅広く調査・考察する。			第9回 持久力トレーニング②：無酸素性能力 【 到達目標 】 体力の各要素およびトレーニング法について理解し、実践現場での具体例と関連付けて考えられるようになる。 【授業時間外学習】 無酸素性能力のトレーニング法について調査・考察する。			
第2回 体力の概念（パフォーマンスにおける位置づけなどを含む） 【 到達目標 】 体力の概念や種類について、パフォーマンス（運動能力、競技力）の構成要素である心技体の位置づけについて理解し、説明できるようになる。 【授業時間外学習】 体力の概念、スポーツパフォーマンスについて調査・考察する。			第10回 総合的な体力トレーニング 【 到達目標 】 総合的な体力トレーニング法について理解し、実践現場での具体例と関連付けて考えられるようになる。 【授業時間外学習】 総合的な体力トレーニング法について調査・考察する。			
第3回 体力の種類（要素、エネルギー系、一般性と専門性などを含む） 【 到達目標 】 体力の概念や種類について、パフォーマンス（運動能力、競技力）の構成要素である心技体の位置づけについて理解し、説明できるようになる。 【授業時間外学習】 体力の種類について調査・考察する。			第11回 体力トレーニングの進め方①：トレーニングの原理・原則 【 到達目標 】 トレーニングの進め方について、原理・原則、実施手順などの面から理解し、実践現場での具体例と関連付けて考えられるようになる。 【授業時間外学習】 体力トレーニングの原理・原則について調査・考察する。			
第4回 筋力トレーニング 【 到達目標 】 体力の各要素およびトレーニング法について理解し、実践現場での具体例と関連付けて考えられるようになる。 【授業時間外学習】 筋力トレーニングについて調査・考察する。			第12回 体力トレーニングの進め方②：トレーニングの実施手順 【 到達目標 】 トレーニングの進め方について、原理・原則、実施手順などの面から理解し、実践現場での具体例と関連付けて考えられるようになる。 【授業時間外学習】 体力トレーニングの実施手順について調査・考察する。			
第5回 スピードトレーニング 【 到達目標 】 体力の各要素およびトレーニング法について理解し、実践現場での具体例と関連付けて考えられるようになる。 【授業時間外学習】 スピードトレーニングについて調査・考察する。			第13回 対象者に応じた体力トレーニング① 【 到達目標 】 対象者の特性に応じた体力トレーニング法について理解し、実践現場での具体例と関連付けて考えられるようになる。 【授業時間外学習】 体力トレーニングの実際について調査・考察する。			
第6回 パワートレーニング 【 到達目標 】 体力の各要素およびトレーニング法について理解し、実践現場での具体例と関連付けて考えられるようになる。 【授業時間外学習】 パワートレーニングについて調査・考察する。			第14回 対象者に応じた体力トレーニング② 【 到達目標 】 対象者の特性に応じた体力トレーニング法について理解し、実践現場での具体例と関連付けて考えられるようになる。 【授業時間外学習】 自分の体力トレーニング法を考え実践する。			
第7回 柔軟性トレーニング 【 到達目標 】 体力の各要素およびトレーニング法について理解し、実践現場での具体例と関連付けて考えられるようになる。 【授業時間外学習】 柔軟性トレーニングについて調査・考察する。			第15回 体力トレーニングプログラムの作成 【 到達目標 】 対象者の特性、目的・目標を考慮・配慮した体力トレーニングについて自分の考えを論じ、具体的なプログラムを作成できるかどうかチェックする。 【授業時間外学習】 対象者を想定した体力トレーニング法を考え自分で試し、指導する。			
第8回 持久力トレーニング①：有酸素性能力 【 到達目標 】 体力の各要素およびトレーニング法について理解し、実践現場での具体例と関連付けて考えられるようになる。 【授業時間外学習】 有酸素性能力のトレーニングについて調査・考察する。						
【学習上の留意点】 体力トレーニングに関わる専門用語に慣れ、理解することで覚えることを目指すこと。 受講生は、自分の体験を振り返り、科学的知見をトレーニング実践に活用することを考えながら、メモを取り、レポート作成に活かすようにすること。 試験は、教員採用試験、健康運動関連資格試験に近い内容や形式で行なう。						
【教科書・参考書など】 配布資料、ビデオ視聴などによる。						
【関連科目】 運動処方論、スポーツ運動学						
【成績評価方法】 小テストおよびレポートの結果を20%、期末テストの結果を80%として評価する。 試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	衛生学・公衆衛生学			担当者	助友裕子	
英文名	Hygiene and Public Health					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
【目的とねらい】 我々の健康は、毎日呼吸する空気や飲む水、地球環境や自然環境、毎日の生活習慣や人間関係、地域や国の社会経済的要因などから強く影響を受けている。これらと健康の関わりを科学的に理解し（衛生学）、地域や国民の健康を実現するための対策について理解する（公衆衛生）ことが、この授業の目的である。これらの内容は、自立した社会生活を営むためや、学校にかかわるすべての人々の健康、学校そのもののあり方、職場や地域を取り巻く社会のあり方の基礎である。こうした基本的理解づくりがこの授業のねらいである。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 健康と公衆衛生 【 到達目標 】 (1)健康には様々な考え方があることを知る。 (2)公衆衛生の定義を知り、その成り立ちを理解する。 【授業時間外学習】 公衆衛生にかかわる身近なサービスについて調べておく。			第9回 感染症対策 【 到達目標 】 (1)感染症の成立の条件、予防の原理を理解する。 (2)主な感染症について理解する。 【授業時間外学習】 咳エチケットの方法とその理由について考えておく。			
第2回 保健統計の活用と応用：健康はどのようにして測られるか 【 到達目標 】 (1)国民の健康状態を測る指標の多様性について理解する。 【授業時間外学習】 政府統計の総合窓口（e-Stat）で健康に関わる統計データを探しておく。			第10回 環境保健 【 到達目標 】 (1)人間と環境のかかわりについて理解する。 (2)環境問題とその対策について知る。 【授業時間外学習】 地球環境の変化に関する記事・論文を調べておく。			
第3回 疫学：その健康情報はどこからくるか 【 到達目標 】 (1)疫学の起源について知る。 (2)疫学による研究成果が健康情報となる過程を理解する。 【授業時間外学習】 喫煙の健康影響に関する記事・論文を調べておく。			第11回 産業保健 【 到達目標 】 (1)労働者を取り巻く現状とその対策について知る。 【授業時間外学習】 働くことの意味について自分の考えをまとめておく。			
第4回 ヘルスプロモーション 【 到達目標 】 (1)ヘルスプロモーションの定義、活動方法について知る。 【授業時間外学習】 本学以外の友人や知人と健康づくりの方法について議論しレポートする。			第12回 メンタルヘルス対策 【 到達目標 】 (1)精神疾患の現状とその対策について知る。 【授業時間外学習】 厚生労働省のメンタルヘルスwebsiteを閲覧しておく。URLは後日指示する。			
第5回 世界と日本の健康戦略 【 到達目標 】 (1)世界の健康戦略の流れを知る。 (2)世界と日本の健康戦略の流れを理解する。 【授業時間外学習】 教科書で健康指標の年次推移を示しているグラフを選び、説明できるようにしておく。			第13回 親子保健 【 到達目標 】 (1)我が国の母子保健の水準を知る。 (2)母子保健活動の動向について理解する。 【授業時間外学習】 自分の住んでいる自治体の母子保健サービスを調べておく。			
第6回 健康の社会的決定要因 【 到達目標 】 (1)健康の社会的決定要因とはどのようなものか理解する。 【授業時間外学習】 現在の自分の目標について、目標達成の過程における生活への影響をレポートする。			第14回 地域保健 【 到達目標 】 (1)地域の様々な保健活動を知る。 (2)健康なまちづくりについて理解する。 【授業時間外学習】 自分の住んでいる自治体の地域保健サービスを調べておく。			
第7回 生活の場と健康 【 到達目標 】 (1)健康に影響をおよぼすあらゆる生活の場について理解を深める。 (2)WHOのsettingsアプローチを理解する。 【授業時間外学習】 一週間のうちに自分が行った場所とその場所がもたらす健康影響を記録しておく。			第15回 災害時の公衆衛生 【 到達目標 】 (1)災害の種類とその備えについて知る。 (2)自地域の防災について関心を持ち、今できる防災活動について考える。 【授業時間外学習】 少子高齢社会の中で自他が健やかに生きるための方法についてレポートする。			
第8回 がん対策 【 到達目標 】 (1)がんが身近な疾病であることを理解する。 (2)我が国のがん対策の現状を知る。 【授業時間外学習】 がんに関する情報を収集しておく。						
【学習上の留意点】 毎回の講義で、その回のキークエスチョンに関して、私見や講義内容を踏まえたミニレポートを提出する。これにより各回の授業内容を振り返る。授業の導入時と終了時で自分の意見がどう変化したのかも考慮に入れながら、授業内容について理解を深めてもらいたい。なお、この毎回のミニレポート内容については、講義内容を踏まえた受講者自身の気づきが記述されていることが重要である。						
【教科書・参考書など】 『学生のための現代公衆衛生 第7版』 野中浩一編著 南山堂 このほかに適宜資料を配布する。						
【関連科目】 健康科学論、生活習慣と健康、学校保健、精神保健						
【成績評価方法】 授業中の課題達成度を30%、定期試験の結果を70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	スポーツ産業論			担当者	齊藤隆志	
英文名	Sport Industry					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別			専門基礎・選択	
【目的とねらい】 スポーツビジネスの仕組みを理解することを通してスポーツ産業の可能性と危険性を述べられるようにする。 この授業ではとくにスポーツ、メディア、メーカーのスポンサーシップ、コマーシャルやマーケティング活動から、ポストモダンのスポーツ消費行動とビジネスについて説明していく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 スポーツ産業論概説 【到達目標】 (1)授業ガイダンス、スポーツ産業関連用語を理解する。 【授業時間外学習】 我が国のスポーツ産業の動向をインターネットで調べる。			第9回 スポーツメーカーのブランディング（2） 【到達目標】 (1)広告として作られる神話とブランディングを理解する。 【授業時間外学習】 スポーツCMをインターネットで調べCMを分析する。			
第2回 スポーツ産業の時代変化（1） 【到達目標】 (1)スポーツメーカーのビジネスモデルを理解する。 (2)スポーツビジネス史の概観を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツメーカーの企業情報、商品情報などをインターネットで調べる。			第10回 プロスポーツビジネス（1） 【到達目標】 (1)プロスポーツ概念について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ観戦者の動向を調べる。			
第3回 スポーツ産業の時代変化（2） 【到達目標】 (1)スポーツビジネスの現代史を理解する。 (2)スポーツ放送史を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツメーカーの企業情報、商品情報などをインターネットで調べる。			第11回 プロスポーツビジネス（2） 【到達目標】 (1)プロスポーツ選手のビジネスモデルを理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ観戦者の動向を調べる。			
第4回 ポストモダンのスポーツ消費と文化（1） 【到達目標】 (1)スポーツ文化の商品化について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツメーカーの企業情報、商品情報などをインターネットで調べる。			第12回 スポーツのプロダクトアウト戦略（1） 【到達目標】 (1)プロダクトアウト戦略について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ観戦者の動向を調べる。			
第5回 ポストモダンのスポーツ消費と文化（2） 【到達目標】 (1)スポーツ文化の神話作用について理解する。 (2)現代社会の消費スタイルを理解する。 【授業時間外学習】 スポーツメーカーの企業情報、商品情報などをインターネットで調べる。			第13回 スポーツのプロダクトアウト戦略（2） 【到達目標】 (1)プロダクトアウト戦略から見たスポーツ製品を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツメーカーの社会貢献活動についてインターネットで調べる。			
第6回 スポーツのファッション化とカウンターカルチャー（1） 【到達目標】 (1)スポーツファッション史を理解する。 (2)カウンターカルチャーの視点からスニーカー文化を理解する。 【授業時間外学習】 現代の若者のスポーツファッションの消費動向をレポートする。			第14回 スポーツメーカーとCSR 【到達目標】 (1)スポーツメーカーが行っている社会貢献活動等を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツメーカーの社会貢献活動についてインターネットで調べる。			
第7回 スポーツのファッション化とカウンターカルチャー（2） 【到達目標】 (1)ヘゲモニーとロールモデルビジネスを理解する。 【授業時間外学習】 現代の若者のスポーツファッションの消費動向をレポートする。			第15回 スポーツ産業の展望と課題 【到達目標】 (1)ポストモダンのスポーツビジネスを述べることができる。 (2)カウンターカルチャーのスポーツファッションを述べるができる。 (3)プロスポーツビジネスを述べるができる。我が国のスポーツ法制度・行政制度を述べるができる。 (4)プロダクトアウト型スポーツ製品を述べるができる。 【授業時間外学習】 第1回目から第14回目までの授業内容を復習する。			
第8回 スポーツメーカーのブランディング（1） 【到達目標】 (1)スポーツメーカーの広告戦略を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツCMをインターネットで調べCMを分析する。						
【学習上の留意点】 授業中の私語、携帯電話使用、飲食を禁じる。 スポーツマネジメントコースを希望する学生は、履修してほしい。						
【教科書・参考書など】 特に指定しない。 適宜、印刷物を配布する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業における課題達成度(50%)、3回程度のテストと2回程度の提出レポート(50%)で評価する。						

科目名	スポーツ法学			担当者	中村安菜	
英文名	Sports Law					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別			専門基礎・選択	
【目的とねらい】 スポーツ事故をはじめ、スポーツと法律の接する領域は少なくない。特に、学校体育における事故をめぐる法律問題は、その典型的な領域である。この講義では、こうした問題領域についての理解を深めることを中心としつつ、スポーツに関わるその他の法的論点も取り上げてゆく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 スポーツと法律が関わる領域 【到達目標】 (1) スポーツと法律が関わるのはどのような場合かについて理解する。その中で、この講義で取り上げる問題領域について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツと法律が関連する具体例を考える。			第9回 判例を読む① 【到達目標】 (1) スポーツに関する事故を扱った判決の読み方を身につける。 中学校の正課体育の時間に発生した事故における教員の責任 【授業時間外学習】 授業前に判例を熟読する。			
第2回 法的責任とは何か 【到達目標】 (1) 民事責任、刑事責任、行政責任の違いについて理解する。 (2) それぞれの責任を問う仕組みの違いについて理解する。 【授業時間外学習】 民事事件と刑事事件とは何かを調べる。			第10回 判例を読む② 【到達目標】 (1) スポーツに関する事故を扱った判決の読み方を身につける。 施設内で発生した事故におけるスポーツジムの責任 【授業時間外学習】 授業前に判例を熟読する。			
第3回 刑事責任について 【到達目標】 (1) スポーツに関係して刑事責任が問われる場合について理解する。 (2) 競技に関してなされた加害行為の法的特殊性について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツにおいて刑事責任を負うことになった事例を調べる。			第11回 判例を読む③ 【到達目標】 (1) スポーツに関する事故を扱った判決の読み方を身につける。 大会参加者と第三者との間に発生した事故における主催者の責任 【授業時間外学習】 授業前に判例を熟読する。			
第4回 民事責任概説 【到達目標】 (1) スポーツに関係して民事責任が問われる場合について理解する。 (2) 民事責任の種類について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツにおいて民事責任を負うことになった事例を調べる。			第12回 スポーツと体罰 【到達目標】 (1) スポーツに関連して発生する体罰の特殊性と求められる対策について理解する。 【授業時間外学習】 体罰を防止するために効果的な手段を考える。			
第5回 不法行為の要件 【到達目標】 (1) 不法行為とはどのようなことなのかについて理解する。 (2) 不法行為責任が認められるのはどのような場合なのかについて理解する。 【授業時間外学習】 不法行為について規定している条文を調べ、コピーする。			第13回 スポーツとセクシュアル・ハラスメント 【到達目標】 (1) スポーツに関連して発生するセクシュアル・ハラスメントの特殊性と求められる対策について理解する。 【授業時間外学習】 セクシュアル・ハラスメントを防止するために効果的な手段を考える。			
第6回 不法行為の効果 【到達目標】 (1) 不法行為責任の法的効果について理解する。 (2) 過失相殺等の意味について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ以外の場面で不法行為責任を負う事例を調べ、箇条書きでまとめる。			第14回 スポーツをめぐる紛争解決の工夫 【到達目標】 (1) スポーツに関して発生する紛争を解決するために設けられている紛争解決機関の現状と課題について理解する。 【授業時間外学習】 日本仲裁スポーツ機構のホームページを授業前に確認し、その活動を理解する。			
第7回 損害賠償責任を負うのは誰か 【到達目標】 (1) 責任無能力者に対する監督義務者等の責任について理解する。 (2) 使用者責任、国・地方公共団体等の責任について理解する。 【授業時間外学習】 公立学校における体育授業中に起きた事故の事例を1つ調べる。			第15回 スポーツ指導者の責任と法 【到達目標】 (1) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。 【授業時間外学習】 授業を通して自分が関心をもった事項について、ミニ・レポートにまとめる。			
第8回 施設等が原因となって発生した事故と法律 【到達目標】 (1) 施設などの欠陥を原因とする事故の責任について理解する。 (2) 器具などの製造者に負わせられる責任について理解する。 【授業時間外学習】 器具の故障などが問題となった事件を新聞などで調べる。						
【学習上の留意点】 講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみる。						
【教科書・参考書など】 開講時に指示する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提です）。						

科目名	女性のライフステージと運動				担当者	沢井史穂	
英文名	Life Stage and Physical Activity of Women						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
【目的とねらい】 ライフステージによって変わる女性の身体の構造と機能の特徴を知り、幼児期から老年期に至るまでの各ステージに応じた運動への取り組み方について考える。 また、女性の性機能と運動の関わり、女性特有の健康問題と運動との関わり、体力・運動能力の男女差、女性アスリートの健康問題等について理解を深める。そして、一生を通じて女性が運動・スポーツと関わることの意義と価値を考える。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 女性と運動 【 到達目標 】 (1)女性としての自分と運動・スポーツとの関わり方、年齢と運動との関係、女性スポーツ選手のイメージなど、いくつかのキーワードに沿って女性と運動について考える。 【授業時間外学習】 メディアや周囲の人が女性と運動との関わりをどう捉えているかを調べる。				第9回 女性の性機能と運動の関わり (女性ホルモンの働きと性周期) 【 到達目標 】 (1)女性ホルモンの働きと性周期に伴う各種ホルモン、子宮、卵巣の変化を理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を整理し、復習する。			
第2回 女性のスポーツ参加の変遷 【 到達目標 】 (1)社会環境の変化に伴う女性のスポーツ参加の変遷を理解する。 【授業時間外学習】 女性の参加する各種競技会やスポーツイベントに関心をもち、参加したり観戦したりする。				第10回 女性の性機能と運動の関わり (月経と運動) 【 到達目標 】 (1)月経周期、月経前症候群 (PMS)、月経随伴症状について理解し、運動との関わり方について考える。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習するとともに、自分の将来に照らし合わせてイメージしておく。			
第3回 女性のスポーツ参加の現状 【 到達目標 】 (1)成長期及び成人期女子の身体活動量、スポーツ参加率の現状を知り、改善策を考える。 【授業時間外学習】 スポーツ活動に参加したり、定期的な運動習慣を身につける。				第11回 女性の性機能と運動の関わり (妊娠・出産と運動) 【 到達目標 】 (1)妊娠・出産に伴う身体の変化について理解する。 (2)妊娠期および産褥期における運動への取り組み方について理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習するとともに、自分の将来に照らし合わせてイメージしておく。			
第4回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (幼児期) 【 到達目標 】 (1)幼児期の身体特性と運動との関わりについて理解する。 (2)現代の生活環境が幼児の健康に及ぼす影響について考える。 【授業時間外学習】 幼児の運動に関する情報や資料を集めて読む。				第12回 女性の性機能と運動の関わり (更年期障害と運動) 【 到達目標 】 (1)閉経がもたらす影響と更年期障害について理解する。 (2)更年期女性にとっての運動の効果について理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習するとともに、自分の将来に照らし合わせてイメージしておく。			
第5回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (発育発達期) 【 到達目標 】 (1)発育発達期における女子の身体特性と運動との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 発育発達期の運動に関する情報や資料を集めて読む。				第13回 女性アスリートの健康問題 【 到達目標 】 (1)現代の女性アスリートが抱える様々な健康問題 (月経異常、摂食障害、骨粗鬆症等)について理解を深める。 【授業時間外学習】 女性アスリートの健康問題に関する情報や資料を集めて読む。			
第6回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (成人期) 【 到達目標 】 (1)現代の若い女性が抱える様々な健康問題と運動との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 若い女性の運動に関する情報や資料を集めて読む。				第14回 体格・身体組成・体力・運動能力における性差 【 到達目標 】 (1)体格や身体能力の性差について、それが生じる要因とともに理解する。 【授業時間外学習】 運動場面で見られる性差について整理し、復習する。			
第7回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (中高年期) 【 到達目標 】 (1)中高年女性の身体特性を理解し、適切な運動習慣の取り入れ方について考える。 (2)肥満、メタボリックシンドローム、生活習慣病、うつ予防としての運動の効果について理解する。 【授業時間外学習】 中高年の健康と運動に関連する資料を探して読む。				第15回 女性スポーツの展望 【 到達目標 】 (1)これからの女性とスポーツとの関わりについて、競技力向上、健康体力づくり、生きがいづくり等、様々な視点から、その意義と価値について考える。 【授業時間外学習】 授業の内容を復習し、自分自身の運動とのかかわり方について考え、行動する。			
第8回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (老年期) 【 到達目標 】 (1)加齢に伴う身体機能の低下に応じた運動について理解する。 (2)高齢者の運動実施における留意点について理解する。 【授業時間外学習】 高齢者の健康と運動に関連する資料を探して読む。							
【学習上の留意点】 授業では、パワーポイントと配布資料を使って講義を行う。図表を多く引用するので、その意味するところを読み取り、そこから何がわかるかを考えることに重点をおく。毎回の講義で重要なポイントを確認しながら進めていくので、受け身ではなく積極的に学習する姿勢を持つこと。 ※2013年度入学生までは、科目名「女性と運動」							
【教科書・参考書など】 特に指定はない。授業内で適宜資料を配布する。							
【関連科目】 健康科学論、生涯スポーツ論							
【成績評価方法】 授業内での課題達成度40%、定期試験(試験は試験期間中に別途実施する)60%で評価する。							

科目名	スポーツ史			担当者	都 筑 真	
英文名	Sport History					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
【目的とねらい】 本講義では、社会の変化に伴うスポーツのこれまでの変化について理解を深めることを目的とする。各時代毎ではなく、現代のスポーツを理解する上で重要と思われるテーマ毎に、これまでのスポーツの在り様を理解していくことを通じて、今後のスポーツの在り方を考察していくことをねらいとする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 (1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。 【授業時間外学習】 参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。			第9回 近代の戦争と体育・スポーツ 【 到達目標 】 (1)近代における体育・スポーツと戦争との関係について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第2回 スポーツ史を学ぶ意義 【 到達目標 】 (1)スポーツ史がどのような学問分野であるかを理解する。 (2)スポーツ史を学ぶ意義について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			第10回 オリンピックムーブメントと世界平和 【 到達目標 】 (1)オリンピックムーブメントがどのような運動であるかを理解する。 (2)オリンピックが国際親善や世界平和につながる理由について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第3回 スポーツのルーツへのまなざし 【 到達目標 】 (1)スポーツのルーツが人間のどのような活動にあるかを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			第11回 日本のスポーツ振興政策とスポーツ基本法 【 到達目標 】 (1)日本のスポーツ振興政策を概観しながら、スポーツ基本法制定へと至る過程や理由について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第4回 各時代の社会におけるスポーツ 【 到達目標 】 (1)スポーツの時代毎の変化と現代のスポーツとの相違点を理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			第12回 スポーツ産業の歴史的発展とスポーツの経済効果 【 到達目標 】 (1)スポーツの発展に貢献しているスポーツに関連した「モノ」「場」「サービス」の歴史とスポーツの経済効果について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第5回 スポーツ種目の誕生と変容 【 到達目標 】 (1)われわれの身近にあるスポーツ種目がなぜ誕生し、どのように変化してきたのかを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			第13回 女性スポーツの展開と現在 【 到達目標 】 (1)女性にとってスポーツ文化がこれまでどのようなものであったのか、そして現在どのようなものとなっているかを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第6回 欧米スポーツの日本への移入 【 到達目標 】 (1)欧米スポーツの日本への導入・普及過程について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			第14回 スポーツとメディア 【 到達目標 】 (1)スポーツとメディアの歴史的関係やスポーツメディアの特性について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第7回 体操、身体教育、スポーツ教育 【 到達目標 】 (1)古代の体操、近代の身体教育、現代のスポーツ教育に関する理論と歴史的過程を理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			第15回 スポーツと環境問題 【 到達目標 】 (1)スポーツと環境問題の関係を理解する。 (2)スポーツ界における環境保全の取り組みを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。			
第8回 スポーツの技術、戦術、ルールの歴史的変容 【 到達目標 】 (1)スポーツの技術、戦術、ルールがどのように変化してきたのかについて理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。						
【学習上の留意点】 講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義では毎回、講義内容の理解を深めるために、小レポートを課す。「スポーツ原論」と併せて履修することが望ましい。						
【教科書・参考書など】 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。 『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『スポーツの歴史と文化』（新井博／榎原浩見編著、道和本書院）を講義の参考書として利用すること。						
【関連科目】 スポーツ原論						
【成績評価方法】 講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	野外教育論				担当者	北原 澄高	
英文名	Outdoor Education						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
【目的とねらい】 21世紀を展望した我が国の教育のあり方において、子どもたちに豊かな人間性やたくましさといった「生きる力」を育むことが重要であるとされ、体験学習に基づく野外活動/自然体験活動を手段として行われる野外教育や環境教育が強調されている。これらのことから、「野外教育」に求められる今日的意義及び教育的可能性を学ぶことを目的とし、野外教育が自然・他者(他存在)・自己との調和を育む上で有効な教育実践であることを、学習者の日常体験に照らしながら考え理解を深めることをねらいとする。また、指導者(教職を含む)のあり方について理解を深めることもねらいとする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 「野外教育」とは：基礎概念・意義・効果・歴史、等 【 到達目標 】 (1) 野外教育の基本的考え方及びその意義や効果等を理解する。 (2) 野外教育の歴史的背景(起源・変遷・現状、等)を理解する。 【授業時間外学習】 自身の野外教育体験を小学校から振り返り、表にまとめてみる。			第9回 グループワーク(2)：身近な自然から考える 【 到達目標 】 (1) 身近な自然とは何であるかをグループで共有し理解する。 (2) 自然を身近に感じることの意義を日常に照らして考え理解する。 【授業時間外学習】 自身の生活圏を取り巻く自然環境はどの程度残されているかを調べる。				
第2回 体験学習とその意義：野外活動/教育との関連から 【 到達目標 】 (1) 「体験」の今日的意味や重要性を理解する。 (2) 「体験学習」の理論とあり方について理解する。 【授業時間外学習】 大学での授業やクラブ等で経験した体験学習をまとめる。			第10回 野外生活技術の知識(2)：衣食住の観点から 【 到達目標 】 (1) 野外生活における基礎知識を衣食住の観点から理解する。 (2) 上(1)の知識について、日常生活での応用を考え理解する。 【授業時間外学習】 野外生活での献立を考えてまとめる。				
第3回 日本の野外教育：学校教育との関連を含めて 【 到達目標 】 (1) 日本の野外教育の取り組み・現状を理解する。 (2) 野外教育が学校現場でどのように実施されているか理解する。 【授業時間外学習】 高校までの校外学習を列挙し、分類する。			第11回 プログラムデザインの考え方：理論と構成方法 【 到達目標 】 (1) 教育的効果を促し安全で楽しい活動構成のあり方を理解する。 (2) 応用として日数、対象、事前・事後等の点を交えて理解する。 【授業時間外学習】 自身が体験してみたい活動で起きた事故例をまとめる。				
第4回 グループワーク(1)：チームビルディング(仲間づくり)について 【 到達目標 】 (1) 野外教育での「仲間づくり活動」の位置づけを理解する。 (2) 「仲間づくり活動」の重要性と日常生活での応用を理解する。 【授業時間外学習】 自身が考えるグループワークの必要性についてまとめる。			第12回 プログラム(活動)各論：よく実施される活動について 【 到達目標 】 (1) 主に「ASE」「登山」「キャンプファイア」等について理解する。 (2) 上(1)について、日常生活での応用を考え理解する。 【授業時間外学習】 キャンプファイヤーの必要性について考えをまとめる。				
第5回 野外活動/教育と安全管理 【 到達目標 】 (1) 野外活動/教育における安全についての考え方や内容を理解する。 (2) 安全を保持するための方策を日常に照らしながら考え理解する。 【授業時間外学習】 野外活動時に自身が体験したヒヤリ・ハットをまとめる。			第13回 グループワーク(3)：作成プログラムの共有 【 到達目標 】 (1) 自ら作ったプログラム(課題)をグループで共有し理解する。 (2) 活動場所や日数等の要素を変えて立案し応用を理解する。 【授業時間外学習】 自身が体験してみたいプログラムの行程表の作成をする。				
第6回 野外生活技術の知識(1)：天候、配慮すべき生物、等について 【 到達目標 】 (1) 野外生活における主に天候、配慮すべき生物について理解する。 (2) 上(1)の知識について、日常生活での応用を考え理解する。 【授業時間外学習】 自身が体験した天候による活動の変更等を列挙する。			第14回 野外教育の今後の展望：総括とその教育的可能性 【 到達目標 】 (1) 昨今重視される心の教育・ホリスティック教育等との接点を理解する。 (2) 上(1)を認識した上で、野外教育の今後の可能性を理解する。 【授業時間外学習】 現在実施されているホリスティック教育の活動例を調べてまとめる。				
第7回 冒険教育との接点：プロジェクト・アドベンチャー(PA)の取り組みもふまえて 【 到達目標 】 (1) 野外教育の片翼「冒険教育」の基礎理論及び内容を理解する。 (2) 「冒険教育」の活用を、日常に照らしながら考え理解する。 【授業時間外学習】 自身にとつての冒険的活動とは何かを列挙する。			第15回 グループワーク(4)：ふりかえり(全体学習内容) 【 到達目標 】 (1) 野外教育の社会的・個人的意味について共有し理解する。 (2) 自己や周囲の人達(家族・友達)への活用を考え理解する。 【授業時間外学習】 野外教育の必要性について自分の体験を踏まえまとめる。				
第8回 環境教育との接点：「ミニマムインパクト」をふまえて 【 到達目標 】 (1) 野外教育の一方の片翼「環境教育」の考え方を理解する。 (2) 上(1)の知識について、日常生活での応用を考え理解する。 【授業時間外学習】 自身が知っている自然の破壊の原因をまとめる。							
【学習上の留意点】 講義ではプロジェクターを多用します。各自でポイントとなるところはノートに書き留めるなどして、時間外学習に役立ててほしい。適宜プリントも配布します。また授業においては、下記の参考書を中心に講義を進めるため、必要に応じて購入すること。授業の進行を妨げるような行動(私語や携帯電話の使用など)は慎むこと。							
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜プリントを配布する。以下の参考書を中心に講義を進める。 参考書：『野外教育の理論と実践』自然体験活動研究会編(小森伸一 責任編集)/杏林書院(2011)、『キャンプテキスト』日本キャンプ協会							
【関連科目】							
【成績評価方法】 提出課題20%、学期末レポート50%、小テスト30%。なお、小テストは授業時間内に数回実施します。							

科目名	スポーツリハビリテーション論			担当者	永野康治	
英文名	Sport Rehabilitation					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		専門・選択		専門基礎・選択	
【目的とねらい】						
本講義の目的は、スポーツ外傷・障害の概念や発症要因について理解し、それぞれの病態についての特徴や基本的対応策を学ぶことである。さらにスポーツ外傷・障害からスポーツ復帰に向けてのリハビリテーションに関する基礎的な知識と進め方について学習する。本講義を通して、スポーツ現場においてスポーツ外傷・障害の予防や発症した際の処置を行えること、さらに自身や対象者のスポーツ復帰に向けたリハビリテーションを計画できることが本講義のねらいである。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション			第9回 投球障害の病態および評価			
【 到達目標 】 (1)授業の運営、評価の方法等を理解する。 (2)本講義で扱う内容を理解する。			【 到達目標 】 (1)投球障害の病態を理解する。 (2)投球障害に対する評価法を理解する。			
【授業時間外学習】 これまでのスポーツ外傷・障害経験を振り返る。			【授業時間外学習】 肩関節の機能解剖について復習しておく。			
第2回 アスレティックリハビリテーション概論			第10回 投球障害に対するアスレティックリハビリテーション			
【 到達目標 】 (1)アスレティックリハビリテーションの考え方について理解する。 (2)アスレティックリハビリテーションに関わる職種について理解する。			【 到達目標 】 (1)投球障害に対するリハビリテーション内容を挙げることができる。 (2)各リハビリテーションメニューの目的を挙げることができる。			
【授業時間外学習】 アスレティックリハビリテーションの考え方を整理する。			【授業時間外学習】 リハビリテーションメニューの実践を行う。			
第3回 スポーツ外傷とスポーツ障害			第11回 足関節捻挫の病態および評価			
【 到達目標 】 (1)スポーツ外傷の定義、代表例を理解する。 (2)スポーツ障害の定義、代表例を理解する。 (3)スポーツ外傷・障害の発症要因について理解する。			【 到達目標 】 (1)足関節捻挫の病態を理解する。 (2)足関節捻挫に対する評価法を理解する。			
【授業時間外学習】 スポーツ外傷とスポーツ障害の違いについて整理する。			【授業時間外学習】 足関節の機能解剖について復習する。			
第4回 前十字靭帯損傷の病態および評価			第12回 足関節捻挫に対するアスレティックリハビリテーション			
【 到達目標 】 (1)前十字靭帯損傷の病態を理解する。 (2)前十字靭帯損傷に対する評価法を理解する。			【 到達目標 】 (1)足関節捻挫に対するリハビリテーション内容を挙げることができる。 (2)各リハビリテーションメニューの目的を挙げることができる。			
【授業時間外学習】 膝関節の機能解剖について復習しておく。			【授業時間外学習】 リハビリテーションメニューの実践を行う。			
第5回 前十字靭帯損傷に対するアスレティックリハビリテーション1			第13回 腰痛の病態および評価			
【 到達目標 】 (1)前十字靭帯損傷に対するリハビリテーション内容を挙げることができる。 (2)各リハビリテーションメニューの目的を挙げることができる。			【 到達目標 】 (1)腰痛の病態を理解する。 (2)腰痛に対する評価法を理解する。			
【授業時間外学習】 リハビリテーションメニューの実践を行う。			【授業時間外学習】 腰部・体幹の機能解剖について復習しておく。			
第6回 前十字靭帯損傷に対するアスレティックリハビリテーション2			第14回 腰痛に対するアスレティックリハビリテーション			
【 到達目標 】 (1)前十字靭帯損傷に対するリハビリテーション内容を挙げることができる。 (2)各リハビリテーションメニューの目的を挙げることができる。			【 到達目標 】 (1)腰痛に対するリハビリテーション内容を挙げることができる。 (2)各リハビリテーションメニューの目的を挙げることができる。			
【授業時間外学習】 リハビリテーションメニューの実践を行う。			【授業時間外学習】 リハビリテーションメニューの実践を行う。			
第7回 膝関節障害の病態および評価			第15回 最新のアスレティックリハビリテーション			
【 到達目標 】 (1)膝関節障害の病態を理解する。 (2)膝関節障害に対する評価法を理解する。			【 到達目標 】 (1)最新のアスレティックリハビリテーションに関する知識を得る。 (2)最新のアスレティックリハビリテーションで用いられる器具を挙げることができる。			
【授業時間外学習】 膝関節障害に含まれる疾患について整理する。			【授業時間外学習】 自らのトレーニング等を見直し、改善する。			
第8回 膝関節障害に対するアスレティックリハビリテーション						
【 到達目標 】 (1)膝関節障害に対するリハビリテーション内容を挙げることができる。 (2)各リハビリテーションメニューの目的を挙げることができる。						
【授業時間外学習】 リハビリテーションメニューの実践を行う。						
【学習上の留意点】						
配布される講義ノートへの記述を中心に授業を進める。覚えるべきことが多いため、各授業ごとに内容をノートに整理しておくことが望まれる。毎回の授業の際にその日の授業内容を問う小テストを実施する。また、復習用の課題を適時提示する。						
【教科書・参考書など】						
参考書：スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド(文光堂)、ランニング障害のリハビリテーションとリコンディショニング(文光堂)、走動作のファンクショナルトレーニング(文光堂)、ファンクショナルトレーニング(文光堂)、野球 肩・ひじ・腰の鍛え方・治し方(日本文芸社)、ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション(羊土社)、腰痛のリハビリテーションとリコンディショニング(文光堂)、運動器の徒手検査法(文光堂)						
【関連科目】						
機能解剖学						
【成績評価方法】						
課題 20% 期末試験（試験は試験期間中に別途実施）80%						

科目名	精神保健				担当者	角田和也	
英文名	Mental Health of Adolescence						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択		
【目的とねらい】 昨今、「メンタルヘルス」「心の健康」という言葉を、日常生活の中でよく耳にするようになった。社会全体が個々の精神的な健康状態を以前よりも大切にしていこうとする風潮にある一方で、不登校やうつによる自殺の増加といった現実的な問題に直面していることが背景にあることに起因すると考えられる。こうした状況の中で、今日私たちが直面している子どもたちの心の健康の問題について、その実態を学ぶとともに対処方法を検討していく。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション／「精神保健」とは 【 到達目標 】 (1)「精神保健」の意義を理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				第9回 子どもの生活環境と精神保健② 食生活から受ける影響 【 到達目標 】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである食生活の影響について理解するとともに、望ましい食生活についても理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			
第2回 「精神的健康」と現代社会 【 到達目標 】 (1)社会問題にもなっている「心の健康」にかかわる事象について、その実態を理解するとともにその要因について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				第10回 子どもの生活環境と精神保健③ 住環境から受ける影響 【 到達目標 】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである住居の影響について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			
第3回 ライフサイクルと精神保健① 出生前期に受ける影響 【 到達目標 】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである出生前期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				第11回 子どもの生活環境と精神保健④ 空気環境から受ける影響 【 到達目標 】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである空気環境について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			
第4回 ライフサイクルと精神保健② 乳児期に受ける影響 【 到達目標 】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである乳児期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				第12回 子どもの生活環境と精神保健⑤ 睡眠から受ける影響① 【 到達目標 】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである睡眠の影響について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			
第5回 ライフサイクルと精神保健③ 幼児期に受ける影響 【 到達目標 】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである幼児期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				第13回 子どもの生活環境と精神保健⑥ 睡眠から受ける影響② 【 到達目標 】 (1)引き続き、睡眠の影響について理解するとともに、望ましい睡眠のあり方についても理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			
第6回 ライフサイクルと精神保健④ 学童期に受ける影響 【 到達目標 】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである学童期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				第14回 発達障がい① 【 到達目標 】 (1)発達障がいの種類やその特徴を理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			
第7回 ライフサイクルと精神保健⑤ 思春期に受ける影響 【 到達目標 】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである思春期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				第15回 発達障がい② 【 到達目標 】 (1)引き続き、発達障がいの特徴を理解するとともに、発達障がい児(者)の心の健康を保持するために必要な支援・援助のあり方について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第8回 子どもの生活環境と精神保健① 家族から受ける影響 【 到達目標 】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである「家族」の質的变化について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。							
【学習上の留意点】 ①基本的には、毎回、板書の代わりにPCおよびプロジェクターを使用して授業を行います。板書に費やす時間を省略するのが主なねらいです。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていただきます(下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します)。 ③期末試験は、授業で伝えた内容の理解度を確認するためだけではなく、その知識をもとにした実践力を問うためにも実施しています。受講の際にメモをとるだけでなく、普段からの自主的な学習・復習が単位取得には必要です。							
【教科書・参考書など】 ・1回目の授業時に、本授業用に作成したテキストを販売します。受講する学生は、必ず購入してください。 ・テキストには、各回ごと、授業内容に基づいた参考文献を示してありますので、そちらを参考にしてください。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 ・提出物の評価……50% 期末試験の結果……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。							

科目名	学校保健				担当者	沢田真喜子	
英文名	School Health						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択		
【目的とねらい】 学校保健とは、学校管理下での児童生徒の精神的・身体的健康の保持増進や、学校生活を健康的に過ごす能力や知識を身につけさせる教育活動などを指し、保健指導、保健教育、衛生管理、安全管理などが含まれる。本授業では、学校現場で求められる学校保健の知識や、教員として携わる学校保健活動などについて学ぶことを目的とし、学校保健の現状や集団の健康管理などについて理解することをねらいとする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 ガイダンス 学校保健とは 【 到達目標 】 学校保健の意義や歴史的背景などを理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p17-28) を読み、学校保健の歴史をまとめる。				第9回 学校環境衛生と教育活動 【 到達目標 】 児童生徒にとって望ましい学習環境について理解し、学校環境を的確に整えることができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p117-124) を読み、学校環境衛生基準を調べる。			
第2回 子どもの発達 【 到達目標 】 子どもの発達発達の特徴や現状を理解し、発達曲線などを用いて的確に評価できる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p29-41) を読み、子どもの発達発達の特徴をまとめる。				第10回 保健教育の基礎とその展開 【 到達目標 】 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育などの保健指導、保健学習を含めた保健教育の目的や内容、必要性を理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p78-83・125-146) を読み、保健指導計画を立てる。			
第3回 子どもの心身の発達と体育 【 到達目標 】 子どもの身体機能の変化と体力・運動能力の発達を体力テストなどを用いて的確に評価できる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p43-64) を読み、体力テストの種類と評価方法を調べる。				第11回 学校安全の理論と学校安全活動 【 到達目標 】 学校で注意すべき安全や危機管理について理解し、災害を未然に防ぐ方法や災害発生時の対応策を考えることができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p147-157) を読み、事故防止や安全にかかわる理論を調べる。			
第4回 現代的な健康課題の現状と対策① (感染症と予防接種) 【 到達目標 】 感染症の種類や症状の特徴などを理解し、予防接種の意義と学校集団での感染症の対応策を考えることができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p70-75) を読み、学校感染症の特徴をまとめる。				第12回 スポーツ活動中の事故防止 【 到達目標 】 スポーツ活動中に発生している事故の現状や背景を理解し、スポーツ活動中の事故防止対策を考えることができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p159-169) を読み、スポーツ活動を含めた学校事故の特徴をまとめる。			
第5回 現代的な健康課題の現状と対策② (生活習慣病とメンタルヘルス) 【 到達目標 】 むし歯や肥満などの生活習慣病やメンタルヘルスなどの健康課題について学び、対応策を考えることができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p65-70・84-89) を読み、子どもの健康課題をまとめる。				第13回 子どもの体力低下と生活改善 【 到達目標 】 現代の子どもの体力の現状を理解し、体力向上や生活改善のための学校保健的アプローチを考えることができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p171-184) を読み、子どもの体力低下の原因を調べる。			
第6回 学校保健計画と学校保健活動 【 到達目標 】 学校保健安全法に基づく学校保健活動について理解し、学校保健計画を立案することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p91-99) を読み、学校保健計画を作成する。				第14回 特別支援教育と学校保健 【 到達目標 】 発達障害をもつ子どもの特徴と特別な配慮、特別支援のあり方を理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p185-191) を読み、特別な支援が必要な子どもたちの特徴をまとめる。			
第7回 学校健康診断と健康評価 【 到達目標 】 健康診断の意義と方法、必要性を理解し、健康診断を用いた健康評価ができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p101-106) を読み、学校健康診断の特徴をまとめる。				第15回 学校給食と食育 【 到達目標 】 給食の意義や目的、食の重要性を理解し、学校で望ましい食育ができる。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、学校給食の特徴や食育の重要性をまとめる。			
第8回 教職員の健康と教育活動 【 到達目標 】 学校保健活動における教職員の健康管理と教育活動について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p107-115) を読み、教職員の健康課題をまとめる。							
【学習上の留意点】 授業時にプリントを配付するので、自分で書き入れながら丁寧に読み、教科書とあわせて理解を深めるようにする。 やむを得ず欠席をしたものは、次回の授業までに配付資料を取りにくること。 授業中に理解できなかったことや疑問に思ったことなどは納得いくまで質問すること。学校保健に関する本、雑誌、気になる話題があれば日頃からチェックする習慣を身につけること。授業中の飲食・携帯・私語は厳禁とする。							
【教科書・参考書など】 「学校保健の世界」大澤清二著 (杏林書院) (参考図書は授業中に適宜紹介する)							
【関連科目】 健康科学論、発達発達論、衛生学・公衆衛生学、保健体育科教育法 I (教育の方法・技術を含む)							
【成績評価方法】 原則として試験の結果 (70%) と平常授業での課題 (30%) を用いて評価する。 試験は試験期間中に別途実施する。							

科目名	障害者スポーツ論			担当者	松原 豊	
英文名	Theory of Adapted Sports					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	専門基礎・選択		専門基礎・選択	
【目的とねらい】 ノーマライゼーションやバリアフリーなどの言葉が社会に定着しつつあり、障害の有無に関わらず全ての人が楽しめるスポーツ環境を整えていくことが重要になってきている。障害者スポーツはリハビリテーションを目的とした活動だけではなく、競技スポーツや生涯スポーツへと拡がり、さらに共生や交流を目的としたインクルーシブ・スポーツのニーズが高まってきている。本講義では、障害について正しく理解し、障害の特性に応じた体育・スポーツの意義や具体的な実践方法に関する知識を習得することを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 障害理解について 【 到達目標 】 障害についての全般的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。			第9回 肢体不自由と体育・スポーツ（脳性障害を中心に） 【 到達目標 】 肢体不自由（脳性障害）の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。			
第2回 ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン 【 到達目標 】 現代的な課題であるノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインの意味を理解し、具体的なイメージを習得する。 【授業時間外学習】 授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。			第10回 肢体不自由と体育・スポーツ（筋無力症を中心に） 【 到達目標 】 肢体不自由（筋無力症）の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。			
第3回 ICFの概念について 【 到達目標 】 WHOのICFの概念を学び、障害のある人たちにとって活動、参加、環境因子の重要性を理解する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。			第11回 知的障害と体育・スポーツ 【 到達目標 】 知的障害の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。			
第4回 障害者スポーツの歴史（リハビリから競技スポーツへ） 【 到達目標 】 障害者スポーツの歴史について、リハビリテーションから競技スポーツへの発展拡大についての基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。			第12回 重症心身障害と体育・スポーツ 【 到達目標 】 重症心身障害の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。			
第5回 障害者スポーツの現状（パラリンピックを中心に） 【 到達目標 】 障害者スポーツの現状として、パラリンピックについての知識を習得すると共に課題となる事柄について考察する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。			第13回 発達障害と体育・スポーツ 【 到達目標 】 発達障害の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。			
第6回 Adapted Physical Activitiesの理念と具体例 【 到達目標 】 Adapted Physical Activitiesの理念を学び、具体的な方法に関する知識を習得する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。			第14回 インクルーシブ体育・スポーツ 【 到達目標 】 障害の有無に関わらず共に体育・スポーツを楽しむインクルーシブ体育についての基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。			
第7回 視覚障害と体育・スポーツ 【 到達目標 】 視覚障害の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。			第15回 将来への展望と課題、学習の振り返り 【 到達目標 】 障害者スポーツの将来への展望と課題について考察すると共に、これまでの内容を振り返りながら習得した知識の確認を行う。 【授業時間外学習】 授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。			
第8回 聴覚障害と体育・スポーツ 【 到達目標 】 聴覚障害の特性を理解し、スポーツ・体育における支援方法の基礎的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。						
【学習上の留意点】 テキストを使用した講義による理解だけではなく、映像教材を用いて具体的なイメージが得られるようにする。 必要に応じてレポートを課す。						
【教科書・参考書など】 テキスト：『バリアフリーをめぐる体育授業』 筑波大学附属学校保健体育研究会編 杏林書院 補助資料としてプリントを配布する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業における課題達成度に対する評価（20％） レポートによる評価（20％） 試験による評価（60％） 試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	スポーツ施設管理論			担当者	齊藤隆志	
英文名	Sport Facilities Management					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別			専門基礎・選択	
【目的とねらい】 商業スポーツ施設経営およびマーケティング手法を理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 スポーツ施設管理論概説 【到達目標】 (1)授業ガイダンス、スポーツ施設管理関連用語を理解する。 【授業時間外学習】 「管理」・「経営」とは何かを調べておく。			第9回 フィットネスクラブの経営管理(2) 【到達目標】 (1)フィットネスクラブビジネスの今日的動向について理解する。 【授業時間外学習】 フィットネスクラブ業界の動向についてインターネットで調べる。			
第2回 経営・管理の基礎(1) 【到達目標】 (1)「経営」概念を理解する。 【授業時間外学習】 「管理」・「経営」とは何かを調べておく。			第10回 フィットネスクラブの経営管理(3) 【到達目標】 (1)フィットネスクラブの人材マネジメントについて理解する。 【授業時間外学習】 フィットネスクラブの求人情報についてインターネットで調べる。			
第3回 経営・管理の基礎(2) 【到達目標】 (1)「事業」概念を理解する。 【授業時間外学習】 フィットネス事業と経営資源についてインターネットで調べる。			第11回 フィットネスクラブの経営管理(4) 【到達目標】 (1)フィットネスクラブのサービスマネジメントについて理解する。 【授業時間外学習】 顧客満足についてインターネットで調べる。			
第4回 スポーツ経営・管理の基礎 【到達目標】 (1)スポーツ経営とスポーツ事業について理解する。 【授業時間外学習】 フィットネス事業と経営資源についてインターネットで調べる。			第12回 フィットネスクラブの経営管理(5) 【到達目標】 (1)サービスマーケティング7Pについて理解する。 【授業時間外学習】 「マーケティング7P」についてインターネットで調べる。			
第5回 マーケティングとスポーツ施設(1) 【到達目標】 (1)マーケティングの基本的考え方を理解する。 【授業時間外学習】 「マーケティング」とは何かをインターネットで調べる。			第13回 フィットネスクラブの経営管理(6) 【到達目標】 (1)サービスエンカウンターについて理解する。 【授業時間外学習】 マーケティング・真実の瞬間についてインターネットで調べる。			
第6回 マーケティングとスポーツ施設(2) 【到達目標】 (1)売れる仕組みづくりについて理解する。 【授業時間外学習】 「マーケティング」とは何かをインターネットで調べる。			第14回 フィットネスクラブの経営管理(7) 【到達目標】 (1)フィットネスクラブの顧客満足について理解する。 【授業時間外学習】 顧客満足についてインターネットで調べる。			
第7回 マーケティングとスポーツ施設(3) 【到達目標】 (1)マーケティング4Pについて理解する。 【授業時間外学習】 「マーケティング4P」についてインターネットで調べる。			第15回 スポーツ施設マネジメントの展望と課題 【到達目標】 (1)マーケティング概念について述べることができる。 (2)フィットネスクラブのサービスマーケティング7Pについて述べるができる。 【授業時間外学習】 第1回目から第14回目までの授業内容を復習する。			
第8回 フィットネスクラブの経営管理(1) 【到達目標】 (1)フィットネスクラブ産業について理解する。 【授業時間外学習】 フィットネスクラブ業界の動向についてインターネットで調べる。						
【学習上の留意点】 授業中の私語、携帯電話使用、飲食を禁じる。 スポーツマネジメントコースの学生や、将来フィットネスクラブへの就職を希望している学生は、履修してほしい。						
【教科書・参考書など】 特に指定しない。 適宜、印刷物を配布する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業における課題達成度(50%)、3回程度のテストと提出レポート(50%)で評価する。						

科目名	スポーツ社会学			担当者	海老島 均	
英文名	Introduction to Sociology of Sport					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4		専門基礎・選択		専門基礎・選択	
【目的とねらい】 現代はスポーツの時代とも言われる。政治的、また経済的にスポーツがこれだけ重要性を有した時代はかつてない。グローバル化という現代社会の特徴を検証するうえで、スポーツは数々の具体例を提示している。本講義は、こうした現代社会とスポーツの関係性に関して、政治、経済、サブカルチャー等、様々な観点から考えていく内容から構成される。さらに現代までに蓄積されたスポーツ社会学の研究成果を紹介しつつ、スポーツ関連の諸現象に対しての社会的探求の有効性、可能性に関して理解を促す。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 学習のねらいと進め方 【 到達目標 】 スポーツ社会学におけるスポーツのとらえ方、考え方及び社会学の学問的性格について理解する。 【授業時間外学習】 現代社会におけるスポーツの抱える問題について、自分なりに整理し書き出してみる。			第9回 我が国の固有なスポーツ文化について考える 【 到達目標 】 明治期に海外より輸入されたスポーツがいかにか形作られてきたか、また日本古来のスポーツ（大相撲等）がいかにか生まれ変容してきたかについて、精神文化の観点から考え理解する。 【授業時間外学習】 日本のスポーツ文化について調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。			
第2回 スポーツ指導者とスポーツ社会学の必要性 【 到達目標 】 現代社会においてスポーツ指導者が、なぜスポーツ社会学を学ぶ必要があるのかについて理解する。 【授業時間外学習】自ら経験したり体験したスポーツに関連して、スポーツ社会学が現場にどう貢献するかまとめてみる。			第10回 総合型地域スポーツクラブを社会的に考える 【 到達目標 】 ヨーロッパの総合型の現状とそれをモデルとする日本のプロモーションビデオを視聴し、現在における日本の総合型の課題について議論できるようにする。 【授業時間外学習】 自分の住む地域の地域スポーツの実態に関して調査する。			
第3回 グローバル化社会の中でのスポーツの変容 【 到達目標 】 スポーツの誕生から近代スポーツの誕生、そして現在のグローバル化社会におけるスポーツの急速な変容について理解する（小レポートを実施）。 【授業時間外学習】グローバル化社会の特徴について、文献やインターネット等で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。			第11回 スポーツと身体 【 到達目標 】 スポーツと身体文化について、アスリートの身体、健康産業によって作りだされる健康、フィットネス産業によって作られる身体、加齢と身体といったトピックを社会的に理解・議論できるようにする。 【授業時間外学習】 上記のトピックから、自分が特に興味を持ったトピックに関して調べる。			
第4回 スポーツと政治の関係性について 【 到達目標 】 スポーツと政治の親和性について考えていく。ナショナリズムや国家的なスポーツ政策について、メディアとの関係性も踏まえて理解する。 【授業時間外学習】スポーツと政治の関係性に関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。			第12回 文化をめぐるスポーツ／社会のなかのスポーツ 【 到達目標 】 スポーツが文化として成立するための文化的構成要素とその社会的担い手の特徴や変化をめぐる課題について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツの文化的要素とは何か、これまでの講義内容からまとめてみる。			
第5回 スポーツの社会における機能 【 到達目標 】 スポーツと人種、社会階級の関係性について、様々なスポーツ社会学の研究成果を踏まえて考えていく。スポーツが持つ人々を分断させる力、また融合させる力について理解する。 【授業時間外学習】 前回の授業で指示した読書課題を読み、理解する。			第13回 スポーツとジェンダー（1）―問題のとらえ方― 【 到達目標 】 ジェンダー問題とは何かについて理解し、スポーツにおける性差別問題を社会秩序の観点から論じることができるようにする。 【授業時間外学習】 スポーツに限定せず、自分が経験した、または社会に存在するジェンダーバイアスに関して整理する。			
第6回 スポーツの産業化の功罪とスポーツ文化 【 到達目標 】 スポーツの産業化の功罪及びスポーツの文化性がスポーツ産業とどのように結びつくのかについて考えていく。健康産業、フィットネス産業に関して、社会的観点から理解・検討する。 【授業時間外学習】 スポーツビジネスの市場に関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。			第14回 スポーツとジェンダー（2）―課題と展望― 【 到達目標 】 女性アスリートのメディア・イメージやパターナリズムの理解から、スポーツにおけるジェンダーの課題と展望について論じることができるようにする（小レポート実施）。 【授業時間外学習】 スポーツとジェンダーの問題に関して、特に関心のある領域に関して小レポートをまとめる。			
第7回 スポーツと社会的逸脱について 【 到達目標 】 スポーツと社会的逸脱の関係性について、ドーピング問題、スポーツと暴力等の問題をもとに理解を深めていく。 【授業時間外学習】 近年のドーピング問題の動向について調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。			第15回 これからの社会とスポーツの使命・可能性 【 到達目標 】 スポーツが担うべきミッションについて各自が理解し、今後の展望について、社会的観点から独自の議論を展開できるようにする。 【授業時間外学習】 スポーツ社会学のパースペクティブについて理解し、整理する。			
第8回 スポーツと教育の関係性について 【 到達目標 】 スポーツと教育の関係性について、社会的観点から議論できるようにする。スポーツと体育の関係性、課外活動における諸問題等も社会的観点から理解する（小レポートを実施）。 【授業時間外学習】 自分のスポーツ経験・体験について、教師や指導者との関係性に関してまとめてみる。						
【学習上の留意点】 1. 個別的な種目を離れて、スポーツの全体を捉えるようにする。 2. テキストの難しい言葉については、あらかじめ読み方と意味を調べておく。 3. 現代スポーツの動きや問題について関心を持つようにする。 4. 静かな授業環境を維持するためのルール、マナー、エチケットに各自が留意する。						
【教科書・参考書など】 教科書は使用しないが、必要に応じて、資料等を配布する。 参考図書：菊幸一他編著、「現代スポーツのパースペクティブ」、大修館書店、2006 井上俊・菊幸一編著、「よくわかるスポーツ文化論」、ミネルヴァ書房、2012						
【関連科目】 生涯スポーツ論、スポーツ原論、スポーツ政策論、スポーツ産業論、日常生活の社会学、ジェンダー論						
【成績評価方法】 1. 試験：60%（試験は試験期間中に別途実施。持込不可） 2. 授業中の小レポート（3回）及びリアクションペーパーへの記述内容：40% 3. 良好な出席状況は、当然の前提である。						

科目名	野外スポーツ実習Ⅰ（スキー）			担当者	森田陽子	
英文名	Practice of Outdoor Sports I (Skiing)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		専門基礎・選択		専門基礎・選択	専門基礎・選択
【目的とねらい】 スキー未経験者や初級者レベルを主な対象として、スキーの基本技術や理論、ルールやマナーを学習し、整地されたグレンデで安全に楽しく滑降する技術を習得することを目的とする。今後、習得した技術をさらに積み重ね、生涯スポーツの一つとして自然のなかで大いに楽しむことができる基礎作りとなることをねらいとしている。 授業形態は、事前事後指導と、4泊5日の宿泊集中授業で行うので、併せて集団生活についても学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 スキー用具の取り扱い方、基本的な動作、操作 【 到達目標 】 (1) スキー用具の取り扱い方法を理解する。 (2) スキー用具の装着方法を理解する。 (3) スキーを装着しての距離感覚を理解する。			第9回 ブルークボーゲン、シュテムターン 【 到達目標 】 (1) 横ずれの少ないブルークボーゲンの操作方法を理解する。 (2) 内スキーの引きよせの方法を理解する。 (3) シュテムターンの初歩で緩斜面を滑る。			
第2回 方向変換、歩行、滑走 【 到達目標 】 (1) 踏み替えによる方向変換法を理解する。 (2) 平地歩行感覚を理解する。 (3) 平地滑走感覚を理解する。 (4) 正しい転び方、立ち方を理解する。			第10回 シュテムターン、パラレルターン 【 到達目標 】 (1) 内スキーの引きよせのタイミングを理解する。 (2) シュテムターンで緩斜面を滑る。 (3) 素早い内スキーの引きよせ (4) 一定のリズムを保ってパラレルターンの初歩で滑る。			
第3回 登行、直滑降、ブルーク、制動と停止 【 到達目標 】 (1) 直滑降時の基本姿勢（スタンス）を理解する。(2) 直滑降で滑る。(3) ブルーク時の基本姿勢を理解する。(4) ブルークで滑る。(5) 直滑降から制動ブルークの方法を理解し、制動をおこなう。(6) ブルークからさらにテールを押し開く動作を理解する。(7) 階段登行時のインエッジとアウトエッジの使用法を理解する。(8) 開脚登行時のインエッジの使用法を理解する。(9) 階段登行、開脚登行で緩斜面を登る。			第11回 シュテムターン、パラレルターン 【 到達目標 】 (1) 内スキーの引きよせのタイミングを理解する。 (2) シュテムターンで緩斜面を滑る。 (3) 素早い内スキーの引きよせ (4) 一定のリズムを保ってパラレルターンの初歩で滑る。			
第4回 登行、直滑降、ブルーク、制動と停止 【 到達目標 】 (1) 直滑降時の基本姿勢（スタンス）を理解する。(2) 直滑降で滑る。(3) ブルーク時の基本姿勢を理解する。(4) ブルークで滑る。(5) 直滑降から制動ブルークの方法を理解し、制動をおこなう。(6) ブルークからさらにテールを押し開く動作を理解する。(7) 階段登行時のインエッジとアウトエッジの使用法を理解する。(8) 開脚登行時のインエッジの使用法を理解する。(9) 階段登行、開脚登行で緩斜面を登る。			第12回 パラレルターン 【 到達目標 】 (1) 中斜面をパラレルターンの初歩で滑る。 (2) 中斜面をトレーンでパラレルターンの初歩で滑る。			
第5回 ブルーク、ブルークボーゲン 【 到達目標 】 (1) 直滑降→ブルークの連続押し出しを理解する。 (2) 直滑降→ブルークの交互押し出しを理解する。 (3) ブルークの山まわりで加重配分を理解する。 (4) 左右スキーへの荷重移動で浅い連続回転を理解する。 (5) 浅い連続回転でブルークボーゲンの初歩で滑る。			第13回 パラレルターン 【 到達目標 】 (1) 中斜面をパラレルターンの初歩で滑る。 (2) 中斜面をトレーンでパラレルターンの初歩で滑る。			
第6回 ブルークボーゲン 【 到達目標 】 (1) 滑らかな脚の曲げ伸ばしで滑る方法を理解する。 (2) 一定のリズムを保って中ターンで滑ることを理解する。 (3) ブルークボーゲンで緩斜面を滑る。 (4) 一定のリズムを保って中ターンで滑る。 (5) ショートターンのリズムを理解する。 (6) ショートターンで緩斜面を滑る。			第14回 総合滑走（スキー初級者として習得した技術を確認する） 【 到達目標 】 (1) 総合斜面を基礎技術や応用技術で自由に滑る。 (2) 総合斜面を基礎技術や応用技術でデモンストレーションする。			
第7回 ブルークボーゲン 【 到達目標 】 (1) 滑らかな脚の曲げ伸ばしで滑る方法を理解する。 (2) 一定のリズムを保って中ターンで滑ることを理解する。 (3) ブルークボーゲンで緩斜面を滑る。 (4) 一定のリズムを保って中ターンで滑る。 (5) ショートターンのリズムを理解する。 (6) ショートターンで緩斜面を滑る。			第15回 総合滑走（スキー初級者として習得した技術を確認する） 【 到達目標 】 (1) 総合斜面を基礎技術や応用技術で自由に滑る。 (2) 総合斜面を基礎技術や応用技術でデモンストレーションする。			
第8回 ブルークボーゲン、シュテムターン 【 到達目標 】 (1) 横ずれの少ないブルークボーゲンの操作方法を理解する。 (2) 内スキーの引きよせの方法を理解する。 (3) シュテムターンの初歩で緩斜面を滑る。						
【授業時間外学習】 自由時間を利用し、各回の技術を理解・習得し、滑れるようになる。						
【学習上の留意点】 事前・事後指導に参加し、2月に行うスキー実習（新潟参加者¥60,000程度、北海道参加者¥85,000）に参加すること。大学外で授業を展開するので、服装、言葉使いはもちろんのこと、女子学生らしさを常に持って行動をすることを心がける。宿泊を伴うので、集団生活のあり方を十分理解し、他人に迷惑がかからないように心配りをする。 実習はグループ毎に活動するので、グループの指導者に従い積極的に参加するようにし、リーダーシップを取ることを心がける。用具や用品は大切に取り扱い管理をきちんとすることを心がける。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。実習要項を配布する。						
【関連科目】 野外教育論						
【成績評価方法】 レポート10%、スキー技術の習熟度80%、集団生活の適応度10%。						

科目名	野外スポーツ実習Ⅰ（スケート）			担当者	湯田 淳	
英文名	Practice of Outdoor SportsⅠ（Skating）					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		専門基礎・選択		専門基礎・選択	専門基礎・選択
【目的とねらい】 スケートの未経験者及び初級レベルを対象にして集中授業（3泊4日の学外実習）を実施する。スケートの概要（特性、歴史、用具、技術）、滑走の基礎技術、応用技術、グループスケーティング等について学習及び実習を行う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス（事前ガイダンス（学内）1） 【 到達目標 】 実習の全体像（宿泊場所、実施場所・施設、日程、時程）を理解する。			第9回 応用技術（連続滑走、停止）（学外実習7） 【 到達目標 】 ストロークを大きくし、長い距離を滑走できるようにする。イの字あるいはハの字でブレーキング及び停止をできるようにする。			
第2回 スケートの概要（事前ガイダンス（学内）2） 【 到達目標 】 ビデオで、スケートの全体構造及びリンクでの安全な行動法を理解する。			第10回 グループスケーティング（学外実習8） 【 到達目標 】 2～3人のグループで滑走できるようにする。			
第3回 リンクでの安全な行動法、基礎技術（前進滑走）（学外実習1） 【 到達目標 】 氷上への安全な入退場、安全な転倒法、転倒後の立ち上がり法を実践する。前方への歩行、滑走をできるようにする。			第11回 グループミーティング（発表準備）（学外実習9） 【 到達目標 】 編成したグループでの演技発表の内容を作成する。			
第4回 グループミーティング（目標設定、集団行動）（学外実習2） 【 到達目標 】 実習での個々の目標を明確にする。集団行動についての理解を深める。			第12回 応用技術（組み合わせ滑走）、フォークダンス（学外実習10） 【 到達目標 】 前進、後進、カーブ、ターン滑走そして停止を組み合わせ、連続してできるようにする。フォークダンス（汽車）を音楽に合わせてできるようにする。			
第5回 講義（学外実習3） 【 到達目標 】 スピードスケート、ホッケー、フィギュアスケート、アイスダンスについてビデオ鑑賞し、解説を行い、概略を理解する。			第13回 グループスケーティング、ミニホッケー（導入）（学外実習11） 【 到達目標 】 実習班全員で音楽に合わせて滑走できるようにする。ミニホッケーに必要な基礎技術を実践する。			
第6回 基礎技術（前進滑走、後進滑走）（学外実習4） 【 到達目標 】 前進滑走および後方への歩行、滑走をできるようにする。			第14回 試験課題の滑走、グループによる演技発表の準備（学外実習12） 【 到達目標 】 実習班ごとの技術試験課題を実践する。編成したグループで演技構成したスケーティングを音楽に合わせて実践する。			
第7回 基礎技術（カーブ滑走）（学外実習5） 【 到達目標 】 前進滑走から半円上を惰力滑走できるようにする。			第16回 試験、グループによる演技発表（学外実習13） 【 到達目標 】 試験課題を達成できるようにする。編成したグループによるグループスケーティングを発表する。			
第8回 基礎技術（ターン滑走）（学外実習6） 【 到達目標 】 前進滑走から後進滑走、後進滑走から前進滑走へ変換できるようにする。						
【授業時間外学習】 自身の滑走動作改善のための課題を確認し、改善のための方策を検討する。						
【学習上の留意点】 学外で宿泊して集団生活をしながら行う本実習では、一定期間における食事・睡眠など心身の健康の維持・管理（コンディショニング）が不可欠である。さらに他の学生や一般客そして従業員の方々との交流の中では礼儀やマナーのある行動を必要とする。寒冷な中での実習なので着衣するものに注意が必要である。						
【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。参考書としては「アイススケーティングの基礎」（大学スケート研究会編）を推薦する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 実技試験を40%、演技発表を40%、実習レポートを20%の割合として評価する。						

科目名	野外スポーツ実習Ⅱ（スキー）			担当者	森田陽子	
英文名	Practice of Outdoor Sports II (Skiing)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別	専門基礎・選択		専門基礎・選択	専門基礎・選択
【目的とねらい】 スキー初級者レベル以上を主な対象として、スキーの基本技術や応用技術、発展技術とそれらの理論、ルールやマナーを学習し、圧雪されたゲレンデや自然のままのゲレンデを安全に楽しく滑降する技術を習得することを目的とする。今後、スキーを様々な対象者に指導できる基礎作りとなることをねらいとしている。授業形態は、事前事後指導と、4泊5日の宿泊集中授業で行うので、併せて集団生活についても学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 直滑降、ブルーク、斜滑降、横滑りなどの基本的なポジション 【 到達目標 】 (1)直滑降、ブルーク時の基本姿勢を確認する。 (2)斜滑降、横滑りの基本姿勢やエッジングを確認する。 (3)基本のポジションで滑る。			第9回 パラレルターン（大まわり） 【 到達目標 】 (1)パラレルターン（大まわり）中急斜面を滑る。			
第2回 ブルークボーゲン、シュテムターン 【 到達目標 】 (1)直滑降→ブルークの連続押し出しや交互押し出しで滑る。(2)ブルークでの山まわりを確認する。(3)ブルーク・ギランデで滑る。(4)ショートリズムのブルークボーゲンで滑る。(5)横ずれの少ないブルークボーゲンで滑る。(6)内スキーの引き寄せの早いタイミングのシュテムターンで滑る。(7)ショートリズムのブルークボーゲンで滑る。			第10回 パラレルターン（小まわり） 【 到達目標 】 (1)パラレルターン（小まわり）中急斜面を滑る。			
第3回 ブルークボーゲン、シュテムターン 【 到達目標 】 (1)直滑降→ブルークの連続押し出しや交互押し出しで滑る。(2)ブルークでの山まわりを確認する。(3)ブルーク・ギランデで滑る。(4)ショートリズムのブルークボーゲンで滑る。(5)横ずれの少ないブルークボーゲンで滑る。(6)内スキーの引き寄せの早いタイミングのシュテムターンで滑る。(7)ショートリズムのブルークボーゲンで滑る。			第11回 パラレルターン 【 到達目標 】 (1)パラレルターン（大まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (2)パラレルターン（小まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (3)パラレルターン（大まわり→小まわり）で中急斜面を滑る。 (4)パラレルターン（小まわり→大まわり）で中急斜面を滑る。			
第4回 シュテムターン 【 到達目標 】 (1)シュテム・ギランデで滑る。 (2)シュテムターンで中斜面を滑る。 (3)シュテムターンのトレーンで中斜面を滑る。 (4)シュテムターンで急斜面を滑る。			第12回 パラレルターン 【 到達目標 】 (1)パラレルターン（大まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (2)パラレルターン（小まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (3)パラレルターン（大まわり→小まわり）で中急斜面を滑る。 (4)パラレルターン（小まわり→大まわり）で中急斜面を滑る。			
第5回 シュテムターン 【 到達目標 】 (1)シュテム・ギランデで滑る。 (2)シュテムターンで中斜面を滑る。 (3)シュテムターンのトレーンで中斜面を滑る。 (4)シュテムターンで急斜面を滑る。			第13回 パラレルターン 【 到達目標 】 (1)パラレルターン（大まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (2)パラレルターン（小まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (3)パラレルターン（大まわり→小まわり）で中急斜面を滑る。 (4)パラレルターン（小まわり→大まわり）で中急斜面を滑る。			
第6回 シュテムターン、パラレルターン 【 到達目標 】 (1)シュテムターンのトレーンで中急斜面を滑る。 (2)パラレ・ギランデで滑る。 (3)パラレルターンで中斜面を滑る。 (4)パラレルターンのトレーンで中斜面を滑る。			第14回 総合滑走（中・上級者として習得した技術を確認する） 【 到達目標 】 (1)総合斜面を応用技術や発展技術で自由に滑る。 (2)総合斜面を応用技術や発展技術でデモンストレーションする。			
第7回 シュテムターン、パラレルターン 【 到達目標 】 (1)シュテムターンのトレーンで中急斜面を滑る。 (2)パラレ・ギランデで滑る。 (3)パラレルターンで中斜面を滑る。 (4)パラレルターンのトレーンで中斜面を滑る。			第16回 総合滑走（中・上級者として習得した技術を確認する） 【 到達目標 】 (1)総合斜面を応用技術や発展技術で自由に滑る。 (2)総合斜面を応用技術や発展技術でデモンストレーションする。			
第8回 ストックワーク 【 到達目標 】 (1)ブルークの交互押し出しをしながらストックワークをする。 (2)直滑降でサイドステップしながらストックワークをする。 (3)シュテムターンをしながらストックワークをする。 (4)パラレルターンをしながらストックワークをする。						
【授業時間外学習】 自由時間を利用し、各回の技術を理解・習得し、滑れるようになる。						
【学習上の留意点】 事前・事後指導に参加し、2月に行うスキー実習（新潟参加者¥60,000程度、北海道¥85,000程度）に参加すること。大学外で授業を展開するので、服装、言葉使いはもちろんのこと、女子学生らしさを常に持って行動することを心がける。宿泊を伴うので、集団生活のあり方を十分理解し、他人に迷惑がかからないように心配りをする。実習はグループ毎に活動するので、グループの指導者に従い積極的に参加するようにし、リーダーシップを取ることを心がける。用具や用品は大切に取り扱い管理をきちんとすることを心がける。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。実習要項を配布する。						
【関連科目】 野外教育論						
【成績評価方法】 レポート10%、スキー技術の習熟度80%、集団生活の適応度10%。						

科目名	野外スポーツ実習Ⅱ（スケート）			担当者	湯 田 淳	
英文名	Practice of Outdoor Sports Ⅱ (Skating)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		専門基礎・選択		専門基礎・選択	専門基礎・選択
【目的とねらい】 スケートの経験者を対象にして集中授業（3泊4日の学外実習）を実施する。スケートの概要（特性、歴史、用具、技術）、滑走の基礎技術、応用技術、専門技術（スピードスケート、ホッケー、フィギュアスケート、アイスダンス、シンクロナイズドスケーティング）等について学習及び実習を行う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス（事前ガイダンス（学内）1） 【 到達目標 】 実習の全体像（宿泊場所、実施場所・施設、日程、時程）を理解する。			第9回 アイスダンス（学外実習7） 【 到達目標 】 アイスダンス（ダッチワルツ）に必要なステップを実践する。			
第2回 スケートの概要（事前ガイダンス（学内）2） 【 到達目標 】 ビデオで、スケートの全体構造及びリンクでの安全な行動法を理解する。			第10回 シンクロナイズドスケーティング（学外実習8） 【 到達目標 】 シンクロナイズドスケーティングの要素を実践する。			
第3回 基礎技術（前進、後進、カーブ、ターン滑走）（学外実習1） 【 到達目標 】 前進、後進、カーブ、ターン滑走を実践する。			第11回 グループミーティング（発表準備）（学外実習9） 【 到達目標 】 編成したグループでの演技発表の内容を作成する。			
第4回 グループミーティング（目標設定、集団行動）（学外実習2） 【 到達目標 】 実習での個々の目標を明確にする。集団行動についての理解を深める。			第12回 アイスダンス（学外実習10） 【 到達目標 】 アイスダンス（ダッチワルツ）を音楽にあわせて実践する。			
第5回 講義（学外実習3） 【 到達目標 】 スピードスケート、ホッケー、フィギュアスケート、アイスダンスについてビデオ鑑賞し、解説を行い、概略を理解する。			第13回 ミニホッケー（ゲーム）（学外実習11） 【 到達目標 】 ミニホッケーで班対抗のゲームを実践する。			
第6回 応用技術（連続滑走、停止）、グループスケーティング（学外実習4） 【 到達目標 】 ストロークを大きくし、長い距離を滑走できるようにする。イの字あるいはハの字でブレーキング及び停止をできるようにする。2～3人のグループで滑走できるようにする。			第14回 試験課題の滑走、グループによる演技発表の準備（学外実習12） 【 到達目標 】 実習班ごとの技術試験課題を実践する。編成したグループで演技構成したスケーティングを音楽に合わせて実践する。			
第7回 応用技術（組み合わせ滑走）、フォークダンス（学外実習5） 【 到達目標 】 前進、後進、カーブ、ターン滑走そして停止を組み合わせ、連続して滑走できるようにする。フォークダンス（汽車）を音楽にあわせてできるようにする。			第16回 試験、グループによる演技発表（学外実習13） 【 到達目標 】 試験課題を達成できるようにする。編成したグループによるグループスケーティングを発表する。			
第8回 グループスケーティング、ミニホッケー（導入）（学外実習6） 【 到達目標 】 実習班全員で音楽に合わせて滑走できるようにする。ミニホッケーに必要な基礎技術を実践する。						
【授業時間外学習】 グループスケーティングの発表内容について、他のグループメンバーの力量を考慮しながら検討する。						
【学習上の留意点】 学外で宿泊して集団生活をしながら行う本実習では、一定期間における食事・睡眠など心身の健康の維持・管理（コンディショニング）が不可欠である。さらに他の学生や一般客そして従業員の方々との交流の中では礼儀やマナーのある行動を必要とする。寒冷な中での実習なので着衣するものに注意が必要である。						
【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。参考書としては「アイススケーティングの基礎」（大学スケート研究会編）を推薦する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 実技試験を40%、演技発表を40%、実習レポートを20%の割合として評価する。						

科目名	野外スポーツ実習（野外活動）			担当者	森田陽子	
英文名	Practice of Outdoor Sports (Outdoor Activity)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2				専門基礎・選択	専門基礎・選択
【目的とねらい】 野外スポーツの内容は非常に多岐にわたる。この授業は自然を活用しておこなうキャンプ（3泊4日）を実施する。キャンプでの体験学習を通して、キャンプに必要な基礎的スキルを習得することや、自然を利用した諸活動を体験することを目的としている。また、自然とヒトとの関わりなどを学ぶことで、自然について深く考えることができるようになることをねらいとしている。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 キャンプ授業の概要 【 到達目標 】 (1) 授業の目的や意義について理解する。 (2) 自然との関わりについて理解する。			第9回 登山 【 到達目標 】 (1) 登山の意義やルートを理解する。 (2) 登山係を中心にグループで計画をする。 (3) 計画書を提出しコースを歩く。			
第2回 グループ編成と役割 【 到達目標 】 (1) グループ活動の意義を理解する。 (2) グループ編成をする。 (3) 各役割の内容を理解する。 (4) 最適な役割を担う。			第10回 登山 【 到達目標 】 (1) 登山の意義やルートを理解する。 (2) 登山係を中心にグループで計画をする。 (3) 計画書を提出しコースを歩く。			
第3回 テントの設営・撤収法 【 到達目標 】 (1) テント設営場所の選び方を理解する。 (2) テントの設営作業手順を理解する。 (3) テントの撤収手順を理解する。 (4) グループでテント設営、撤収をする。 (5) グループでテント宿泊をする。			第11回 ハンドクラフト 【 到達目標 】 (1) キャンプでのクラフトの意義を理解する。 (2) 小枝を用いた作品の作り方を理解する。 (3) ひもを用いた作品の作り方を理解する。 (4) 小石を用いた作品の作り方を理解する。 (5) 各自で作品を制作する。			
第4回 野外炊事 【 到達目標 】 (1) 炊事用具の確認をする。(2) かまどの確認をする。(3) 調理法の確認をする。(4) 飯盒の使用法を理解する。(5) 薪の割方を理解する。(6) 火の付け方や薪のたし方を理解する。(7) 薪でご飯を炊き、おかずを作る。(8) ガスコンロの使い方を理解する。(9) ガスコンロでご飯を炊き、おかずを作る。			第12回 ハンドクラフト 【 到達目標 】 (1) キャンプでのクラフトの意義を理解する。 (2) 小枝を用いた作品の作り方を理解する。 (3) ひもを用いた作品の作り方を理解する。 (4) 小石を用いた作品の作り方を理解する。 (5) 各自で作品を制作する。			
第5回 野外炊事 【 到達目標 】 (1) 炊事用具の確認をする。(2) かまどの確認をする。(3) 調理法の確認をする。(4) 飯盒の使用法を理解する。(5) 薪の割方を理解する。(6) 火の付け方や薪のたし方を理解する。(7) 薪でご飯を炊き、おかずを作る。(8) ガスコンロの使い方を理解する。(9) ガスコンロでご飯を炊き、おかずを作る。			第13回 天文観察 【 到達目標 】 (1) 夏の星座を理解する。 (2) 天体望遠鏡で確認する。 (3) 各自で興味あることについて質問をする。			
第6回 ハイキング 【 到達目標 】 (1) ハイキングの意義や、参考コースを理解する。 (2) ハイキング係を中心にグループでコースを検討、決定する。 (3) 計画書を提出しコースを歩く。			第14回 キャンプファイヤー 【 到達目標 】 (1) キャンプファイヤーの意義を理解する。 (2) キャンプファイヤー係を中心に実施する。			
第7回 ハイキング 【 到達目標 】 (1) ハイキングの意義や、参考コースを理解する。 (2) ハイキング係を中心にグループでコースを検討、決定する。 (3) 計画書を提出しコースを歩く。			第16回 地域交流 【 到達目標 】 (1) 郷土料理法を地元の方から指導を受ける。			
第8回 ハイキング 【 到達目標 】 (1) ハイキングの意義や、参考コースを理解する。 (2) ハイキング係を中心にグループでコースを検討、決定する。 (3) 計画書を提出しコースを歩く。						
【授業時間外学習】 各回の授業内容を理解し、実践につなげられるようにする。キャンプ実習のレポートを提出する。						
【学習上の留意点】 事前・事後指導に参加し、9月に行うキャンプ実習（¥30,000程度）に参加すること。大学外で授業を展開するので、服装、言葉使いはもちろんのこと、女子学生らしさを常に持って行動をすることを心がける。 キャンプ中はグループ毎に活動することが非常に多いので、積極的にグループに貢献するようにし、各自に役割があるのでリーダーシップを取ることを心がける。用具や用品は大切に取り扱い管理をきちんとすることを心がける。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。実習要項を配布する。						
【関連科目】 野外教育論						
【成績評価方法】 レポート40%、野外教育の理解とそれに伴う技術の習熟度30%、グループへの貢献度30%。						

科目名	スポーツ方法演習（陸上競技）			担当者	大橋 祐二	
英文名	Seminar in Sport Methods (Track and Field)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
【目的とねらい】 陸上競技種目の中でも技術的な要素が高い種目から、走種目としてハードル走を、跳種目として走り高跳びを取り上げる。さらに、トラック種目の中からチームで行う種目であるリレーを取り上げ、それぞれの種目の特性を理解するとともに、各種目の技能向上を目指していく。また、技能向上のための段階的な練習方法について理解し、安全に留意し実践できることを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ハードル走の特性 【 到達目標 】 (1)ハードル走の特性について理解し、最終的な目標を設定する。 【授業時間外学習】 最終的な目標について確認する。			第9回 背面跳びによる走り高跳び① 【 到達目標 】 (1)助走、踏切り準備、踏み切り、空中動作、着地について理解し、技能を身につける。 【授業時間外学習】 各局面における習熟度についてまとめる。			
第2回 リズム走としてのハードル走 【 到達目標 】 (1)一定のインターバルをリズムよく走ることができる。 (2)ミニハードルでリズムよく走ることができる。 【授業時間外学習】 リズムよく走ることができたかを確認する。			第10回 背面跳びによる走り高跳び② 【 到達目標 】 (1)助走、踏切り準備、踏み切り、空中動作、着地の練習を行うことができる。 (2)高さを上げながら記録に挑戦する。 【授業時間外学習】 高さに挑戦することができたかを確認する。			
第3回 ハードリングの基礎ドリル 【 到達目標 】 (1)リード脚・抜き脚のドリルを正確に行うことができる。 (2)ハードリングに注意して走ることができる。 【授業時間外学習】 ハードル走のドリルの手順について確認する。			第11回 走り高跳びの記録測定 【 到達目標 】 (1)役割分担を決め、記録測定の準備をする。 (2)自分に適した跳躍スタイルにより、目標記録に挑戦する。 【授業時間外学習】 役割分担と目標記録が到達できたかを確認する。			
第4回 自分に適したインターバルでのハードル走 【 到達目標 】 (1)リズムよく、ハードリングに注意して走ることができる。 【授業時間外学習】 ハードリングについて確認する。			第12回 リレーのチーム編成とオーダー 【 到達目標 】 (1)リレー種目の特性を理解する。 (2)チームを編成し、オーダーを編成できる。 【授業時間外学習】 チームの中で作戦を考える。			
第5回 スタートからのアプローチ 【 到達目標 】 (1)スタートから1台目までスムーズに走ることができる。 (2)スタートから2台目、5台目、ゴールまで走ることができる。 【授業時間外学習】 スタート動作からゴールまでの流れについて確認する。			第13回 テークオーバーゾーンでのパスワーク 【 到達目標 】 (1)正確にパスワークができるようにする。 【授業時間外学習】 パスワークがうまくできたかを確認する。			
第6回 ハードル走の計時 【 到達目標 】 (1)役割分担を決め、記録を計時することができる。 (2)目標記録に到達できるように走ることができる。 【授業時間外学習】 役割分担と目標記録が到達できたかを確認する。			第14回 チームの目標設定と競争 【 到達目標 】 (1)役割分担を決め、レースの準備をする。 (2)チームの目標を決め、予選・決勝とレースをすることができる。 【授業時間外学習】 役割分担と目標記録が到達できたかを確認する。			
第7回 走り高跳びの特性 【 到達目標 】 (1)走り高跳びの特性について理解し、最終的な目標を設定する。 【授業時間外学習】 最終的な目標について確認する。			第15回 目標達成の確認 【 到達目標 】 (1)ハードル走、走り高跳び、リレーについて技能が身につく、目標記録に到達できたかを確認する。 【授業時間外学習】 最終的な目標記録に到達できたかを確認する。			
第8回 ベリーロールによる走り高跳び 【 到達目標 】 (1)助走、踏切り準備、踏み切り、空中動作、着地について理解し、技能を身につける。 【授業時間外学習】 各局面における習熟度についてまとめる。						
【学習上の留意点】 各種目の技能習得と方法が主な目的になるため、ふさわしい服装とシューズを使用すること。また、陸上競技場は全天候走路のため、目標とする記録の到達を上げる手段としてスパイクシューズを使用することが望ましい。スパイクシューズの使用は、安全上の観点からも必要である。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 目標記録の達成度を70%、理解度を30%の割合として評価する。						

科目名	生涯スポーツ演習（ゴルフ）			担当者	小林 敬 和	
英文名	Seminar in Lifelong Sports (Golf)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別			専門基礎・選択	専門基礎・選択
【目的とねらい】 本講義は、以下の3点（①～③）を目的として授業を行う。また、技術だけでなく、ゴルフを通して礼儀正しさや、エチケット・マナーを習得する。 ①ゴルフの基礎的なスイング・応用技術の習得 ②ゴルフの特性・ルールの理解 ③ゴルフの基礎的な知識やエチケット・マナーの学習						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 (1)注意事項・授業の進め方・競技の概要について理解する。 (2)班を編成し、メンバーと交流を深める。 【授業時間外学習】 ゴルフの運動特性や競技概要について調べる。			第9回 スイング指導④（ロングアイアン） 【 到達目標 】 (1)ロングアイアンの打ち方を身につける。 (2)他のアイアンと打ち比べて違いを体験する。 【授業時間外学習】 スイングの幅をやや大きくしてハーフショットのイメージでスイングワークをする。			
第2回 アドレス・グリップの指導およびスイング・ドリルの指導① 【 到達目標 】 (1)アドレスの仕方、クラブの握り方を実習する。 (2)スイング・ドリルからスイング中の体重移動の仕方を学ぶ。 【授業時間外学習】 スティック状のものを使ってグリップ（握り方）を確認する。			第10回 アプローチショットの指導 【 到達目標 】 (1)カゴ入れゲームでアプローチショットの感覚をつかむ。 (2)フルショット時の自分の癖を知り、対応する。 【授業時間外学習】 スイングの幅を小さくしアプローチのイメージでスイングワークをする。			
第3回 アドレス・グリップの復習およびスイング・ドリルの指導② 【 到達目標 】 (1)アドレスの仕方、クラブの握り方を復習する。 (2)スイング・ドリルから軸を意識した動きを学ぶ。 【授業時間外学習】 適切なスタンスを確立するための姿勢づくりをイメージする。			第11回 パッティング技術の指導（パター） 【 到達目標 】 (1)パターの構え、ストロークを理解する。 【授業時間外学習】 パターのイメージをつくり小さく押し出す感覚でスイングワークをする。			
第4回 スイング・ドリルの指導③ 【 到達目標 】 (1)スイング・ドリルから腕の動きを学ぶ。 (2)各スイング・ドリルでの注意点を意識した動きができる。 【授業時間外学習】 両手を合わせて左右にスイング動作（以下スイングワーク）を練習する。			第12回 応用技術の指導（パターゲームの楽しみ方） 【 到達目標 】 (1)様々なシチュエーションでのパッティングを体験する。 【授業時間外学習】 パターのイメージをつくり小さく押し出す感覚でスイングワークをする。			
第5回 基本動作（各スイング・ドリルとスイングとの関係） 【 到達目標 】 (1)各スイング・ドリルを意識しながら実際にボールを打つ。 【授業時間外学習】 スイングの幅を小さくしアプローチのイメージでスイングワークをする。			第13回 スイング・応用技術のまとめ① 【 到達目標 】 (1)ショート・ミドル・ロングアイアンの復習をする。 (2)フルショット時の自分の癖を知り、対応する。 【授業時間外学習】 スイングの幅をやや大きくしてハーフショットのイメージでスイングワークをする。			
第6回 スイング指導①（ミドルアイアン） 【 到達目標 】 (1)ミドルアイアンを使用してボールを打つ。 【授業時間外学習】 スイングの幅をやや大きくしてハーフショットのイメージでスイングワークをする。			第14回 スイング・応用技術のまとめ② 【 到達目標 】 (1)ボールコントロールを意識する。 【授業時間外学習】 いろいろなスタンスとスイング幅でスイングワークをする。			
第7回 スイング指導②（ミドルアイアンの復習） 【 到達目標 】 (1)ミドルアイアンの打ち方を身につける。 【授業時間外学習】 スイングの幅をやや大きくしてハーフショットのイメージでスイングワークをする。			第15回 スイング・ドリルおよび技術の完成度の確認 【 到達目標 】 (1)スイング・ドリルのテスト。 (2)各クラブにおける球の弾道・飛距離を確認する。 【授業時間外学習】 いろいろなスタンスとスイング幅でスイングワークをする。			
第8回 スイング指導③（ショートアイアン） 【 到達目標 】 (1)ショートアイアンの打ち方を身につける。 (2)ミドルアイアンと打ち比べて違いを体験する。 【授業時間外学習】 スイングの幅をやや大きくしてハーフショットのイメージでスイングワークをする。						
【学習上の留意点】 ・安全第一（クラブを持っている人の半径2mは近寄らない、打席には必ずターゲットライン後方から入る等） ・服装はジャージ等運動にふさわしいもの。運動靴の着用（パンプス・サンダル等は減点の対象とする）。 ・長い髪の毛（肩につく長さ）はゴム等でしばる。 ・毎回、個人評価カード（レポート課題を含む）を記入し提出する。 ※最後の2回はゴルフ練習場を使用する実習を予定しており、その際には各自実習費を徴収する（1回あたり500円程度）。						
【教科書・参考書など】 特になし。必要に応じてプリントを配布する。						
【関連科目】 生涯スポーツ演習（テニス）						
【成績評価方法】 レポート課題の達成度（50%）、実技課題の最終的な達成度（50%）により評価する。						

科目名	生涯スポーツ演習（テニス）			担当者	小林 敬 和	
英文名	Seminar in Lifelong Sports (Tennis)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別			専門基礎・選択	専門基礎・選択
【目的とねらい】 テニスはフランスで遊びとして始まり、イギリスでルールが作られスポーツとして発展した。フランスやイギリスの貴族の人々に楽しまれていたのでルールとともにマナーが重んじられるスポーツである。生涯スポーツとして楽しむために、マナーやルール、基礎技術を習得することを目的とし、将来、年齢、性別に関わりなく誰でもゲームを楽しむことを伝えられるようになることがねらいである。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 歴史、用具と服装、マナー 【 到達目標 】 (1)テニスの始まり、日本での歴史について理解する。 (2)ラケット、テニスシューズについて理解する。 (3)授業参加時の服装やコートマナーを理解する。 【授業時間外学習】 テニスの歴史や競技特性について調べてみる。			第9回 シングルスゲーム（簡易：ハーフコート） 【 到達目標 】 (1)シングルスゲームをセルフジャッジでする。 (2)シングルスゲームをできるだけ多くおこなう。 【授業時間外学習】 シングルスゲームについて調べ実際のゲームイメージをつかむ。			
第2回 グリップ、スイング、グループ編成 【 到達目標 】 (1)ラケットの選び方を理解する。(2)グリップの種類とその違いを理解する。(3)ラケットスイングの軌道の種類と違いを理解する。(4)スイートスポットを理解する。(5)スイートスポットを意識してボールを扱うことができる。 【授業時間外学習】 スティック状の物を使ってグリップの確認をする。			第10回 ストローク、サービス、サービスリターン、ボレー 【 到達目標 】 (1)クロスでストロークをする。 (2)クロスコートでサービスをする。 (3)クロスコートでサービスリターンをする。(4)ボレーで返球する。 【授業時間外学習】 サービスやボレーのスイングワークを試してみる。			
第3回 フォアハンドストローク、ボレー 【 到達目標 】 (1)手で投げられたボールをフォアハンドボレーで返球する。(2)2人でボレー&ボレーを20回以上連続しておこなう。(3)手で投げられたボールをフォアハンドストロークで返球する。 (4)2人で10回以上ショートラリーを続ける。 【授業時間外学習】 手の平をラケットに例えてプレースメント（角度や高さ）をイメージしてみる。			第11回 ストローク、サービス、サービスリターン、ボレー 【 到達目標 】 (1)クロスでストロークをする。 (2)クロスコートでサービスをする。 (3)クロスコートでサービスリターンをする。(4)ボレーで返球する。 【授業時間外学習】 サービスやボレーのスイングワークを試してみる。			
第4回 フォアハンドストローク、ボレー 【 到達目標 】 (1)手で投げられたボールをフォアハンドボレーで返球する。(2)2人でボレー&ボレーを20回以上連続しておこなう。(3)手で投げられたボールをフォアハンドストロークで返球する。 (4)2人で10回以上ショートラリーを続ける。 【授業時間外学習】 腕全体を使ってスイング動作（以下スイングワーク）を試してみる。			第12回 ダブルスのルールと戦術説明、ダブルスのゲーム練習 【 到達目標 】 (1)ダブルスゲームのルールや戦術を理解する。 (2)ペアを決めてダブルスのゲーム練習をする。 【授業時間外学習】 ダブルスのゲームについて調べ実際のゲームイメージをつかむ。			
第5回 バックハンドストローク 【 到達目標 】 (1)フォアハンドストロークを復習する。(2)出されたボールをバックハンドストロークで返球する。(3)2人でバックハンドストロークでラリーを10回以上続ける。(4)フォアやバックハンドストロークでラリーを10回以上続ける。 【授業時間外学習】 腕全体を使ってスイングワークを試してみる。			第13回 ダブルスゲーム（簡易ゲーム） 【 到達目標 】 (1)ダブルスゲームの審判をする。 (2)ダブルスゲームをする。 (3)ダブルスゲームをセルフジャッジでする。 【授業時間外学習】 ダブルスのゲームや審判法について調べ実際の試合をイメージする。			
第6回 ストローク、サービス、サービスリターン（ストレート） 【 到達目標 】(1)フォアやバックハンドストロークでラリーを15回以上続ける。(2)サービスの方法を理解する。サービスのルールを理解する。(3)サービスコートに入るサービスを打つ。(4)サーバーとレシーバーの役割を理解する。(5)サービスをリターンする。(6)サービスをインかフォルトかをジャッジする。 【授業時間外学習】 腕全体を使ってスイングワークを試してみる。			第14回 ダブルスゲーム（簡易ゲーム） 【 到達目標 】 (1)ダブルスゲームの審判をする。 (2)ダブルスゲームをする。 (3)ダブルスゲームをセルフジャッジでする。 【授業時間外学習】 ダブルスのゲームや審判法について調べ実際の試合をイメージする。			
第7回 ストローク、サービス、サービスリターン（ストレート） 【 到達目標 】(1)フォアやバックハンドストロークでラリーを15回以上続ける。(2)サービスの方法を理解する。サービスのルールを理解する。(3)サービスコートに入るサービスを打つ。(4)サーバーとレシーバーの役割を理解する。(5)サービスをリターンする。(6)サービスをインかフォルトかをジャッジする。 【授業時間外学習】 腕全体を使ってスイングワークを試してみる。			第15回 ダブルスゲーム（審判をしながらゲームの進行の経験） 【 到達目標 】 (1)ルールや簡単な歴史についての理解度の確認。 【授業時間外学習】 実際のテニスプレーやゲームの構造について調べ理解する。			
第8回 シングルスゲーム（簡易：ハーフコート）、ルール説明 【 到達目標 】 (1)簡易ゲームのルールを理解する。 (2)シングルスゲームの審判をする。 (3)シングルスゲームをする。 【授業時間外学習】 シングルスゲームについて調べ実際のゲームイメージをつかむ。						
【学習上の留意点】 実技が中心となるため、靴や服装などはテニスにふさわしいものとし、出席するだけでは、決して技術の習得はできないので、毎回各自で目標を持って積極的に授業を受けること。ルールやマナーを理解し、ゲームがスムーズに進行できるように努める。毎回、個人評価カード（レポート課題を含む）を記入し提出する。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。参考書などは必要に応じて提示する。						
【関連科目】 生涯スポーツ演習（ゴルフ）						
【成績評価方法】 レポート課題の達成度（50%）、実技課題の最終的な達成度（50%）により評価する。						

科目名	生涯スポーツ演習 (バドミントン)			担当者	落合久夫	
英文名	Seminar in Lifelong Sports (Badminton)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1				専門基礎・選択	専門基礎・選択
【目的とねらい】 生涯スポーツとして親しみやすいバドミントンの特性や試合方法について理解する。 ゲームを行うのに必要な運動技能の向上を目指し、ゲームを楽しく実施できる能力を習得する。 授業を通して、体力の維持・増進に努める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション、グリップ、ラケット遊び 【 到達目標 】 (1)授業の進め方や注意事項について理解する。 (2)ラケットを持つ感覚(グリップ)に慣れる。 【授業時間外学習】 バドミントンとはどういうスポーツかを知る。			第9回 バドミントンに必要なトレーニング、フライトの復習 【 到達目標 】 (1)バドミントンにプラスになるトレーニングを考え、特に、後方への移動の重要性を学ぶ。 【授業時間外学習】 敏捷性を高める運動を調べる。			
第2回 サービス、ストローク (フォア・バック) 【 到達目標 】 (1)サービスの方法を理解する。 (2)フォアハンドストロークやバックハンドストロークを行う。 【授業時間外学習】 うちわ等を使いラケットの返し方を研究する。			第10回 試合方法を映像で学ぶ、ルールの理解 【 到達目標 】 (1)国際レベルの映像を見てイメージづくりや試合の方法を学び、ルールを理解する。 【授業時間外学習】 バドミントンのルールを調べ、手書きのレポートを提出する。			
第3回 バドミントン概説 (歴史等を学ぶ) 【 到達目標 】 (1)やさしい生涯スポーツと、競技性の高いバドミントンを知る。 (2)バドミントンの歴史を学び、現在のバドミントン事情を知る。 【授業時間外学習】 歴史を調べて、手書きのレポートを提出する。			第11回 ゲーム シングルス① 【 到達目標 】 (1)ゲームを体験し、審判ができるようになる。 【授業時間外学習】 シングルスのコートとルールを復習してくる。			
第4回 フライト(シャトルの飛翔)～ハイクリアー、ネットリブライ 【 到達目標 】 (1)ハイクリアー 高く遠くへ飛ばす。 (2)ネットリブライ (ヘアピン) 細やかなラケットワークを覚える。 【授業時間外学習】 プロ野球などを見て、ボールの投げ方を研究する。			第12回 ゲーム シングルス② 【 到達目標 】 (1)対戦相手を変えてゲームをする。 【授業時間外学習】 シングルスをした自己評価をし、『良かったところ』と『悪かったところ』を考える。			
第5回 フライト～スマッシュ、ネット前リターン (ロビング) 【 到達目標 】 (1)スマッシュ 高い打点からスピードや力強さを求める。 (2)ロビング ネット前からの後方へのリターン 【授業時間外学習】 キャッチボールなどをして、ものを投げる方法を研究する。			第13回 ゲーム ダブルス① 【 到達目標 】 (1)ゲームを体験し、シングルスとの違いを知る。 【授業時間外学習】 ダブルスのコートとルールを復習してくる。			
第6回 フライト～ドロップ 【 到達目標 】 (1)ドロップ ネット前に急激に落下するショットを目指す。 【授業時間外学習】 素振りなどを行い復習をする。			第14回 ゲーム ダブルス② 【 到達目標 】 (1)ダブルスの陣型(トップ&バック・サイドバイサイド)を知る。 (2)対戦相手やペアを替えてゲームをする。 【授業時間外学習】 ペアと上手くできるにはどうするかを考える。			
第7回 フライト～ドライブ、スマッシュレシーブ 【 到達目標 】 (1)ドライブ フォア・バックともスピード感を求める。 (2)スマッシュレシーブ コート奥やネット前に返球する。 【授業時間外学習】 バドミントンのフットワークを調べる。			第15回 団体戦 【 到達目標 】 (1)ダブルス・シングルの団体戦を行う。(みんなでチームと方式を考える) (2)得点・審判を自ら行う。 【授業時間外学習】 チームの決め方、団体戦の方式と運営方法を考えてくる。			
第8回 フットワーク (トラベリング)、フライトの復習 【 到達目標 】 (1)コートの中をスムーズに移動できる方法を学ぶ。 (2)フライトの復習 (ハイクリアーやスマッシュなど) 【授業時間外学習】 フットワーク (動き方) を復習する。						
【学習上の留意点】 バドミントン実技にふさわしい服装で授業に出席すること。 普段から体調管理に気をつけ、万全な体調で授業に臨むこと。 対戦する相手に敬意を払いネットを挟み、誰とも気軽に打ち合うことができるように心がけること。						
【教科書・参考書など】 バドミントンについてのプリントを配布する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 ゲーム実践の達成度50%、授業への積極的な取り組み度50%						

科目名	生涯スポーツ演習（ニュースポーツ）			担当者	佐々木直基・古瀬 由佳	
英文名	Seminar in Lifelong Sports (New Sports)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別			専門基礎・選択	
【目的とねらい】 1年次前期で受講する「生涯スポーツ論」を通して、子どもからお年寄りまで、健康者も障害者も含めた生涯スポーツ社会について学ぶ。その生涯スポーツの中でニュースポーツとして行われている様々な種目の特性や競技方法について理解し、ゲームを楽しく実習することが目的である。また、生涯スポーツとして今後も自身が実践できるようにするとともに、学んだニュースポーツを様々な対象者に指導実践ができるよう学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ニュースポーツの成り立ち 【 到達目標 】 (1)ニュースポーツとして各種目の発祥、特性、ルールを理解する。 【授業時間外学習】 シラバスで予定しているニュースポーツについての情報収集を行う。			第9回 アルティメット ルール理解とゲーム実践① 【 到達目標 】 (1)アルティメットのルールを理解し、簡単なゲームを行うことができる。 【授業時間外学習】 アルティメットのルールについて調べる。			
第2回 カバディ ルールの理解と簡単なゲーム 【 到達目標 】 (1)攻撃と防御におけるルールを理解する。 (2)ルールを意識しながらゲーム実践できる。 【授業時間外学習】 カバディのルールについて調べる。			第10回 アルティメット ゲーム実践② 【 到達目標 】 (1)戦術を意識してゲームを実践できる。 【授業時間外学習】 アルティメットの戦術について調べ、作戦を計画する。			
第3回 カバディ ゲーム実践① 【 到達目標 】 (1)楽しんでゲームができるよう実践する。 【授業時間外学習】 カバディの戦術について調べる。			第11回 スポーツ鬼ごっこ ルールの理解とゲーム実践① 【 到達目標 】 (1)ルールを理解する。 (2)ボールを正しく扱いゲーム実践できる。 【授業時間外学習】 スポーツ鬼ごっこのルールについて調べる。			
第4回 カバディ ゲーム実践② 【 到達目標 】 (1)勝敗を意識し、戦術をもとにゲームができるよう実践する。 【授業時間外学習】 チームの特徴を生かした作戦を計画する。			第12回 スポーツ鬼ごっこ ルールの理解とゲーム実践② 【 到達目標 】 (1)身につけた技能をもとにゲームで実践できる。 【授業時間外学習】 スポーツ鬼ごっこの戦術について調べ、作戦を計画する。			
第5回 ドッジビー 投げ方とゲーム実践① 【 到達目標 】 (1)ディスクを様々な方法で投げることができる。 (2)ディスクドッジのルールを理解し、ゲーム実践できる。 【授業時間外学習】 ドッジビーのルールについて調べる。			第13回 キンボール ルールの理解とリードアップゲーム 【 到達目標 】 (1)チームで協力して行うサーブとレシーブの技能を身につける。 【授業時間外学習】 キンボールのルールについて調べる。			
第6回 ドッジビー ゲーム実践② 【 到達目標 】 (1)ゴールドッジのルールを理解し、ゲーム実践できる。 【授業時間外学習】 ゲームを上手く進めるために作戦を計画する。			第14回 キンボール ゲーム実践 【 到達目標 】 (1)身につけた技能をチーム戦略のもとにゲームで実践できる。 【授業時間外学習】 キンボールの戦術について調べ、作戦を計画する。			
第7回 スカイクロス 投げ方とリードアップゲーム 【 到達目標 】 (1)スカイクロスの投げ方を身につける。 【授業時間外学習】 スカイクロスのルールについて調べる。			第15回 総合的検証 レポート作成 【 到達目標 】 (1)授業で扱ったニュースポーツについてゲーム展開およびルールを理解し説明できる。 【授業時間外学習】 授業期間中に行った種目について、ルールや作戦を説明できるように振り返る。			
第8回 スカイクロス ゲーム実践 【 到達目標 】 (1)身につけた投げ方を実践しゲームができる。 ①ノルナー競技 ②ノルゾー競技 【授業時間外学習】 状況に応じた投げ方について学習する。						
【学習上の留意点】 実習が中心となるため服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリ類は決して身につけない。本演習はすべてグループ毎に活動するので、ただ参加するのではなく、積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、各種目のルールを理解するため、各種目を始める際にルールについてのまとめを行う。ゲームを実践するだけでなく、ゲームの知識・理解を深めるように努めること。						
【教科書・参考書など】 特に教科書は指定しない。 日本カバディ協会ホームページ http://www.jaka.jp/ 日本スカイクロス協会ホームページ http://www.skycross.jp/ ほか						
【関連科目】 スポーツプログラミング演習、生涯スポーツ論						
【成績評価方法】 ゲーム実践の達成度を50%、ルールの理解度（レポート）を50%の割合として評価する。						

科目名	テーピング・マッサージ			担当者	永野 康治・眞鍋 芳明	
英文名	Taping and Massage					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別			専門基礎・選択	
【目的とねらい】 運動後のコンディショニングおよびセルフケアの方法として、機能解剖学とスポーツ傷害発生のメカニズムをもとに、テーピングおよびマッサージに関する基礎的知識の習得、実習を行う。特に本科目では、機能解剖学に基づいた正しい疲労回復のためのマッサージの技法および知識の獲得、ならびに足関節内反捻挫予防のテーピング技能の習得を目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 マッサージの目的と注意点および有効性について 【 到達目標 】 疲労回復のためのマッサージについて、その注意点ならびに有効性を理論的背景とともに学ぶ。 【授業時間外学習】 マッサージの目的、注意点についてまとめる。			第9回 足関節内反捻挫予防のためのテーピング（ホースシュー、スターアップ） 【 到達目標 】 足関節内反捻挫予防を対象に、関節可動域を制限するためのアスレティックテーピングの巻き方を習得する。 【授業時間外学習】 ホースシュー、スターアップの巻き方を実践する。			
第2回 足底・下腿のマッサージ 【 到達目標 】 具体的な手法ならびに肢位を学び、それらを駆使することで、足底および下腿の疲労回復を目的としたマッサージを習得する。 【授業時間外学習】 足底・下腿のマッサージを実践する。			第10回 足関節内反捻挫予防のためのテーピング（フィギュアエイト） 【 到達目標 】 足関節内反捻挫予防を対象に、関節可動域を制限するためのアスレティックテーピングの巻き方を習得する。 【授業時間外学習】 フィギュアエイトの巻き方を実践する。			
第3回 大腿・臀部のマッサージ 【 到達目標 】 骨盤に付着する筋と、ボディランドマークについて学習し、ターゲットマッスルの疲労回復を目的としたマッサージを習得する。 【授業時間外学習】 大腿・臀部のマッサージを実践する。			第11回 足関節内反捻挫予防のためのテーピング（実践応用編） 【 到達目標 】 これまでに習得した基本的なテーピングを発展させ、多様な目的に応じたテーピング法を習得する。 【授業時間外学習】 足関節内反捻挫予防の巻き方を実践する。			
第4回 腰背部のマッサージ 【 到達目標 】 腰背部の筋群の疲労回復を目的としたマッサージならびにスペシャルストレッチを習得する。 【授業時間外学習】 腰背部のマッサージを実践する。			第12回 アーチサポートに対するテーピング 【 到達目標 】 足底筋膜炎ならびに足部の障害に対する応急処置および傷害再発予防を目的としたテーピングを習得する。 【授業時間外学習】 アーチサポートの巻き方を実践する。			
第5回 上肢・肩・首のマッサージ 【 到達目標 】 生活習慣において疲労が蓄積されやすい肩および首周りの筋肉の疲労回復を目的としたマッサージを習得する。 【授業時間外学習】 上肢・肩・首のマッサージを実践する。			第13回 肉離れに対するテーピング 【 到達目標 】 下腿の肉離れに対する応急処置および傷害再発予防を目的としたテーピングを習得する。 【授業時間外学習】 肉離れに対するテーピングの巻き方を実践する。			
第6回 マッサージ総論 【 到達目標 】 疲労回復のマッサージに関する理論的背景ならびにターゲットマッスルの解剖学的構造を理解する。 【授業時間外学習】 対象者の状態に合わせたマッサージを実践する。			第14回 膝関節内側副靭帯損傷の再発予防のテーピング 【 到達目標 】 膝関節内側副靭帯損傷に対する再発予防のテーピングを習得する。 【授業時間外学習】 膝関節内側副靭帯損傷に対するテーピングの巻き方を実践する。			
第7回 テーピングの目的と注意点および有効性について 【 到達目標 】 傷害予防ならびに再発予防を目的としたアスレティックテーピングについて、その注意点と有効性を学ぶ。 【授業時間外学習】 テーピングの目的、注意点についてまとめる。			第15回 テーピング総論 【 到達目標 】 これまで学んだアスレティックテーピングについて復習し、身につけた技能の定着を図る。 【授業時間外学習】 対象者の状態にあわせたテーピングの巻き方を実践する。			
第8回 足関節内反捻挫予防のためのテーピング（アンダーラップ） 【 到達目標 】 足関節内反捻挫予防を対象に、テーピングの基礎であるアンダーラップの巻き方を習得する。 【授業時間外学習】 アンダーラップの巻き方を実践する。						
【学習上の留意点】 授業は主に実技形式で行う。第6回までのマッサージではボディランドマークを正確に把握するために薄手のズボン、Tシャツでの受講が望ましい。また、第8回以降のテーピングでは対象部位（足部および膝）の肌を露出できるように服装を原則とする。						
【教科書・参考書など】 授業で使用するテーピングはこちらで準備したものを購入してもらうため、3,000円ほどの代金が必要となる。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 筆記試験50% 実技試験50%						

科目名	スポーツ指導演習（体づくり運動）			担当者	笹本重子	
英文名	Seminar in Sports Teaching Method (Gymnastics)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	専門・選択		専門基礎・選択	
【目的とねらい】 学習指導要領に明記されている「体づくり運動」は、その内容が体ほぐしの運動と体力を高める運動である。しかし、学校教育現場における体ほぐし運動の展開は不十分である。その理由が他領域の指導に時間をかけたい、体操は準備運動で充分である、といった教師の指導力や指導法に課題がある。そこで準備運動の工夫を中心に指導案を作成し、その展開を通して体づくり運動の活用・構成と指導方法を学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 指導計画：進め方、評価の方法、グルーピング 【 到達目標 】 (1)授業のねらいや進め方について理解し、指導の方法をイメージする。			第9回 指導実習2 【 到達目標 】 (1)授業をする－受ける－評価する。			
【授業時間外学習】 学習指導要領第7節保健体育の内容「体づくり運動」を読んで概要を把握する。			【授業時間外学習】 自分の指導に役立つ内容をメモする。			
第2回 「体づくり運動」の内容の理解：体ほぐし運動と体力を高める運動 【 到達目標 】 (1)体ほぐし運動を理解し、運動遊びから教材を構成する。			第10回 指導実習3 【 到達目標 】 (1)授業をする－受ける－評価する。			
【授業時間外学習】 体ほぐしの意味や意義を確認しながら、子ども時代の運動遊びを思い出す。			【授業時間外学習】 自分が指導するときの留意点を把握する。			
第3回 体づくり運動の活用法：準備運動と整理運動 【 到達目標 】 (1)準備運動と整理運動の役割を理解し、運動を構成する。			第11回 指導実習4 【 到達目標 】 (1)授業をする－受ける－評価する。			
【授業時間外学習】 中学校・高等学校時代の準備運動の内容と本時の学習内容を比較して考察する。			【授業時間外学習】 自分の指導の手順をシミュレーションする。			
第4回 体づくり運動の活用法：スポーツ導入の体操と補強運動 【 到達目標 】 (1)各運動領域を把握し、導入に適した運動を構成する。			第12回 指導実習5 【 到達目標 】 (1)授業をする－受ける－評価する。			
【授業時間外学習】 本時以外のスポーツ導入の運動について考える。			【授業時間外学習】 自分の指導を振り返り、今後の修正点を明確にする。			
第5回 体づくり運動の活用法：表現系の体ほぐし運動と体力を高める運動 【 到達目標 】 (1)ダンスウォーミングアップに展開できる動き方を理解する。			第13回 指導実習6 【 到達目標 】 (1)授業をする－受ける－評価する。			
【授業時間外学習】 本時の内容以外のリズム遊びを考える。			【授業時間外学習】 他者の指導に助言できるように準備する。			
第6回 体づくり運動の指導の理論：対象別特性、運動の配列 【 到達目標 】 (1)対象別特性と運動の配列について考え、合理的な指導の方法を検討する。			第14回 指導実習7 【 到達目標 】 (1)授業をする－受ける－評価する。			
【授業時間外学習】 中高時代の生徒の特徴など、実態を思い出してみる。			【授業時間外学習】 他者に助言できるように準備する。			
第7回 学習指導案の作成 【 到達目標 】 (1)指導案の作成手順を理解し、作成する。			第15回 体づくり運動の指導の確認 【 到達目標 】 (1)体づくり運動の展開とその指導法について確認する。			
【授業時間外学習】 学習指導案作成について、必要資料を持参する。			【授業時間外学習】 自身を振り返り、指導者としての課題点や修正点をまとめておく。			
第8回 指導実習1 【 到達目標 】 (1)授業をする－受ける－評価する。						
【授業時間外学習】 自分が指導するときの心構えをつくる。						
【学習上の留意点】 これまで中学校・高等学校で経験してきた「体操」を振り返りながら、学習者の実態に応じた運動提案について研究・開発する心構えをもつ。また、常に指導者としての身だしなみや言動に関心を持ち、教師としての役割や自覚を高めるように努める。						
【教科書・参考書など】 随時資料等プリント配布。						
【関連科目】 スポーツ方法実習A（体操・器械運動）、保健体育科教育法Ⅰ（教育の方法・技術含む）、保健体育科教育法Ⅱ（教育の方法・技術含む）						
【成績評価方法】 教材の研究と指導案作成50%、模擬授業30%、レポート20%で総合的に評価する。						

科目名	スポーツ指導演習（器械運動）			担当者	小海 隆樹・佐藤麻衣子	
英文名	Seminar in Sports Teaching Method (Apparatus Exercise)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		専門・選択		専門基礎・選択	
【目的とねらい】 器械運動の指導法を学習するために、学校体育で扱われる器械運動の基礎的な技を取り上げ、学習指導案の作成と実際の指導を通して指導方法論を学ぶ。そこから、器械運動に必要な「指導のコツ」と「コツの指導」を明らかにし、さらに、それぞれの技の望ましい指導段階の組み方や技の観察ポイント（評価ポイント）を明らかにしていく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 指導に必要な知識 【 到達目標 】 (1)指導のマネジメント能力の必要性を理解する。 (2)コツの指導の必要性を理解する。 【授業時間外学習】 第1回目の授業内容に関してノートにまとめる。			第9回 学生による模擬授業（とび箱運動）とその検討① 【 到達目標 】 (1)「閉脚とび」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「開脚とび」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第9回目の授業内容に関してノートにまとめる。			
第2回 器械運動の練習場面の設定と補助法 【 到達目標 】 (1)技の指導に必要な場の設定の基本的考え方を理解する。 (2)技の指導に必要な基本的な補助法について理解する。 【授業時間外学習】 第2回目の授業内容に関してノートにまとめる。			第10回 学生による模擬授業（とび箱運動）とその検討② 【 到達目標 】 (1)「閉脚とび」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「開脚とび」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第10回目の授業内容に関してノートにまとめる。			
第3回 学生による模擬授業（マット運動）とその検討① 【 到達目標 】 (1)「倒立」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「倒立」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第3回目の授業内容に関してノートにまとめる。			第11回 学生による模擬授業（とび箱運動）とその検討③ 【 到達目標 】 (1)「はねとび」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「はねとび」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第11回目の授業内容に関してノートにまとめる。			
第4回 学生による模擬授業（マット運動）とその検討② 【 到達目標 】 (1)「前転」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「前転」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第4回目の授業内容に関してノートにまとめる。			第12回 学生による模擬授業（平均台運動）とその検討 【 到達目標 】 (1)「平均台の基礎技能」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「平均台の基礎技能」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第12回目の授業内容に関してノートにまとめる。			
第5回 学生による模擬授業（マット運動）とその検討③ 【 到達目標 】 (1)「後転」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「後転」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第5回目の授業内容に関してノートにまとめる。			第13回 学生による模擬授業（鉄棒運動）とその検討 【 到達目標 】 (1)「鉄棒の基礎技能」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「鉄棒の基礎技能」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第13回目の授業内容に関してノートにまとめる。			
第6回 学生による模擬授業（マット運動）とその検討④ 【 到達目標 】 (1)「側方倒立回転」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「側方倒立回転」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第6回目の授業内容に関してノートにまとめる。			第14回 とび箱、平均台、鉄棒運動の指導 【 到達目標 】 (1)とび箱、平均台、鉄棒運動の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)とび箱、平均台、鉄棒運動の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第14回目の授業内容に関してノートにまとめる。			
第7回 学生による模擬授業（マット運動）とその検討⑤ 【 到達目標 】 (1)「ハンドスプリング」の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)「ハンドスプリング」の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第7回目の授業内容に関してノートにまとめる。			第15回 器械運動の指導 【 到達目標 】 (1)器械運動で行われる技の動感について理解する。 (2)できない人の動感について理解する。 【授業時間外学習】 授業全体を通して得た知見を実際の指導に活かせるよう準備する。			
第8回 マット運動の指導 【 到達目標 】 (1)マット運動の指導場面の設定とその課題を理解する。 (2)マット運動の動感指導に必要な知を理解する。 【授業時間外学習】 第8回目の授業内容に関してノートにまとめる。						
【学習上の留意点】 この授業は、体育教員を目指す学生のためのものである。担当指導時間の学習指導案を具体的なシミュレーションをもとに作成する必要がある。担当授業（教師役）に関しては、授業マネジメントに関する知識と、技のコツに関する知識とそれを達成させる「道しるべ」の設定が不可欠であり、十分な準備が必要となる。また、生徒役の学生も、授業を受ける側の視点から、行われた授業について、いろいろな角度から問題点・課題を検討する必要がある。毎回の授業内容をノートにまとめながら、指導に活かせる自分なりの「指導ノート」を作成する。						
【教科書・参考書など】 <参考書> 「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友（大修館書店）						
【関連科目】 スポーツ方法実習A（器械運動）、スポーツ方法応用演習（器械運動）、スポーツコーチング演習I（採点競技系・器械運動）						
【成績評価方法】 授業内容の記録ノート 70% ・ 指導技術 30%						

科目名	スポーツ指導演習（陸上競技）			担当者	渡部 誠	
英文名	Seminar in Sports Teaching Method (Track and Field)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		専門・選択		専門基礎・選択	
【目的とねらい】 ハードル走と走り幅跳びを中心に、その特性を理解するとともに指導の際に必要な指導の能力の向上を目指していくことが目的である。そして、学習者が自己の能力を把握でき、適切な目標を設定し、目標を達成するための練習方法や学習の進め方についての指導方法について、指導案を作成し実践していく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 陸上競技の指導のねらいと進め方 【 到達目標 】 (1)陸上競技の指導の進め方について理解する。 【授業時間外学習】 陸上競技の指導の進め方について確認する。			第9回 走り幅跳びの指導とその改善① 【 到達目標 】 (1)安全な着地の仕方について、その指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 安全な着地の仕方についての指導方法について確認する。			
第2回 ハードル走の特性と指導の方法 【 到達目標 】 (1)ハードル走の指導方法の段階について理解する。 【授業時間外学習】 段階的なハードル走の指導方法について確認する。			第10回 走り幅跳びの指導とその改善② 【 到達目標 】 (1)短助走跳躍の指導方法について理解する。 【授業時間外学習】 段階的な短助走跳躍の指導方法について確認する。			
第3回 ハードル走の指導とその改善① 【 到達目標 】 (1)ハードル走の導入としての指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 導入としてのハードル走の指導方法について確認する。			第11回 走り幅跳びの指導とその改善③ 【 到達目標 】 (1)空中動作の指導方法について理解する。 【授業時間外学習】 空中動作の指導方法について確認する。			
第4回 ハードル走の指導とその改善② 【 到達目標 】 (1)ハードリングの指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 段階的なハードリングの指導方法について確認する。			第12回 走り幅跳びの指導とその改善④ 【 到達目標 】 (1)全助走跳躍の指導方法について理解する。 【授業時間外学習】 全助走跳躍の指導方法について確認する。			
第5回 ハードル走の指導とその改善③ 【 到達目標 】 (1)インターバルとその走り方についての指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 インターバルとその走り方における指導の段階について確認する。			第13回 走り幅跳びの指導とその改善⑤ 【 到達目標 】 (1)記録会の運営と評価について理解する。 【授業時間外学習】 記録会の運営について、その出来と評価の仕方を確認する。			
第6回 ハードル走の指導とその改善④ 【 到達目標 】 (1)スタートからのアプローチ走についての指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 スタートからのアプローチ走の指導の段階について確認する。			第14回 ハードル走と走り幅跳びの指導のまとめ 【 到達目標 】 (1)改善した指導案についてレポートとして提出する。 【授業時間外学習】 改善した指導案のレポートを作成する。			
第7回 ハードル走の指導とその改善⑤ 【 到達目標 】 (1)記録会の運営と評価について理解する。 【授業時間外学習】 記録会の運営について、その出来と評価の仕方を確認する。			第15回 陸上競技指導の応用 【 到達目標 】 (1)ルールや状況に応じた指導方法を理解する。 【授業時間外学習】 ルールや状況に応じた指導方法について確認する。			
第8回 走り幅跳びの特性と指導の方法 【 到達目標 】 (1)走り幅跳びの指導方法の段階について理解する。 【授業時間外学習】 段階的な走り幅跳びの指導方法について確認する。						
【学習上の留意点】 実技を中心に行うので、ふさわしい服装とシューズ(スパイクシューズの場合あり)を使用すること。また、作成した指導案については、事前に確認を受け、安全に留意して指導できること。指導者役と生徒役に分かれて行うので、指導方法について指導者側と生徒側の立場から積極的に参加すること。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 指導案の作成と指導内容を70%、理解度を30%の割合として評価する。						

科目名	スポーツ指導演習（水泳）			担当者	山川啓介	
英文名	Seminar in Sports Teaching Method (Swimming)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	専門・選択		専門基礎・選択	
【目的とねらい】 水泳の初心者指導法や4種目泳法の指導法およびスタート、ターンの指導法について理論的な背景を理解し、指導実践の場で検証することを目的とする。また、安全管理の方法についても学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 水泳指導の原則 【 到達目標 】 水泳指導の原則や水泳の指導手段等について理解する。 【授業時間外学習】 水泳の特性に関する理解を深める。			第9回 指導実践 【 到達目標 】 各自で作成した指導計画に沿って模擬授業を行う。 【授業時間外学習】 模擬授業の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。			
第2回 水泳の初心者指導 【 到達目標 】 水泳の特性を踏まえた初心者指導法について理解する。 【授業時間外学習】 初心者指導に関する理解を深める。			第10回 指導実践 【 到達目標 】 各自で作成した指導計画に沿って模擬授業を行う。 【授業時間外学習】 模擬授業の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。			
第3回 各種泳法指導法（初級） 【 到達目標 】 各種泳法の初級者を対象とした指導法について理解する。 【授業時間外学習】 4泳法の技術に関する理解を深める。			第11回 指導実践 【 到達目標 】 各自で作成した指導計画に沿って模擬授業を行う。 【授業時間外学習】 模擬授業の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。			
第4回 指導計画の作成と評価 【 到達目標 】 水泳指導の計画の立て方と評価法について理解する。 【授業時間外学習】 水泳指導の計画の立て方と評価の仕方に関する理解を深める。			第12回 指導実践の反省と検討 【 到達目標 】 これまで行ってきた指導実践についてディスカッションし、各々が改善すべき点を明確に理解する。 【授業時間外学習】 これまでに作成した水泳指導に必要な資料を、他者評価を基にさらに洗練させる。			
第5回 指導実践 【 到達目標 】 各自で作成した指導計画に沿って模擬授業を行う。 【授業時間外学習】 模擬授業の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。			第13回 水泳事故 【 到達目標 】 水泳事故の発生原因について理解し、水泳事故を防ぐための方策について学習する。 【授業時間外学習】 水泳を含む水辺での事故に関する理解を深める。			
第6回 指導実践 【 到達目標 】 各自で作成した指導計画に沿って模擬授業を行う。 【授業時間外学習】 模擬授業の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。			第14回 水泳に関する傷害・疾病 【 到達目標 】 水泳における傷害・疾病について理解し、その対処法を学習する。 【授業時間外学習】 水泳の医学			
第7回 指導実践 【 到達目標 】 各自で作成した指導計画に沿って模擬授業を行う。 【授業時間外学習】 模擬授業の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。			第15回 プール施設・用具の管理 【 到達目標 】 プールにおける施設や水泳等で使われる用具の使い方や管理方法について理解する。 【授業時間外学習】 書籍等を活用して、水泳の医学に関する理解を深める。			
第8回 指導実践 【 到達目標 】 各自で作成した指導計画に沿って模擬授業を行う。 【授業時間外学習】 模擬授業の評価と反省を行い、より良い水泳指導につながる資料を蓄積する。						
【学習上の留意点】 本演習は、水泳の指導者としての第一歩を踏み出す内容であり、指導者としての心構えも含めた内容を修得する。そのため、指導者とはどうあるべきかを考えた受講態度が求められる。プールでの安全管理および安全対策の理解の一環として、アクセサリ類の着用は不可とする。また、指導実践においては他の学生の指導内容にも関心を持ち、評価する視点を持つことが大切である。						
【教科書・参考書など】 「水泳指導教本」 日本水泳連盟編、大修館書店 「水泳の医学（Ⅰ、Ⅱ）」 武藤芳照著、ブックハウスHD						
【関連科目】 健康スポーツ演習（アクアスポーツ）、スポーツコーチング演習Ⅰ（測定競技系）、スポーツプログラミング演習						
【成績評価方法】 1. 指導実習の計画書（30%）、2. 指導実習の実践（40%）、3. 水泳指導に関する筆記試験（30%）。						

科目名	スポーツ指導演習（バスケットボール）			担当者	佐々木直基	
英文名	Seminar in Sports Teaching Method (Basketball)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	専門・選択		専門基礎・選択	
【目的とねらい】 学校体育におけるバスケットボールについて、主な対象となる初心者が個人技術やグループ・チーム戦術の習得を目指す教科体育の指導法を学ぶことが目的である。さらには、単元計画の立案や学習指導案の作成方法についても学ぶ。作成した学習指導案にそって実際に指導を展開し、指導後に反省・検証を行って進めていく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業のねらいと進め方 【 到達目標 】 (1)授業のねらいと進め方を理解する。 【授業時間外学習】 バスケットボールの授業において求められる内容について調べる。			第9回 実際の指導展開と検証⑤ 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。			
第2回 単元計画の立案 【 到達目標 】 (1)単元計画について理解し、単元計画を立案する。 【授業時間外学習】 体育授業における単元計画の立案方法について調べる。			第10回 実際の指導展開と検証⑥ 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。			
第3回 学習指導案の作成① 【 到達目標 】 (1)単元計画をもとに、学習指導案を作成する。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成方法について調べる。			第11回 実際の指導展開と検証⑦ 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。			
第4回 学習指導案の作成② 【 到達目標 】 (1)単元計画をもとに、学習指導案を作成する。 【授業時間外学習】 学習指導案の作成方法について調べる。			第12回 実際の指導展開と検証⑧ 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。			
第5回 実際の指導展開と検証① 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。			第13回 実際の指導展開と検証⑨ 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。			
第6回 実際の指導展開と検証② 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。			第14回 実際の指導展開と検証⑩ 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。			
第7回 実際の指導展開と検証③ 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。			第15回 総合的検証 【 到達目標 】 (1)これまでの指導実践を通して行った指導法について分析し、今後の指導法について検証する。 【授業時間外学習】 教育実習に行くことを想定し、授業で得られた情報の整理を行う。			
第8回 実際の指導展開と検証④ 【 到達目標 】 (1)実際の指導実践を通して指導法を習得する。 (2)実際に指導した指導法について分析・検証し、今後の指導法について考察する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて指導実践を振り返る。						
【学習上の留意点】 実習も行う授業となるため服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリ類は決して身につけない。本演習はすべてグループ毎に活動するので、ただ参加するのではなく、積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、毎時間グループでディスカッションを行うので、積極的に発言し、論理的に話しができるよう努めることが求められる。						
【教科書・参考書など】 特に教科書は指定しない。 参考書：「バスケットボールの指導教本」日本バスケットボール協会編（大修館書店）						
【関連科目】 スポーツ方法実習C（バスケットボール）						
【成績評価方法】 平常授業での到達目標に対する到達度を70%、単元計画および学習指導案を30%として評価する。						

科目名	スポーツ指導演習 (バレーボール)			担当者	湯澤芳貴	
英文名	Seminar in Sports Teaching Method (Volleyball)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	専門・選択		専門基礎・選択	
【目的とねらい】 学校体育における教材としてのバレーボールに焦点を当て、バレーボールの競技特性と生徒の特性を効果的に融合させた学習活動を展開するための基本的な単元計画を考慮した学習指導案を作成し、その指導展開について実践的に学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 バレーボールの競技特性と指導理論 【 到達目標 】 (1)バレーボールの競技特性を考慮した指導理論を理解する。			第9回 指導実践Ⅶ(ゲームの進め方・ルール・審判法) 【 到達目標 】 (1)ゲームの進め方・ルール・審判法等の指導を実践できる。			
【授業時間外学習】 バレーボールの競技特性を考慮した指導理論について理解しておく。			【授業時間外学習】 事前にバレーボールのルールや審判法等について理解しておく。			
第2回 学校体育におけるバレーボール指導の留意点と安全管理 【 到達目標 】 (1)学校体育の場における指導上の留意点を理解する。 (2)学校体育の場におけるバレーボールの安全管理を理解する。			第10回 指導実践Ⅷ(技能レベルに応じたゲーム) 【 到達目標 】 (1)技能レベルに応じたゲームに関する指導を実践できる。			
【授業時間外学習】 学校体育でおこなわれるバレーボールの意義・目的について理解しておく。			【授業時間外学習】 技能レベルに応じた様々なルールの工夫について適切に判断できるようにする。			
第3回 指導実践Ⅰ(オーバーハンドパス) 【 到達目標 】 (1)オーバーハンドパスに関する指導を実践できる。			第11回 指導実践Ⅸ(技能レベルに応じたゲーム) 【 到達目標 】 (1)技能レベルに応じたゲームに関する指導を実践できる。			
【授業時間外学習】 事前にオーバーハンドパスの技能構造を理解しておく。			【授業時間外学習】 技能レベルに応じた様々なルールの工夫について適切に判断できるようにする。			
第4回 指導実践Ⅱ(アンダーハンドパス) 【 到達目標 】 (1)アンダーハンドパスに関する指導を実践できる。			第12回 指導実践Ⅹ(オフィシャルルールでのゲーム) 【 到達目標 】 (1)オフィシャルルールでのゲームに関する指導を実践できる。			
【授業時間外学習】 事前にアンダーハンドパスの技能構造を理解しておく。			【授業時間外学習】 オフィシャルルールでゲームをおこなう際の指導上のポイントを理解しておく。			
第5回 指導実践Ⅲ(パス技術の応用) 【 到達目標 】 (1)パス技術の応用に関する指導を実践できる。			第13回 指導実践Ⅺ(オフィシャルルールでのゲーム) 【 到達目標 】 (1)オフィシャルルールでのゲームに関する指導を実践できる。			
【授業時間外学習】 事前にパス技術の応用にはどのようなものがあるかについて理解しておく。			【授業時間外学習】 オフィシャルルールでゲームをおこなう際の指導上のポイントを理解しておく。			
第6回 指導実践Ⅳ(サーブ) 【 到達目標 】 (1)サーブに関する指導を実践できる。			第14回 バレーボールの評価方法 【 到達目標 】 (1)学校体育の場におけるバレーボールの技能評価を理解する。			
【授業時間外学習】 事前にサーブの技能構造を理解しておく。			【授業時間外学習】 事前に基本的な技能評価方法について理解しておく。			
第7回 指導実践Ⅴ(スパイク) 【 到達目標 】 (1)スパイクに関する指導を実践できる。			第15回 指導上の問題点の研究 【 到達目標 】 (1)指導実践で明らかになった問題点の解決法を理解する。 (2)学校体育の場での指導ポイントを明らかにすることができる。			
【授業時間外学習】 事前にスパイクの技能構造を理解しておく。			【授業時間外学習】 初心者指導でのつまづきとそれに対する適切な指導について理解しておく。			
第8回 指導実践Ⅵ(集団技能) 【 到達目標 】 (1)集団技能に関する指導を実践できる。						
【授業時間外学習】 事前にバレーボールの集団技能について理解しておく。						
【学習上の留意点】 学校体育の場におけるバレーボールの初心者を対象にした指導をおこなうために、基礎知識としてスポーツ方法実習Cのバレーボールで身につけた基礎知識をしっかりと理解しておく必要がある。不安なものもしっかりと復習しておくようにすること。 また基本的に2グループに分かれての演習形式で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。						
【教科書・参考書など】 教科書は特になし。						
【関連科目】 スポーツ方法実習C (バレーボール)						
【成績評価方法】 指導理論の理解を20%、学習指導案作成を30%、指導実践を50%として評価する。						

科目名	スポーツ指導演習（柔道）			担当者	木村昌彦	
英文名	Seminar in Sports Teaching Method (Judo)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	専門・選択		専門基礎・選択	
【目的とねらい】 初心者から初級者レベルを想定して、柔道の基本的な技能である投げ技、固め技、技の連絡変化を身につける方法について、トレーニング実践と指導実践を通して検証する。 技能の習熟度を理解し、その習熟課程を学習者および指導者の両方の立場で体験・実践することによってコーチング方法を身につける。さらに実際に授業を計画する能力を身につける。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション（授業展開について） 【到達目標】 授業の全体像を把握する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。			第9回 受身の指導法試験 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 受け身の適切な指導方法の確認をする。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。			
第2回 柔道の基本動作、受身の指導法（後受身）、固め技の指導法（袈裟固、乱取） 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 受け身の原理を理解し、指導方法を身につける。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。			第10回 授業の組み立ての研究Ⅰ 【到達目標】 授業目的、ねらいを考慮した授業作りができる。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。			
第3回 受身の指導法（横受身・前回受身）、固め技の指導法（横四方固、上四方固、乱取） 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 受け身の原理を理解し、指導方法を身につける。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。			第11回 授業の組み立ての研究Ⅱ 【到達目標】 授業目的、ねらいを考慮した授業作りができる。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。			
第4回 受身の指導法（前回受身）、固め技の指導法（抑え技の返し方、乱取） 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 受け身の原理を理解し、指導方法を身につける。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。			第12回 学生による模擬授業Ⅰ 【到達目標】 実際に自分で授業を実践する力を身につける。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。			
第5回 投げ技の基本動作の指導法（姿勢、組み方、進退動作、崩しー作りー掛け）、投げ技（膝車） 【到達目標】 基本動作を理解し、正確な動作を習得する。 基本動作の何故を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。			第13回 学生による模擬授業Ⅱ 【到達目標】 実際に自分で授業を実践する力を身につける。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。			
第6回 投げ技の指導法（主に刈系の技）、固め技（乱取） 【到達目標】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 刈り系の技の特徴と原理を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。			第14回 試験（投げ技、固め技） 【到達目標】 正確な動作を身につけ、柔道に関して理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。			
第7回 投げ技の指導法（主に回転系の技）、固め技の指導法（縦四方固、乱取） 【到達目標】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 回転系の技の特徴と原理を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。			第15回 簡易な試合 【到達目標】 柔道全般を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。			
第8回 投げ技の指導法（主に払い系の技）、固め技の指導法（連絡技、乱取） 【到達目標】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 払い系の技の特徴と原理を理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。						
【学習上の留意点】 安全面に留意する。授業の際は、集中して取り組むこと。また、「何故？」という課題、疑問を持って授業に参加すること。						
【教科書・参考書など】 「よくわかる柔道受け身のすべて」木村昌彦 著（ベースボールマガジン社） 「いちばんわかりやすい！柔道の教科書」木村昌彦 著（土屋書店） 「女子のための柔道の教科書」木村昌彦 著（土屋書店）						
【関連科目】						
【成績評価方法】 レポート（30%）と試験（70%）で評価する。						

科目名	ダンス・メソッド			担当者	坂本 秀子・宮本 乙女 高野美和子	
英文名	Dance Method					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別			専門基礎・選択	
【目的とねらい】 学校教育におけるダンス授業の指導法に焦点をあて、学齢期生徒の心身の発達に合わせたダンス授業の指導内容と方法について、実践を通じて理解する。具体的には、学習指導要領に基づいたダンス授業の基本的な単元計画のあり方や指導法、評価法について学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション、リズムのダンスによる導入・題材 【 到達目標 】 授業の概要、ダンス教育の歴史的展開と現状、意義について理解する。 導入の題材としてのリズム系ダンスを学ぶ。 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。			第9回 現代的なリズムのダンス② 【 到達目標 】 リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と簡単な踊り合い、見せ合いの指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。			
第2回 表現、創作課題① 【 到達目標 】 ものを使って即興的に踊りながら、ひと流れの動きを体験する創作ダンスへの導入方法を学ぶ。ひと流れを意識させる示範を検討する。 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。			第10回 フォークダンス① 【 到達目標 】 代表的なフォークダンスの踊り方と指導法を学ぶ。 指導実習に向け、学習指導案の書き方について学ぶ。 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、指導実習で行う課題を教科書により検討する。			
第3回 表現、創作課題② 【 到達目標 】 対極の動きの連続を手がかりにした基本的な課題から、指導法を学ぶ。 極限を引き出す示範の方法を検討する。 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。			第11回 フォークダンス② 【 到達目標 】 代表的なフォークダンスの踊り方を体得し、指導法を学ぶ。 指導実習で取り組むべき内容について学ぶ。 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、教科書を基に指導実習の準備を行う。			
第4回 表現、創作課題④ 【 到達目標 】 対極の動きの連続を手がかりにした基本的な課題から、指導法を学ぶ。 極限を引き出す示範の方法を検討する。 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。			第12回 指導実習に向けた準備活動 【 到達目標 】 指導実習に向けた準備および具体的な指導の練習、リズム太鼓の叩き方等を体得する。 指導実習のシュミレーションを行う。 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、教科書を基に指導案の練習、掲示物の作成を行う。			
第5回 表現、創作課題⑤ 【 到達目標 】 群・構成の基本的な課題からの創作、指導法を学ぶ。 群・構成の変化を引き出す方法を検討する。 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。			第13回 指導実習① 【 到達目標 】 グループ毎の指導案に基づいた指導実践および他グループの指導を体験しながら、内容を検討できる。 【授業時間外学習】 指導実習内容を振り返り、教科書を基に要点を整理する。			
第6回 表現、創作課題⑥ 【 到達目標 】 身近な生活や日常動作を手がかりにした基本的な題材からの創作、指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。			第14回 指導実習② 【 到達目標 】 グループ毎の指導案に基づいた指導実践および他グループの指導を体験しながら、内容を検討できる。 【授業時間外学習】 指導実習内容を振り返り、教科書を基に要点を整理する。			
第7回 表現、創作課題⑦ 【 到達目標 】 クラス作品、発表会に向けた創作、指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。			第15回 指導と評価のポイント 【 到達目標 】 授業全体を振り返り、ダンス授業における指導方法と評価のポイントを確認、理解することができる。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、教科書や資料を基に要点をまとめる。提出レポートを作成する。			
第8回 現代的なリズムのダンス① 【 到達目標 】 リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と簡単な踊り合いの指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、学習した内容について教科書を基に復習しておく。						
【学習上の留意点】 ダンスは中学校では全領域必修となっている。保健体育教員免許取得希望者・教員志望者はぜひ受講してほしい。中学校でのダンス指導法を学びつつ、高等学校や、小学校などでの指導や、社会体育、レクリエーションなど、さまざまな場面での指導において、応用できるような力をつけてほしい。授業は実技が中心である。指導者としての心構えを持って受講すること。						
【教科書・参考書など】 教科書として「明日からトライ！ダンスの授業」全国ダンス・表現運動授業研究会編（大修館書店）を使う。毎時間、授業内で使用する。 参考書：「ダンスの教育学」徳間書店、「女子体育」（公社）日本女子体育連盟発行						
【関連科目】 教育実習（教育実践研究を含む）						
【成績評価方法】 毎回の授業における活動内容と指導実習を80%、授業内記録カード、提出レポートを20%の割合で評価する。						

科目名	運動処方論			担当者	定本朋子	
英文名	Theory of Exercise Prescription					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2				専門・必修	
【目的とねらい】 習慣的な運動・スポーツは、人の健康および体力の保持増進に有効な働きをもつ。一方、運動には、怪我などのリスクも伴う。したがって運動を実践する際には、その効果を最大限に引き出し、リスクを最小限に押さえる適切な運動を処方する必要がある。本講義では、運動の種類、強度、持続時間、頻度、および進め方等を決める「運動処方」について学ぶ。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 運動処方論とは？ 【 到達目標 】 (1)なぜ、運動処方が必要なのかを理解する。 (2)運動処方論で取り扱う内容の概略を理解する。 【授業時間外学習】 現在の日本人における生活習慣病患者とハイリスク群の割合を調べる。			第9回 ウォーミングアップとクーリングダウンの効果 【 到達目標 】 (1)ウォーミングアップの手順と効果について説明できる。 (2)クーリングダウンの手順と効果について説明できる。 【授業時間外学習】 Keyword & Question を中心に、配布資料を復習する。			
第2回 運動処方に必要な生理学的知識（呼吸循環機能） 【 到達目標 】 (1)酸素運搬に働く呼吸系の基本的構造と機能を理解する。 (2)心臓、血管、血液の基本的構造と機能を理解する。 【授業時間外学習】 運動と呼吸循環機能に関する配布資料を復習する。			第10回 筋力増強運動のための基礎知識（筋機能） 【 到達目標 】 (1)筋収縮様式と筋力規定因子について理解する。 (2)筋力トレーニングの効果について理解する。 【授業時間外学習】 Keyword & Question を中心に、配布資料を復習する。			
第3回 運動処方のためのメディカル・チェックと身体組成の測定 【 到達目標 】 (1)メディカルチェックの手順と内容を理解する。 (2)身体組成（体脂肪率）測定法や肥満判定について説明できる。 【授業時間外学習】 Keyword & Question を中心に、配布資料を復習する。			第11回 レジスタンス運動を用いた運動処方の原則（ACSM指針） 【 到達目標 】 (1)1RM（最大挙上重量）について説明できる。 (2)ACSMのガイドラインを説明できる。 【授業時間外学習】 ACSMのガイドラインを覚え、Keyword & Question を中心に、配布資料を復習する。			
第4回 運動処方のための体力測定 【 到達目標 】 (1)新体力測定について説明できる。 (2)最大酸素摂取量と健康との関わりを理解する。 (3)健康関連体力について説明できる。 【授業時間外学習】 Keyword & Question を中心に、配布資料を復習する。			第12回 発育に応じた運動のあり方 【 到達目標 】 (1)PHV年齢と3つの他力要素の発育について説明できる。 (2)小学、中学、高校期における運動のあり方を理解する。 【授業時間外学習】 Keyword & Question を中心に、配布資料を復習する。			
第5回 エアロビクス運動強度の表し方（1） 【 到達目標 】 (1)種々の強度表示（例：METs、%HRreserve、RPE）を理解する。 (2)ターゲット運動強度が算出できる。 (3)%HRmax と %HRreserveの計算式と違いが説明できる。 【授業時間外学習】 Keyword & Question を中心に、配布資料を復習する。			第13回 加齢に応じた運動のあり方 【 到達目標 】 (1)加齢に伴う身体の変化の特徴を理解する。 (2)加齢に伴う体力や運動能力の低下を具体的に説明できる。 【授業時間外学習】 Keyword & Question を中心に、配布資料を復習する。			
第6回 エアロビクス運動強度の表し方（2） 【 到達目標 】 (1)METsとRPEによる運動強度表示を理解する。 (2)METsを用いたカロリー計算法が説明できる。 (3)無酸素性作業閾値の指標を理解する。 【授業時間外学習】 Keyword & Question を中心に、配布資料を復習する。			第14回 女性の特性と運動のあり方 【 到達目標 】 (1)体力や運動能力における性差について理解する。 (2)女性の運動指導における留意点について説明できる。 【授業時間外学習】 Keyword & Question を中心に、配布資料を復習する。			
第7回 エアロビクスを用いた運動処方の基本原則（ACSM指針）とその効果 【 到達目標 】 (1)ACSMのガイドラインを説明できる。 (2)運動の強度、時間、頻度の基本原則を具体的に説明できる。 (3)有酸素性運動の種々の効果について説明できる。 【授業時間外学習】 ACSMのガイドラインを覚え、Keyword & Question を中心に、配布資料を復習する。			第15回 運動処方に関わる安全対策と留意事項 【 到達目標 】 (1)運動する環境、運動機器、運動実施順の留意事項を理解する。 (2)運動実施者のリスクに関する留意事項を理解する。 【授業時間外学習】 Keyword & Question を中心に、配布資料を復習する。			
第8回 生活習慣病予防のための新しい運動基準 【 到達目標 】 (1)健康づくりのための身体活動水準2013の概要を理解する。 (2)アクティブガイドのポイントを説明できる。 【授業時間外学習】 Keyword & Question を中心に、配布資料を復習する。						
【学習上の留意点】 講義はパワーポイントの配布資料を用いて行う。受講者は集中して講義を聴き、正確に講義内容を理解することに努める。暗記科目と捉えないで、背景にある科学的根拠を理解するようにしてほしい。授業時間外学習として、配布資料のKeyword & Question を中心に講義内容を復習し、その日の到達度を受講者自身で確認してほしい。また授業内の質問と解答時間を積極的に活用してほしい。						
【教科書・参考書など】 指定の教科書は無い。必要な資料を配布する。参考書としては、「健康運動実践指導者養成用テキスト（書名）、健康・体力づくり事業団発行、2016年」、「健康運動指導士テキスト（書名）の上下巻、健康・体力づくり事業団発行、2016年」や「新版運動処方—理論と実際（書名）、池上晴夫（著者）、朝倉書店発行、1990年」などがある。						
【関連科目】 スポーツ生理学、機能解剖学、健康科学論、発育発達論、体力トレーニング論、女性のライフステージと運動、スポーツ医学						
【成績評価方法】 定期試験期間中に試験を別途実施し、その結果に基づいて成績を評価する。						

科目名	健康運動指導論			担当者	佐伯徹郎	
英文名	Theory of Exercise guiding for Health					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別			専門・必修	
【目的とねらい】 様々な対象者の身体的・精神的特性を把握し、各人の目的や状況を考慮した、健康の維持・増進、体力の維持・増進のための原則と方法について、多様な側面から学ぶことを目的とする。また、健康体力の維持増進を目的・目標とする具体的な運動・スポーツプログラムの作成法および指導法について学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 健康運動指導の意義と目的 【 到達目標 】 (1)健康運動指導の意義と目的について理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導の意義と目的について調査・考察する。			第9回 健康運動指導の計画立案 【 到達目標 】 (1)健康運動指導の計画立案について理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導の計画立案について調査・考察する。			
第2回 健康運動指導の実際 【 到達目標 】 (1)健康運動指導の実際を知り、自分の考えをまとめる。 【授業時間外学習】 健康運動指導の実際について調査・考察する。			第10回 健康運動指導の計画実行：記録のつけ方・活用法 【 到達目標 】 (1)健康運動指導の記録のつけ方を理解し、活用できる。 【授業時間外学習】 健康運動指導の記録のつけ方について調査・考察する。			
第3回 健康運動指導の対象者の特性 【 到達目標 】 (1)健康運動指導の対象者の特性について理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導の対象者について性別、年代、生活状況などから調査・考察する。			第11回 健康運動指導法①：運動技能の上達過程 【 到達目標 】 (1)運動技能の上達過程について理解する。 【授業時間外学習】 運動技能の上達過程について調査・考察する。			
第4回 健康運動指導の効果 【 到達目標 】 (1)健康運動指導の効果について理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導の効果について体方面、精神面、社会面から調査・考察する。			第12回 健康運動指導法②：運動指導の実際 【 到達目標 】 (1)運動指導の実際について理解する。 【授業時間外学習】 運動指導の実際について調査・考察する。			
第5回 健康運動プログラムの作成法①：実施手順 【 到達目標 】 (1)健康運動の実実施手順について理解する。 【授業時間外学習】 健康運動の合理的な実施手順について調査・考察する。			第13回 健康運動指導能力の高め方 【 到達目標 】 (1)健康運動指導能力の高め方について理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導能力の高め方について調査・考察する。			
第6回 健康運動プログラムの作成法②：現状把握と目標設定 【 到達目標 】 (1)健康運動における現状把握法と目標設定法について理解する。 【授業時間外学習】 健康運動における現状把握法と目標設定法について調査・考察する。			第14回 健康運動指導の成果の評価法 【 到達目標 】 (1)健康運動指導の成果の評価法について理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導の成果の評価法について調査・考察する。			
第7回 健康運動指導の手段①：エクササイズ 【 到達目標 】 (1)健康運動手段としてのエクササイズについて理解する。 【授業時間外学習】 健康運動手段としてのエクササイズについて調査・考察する。			第15回 健康運動指導のプログラム作成 【 到達目標 】 (1)講義内容について理解度を確認し、各自の考えを提示する。 (2)健康運動指導のプログラムを作成する。 【授業時間外学習】 健康運動指導のプログラム作成について調査・考察する。			
第8回 健康運動指導の手段②：スポーツ 【 到達目標 】 (1)健康運動手段としてのスポーツについて理解する。 【授業時間外学習】 健康運動手段としてのスポーツについて調査・考察する。						
【学習上の留意点】 毎回の内容についてよく考え理解し自分の意見を出す努力をすること。 「聞く・考える・書く」に積極的に取り組むこと。 配布資料が多いので紛失等に気をつけて整理しておくこと。						
【教科書・参考書など】 配布資料、ビデオ視聴などによる。						
【関連科目】 運動処方論、スポーツ運動学						
【成績評価方法】 最終課題70%、授業ノートの記入状況30%で評価する。						

科目名	スポーツ健康科学演習			担当者	佐伯 徹郎	
英文名	Seminar in Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別			専門・必修	
【目的とねらい】 運動・スポーツに取り組んでいる人の目的はさまざまである。本演習では、中でも、体力の保持・増進を図ることに焦点を当て、体力トレーニングの実施手順をもとに、“実践する人”に即した合理的なトレーニング活動のために必要となる原理・原則について学ぶことを目的とする。また、作成したトレーニングプログラムを実行し、その結果の分析・評価から、各種トレーニング目標を達成するために有効な考え方や行動の仕方について検討する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 体力トレーニングの実施手順 【 到達目標 】 (1)体力トレーニングの実施手順について理解する。 【授業時間外学習】 体力トレーニングの実施手順について調査・考察する。			第9回 中間報告の分析・評価→計画の修正 【 到達目標 】 (1)中間報告を活かした計画を作成し、実行できる。 【授業時間外学習】 実践報告・分析評価・計画修正について調査・考察する。			
第2回 各自のプログラムおよび記録紙の作成 【 到達目標 】 (1)実施手順に基づいてプログラムを作成する。 (2)プログラム実行の記録紙を作成する。 【授業時間外学習】 運動・スポーツプログラムの作成方法について調査・考察する。			第10回 失敗から学び成長するためには 【 到達目標 】 (1)トレーニングにおける失敗の原因と対策を理解する。 (2)独自の考え方と具体的方策を提示できる。 【授業時間外学習】 物事の失敗から学ぶ方法・事例について調査・考察する。			
第3回 運動・スポーツの記録のつけ方 【 到達目標 】 (1)運動・スポーツの記録のつけ方について理解する。 【授業時間外学習】 運動・スポーツの記録のつけ方について調査・考察する。			第11回 目標達成できる考え方と行動の仕方について 【 到達目標 】 (1)目標達成できる考え方と行動の仕方について理解する。 (2)独自の考え方と具体的方策を提示できる。 【授業時間外学習】 目標達成の様々な説・ノウハウについて調査・考察する。			
第4回 トレーニングの原理・原則 【 到達目標 】 (1)トレーニングの原理・原則を理解する。 【授業時間外学習】 トレーニングの原理・原則について調査・考察する。			第12回 年末年始対策プログラムの作成 【 到達目標 】 (1)食べ過ぎ・運動不足の対策を考える。 【授業時間外学習】 いわゆる年末年始における食べ過ぎ・飲み過ぎについて調査・考察する。			
第5回 トレーニング効果を出すための条件 【 到達目標 】 (1)トレーニング効果を出すための条件を理解する。 【授業時間外学習】 トレーニング効果について調査・考察する。			第13回 年末年始対策プログラムの評価 【 到達目標 】 (1)食べ過ぎ・運動不足の対策の実行状況と成果を評価する。 【授業時間外学習】 年末年始に限らず運動・食事の状況把握・報告・評価について調査・考察する。			
第6回 トレーニングと食事 【 到達目標 】 (1)トレーニングと食事の関係について理解する。 【授業時間外学習】 トレーニングと食事の関連性について調査・考察する。			第14回 プログラム実行結果のプレゼンテーション① 【 到達目標 】 (1)運動・スポーツ実践の結果について報告する。 【授業時間外学習】 プログラムの実行結果についてのプレゼンテーションについて調査・考察する。			
第7回 運動・スポーツに関する実践研究について 【 到達目標 】 (1)運動・スポーツ実践の研究手法について理解する。 【授業時間外学習】 運動・スポーツ実践の研究手法、体育学の研究手法について調査・考察する。			第15回 プログラム実行結果のプレゼンテーション② 【 到達目標 】 (1)運動・スポーツ実践の結果について報告する。 (2)授業のねらいが達成されたか評価する。 【授業時間外学習】 プレゼンテーションの方法や評価の仕方について調査・考察する。			
第8回 各自のプログラム実行状況の中間報告 【 到達目標 】 (1)運動・スポーツ実践の中間報告を実施する。 【授業時間外学習】 運動・スポーツ実践の報告の仕方について調査・考察する。						
【学習上の留意点】 毎回の内容についてよく理解し考えて自分の意見を出す努力をすること。 「聞く・考える・書く・話す」に積極的に取り組むこと。 配布資料が多いので紛失等に気をつけて整理しておくこと。 運動・スポーツに関するプログラムを作成し、記録をつけながら実行する授業を展開する。						
【教科書・参考書など】 配布資料、ビデオ視聴などによる。						
【関連科目】 体力トレーニング論、健康運動指導論、スポーツ心理学						
【成績評価方法】 中間課題30%、最終課題70%で評価する。						

科目名	スポーツ健康科学演習			担当者	定本 朋子	
英文名	Seminar in Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別			専門・必修	
【目的とねらい】 運動時の身体の働き、身体組成、体力、運動処方、トレーニング効果といった分野における書籍や論文を題材にして、実験系の研究アプローチの手法および科学的な事象の理解について学ぶ。また論文の読み方、抄録のまとめ方などに関する基礎的知識・技術を修得する。さらに調べた内容を分かりやすく発表し、適切な意見交換をする能力を育成する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 関連分野の概説 【 到達目標 】 (1)健康スポーツ学に関連する科学的研究分野を理解する。 (2)演習と発表の重要性を理解する。 【授業時間外学習】 指定した入門書、総説などから紹介したい文献を検索する。			第9回 研究論文の抄録作成法：研究論文(1)を用いて 【 到達目標 】 (1)研究の目的、方法、結果、議論、結論のまとめ方を理解する。 (2)エビデンス(図表)の見方や活用の仕方を理解する。 (3)研究論文(1)を基に抄録を作成する。 【授業時間外学習】 検索した論文の抄録作成を完成させる。			
第2回 総説的題材の収集法と抄録作成法 【 到達目標 】 (1)入門となる概説書や総説論文の収集法を知る。 (2)総説や概説書の抄録作成のポイントを理解する。 【授業時間外学習】 検索した文献の抄録を大まかに作成してみる。			第10回 作成した抄録を発表する：研究論文(2)を用いて 【 到達目標 】 (1)受講生の抄録発表の説明を正確に聞き取る。 (2)発表の良い所、再確認したいところ、疑問点などについて質問する。 (3)論理的な説明の仕方を理解する。 【授業時間外学習】 配布するコメント表に、発表内容と学んだことについてまとめる。			
第3回 抄録を作成する：総説的題材(1)を用いて 【 到達目標 】 (1)サンプルの抄録における問題点や留意事項について理解する。 (2)選択した文献の説明と抄録を合わせる。 【授業時間外学習】 検索した文献の抄録作成を完成させる。			第11回 作成した抄録を発表する：研究論文(3)を用いて 【 到達目標 】 (1)受講生の抄録発表の説明を正確に聞き取る。 (2)発表の良い所、再確認したいところ、疑問点などについて質問する。 (3)質問や議論のポイントを理解する。 【授業時間外学習】 配布するコメント表に、発表内容と学んだことについてまとめる。			
第4回 作成した抄録を発表する：総説的題材(2)を用いて 【 到達目標 】 (1)受講生の抄録発表の説明を正確に聞き取る。 (2)発表の良い所、再確認したいところ、疑問点などについて質問する。 【授業時間外学習】 配布するコメント表に、発表内容と学んだことについてまとめる。			第12回 作成した抄録を発表する：研究論文(4)を用いて 【 到達目標 】 (1)受講生の抄録発表の説明を正確に聞き取る。 (2)発表の良い所、再確認したいところ、疑問点などについて質問する。 (3)質問や議論のポイントを理解する。 【授業時間外学習】 配布するコメント表に、発表内容と学んだことについてまとめる。			
第5回 作成した抄録を発表する：総説的題材(3)を用いて 【 到達目標 】 (1)受講生の抄録発表の説明を正確に聞き取る。 (2)発表の良い所、再確認したいところ、疑問点などについて質問する。 (3)分かりやすい発表法について理解する。 【授業時間外学習】 配布するコメント表に、発表内容と学んだことについてまとめる。			第13回 作成した抄録を発表する：研究論文(5)を用いて 【 到達目標 】 (1)受講生の抄録発表の説明を正確に聞き取る。 (2)発表の良い所、再確認したいところ、疑問点などについて質問する。 (3)質問や議論のポイントを理解する。 【授業時間外学習】 配布するコメント表に、発表内容と学んだことについてまとめる。			
第6回 作成した抄録を発表する：総説的題材(4)を用いて 【 到達目標 】 (1)受講生の抄録発表の説明を正確に聞き取る。 (2)発表の良い所、再確認したいところ、疑問点などについて質問する。 (3)適切な質問の仕方と答え方について理解する。 【授業時間外学習】 配布するコメント表に、発表内容と学んだことについてまとめる。			第14回 作成した抄録を発表する：研究論文(6)を用いて 【 到達目標 】 (1)受講生の抄録発表の説明を正確に聞き取る。 (2)発表の良い所、再確認したいところ、疑問点などについて質問する。 (3)質問や議論のポイントを理解する。 【授業時間外学習】 配布するコメント表に、発表内容と学んだことについてまとめる。			
第7回 作成した抄録を発表する：総説的題材(5)を用いて 【 到達目標 】 (1)受講生の抄録発表の説明を正確に聞き取る。 (2)発表の良い所、再確認したいところ、疑問点などについて質問する。 (3)適切な質問の仕方と答え方について理解する。 【授業時間外学習】 配布するコメント表に、発表内容と学んだことについてまとめる。			第15回 レポートにおける図表、文献の作成法 【 到達目標 】 (1)レポートの作成法と図表や文献などの記載方法について学ぶ。 【授業時間外学習】 配布する図表および文献資料を適切に整理・記載したレポートを作成する。			
第8回 研究論文における題材の収集法と論文の構造 【 到達目標 】 (1)研究論文の収集法について知る。 (2)研究論文の基本構造を理解する。 【授業時間外学習】 指定した学術雑誌から紹介したい文献を検索する。						
【学習上の留意点】 本科目は「演習」であるため、資料収集、資料の読解、抄録作成などを受講生各自が実際に試行錯誤し、その作業・経験の過程から健康スポーツ科学について学ぶことが重要である。また他の人からの意見や質問をもらうことは深い理解に繋がるので、プレゼンテーションとディスカッションの時間を適宜設ける。受講生は、受身や指示待ちの姿勢ではなく、課題に対して能動的に取り組み、他者と積極的に情報交換をすることが重要である。						
【教科書・参考書など】 指定の教科書はない。必要な資料は配布する。						
【関連科目】 運動処方論、健康科学論、衛生学・公衆衛生学、スポーツ医学、発育発達論						
【成績評価方法】 抄録作成、プレゼンテーションとディスカッションにおける達成度を合計して60%、そして最後のレポート40%を加えて評価する。						

科目名	スポーツ健康科学演習			担当者	沢井史穂	
英文名	Seminar in Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別			専門・必修	
【目的とねらい】 健康スポーツの実践・指導・研究を行う上で必要となる基礎情報(身体特性や健康関連体力)について理解するとともに、具体的な測定法の原理とテクニック、データの解釈と評価法、健康スポーツのプログラム作成基準などの理論と技能について、実習を交えて学習する。さらに、グループで健康やスポーツに関する分野で関心のあるテーマを選び、資料や文献を調べて発表することで、情報の集め方、まとめ方、発表の仕方、質疑応答の仕方について学ぶ。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 (1)授業の進め方、準備、課題について理解する。 【授業時間外学習】 健康スポーツに関する関心事や調べてみたいことを各自考えてくること。			第9回 健康スポーツのプログラム作成基準 【到達目標】 (1)性・年齢・目的・身体特性・体力レベル等に応じた健康スポーツのプログラム作成基準について理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習し、今後の運動プログラム作成時に役立てる。			
第2回 健康スポーツの実践・指導・研究のための基礎知識と技能 【到達目標】 (1)健康づくりのためのスポーツの実践や指導、研究を進める上で知っておくべき基礎知識と技能について理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習し、次回の測定実習に備える。			第10回 ケーススタディ 【到達目標】 (1)具体的な事例について、健康上の問題点、体力レベルの評価法や勧められる運動内容について考察する。 【授業時間外学習】 各自、健康やスポーツに関する情報を集め、関心のあるテーマについて発表する準備をする。			
第3回 体調チェック・形態特性の把握 【到達目標】 (1)健康スポーツを実施する前の体調チェック項目について理解する。 (2)形態特性を知るための計測法を学習する。 【授業時間外学習】 自分の測定結果を記録・整理しておくこと。			第11回 文献の探し方・読み方 【到達目標】 (1)情報の集め方、文献検索の方法、検索文献の入手方法、ネットによる情報収集の注意点などについて理解する。 【授業時間外学習】 グループで興味ある健康に関するテーマを決め、文献や資料を探す。			
第4回 身体組成の推定法 【到達目標】 (1)身体組成を知ることの意味と主な推定法の原理を理解する。 (2)キャリパー法、インピーダンス法、超音波法を用いて測定を行い、体脂肪率・除脂肪量の計算法を理解する。 【授業時間外学習】 自分の測定結果を記録・整理しておくこと。			第12回 グループ発表① 【到達目標】 (1)抄録やパワーポイント資料を使用して、明確に発表する。 (2)発表者以外は、発表内容を評価してコメントを作成する。 【授業時間外学習】 グループ発表に備えて準備する。発表後は内容やプレゼンを振り返り、評価する。			
第5回 体力の評価法 【到達目標】 (1)健康関連体力とは何かを知り、体力を評価する意味を考える。 (2)体力測定の種類、測定法、妥当性と限界について理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習しておくこと。			第13回 グループ発表② 【到達目標】 (1)抄録やパワーポイント資料を使用して、明確に発表する。 (2)発表者以外は、発表内容を評価してコメントを作成する。 【授業時間外学習】 グループ発表に備えて準備する。発表後は内容やプレゼンを振り返り、評価する。			
第6回 日常生活活動量の評価法 【到達目標】 (1)自分の1日の生活行動を記録し、生活活動強度を推定する。 (2)歩数計や心拍計を用いて自分の生活活動量を客観的に評価する。 【授業時間外学習】 歩数計と心拍計を用いて、一週間の歩数計測、および平均的な一日の心拍数測定を行う。			第14回 グループ発表③ 【到達目標】 (1)抄録やパワーポイント資料を使用して、明確に発表する。 (2)発表者以外は、発表内容を評価してコメントを作成する。 【授業時間外学習】 グループ発表に備えて準備する。発表後は内容やプレゼンを振り返り、評価する。			
第7回 立位姿勢の評価と分類 【到達目標】 (1)写真撮影により自分の立位姿勢の特徴を知る。 (2)良い姿勢の判断基準と姿勢の分類について学習する。 【授業時間外学習】 自分の測定結果を記録・整理しておくこと。			第15回 DVD視聴 【到達目標】 (1)健康スポーツに関連した番組や映像を視聴し、自分の意見をまとめる。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、自己評価する。各自の興味を深め、文献や資料を探して読む。			
第8回 エクササイズウォーキングのポイント 【到達目標】 (1)エクササイズウォーキングの特性・効果・基本フォーム・至適速度などについて学習する。 【授業時間外学習】 授業で習った歩き方を実践してみる。						
【学習上の留意点】 測定実習、データ分析、資料の収集、内容の理解と発表方法の工夫、実際の発表、他の人の発表への意見表明など、毎回の演習内容に自発的、意欲的に参加し、積極的に取り組むこと。						
【教科書・参考書など】 とくになし。必要な資料はその都度配布する。						
【関連科目】 健康科学論、運動処方論、体力トレーニング論						
【成績評価方法】 毎回の演習での活動状況と課題の提出で50%、発表内容とプレゼンテーションで50%。						

科目名	スポーツ健康科学演習			担当者	助友裕子	
英文名	Seminar in Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		専門・必修			
【目的とねらい】 健康に関する分野の情報を集め、文献などを読んで自分で考える力を身につけることを目的とする。衛生学・公衆衛生学で扱う内容について、自分で資料や文献を調べることで関心を広げ、興味を深めることがねらいである。扱う内容は、年代別・性別などに応じた個別の健康課題、主な感染症、環境問題をはじめ、自治体や学校、職場でのヘルスプロモーション活動の実践事例まで、各自の関心あるテーマを選ぶ。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション：科学情報の集め方 【到達目標】 (1)情報の集め方、文献検索の方法、検索文献の入手方法、ネットによる情報収集の注意点などについて理解する。 【授業時間外学習】 文献検索データベースを用いて、検索文献を入手し、読んでおく。			第9回 各自の発表① 【到達目標】 (1)抄録やパワーポイント資料を使用して、明確に発表する。 (2)発表者以外は、発表内容を評価してコメントを作成する。 【授業時間外学習】 抄録をまとめ、発表用パワーポイントを作成し、レポートを執筆する。			
第2回 各自の興味ある健康情報の共有 【到達目標】 (1)日頃関心をもっている健康に関する情報について、皆の前で明確に発表できる。聞き手はそれについて意見を述べられる。 【授業時間外学習】 文献検索データベースを用いて、検索文献を入手し、読んでおく。			第10回 各自の発表② 【到達目標】 (1)抄録やパワーポイント資料を使用して、明確に発表する。 (2)発表者以外は、発表内容を評価してコメントを作成する。 【授業時間外学習】 抄録をまとめ、発表用パワーポイントを作成し、レポートを執筆する。			
第3回 研究論文の読み方と抄録作成法 【到達目標】 (1)公衆衛生学、健康教育関連の研究論文の読み方を理解する。 (2)研究論文を紹介するための抄録の作成ができるようになる。 【授業時間外学習】 テーマ、目的、方法まで抄録を書き始める。			第11回 各自の発表③ 【到達目標】 (1)抄録やパワーポイント資料を使用して、明確に発表する。 (2)発表者以外は、発表内容を評価してコメントを作成する。 【授業時間外学習】 抄録をまとめ、発表用パワーポイントを作成し、レポートを執筆する。			
第4回 各自の課題設定とその共有 【到達目標】 (1)この演習で自分が調べたいテーマを具体的に絞り、何をテーマにどのような方法で調べたいかを発表できる。 【授業時間外学習】 テーマ、目的、方法まで抄録を書いておく。			第12回 各自の発表④ 【到達目標】 (1)抄録やパワーポイント資料を使用して、明確に発表する。 (2)発表者以外は、発表内容を評価してコメントを作成する。 【授業時間外学習】 抄録をまとめ、発表用パワーポイントを作成し、レポートを執筆する。			
第5回 文献紹介 学校における健康づくり 【到達目標】 (1)学校を取り巻く健康課題について文献や資料を通して理解する。 (2)健康づくりの新たな課題について考えることができる。 【授業時間外学習】 自らが設定した研究方法にしたがって、調査を行い、結果をまとめる。			第13回 各自の発表⑤ 【到達目標】 (1)抄録やパワーポイント資料を使用して、明確に発表する。 (2)発表者以外は、発表内容を評価してコメントを作成する。 【授業時間外学習】 抄録をまとめ、発表用パワーポイントを作成し、レポートを執筆する。			
第6回 文献紹介 企業における健康づくり 【到達目標】 (1)企業を取り巻く健康課題について文献や資料を通して理解する。 (2)健康づくりの新たな課題について考えることができる。 【授業時間外学習】 自らが設定した研究方法にしたがって、調査を行い、結果をまとめる。			第14回 各自の発表⑥ 【到達目標】 (1)抄録やパワーポイント資料を使用して、明確に発表する。 (2)発表者以外は、発表内容を評価してコメントを作成する。 【授業時間外学習】 抄録をまとめ、発表用パワーポイントを作成し、レポートを執筆する。			
第7回 文献紹介 地域における健康づくり 【到達目標】 (1)地域を取り巻く健康課題について文献や資料を通して理解する。 (2)健康づくりの新たな課題について考えることができる。 【授業時間外学習】 自らが設定した研究方法にしたがって、調査を行い、結果をまとめる。			第15回 全体討論 全体レポート提出 【到達目標】 (1)演習を通して、健康への問題意識を深められた事を確認する。 【授業時間外学習】 提出したレポートをもとに、3年次以降の卒業研究計画を立てておく。			
第8回 文献紹介 家庭における健康づくり 【到達目標】 (1)家族を取り巻く健康課題について文献や資料を通して理解する。 (2)健康づくりの新たな課題について考えることができる。 【授業時間外学習】 自らが設定した研究方法にしたがって、調査を行い、結果をまとめる。						
【学習上の留意点】 文献検索、資料の収集、内容の理解と発表方法の工夫、実際の発表、他の人の発表への意見表明などの、毎回の演習内容に積極的に参画すること。						
【教科書・参考書など】 『事例分析でわかるヘルスプロモーションの「5つの活動」～Health Promotion Action Means～』 健康社会学研究会編 ライフ出版社 このほか必要な資料はその都度配布する。						
【関連科目】 衛生学・公衆衛生学、健康科学論						
【成績評価方法】 毎回の演習での活動状況と毎回の活動報告レポートで50%、発表内容と発表内容に関するレポートで50%。						

科目名	スポーツ健康科学演習			担当者	永野康治	
英文名	Seminar in Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
【目的とねらい】 本演習では、スポーツ健康科学におけるスポーツリハビリテーション、機能解剖分野の実践、指導、研究を行う上で必要な基本的技能の学習を行う。演習前半では、具体的な測定およびそのデータ処理、解釈等を行う。後半では関心のあるテーマについて文献情報の収集、まとめ、発表を行い研究の基礎を身につける。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション、スポーツ外傷・障害の調査 【 到達目標 】 (1)授業の進め方、内容、課題について理解する。 (2)スポーツ外傷・障害の発生状況調査法について理解する。 (3)スポーツ外傷・障害の発生状況について調査する。 【授業時間外学習】 対象者のスポーツ外傷・障害の状況をまとめる。			第9回 筋力の計測 上肢 【 到達目標 】 (1)上肢筋力の計測方法を理解する。 (2)上肢筋力の計測を実施する。 【授業時間外学習】 筋力の計測結果をまとめる。			
第2回 姿勢・アライメントの計測 【 到達目標 】 (1)姿勢・アライメントの計測方法を理解する。 (2)姿勢・アライメントの計測を実施する。 【授業時間外学習】 姿勢・アライメントの計測結果をまとめる。			第10回 筋力の計測 下肢 【 到達目標 】 (1)下肢筋力の計測方法を理解する。 (2)下肢筋力の計測を実施する。 【授業時間外学習】 筋力の計測結果をまとめる。			
第3回 身体部位の計測 【 到達目標 】 (1)周径、四肢長の計測方法を理解する。 (2)周径、四肢長の計測を実施する。 【授業時間外学習】 周径、四肢長の計測結果をまとめる。			第11回 計測データの分析3 【 到達目標 】 (1)筋力のデータを図表にまとめる。 (2)図表からデータの傾向を考察する。 【授業時間外学習】 図表のまとめ、およびデータの傾向をまとめる。			
第4回 計測データの分析1 【 到達目標 】 (1)姿勢・アライメント、周径、四肢長のデータを図表にまとめる。 (2)図表からデータの傾向を考察する。 【授業時間外学習】 図表のまとめ、およびデータの傾向をまとめる。			第12回 文献情報の収集 【 到達目標 】 (1)関連分野の文献情報の収集方法を理解する。 (2)興味のある分野の文献情報を収集する。 【授業時間外学習】 プレゼンテーション資料の作成を行う。			
第5回 関節可動域の計測 上肢1 【 到達目標 】 (1)上肢の関節可動域の計測方法を理解する。 (2)上肢の関節可動域の計測を実施する。 【授業時間外学習】 関節可動域の計測結果をまとめる。			第13回 プレゼンテーション1 【 到達目標 】 (1)パワーポイントを使用して、文献情報をまとめて発表する。 (2)発表者以外は質疑、発表内容の評価を行う。 【授業時間外学習】 プレゼンテーション資料の作成を行う。			
第6回 関節可動域の計測 上肢2・下肢1 【 到達目標 】 (1)上肢、下肢の関節可動域の計測方法を理解する。 (2)上肢、下肢の関節可動域の計測を実施する。 【授業時間外学習】 関節可動域の計測結果をまとめる。			第14回 プレゼンテーション2 【 到達目標 】 (1)パワーポイントを使用して、文献情報をまとめて発表する。 (2)発表者以外は質疑、発表内容の評価を行う。 【授業時間外学習】 プレゼンテーション資料の作成を行う。			
第7回 関節可動域の計測 下肢2 【 到達目標 】 (1)下肢の関節可動域の計測方法を理解する。 (2)下肢の関節可動域の計測を実施する。 【授業時間外学習】 関節可動域の計測結果をまとめる。			第15回 プレゼンテーション3 【 到達目標 】 (1)パワーポイントを使用して、文献情報をまとめて発表する。 (2)発表者以外は質疑、発表内容の評価を行う。 【授業時間外学習】 プレゼンテーション資料の作成を行う。			
第8回 計測データの分析2 【 到達目標 】 (1)関節可動域のデータを図表にまとめる。 (2)図表からデータの傾向を考察する。 【授業時間外学習】 図表のまとめ、およびデータの傾向をまとめる。						
【学習上の留意点】 実際に計測を行う場合が多いので、その際は上肢、下肢を出すことのできる服装で参加すること。グループでの計測を行うので、欠席を極力しないこと。欠席してしまった場合は各自での補習が必要となる。各回の内容について、小レポートを提示する(1～11回)。文献情報収集、プレゼンテーション、他発表者への質疑など積極的に参加すること。						
【教科書・参考書など】 特になし。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 小レポート 30% レポート 30% プレゼンテーション(他発表への参加も含む)40%						

科目名	スポーツ健康科学演習			担当者	夏井裕明	
英文名	Seminar in Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別			専門・必修	
【目的とねらい】 スポーツ医学の研究手法、研究のまとめ方、研究発表の方法などを実践を通じて体得する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 講義の目的、進め方、単位認定の方法について理解する。受講に際しての注意点を理解する。研究の班分けを行う。 【授業時間外学習】 ノートパソコンを準備し、Excel、PowerPointをインストールしておく。ノートパソコンがインターネットに接続できるように、情報処理センターで手続きを済ませておく。			第9回 研究の実施① 【到達目標】 研究計画に沿って研究を実行する。 【授業時間外学習】 学内施設を利用して、研究を実行する。			
第2回 スポーツ医学との研究方法 【到達目標】 医学の不確実性、医学専門領域の細分化、医学とスポーツの接点、健康スポーツ関連資格について理解する。 【授業時間外学習】 健康・スポーツ科学のための研究方法 研究計画の立て方とデータ処理方法 p 2 - 86 を読む。			第10回 研究の実施② 【到達目標】 研究の進捗状況を報告し、さらに研究計画に沿って研究を実行する。 【授業時間外学習】 学内施設を利用して、研究を実行する。			
第3回 研究データの処理法とグラフ作成法 【到達目標】 ノートパソコンを用いて、Excelを使った研究データの処理法とグラフ作成法を理解する。 【授業時間外学習】 健康・スポーツ科学のための研究方法 研究計画の立て方とデータ処理方法 p 88 - 104 を読む。			第11回 研究の実施③ 【到達目標】 研究の進捗状況を報告し、さらに研究計画に沿って研究を実行する。 【授業時間外学習】 学内施設を利用して、研究を実行する。			
第4回 統計学的検討法 【到達目標】 ノートパソコンを用いて、Excelを使った統計学的検討法を理解する。 【授業時間外学習】 健康・スポーツ科学のための研究方法 研究計画の立て方とデータ処理方法 p 105 - 183 を読む。			第12回 研究の実施④ 【到達目標】 研究の進捗状況を報告し、さらに研究結果をまとめる。 【授業時間外学習】 学内施設を利用して、研究を実行する。			
第5回 研究論文の構成と参考文献の探し方 【到達目標】 研究論文の構成を理解し、インターネットを使った参考文献の探し方を理解する。 【授業時間外学習】 インターネット接続環境を整備しておく。			第13回 研究結果のまとめ① 【到達目標】 研究結果をまとめて、グラフを作成する。 【授業時間外学習】 ノートパソコンを用いて、グラフを作成する。			
第6回 研究発表の方法 【到達目標】 PowerPointを使った研究発表の方法について理解する。 【授業時間外学習】 ノートパソコンにPowerPointを導入しておく。			第14回 研究結果のまとめ② 【到達目標】 研究結果をまとめて、統計学的検討を行う。 【授業時間外学習】 ノートパソコンを用いて、統計学的検討を行う。			
第7回 研究計画の立案① 【到達目標】 与えられた研究テーマに沿って研究計画を立案する。 【授業時間外学習】 研究テーマに関する教科書を捜して、理解しておく。			第15回 研究発表会 【到達目標】 研究結果を発表する。 【授業時間外学習】 ノートパソコンを用いて、発表資料を作成する。			
第8回 研究計画の立案② 【到達目標】 立案した研究計画を発表し、修正を加える。 【授業時間外学習】 研究テーマに関する文献を探して、理解しておく。						
【学習上の留意点】 講義は教員からの一方通行ではなく、ディスカッション形式で行うので、積極的な研究への取り組みが望まれる。授業進行にあたっては、ノートパソコンを使用する。ノートパソコンは、学内でインターネットに接続可能となるように設定しておく。ノートパソコンにはExcel、PowerPointがインストールされていること。						
【教科書・参考書など】 参考書：「健康・スポーツ科学のための研究方法 研究計画の立て方とデータ処理方法」、出村慎一著、杏林書院						
【関連科目】 情報処理（情報機器の操作を含む）						
【成績評価方法】 全演習に出席した者を単位認定の対象とし、研究発表会の内容（100%）で成績を評価する。						

科目名	スポーツサービス論			担当者	畑 攻	
英文名	Theory of Sport Service					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別			専門・必修	
【目的とねらい】 体育やスポーツ活動の支援や促進は、各種のスポーツサービスの展開によって具体化される。本講義を通して学校、地域、ビジネス及びプロスポーツなどの各活動領域の実践的なサービスの現状を把握するとともに、各サービスの提供母体や拠点の特性、対象者（消費者）の特性及び各スポーツの特性を活用した、調和のあるスポーツサービスのあり方を理解する。また、今日的な状況に適合する新たなスポーツサービスの企画開発の可能性やそのためのマネジメントのあり方についての理解も深めたい。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 一般的なサービスの変容と進化 【 到達目標 】 (1)「サービス」の曖昧さと変容及び今日的な意味を理解する。 (2)実態のある業務としてのサービスの重要性を理解する。 【授業時間外学習】 サービスという言葉について、何を指すのか、どのようなことなのかを整理する。			第9回 スポーツサービスの企画開発3（学校） 【 到達目標 】 (1)学校におけるスポーツサービスの現状を理解する。 (2)今日的なサービスと将来的なサービスを発展的に検討する。 【授業時間外学習】 学校における様々なスポーツとそのサービス化を考えてみる。			
第2回 スポーツサービスの特徴と課題 【 到達目標 】 (1)伝統的なスポーツサービス論（体育事業論）を理解する。 (2)経営学的なサービス論とスポーツサービス論を考察する。 【授業時間外学習】 スポーツとサービスの関係について考えてみる。			第10回 スポーツサービスの企画開発4（ビジネス） 【 到達目標 】 (1)スポーツビジネスにおけるサービスの動向を理解する。 (2)今日的なサービスと将来的なサービスを発展的に検討する。 【授業時間外学習】 ビジネス分野における様々なスポーツとそのサービス化を考えてみる。			
第3回 スポーツサービスの中核的構造（ベネフィット） 【 到達目標 】 (1)スポーツプロダクトモデルの構造を理解する。 (2)中核となるスポーツベネフィットについて広く検討する。 【授業時間外学習】 製品としてのスポーツの最も重要な中身は何かを考えてみる。			第11回 スポーツサービスの企画開発5（みるスポーツ） 【 到達目標 】 (1)みるスポーツにおけるサービスの動向を理解する。 (2)今日的なサービスと将来的なサービスを発展的に検討する。 【授業時間外学習】 みることを主とする様々なスポーツとそのサービス化を考えてみる。			
第4回 スポーツサービスの周辺的構造（接客、態度、精神など） 【 到達目標 】 (1)スポーツサービスの価値を高める各種の要因を理解する。 (2)スポーツにおける「おもてなし」構造と重要性を検討する。 【授業時間外学習】 製品としてのスポーツの質をより高める条件を整理して考えてみる。			第12回 スポーツサービスの企画開発6（女性スポーツ） 【 到達目標 】 (1)現代女性のためのスポーツサービスの状況を理解する。 (2)今日的なサービスと将来的なサービスを発展的に検討する。 【授業時間外学習】 女性における様々なスポーツとそのサービス化を考えてみる。			
第5回 サービスマーケティングの基本理論 【 到達目標 】 (1)スポーツをめぐる様々なマーケティングを理解する。 (2)サービスマーケティングの基本を理解する。 【授業時間外学習】 マーケティングの基本を振り返ってみる。			第13回 スポーツサービスの企画開発7（高齢者） 【 到達目標 】 (1)高齢者をめぐるスポーツサービスの状況を広く理解する。 (2)今日的なサービスと将来的なサービスを発展的に検討する。 【授業時間外学習】 高齢者における様々なスポーツとそのサービス化を考えてみる。			
第6回 サービスマーケティングの基本戦略 【 到達目標 】 (1)スポーツに関わる様々なマーケティング戦略を理解する。 (2)スポーツの固有なマーケティング戦略を検討する。 【授業時間外学習】 サービス製品としてのスポーツを見直すとともに、その段階的なマーケティングを考える。			第14回 スポーツサービスの企画開発8（日本女子体育大学） 【 到達目標 】 (1)本学のスポーツサービスの現状を理解する。 (2)今後の本学にふさわしいスポーツサービスを検討する。 【授業時間外学習】 日本女子体育大学ができる様々なスポーツ活動とそのサービス化を考えてみる。			
第7回 スポーツサービスの企画開発1（地域社会） 【 到達目標 】 (1)一般的な地域社会のスポーツサービスの現状を理解する。 (2)伝統的なサービスと将来的なサービスの必要性を理解する。 【授業時間外学習】 地域スポーツの問題点と今後のサービスの在り方を考えてみる。			第15回 総括：スポーツサービスの課題と展望 【 到達目標 】 (1)スポーツサービスの基礎基本を総復習し理解を深める。 (2)スポーツサービスの今後の課題と可能性を検討する。 【授業時間外学習】 スポーツサービスの基本を踏まえて、自分のサービス企画を作り上げる。			
第8回 スポーツサービスの企画開発2（子どもスポーツ） 【 到達目標 】 (1)現代の子どもの状況とサービスの現状を理解する。 (2)今日的なサービスと将来的なサービスを発展的に検討する。 【授業時間外学習】 子どもスポーツの問題点と今後のサービスの在り方を考えてみる。						
【学習上の留意点】 基礎科目である「スポーツマネジメント」を踏まえて、より実践的なスポーツサービスの企画運営を目指して授業を展開する。授業の基本事項の理解や習得は必須であるが、この段階にとどまらず、スポーツサービスの扱いに精通した現代的な専門家としての基礎を築いて欲しい。そのためには、常に実際のサービスに触れること、体験すること、そして実情を十分に踏まえて踏み込んで考えてみる事が望まれる。実効性のあるサービス企画、発展性のあるサービス企画、夢のあるサービス企画がどれだけ浮かび上がるかが楽しみである。						
【教科書・参考書など】 「スポーツ経営学（改訂版）」山下、畑、富田（編著）大修館書店を参考にする。 その他必要に応じて参考資料として授業で配布する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 数回の授業内の小テスト及びレポートを50%、最終レポート（サービスの企画書）の結果を50%として総合評価する。						

科目名	スポーツ指導論			担当者	渡部 誠	
英文名	Theory of Sports Coaching					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4				専門・必修	
【目的とねらい】 現代社会におけるスポーツ活動は、学校や地域社会においてライフスタイルをより充実させるために重要な役割を果たしている。本講義では、多種多様な世代・層の人たちに対し、それぞれの関心や目的に応じた指導ができる基本的な事項について学び、スポーツ指導の専門家としての見識を高めていくことを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 スポーツ指導とは 【 到達目標 】 (1) スポーツ指導における位置づけと意義について理解する。 【授業時間外学習】 コーチングとティーチングの違いについて確認する。			第9回 スポーツ指導の主題と実際 【 到達目標 】 (1) スポーツ指導の前提となる、種目の特性を理解した上で、どのように指導したら良いのかを考えることができる。 【授業時間外学習】 スポーツ種目の競技性について考える。			
第2回 スポーツの概念 【 到達目標 】 (1) スポーツの概念及び定義・価値について理解する。 【授業時間外学習】 「熟示的なルール」について確認する。			第10回 女性とスポーツ指導 【 到達目標 】 (1) 女性スポーツの始まりと発展について理解し、問題点とその改善の方法について考えることができる。 【授業時間外学習】 女性スポーツの問題点とその改善点について考える。			
第3回 スポーツ指導者の基本理論 【 到達目標 】 (1) スポーツ指導者の基本理論について理解し、その指導タイプについて考える。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のタイプについて確認する。			第11回 スポーツ指導におけるミーティングについて 【 到達目標 】 (1) ミーティングの方法について理解する。 【授業時間外学習】 実際に経験した、ミーティングについて確認する。			
第4回 段階に応じたスポーツ指導 【 到達目標 】 (1) スポーツ指導における一貫指導システムを理解し、発育・発達段階に応じた指導について考える。 【授業時間外学習】 自身が経験したスポーツ活動について、各段階の指導状況を確認する。			第12回 スポーツ指導におけるモラルについて 【 到達目標 】 (1) 指導者としてのモラルについて考えることができる。 【授業時間外学習】 指導者としてのモラルについて確認する。			
第5回 ジュニア期のスポーツ指導 【 到達目標 】 (1) 長期的視点からのジュニア期のスポーツ指導について理解する。 【授業時間外学習】 動きづくりの具体的な方法について確認する。			第13回 スポーツ指導の活用 【 到達目標 】 (1) スポーツ指導における具体的な基本スキルについて理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 スポーツ指導における基本スキルについて確認する。			
第6回 スポーツ指導の安全指導・安全管理 【 到達目標 】 (1) スポーツ指導における安全指導と安全管理について理解し、具体的な事例を説明できる。 【授業時間外学習】 スポーツ指導において安全管理上の問題について確認する。			第14回 スポーツ指導の評価 【 到達目標 】 (1) スポーツ指導における評価の必要性について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導における評価について確認する。			
第7回 スポーツ指導計画① 【 到達目標 】 (1) スポーツ指導計画の重要性について理解し、その立案の基本的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 技術向上における練習手段について確認する。			第15回 スポーツ指導における改善点について 【 到達目標 】 (1) スポーツ指導における改善点について考えることができる。 【授業時間外学習】 スポーツ指導における改善点について確認する。			
第8回 スポーツ指導計画② 【 到達目標 】 (1) スポーツ指導計画の時間的構造について理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 技能レベルを考慮した体力要素とその能力を高めるための指導計画を確認する。						
【学習上の留意点】 講義では、資料を配布しパワーポイントを中心に説明する。ただ、配布された資料やパワーポイントを見るのではなく、理解し確認していくことが大切である。授業において講義内容にそった内容から発問し、プリントに回答し提出する。学習の進行状況に応じてレポートを提出する。スポーツ指導という重要な授業であるので積極的な参加が望まれる。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。 日本体育協会公認スポーツ指導者用テキスト 『概説スポーツ スポーツを学ぶ人のために』岡野進編著、渡部誠他共著（創文企画）						
【関連科目】						
【成績評価方法】 課題に対する回答（取り組み方）50%とレポート50%で評価する。						

科目名	スポーツプログラミング演習			担当者	井筒紫乃	
英文名	Seminar in Sports Program					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別			専門・必修	
【目的とねらい】 幼児期から児童期にかけては「走る・跳ぶ・投げる」などの運動基本動作の獲得、向上へと進んでいく。子どもの発育発達過程を十分に理解し、現場に立った視点から運動プログラムを作成する。また、運動会は子ども時代には誰もが経験し、様々な思い出をもつ特性があることから、子どもの成長を育むためのプログラムについて検討し実際に模擬運動会を実施する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 (1)授業の進め方、持ち物、注意事項について理解する。 (2)グループ分けを行う。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			第9回 発達段階に応じた模擬運動会のプログラム作成 【 到達目標 】 (1)グループ毎に種目・内容を検討する。 (2)全体のプログラム進行表を作成する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			
第2回 子どもの運動遊び(走運動)プログラムの作成 【 到達目標 】 (1)かけっこの楽しさを体験する。 (2)鬼ごっこの発展プログラムを検討する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			第10回 模擬運動会の企画・検討1 【 到達目標 】 (1)グループ毎に種目・内容を検討する。 (2)発達段階に応じたプログラムであるか検討する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			
第3回 子どもの運動遊び(走運動)の実施 【 到達目標 】 (1)グループ毎にプログラムを展開する。 (2)発達段階に応じた内容であるか確認する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			第11回 模擬運動会の企画・検討2 【 到達目標 】 (1)それぞれのグループの種目を実施する。 (2)他のグループに対して意見を出し合う。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			
第4回 子どもの運動遊び(対抗ゲーム)プログラムの作成 【 到達目標 】 (1)対抗ゲームの楽しさを体験する。 (2)対抗ゲームプログラムを作成・検討する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			第12回 模擬運動会の準備 【 到達目標 】 (1)運動会のリハーサルを行う。 (2)プログラム、種目内容の調整を行う。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			
第5回 子どもの運動遊び(対抗ゲーム)の実施 【 到達目標 】 (1)グループ毎にプログラムを展開する。 (2)発達段階に応じた内容であるか確認する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			第13回 模擬運動会の実施 【 到達目標 】 (1)模擬運動会をプログラムに沿って進行する。 (2)全員が積極的に参加する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			
第6回 子どもの運動遊び(表現・リズム)プログラムの作成 【 到達目標 】 (1)表現・リズム遊びの楽しさを体験する。 (2)表現・リズムプログラムを作成・検討する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			第14回 模擬運動会の総括1 【 到達目標 】 (1)模擬運動会のふりかえりを行う。 (2)グループ発表に向けての準備を行う。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			
第7回 子どもの運動遊び(表現・リズム)の実施 【 到達目標 】 (1)グループ毎にプログラムを展開する。 (2)発達段階に応じた内容であるか確認する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			第15回 模擬運動会の総括2 【 到達目標 】 (1)グループ発表と意見交換を行う。 (2)課題を見出し、今後につなげる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ内容をレポートにまとめる。			
第8回 運動会の意義について 【 到達目標 】 (1)運動会のあり方について様々な意見を出し合う。 (2)グループ発表を行う。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。						
【学習上の留意点】 グループ単位での実施になるので、役割分担を決め積極的に取り組むこと。実技が中心になるため、服装やシューズ等には注意すること。 ※2016・2017年度入学生からは2年次開講／2015年度入学生までは3年次開講						
【教科書・参考書など】 教科書は使用しないが、参考図書等については授業内で説明する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業における課題達成度50%、グループ発表50%で評価する。						

科目名	スポーツプログラミング演習			担当者	古瀬由佳	
英文名	Seminar in Sports Program					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2				専門・必修	
【目的とねらい】 集団で行う既存のボールゲームを研究し、理解した上でその種目の特性や運動としての特性を生かし、様々な対象に応じた新しい簡易スポーツや遊びをグループ毎に考察する。また、そのスポーツをお互いに実践し、相互に評価を行う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 (1)授業の内容や進め方、注意事項について理解する。 (2)グループ分けを行う。 【授業時間外学習】 ボールゲームの種類・特性について調べる。			第9回 年代別に合った新しいボールゲームの考案 【 到達目標 】 (1)グループで年代別に合った新しいボールゲームについてまとめる。 【授業時間外学習】 新しいボールゲームについての資料を準備する。			
第2回 ボールゲームの特性と理論 【 到達目標 】 (1)ボールゲームの種類・特性を理解し、グループごとに発表する。 【授業時間外学習】 発表されたボールゲームについてまとめる。			第10回 年代別に合った新しいボールゲームの発表・評価 【 到達目標 】 (1)グループで決めた新たなボールゲームについてプレゼンテーションを行う。 (2)グループにて発表した新たなボールゲームを評価し合う。 【授業時間外学習】 プレゼンテーションの準備を行う。			
第3回 新しいボールゲームの考案 【 到達目標 】 (1)グループごとに意見を出し合い、新しいボールゲームについてまとめる。 【授業時間外学習】 新たなボールゲーム考案となるための資料を準備する。			第11回 年代別に合った新しいボールゲームの実施① 【 到達目標 】 (1)評価の高かったグループの新たなボールゲームの実施・評価を行う。 【授業時間外学習】 実施した内容の振り返りを行う。			
第4回 新しいボールゲームの発表・評価 【 到達目標 】 (1)グループで決めた新たなボールゲームについてプレゼンテーションを行う。 (2)グループにて発表した新たなボールゲームを評価し合う。 【授業時間外学習】 プレゼンテーションの準備を行う。			第12回 年代別に合った新しいボールゲームの実施② 【 到達目標 】 (1)評価の高かったグループの新たなボールゲームの実施・評価を行う。 【授業時間外学習】 実施した内容の振り返りを行う。			
第5回 新しいボールゲームの実施・評価① 【 到達目標 】 (1)評価の高かったグループの新たなボールゲームの実践・評価を行う。 【授業時間外学習】 実施した内容の振り返りを行う。			第13回 年代別に合った新しいボールゲームの実施③ 【 到達目標 】 (1)評価の高かったグループの新たなボールゲームの実施・評価を行う。 【授業時間外学習】 実施した内容の振り返りを行う。			
第6回 新しいボールゲームの実施・評価② 【 到達目標 】 (1)評価の高かったグループの新たなボールゲームの実践・評価を行う。 【授業時間外学習】 実施した内容の振り返りを行う。			第14回 年代別に合った新しいボールゲームの実施④ 【 到達目標 】 (1)評価の高かったグループの新たなボールゲームの実施・評価を行う。 【授業時間外学習】 実施した内容の振り返りを行う。			
第7回 新しいボールゲームの実施・評価③ 【 到達目標 】 (1)評価の高かったグループの新たなボールゲームの実践・評価を行う。 【授業時間外学習】 実施した内容の振り返りを行う。			第15回 まとめ 【 到達目標 】 (1)授業で習得したことを発表し、意見交換を行う。 (2)課題を明確にし、今後につなげる。 【授業時間外学習】 全体を通して学んだことをレポートにする。			
第8回 新しいボールゲームの実施・評価④ 【 到達目標 】 (1)評価の高かったグループの新たなボールゲームの実践・評価を行う。 【授業時間外学習】 実施した内容の振り返りを行う。						
【学習上の留意点】 実習が中心となるため、服装・身だしなみは実技にふさわしいものとする。また、グループ単位で活動するため、役割を決め積極的に参加すること。 ※2016・2017年度入学生からは2年次開講／2015年度入学生までは3年次開講						
【教科書・参考書など】 特になし。随時授業にて資料を配布する。						
【関連科目】 生涯スポーツ演習（ニュースポーツ）						
【成績評価方法】 授業での理解度50%、レポート課題・グループ発表内容50%として評価する。						

科目名	スポーツプログラミング演習			担当者	佐々木直基	
英文名	Seminar in Sports Program					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別			専門・必修	
【目的とねらい】 ボールゲームといわれるスポーツの特性および理論を踏まえて、グループごとに様々な対象者に応じたルールをアレンジしたり、新しいボールゲームを考案したりできる。その考案した新しいボールゲームを互いに発表、実施、評価し、問題点を解決しながら実践的なプログラミング法を習得することが目的である。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業のねらいと進め方 【 到達目標 】 (1)授業のねらいと進め方を理解する。 【授業時間外学習】 ボールゲームにはどのような種目があるのかを調べる。			第9回 対象に応じた活動⑦ 【 到達目標 】 (1)対象者の発育発達段階やライフスタイルに合わせたスポーツ活動を提供する。 (2)既存のボールゲームを対象者に合わせてアレンジし、実践する。 【授業時間外学習】 考案したゲームについて、実施時間やグループ分けについてシミュレーションをする。			
第2回 ボールゲームの特性 【 到達目標 】 (1)ボールゲームの特性について理解する。 【授業時間外学習】 興味関心のあるボールゲームについてルールや歴史について調べる。			第10回 新しいボールゲームの考案① 【 到達目標 】 (1)ボールゲームの特性を踏まえ、新しいボールゲームを考案する。 【授業時間外学習】 新しく考案したゲームについて、実施時間やグループ分けについてシミュレーションをする。			
第3回 対象に応じた活動① 【 到達目標 】 (1)対象者の発育発達段階やライフスタイルに合わせたスポーツ活動を提供する。 (2)既存のボールゲームを対象者に合わせてアレンジし、実践する。 【授業時間外学習】 考案したゲームについて、実施時間やグループ分けについてシミュレーションをする。			第11回 新しいボールゲームの考案② 【 到達目標 】 (1)ボールゲームの特性を踏まえ、新しいボールゲームを考案する。 【授業時間外学習】 新しく考案したゲームについて、実施時間やグループ分けについてシミュレーションをする。			
第4回 対象に応じた活動② 【 到達目標 】 (1)対象者の発育発達段階やライフスタイルに合わせたスポーツ活動を提供する。 (2)既存のボールゲームを対象者に合わせてアレンジし、実践する。 【授業時間外学習】 考案したゲームについて、実施時間やグループ分けについてシミュレーションをする。			第12回 グループ発表・実施・評価① 【 到達目標 】 (1)考案したボールゲームの発表・実施・評価を通して、問題点を分析・評価する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて実践したゲームを振り返る。			
第5回 対象に応じた活動③ 【 到達目標 】 (1)対象者の発育発達段階やライフスタイルに合わせたスポーツ活動を提供する。 (2)既存のボールゲームを対象者に合わせてアレンジし、実践する。 【授業時間外学習】 考案したゲームについて、実施時間やグループ分けについてシミュレーションをする。			第13回 グループ発表・実施・評価② 【 到達目標 】 (1)考案したボールゲームの発表・実施・評価を通して、問題点を分析・評価する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割に応じて実践したゲームを振り返る。			
第6回 対象に応じた活動④ 【 到達目標 】 (1)対象者の発育発達段階やライフスタイルに合わせたスポーツ活動を提供する。 (2)既存のボールゲームを対象者に合わせてアレンジし、実践する。 【授業時間外学習】 考案したゲームについて、実施時間やグループ分けについてシミュレーションをする。			第14回 反省と問題点の検討 【 到達目標 】 (1)発表・実施・評価から得られた問題点について理解し、考察できる。 【授業時間外学習】 発表の反省を踏まえ、ゲームをプログラムする際の留意点について考える。			
第7回 対象に応じた活動⑤ 【 到達目標 】 (1)対象者の発育発達段階やライフスタイルに合わせたスポーツ活動を提供する。 (2)既存のボールゲームを対象者に合わせてアレンジし、実践する。 【授業時間外学習】 考案したゲームについて、実施時間やグループ分けについてシミュレーションをする。			第15回 総合的検証 【 到達目標 】 (1)本演習を通して習得したことを総合的に理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 生涯スポーツの現場に立つことを想定して、授業で得られた情報の整理を行う。			
第8回 対象に応じた活動⑥ 【 到達目標 】 (1)対象者の発育発達段階やライフスタイルに合わせたスポーツ活動を提供する。 (2)既存のボールゲームを対象者に合わせてアレンジし、実践する。 【授業時間外学習】 考案したゲームについて、実施時間やグループ分けについてシミュレーションをする。						
【学習上の留意点】 本演習は全てグループでの活動となるため、ただ参加するだけでなく、積極的に活動し、さらにリーダーシップを取れるよう努めることが求められる。 ※2016・2017年度入学生からは2年次開講／2015年度入学生までは3年次開講						
【教科書・参考書など】 特になし。						
【関連科目】 生涯スポーツ演習（ニュースポーツ）						
【成績評価方法】 平常授業での到達度を50%、発表内容・レポート課題を50%として評価する。						

科目名	スポーツプログラミング演習			担当者	亀井良和	
英文名	Seminar in Sports Program					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		専門・必修			
【目的とねらい】 集団で行う既存のボールゲームを研究し、理解した上でその種目の特性や運動としての特性を生かし、様々な対象に応じた新しい簡易スポーツや遊びをグループ毎に考案する。また、そのスポーツをお互いに実践し、相互に評価を行う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス・班分け 【 到達目標 】 (1) 考案、発表(プレゼンテーション)、実践、評価の仕方を理解する。 【授業時間外学習】 ボールゲームのプログラミングに関して調べる。			第9回 新しいベースボール型ボールゲームの発表 【 到達目標 】 (1) 考案した新しいボールゲームをわかりやすく発表する。 【授業時間外学習】 発表されたベースボール型ボールゲームについて整理する。			
第2回 新しい混戦型ボールゲームの考案 【 到達目標 】 (1) ベースとなる混戦型ボールゲームを決定し、それをもとに新しいボールゲームを考案する。 【授業時間外学習】 授業内で考案した新しいボールゲームを整理してレポートを作成する。			第10回 新しいベースボール型ボールゲームの実践と評価 【 到達目標 】 (1) 新しいボールゲームをお互いに実践し評価しあう。 【授業時間外学習】 新しいベースボール型ボールゲームに関する理解を深める。			
第3回 新しい混戦型ボールゲームの発表 【 到達目標 】 (1) 考案した新しいボールゲームをわかりやすく発表する。 【授業時間外学習】 発表された混戦型ボールゲームについて整理する。			第11回 小学生を対象とした新しいボールゲームの考案 【 到達目標 】 (1) ベースとなるボールゲームを決定し、それをもとに新しいボールゲームを考案する。 【授業時間外学習】 授業内で考案した新しいボールゲームを整理してレポートを作成する。			
第4回 新しい混戦型ボールゲームの実践と評価 【 到達目標 】 (1) 新しいボールゲームをお互いに実践し評価しあう。 【授業時間外学習】 新しい混戦型ボールゲームに関する理解を深める。			第12回 小学生を対象とした新しいボールゲームの発表 【 到達目標 】 (1) 考案した新しいボールゲームをわかりやすく発表する。 【授業時間外学習】 発表された小学生を対象としたボールゲームについて整理する。			
第5回 新しいネット型(セバレット型)ボールゲームの考案 【 到達目標 】 (1) ベースとなるネット型ボールゲームを決定し、それをもとに新しいボールゲームを考案する。 【授業時間外学習】 授業内で考案した新しいボールゲームを整理してレポートを作成する。			第13回 小学生を対象とした新しいボールゲームの実践と評価 【 到達目標 】 (1) 新しいボールゲームをお互いに実践し評価しあう。 【授業時間外学習】 小学生を対象とした新しいボールゲームに関する理解を深める。			
第6回 新しいネット型(セバレット型)ボールゲームの発表 【 到達目標 】 (1) 考案した新しいボールゲームをわかりやすく発表する。 【授業時間外学習】 発表されたネット型ボールゲームについて整理する。			第14回 大学生を対象とした新しいボールゲームの考案と発表 【 到達目標 】 (1) ベースとなるボールゲームを決定し、それをもとに新しいボールゲームを考案し発表する。 【授業時間外学習】 発表された大学生を対象としたボールゲームについて整理する。			
第7回 新しいネット型(セバレット型)ボールゲームの実践と評価 【 到達目標 】 (1) 新しいボールゲームをお互いに実践し評価しあう。 【授業時間外学習】 新しいネット型ボールゲームに関する理解を深める。			第15回 大学生を対象とした新しいボールゲームの実践と評価 【 到達目標 】 (1) 新しいボールゲームをお互いに実践し評価しあう。 【授業時間外学習】 大学生を対象とした新しいボールゲームに関する理解を深める。			
第8回 新しいベースボール型ボールゲームの考案 【 到達目標 】 (1) ベースボール型ボールゲームをもとに新しいボールゲームを考案する。 【授業時間外学習】 授業内で考案した新しいボールゲームを整理してレポートを作成する。						
【学習上の留意点】 実習が中心となる上に、身体接触を伴うこともあるため、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特に、ピアス、ネックレス、指輪等のアクセサリ類は決して身につけない。 ※2016・2017年度入学生からは2年次開講／2015年度入学生までは3年次開講						
【教科書・参考書など】 特になし。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業ごとの発表に対する理解度を50%、各グループの発表内容を50%の割合として評価する。						

科目名	スポーツプログラミング演習			担当者	笹本重子	
英文名	Seminar in Sports Program					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2				専門・必修	
【目的とねらい】 体づくり、動きづくり、健康づくりを目的とした体操の特性と理論をふまえて、特にリズムムーブメントの作成と発表を行う。さらに、その問題点を解決しながら実践的なプログラミング法と指導法を習得していく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 (1)授業の進め方、評価の方法等を理解する。 【授業時間外学習】 全体の構成を把握する。			第9回 プログラムの問題点と指導法の検討 【 到達目標 】 (1)見せ合いから問題点を確認する。 【授業時間外学習】 意見を準備する。			
第2回 リズムムーブメントの特性と理論 【 到達目標 】 (1)リズムムーブメントの特性を理解する。 【授業時間外学習】 世間一般でのリズム系運動について考えてみる。			第10回 リズムムーブメント(2)の構成 【 到達目標 】 (1)コラーージュ式のリズムムーブメントを作成する。 【授業時間外学習】 動きを提案できるように準備する。			
第3回 リズムムーブメントの実際：体操型・キット式 【 到達目標 】 (1)キット式の構成法を理解し、組み合わせたり発展させたりする楽しさを体験する。 【授業時間外学習】 既習のステップや動きを思い出す。			第11回 リズムムーブメント(2)の修正と検討 【 到達目標 】 (1)対象に応じた内容と指導法を検討する。 【授業時間外学習】 意見を発表できるように準備する。			
第4回 リズムムーブメントの実際：ダンス型・コラーージュ式 【 到達目標 】 (1)コラーージュ式の構成法を理解し、イメージ通りに動く面白さを体験する。 【授業時間外学習】 即興で動く面白さを思い出す。			第12回 リズムムーブメント(2)の指導 【 到達目標 】 (1)指導するー指導を受けるー評価する。 【授業時間外学習】 指導場面をシミュレーションしておく。			
第5回 リズムムーブメントの作成 【 到達目標 】 (1)キット式のリズムムーブメントをグループで作成する。 【授業時間外学習】 動きを提案できるように準備する。			第13回 ディスカッションによる授業の成果と問題点の検討 【 到達目標 】 (1)リズムムーブメントの特性と運動効果について発表する。 【授業時間外学習】 自分の意見を準備しておく。			
第6回 リズムムーブメント(1)の構成と工夫 【 到達目標 】 (1)ねらいに応じたプログラムになるように運動の配列等を工夫する。 【授業時間外学習】 意見を提案できるように準備する。			第14回 プログラミングのまとめ 【 到達目標 】 (1)プログラミング法について理解して説明する。 【授業時間外学習】 他者に伝える内容と方法について準備する。			
第7回 リズムムーブメント(1)の修正と検討 【 到達目標 】 (1)運動の強度や難易度の観点から修正を加える。 【授業時間外学習】 意見を発表できるように準備する。			第15回 プログラミングの確認と発表 【 到達目標 】 (1)リズムムーブメントの展開とその指導法について確認する。 【授業時間外学習】 授業内容を整理して、自分の理解を確認する。			
第8回 リズムムーブメント(1)の発表 【 到達目標 】 (1)構成したプログラムを発表する。 【授業時間外学習】 動きのイメージを膨らませておく。						
【学習上の留意点】 プログラミングはグループになって行うため、人任せにしないで動き等を積極的に提案できるように心がける。指導には良い動き方のデモンストレーションと声掛けなどのインストラクションがある。どちらも習得できるようにグループで互いに支援し合って授業を受ける。 ※2016・2017年度入学生からは2年次開講／2015年度入学生までは3年次開講						
【教科書・参考書など】 随時プリント配布。						
【関連科目】 スポーツ方法実習A(体操・器械運動)、ダンス・ファンダメンタル、ダンス・メソッド						
【成績評価方法】 発表内容40%、実技力40%、レポート20%で総合的に評価する。						

科目名	スポーツプログラミング演習			担当者	渡部 誠	
英文名	Seminar in Sports Program					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		専門・必修			
【目的とねらい】 この演習では、陸上競技・運動の特性及び理論を踏まえ、様々な動きの経験を通して「走る・跳ぶ・投げる」の基本的な動きづくりを考案し発表できる能力を養成する。さらに、問題点を解決しながら正しいプログラミング法を習得していく。また、キッズアスレティックスについて理解し、企画し行うことができることを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 陸上競技・運動の特性 【 到達目標 】 (1)陸上競技・運動の特性を理解し、授業の内容について把握できる。 【授業時間外学習】 陸上競技・運動の特性について確認する。			第9回 投運動の発表・実施・検討① 【 到達目標 】 (1)担当グループが企画した投運動を実施し、他のメンバーは理解して活動できる。 【授業時間外学習】 実施した内容について改善点を明確にする。			
第2回 走運動の考案・作成 【 到達目標 】 (1)グループ毎に分かれ、走運動の一つの運動についてのねらい、用具、方法、注意点について明確にし、走運動を作成できる。 【授業時間外学習】 走運動について考案する準備をする。			第10回 投運動の発表・実施・検討② 【 到達目標 】 (1)9回目と同。 【授業時間外学習】 実施した内容について改善点を明確にする。			
第3回 走運動の発表・実施・検討① 【 到達目標 】 (1)担当グループが企画した走運動を実施し、他のメンバーは理解して活動することができる。 【授業時間外学習】 実施した内容について改善点を明確にする。			第11回 キッズアスレティックスの概要 【 到達目標 】 (1)キッズアスレティックスについて理解できる。 【授業時間外学習】 キッズアスレティックスについて確認する。			
第4回 走運動の発表・実施・検討② 【 到達目標 】 (1)3回目と同。 【授業時間外学習】 実施した内容について改善点を明確にする。			第12回 キッズアスレティックスの作成・準備 【 到達目標 】 (1)役割分担を決め、実施に必要な用具と手順を理解できる。 【授業時間外学習】 役割分担と、実施に必要な用具について確認する。			
第5回 跳運動の考案・作成 【 到達目標 】 (1)グループ毎に分かれ、跳運動の一つの運動についてのねらい、用具、方法、注意点について明確にし、跳運動を作成できる。 【授業時間外学習】 跳運動について考案する準備をする。			第13回 キッズアスレティックスの実際① 【 到達目標 】 (1)手順に基づき、実施することができる。 【授業時間外学習】 実施した内容について改善点を明確にする。			
第6回 跳運動の発表・実施・検討① 【 到達目標 】 (1)担当グループが企画した走運動を実施し、他のメンバーは理解して活動することができる。 【授業時間外学習】 実施した内容について改善点を明確にする。			第14回 キッズアスレティックスの実際② 【 到達目標 】 (1)13回目と同。 【授業時間外学習】 実施した内容について改善点を明確にする。			
第7回 跳運動の発表・実施・検討② 【 到達目標 】 (1)6回目と同。 【授業時間外学習】 実施した内容について改善点を明確にする。			第15回 キッズアスレティックスの応用 【 到達目標 】 (1)応用したプログラムを作成できる。 【授業時間外学習】 応用したプログラムを作成する。			
第8回 投運動の考案・作成 【 到達目標 】 (1)グループ毎に分かれ、投運動の一つの運動についてのねらい、用具、方法、注意点について明確にし、投運動を作成できる。 【授業時間外学習】 投運動について考案する準備をする。						
【学習上の留意点】 積極的に授業に参加し、企画・実施をすること。グループ単位での実施になるので、役割分担を決めて他人任せにしないこと。陸上競技場での実習が中心になるので、シューズや服装は注意すること。 ※2016・2017年度入学生からは2年次開講／2015年度入学生までは3年次開講						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 企画した内容について50%、指導力について50%として評価する。						

科目名	体力測定評価法			担当者	佐伯徹郎	
英文名	Principles and Methods for Physical Fitness Test					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別			専門・選択	
【目的とねらい】 体力あるいは運動能力についての基本的な考え方と、その測定方法と評価法について総合的な理解を深めることが目的である。講義では文部科学省の新体力テストすべての年齢についての実施方法や評価法について学び、実際に成人と高齢者のテストを体験する。得られた測定値を用いて統計処理の基礎も学びながら、活用法を身につける。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション、体力・運動能力の概念 【到達目標】 (1)授業の目標、予定、ルールを知る。 (2)体力・運動能力の概念について確認する。 【授業時間外学習】 体力・運動能力の概念について調査・考察する。			第9回 高齢者の体力について 【到達目標】 (1)加齢による体力の変化を知る。 (2)介護予防に関する体力測定法とその評価について知る。 【授業時間外学習】 高齢者の体力テストの評価法および活用法について調査・考察する。			
第2回 新体力テストの特徴 【到達目標】 (1)体力・運動能力の測定・評価のねらいを理解する。 (2)新体力テストの特徴を理解する。 【授業時間外学習】 新体力テストについて調査・考察する。			第10回 測定結果の活用① 【到達目標】 (1)体力測定の評価と活用法について知る。 (2)各自の測定値と全国の値とを比較する。 【授業時間外学習】 体力測定の評価法および活用法について調査・考察する。			
第3回 新体力テスト「20歳～64歳まで」のテスト実施要項確認 【到達目標】 (1)「20歳～64歳まで」のテスト実施要項を理解する。 (2)実施のための役割分担をする。 【授業時間外学習】 新体力テスト「20歳～64歳まで」の実際について調査・考察する。			第11回 測定結果の活用② 【到達目標】 (1)各自のデータと日女性大の値を比較する。 (2)5段階得点、Zスコア、Tスコアを求める。 【授業時間外学習】 体力測定のデータの統計処理について調べて理解する。			
第4回 「20歳～64歳まで」のテスト実施(験者/被験者)① 【到達目標】 (1)験者・被験者になり実際に体力テストを体験する。 【授業時間外学習】 新体力テスト「20歳～64歳まで」の評価法について調査・考察する。			第12回 身体組成(太りすぎとやせすぎ) 【到達目標】 (1)簡単に身体組成を測定する方法について知る。 (2)簡単な計算で各自の肥満度を求める。 【授業時間外学習】 身体組成の測定評価について調査・考察する。			
第5回 「20歳～64歳まで」のテスト実施(験者/被験者)② 【到達目標】 (1)験者・被験者になり実際に体力テストを体験する。 【授業時間外学習】 新体力テスト「20歳～64歳まで」の活用法について調査・考察する。			第13回 アスリートの体力について 【到達目標】 (1)オリンピック選手の体力測定について知る。 【授業時間外学習】 アスリートの体力測定について調査・考察する。			
第6回 幼児の運動能力測定について 【到達目標】 (1)幼児の運動能力測定があることを知る。 (2)全国調査の結果から幼児の体力・運動能力について知る。 【授業時間外学習】 幼児の運動能力測定について調査・考察する。			第14回 様々な体力・運動能力測定について 【到達目標】 (1)様々な体力・運動能力測定について知る。 【授業時間外学習】 様々な体力・運動能力測定について調査・考察する。			
第7回 「6歳～11歳」「12歳～19歳」「65歳～79歳」のテスト実施要項確認 【到達目標】 (1)それぞれのテストについて実施要項を理解する。 (2)特に高齢者のADLについて理解する。 【授業時間外学習】 様々な年代の新体力テストについて調査・考察する。			第15回 体力向上に関する施策について 【到達目標】 (1)子どもの体力向上に関する取り組みを知る。 (2)青少年・高齢者の体力向上に関する取り組みを知る。 【授業時間外学習】 体力向上に関する施策について調査・考察する。			
第8回 高齢者3種目体験 【到達目標】 (1)高齢者の6種目のうち3種目を体験する。 【授業時間外学習】 高齢者の体力テストについて調査・考察する。						
【学習上の留意点】 講義では毎回の内容に即したプリントを配布し、パワーポイントで補足説明を行なう。受講者は必要な事項を記録することにより、実践で活用できる資料として完成させていくこと。演習では実際に体力測定を行い各自のデータを得、活用することになる。数値のみならず、験者・被験者を通じて得た事柄をレポートすることにより、将来に役立つノウハウが身に付くよう努力してもらいたい。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。						
【関連科目】 体力トレーニング論、健康運動指導論、運動処方論						
【成績評価方法】 小テストおよびレポートの結果を20%、期末テストの結果を80%として評価する。 試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	スポーツ医学			担当者	夏井裕明	
英文名	Sports Medicine					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踏学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		専門基礎・選択			専門・選択
【目的とねらい】 本講義は臨床スポーツ医学の後編（内科系）として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本体育協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅲ・Ⅳに関する内容を取り扱う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション、健康の概念と医事法規 【到達目標】 健康の概念と医事法規について理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキスト 上 p 3 - 11 を読む。			第9回 環境とスポーツⅡ（低温・低圧・高圧環境） 【到達目標】 凍傷と低温症、急性高山病、潜水事故について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 171 - 174, 221 を読む。			
第2回 女性とスポーツⅠ（受精から性成熟期まで） 【到達目標】 女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 256 - 260 を読む。			第10回 メディカルチェックとコンディショニング 【到達目標】 メディカルチェックの重要性とコンディショニング、運動中止の判定について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 17 - 27 を読む。			
第3回 女性とスポーツⅡ（妊娠・出産から更年期まで） 【到達目標】 女性の一生のうち、妊娠・出産および更年期におけるスポーツ医学的問題を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 260 - 262 を読む。			第11回 皮膚・眼疾患とスポーツ 【到達目標】 主な皮膚疾患及び眼疾患について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 223 - 235 を読む。			
第4回 内科的疾患とスポーツⅠ（循環器の急性疾患） 【到達目標】 運動中の突然死とその対策について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 147 - 153, 187 - 198 を読む。			第12回 精神とスポーツ 【到達目標】 オーバートレーニング症候群、統合失調症、気分障害、摂食障害、神経症、睡眠障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 182 - 184 を読む。			
第5回 内科的疾患とスポーツⅡ（呼吸器・その他の急性疾患） 【到達目標】 過換気症候群、運動誘発性喘息、自然気胸、運動誘発性アナフィラキシー、Side Stitchについて理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 163 - 171 を読む。			第13回 海外遠征のスポーツ医学 【到達目標】 海外遠征の特殊性について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅳ p 18 - 22、アスレティックトレーナー専門科目テキスト 4 p 100 - 104 を読む。			
第6回 内科的疾患とスポーツⅢ（慢性疾患） 【到達目標】 貧血、蛋白尿・血尿、糖尿病、てんかんについて理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 180 - 182, 201 - 202 を読む。			第14回 ドーピング・コントロールⅠ（総論） 【到達目標】 ドーピングについて、なぜいけないのか、歴史、現状を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 13 - 17 を読む。			
第7回 感染症とスポーツ 【到達目標】 主な感染症とスポーツとの関わり、対策について理解する。 【授業時間外学習】 アスレティックトレーナー専門科目テキスト 4 p 38 - 59 を読む。			第15回 ドーピング・コントロールⅡ（各論） 【到達目標】 禁止物質、検査の実際について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 13 - 17 を読む。			
第8回 環境とスポーツⅠ（高温環境） 【到達目標】 熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 153 - 157 を読む。						
【学習上の留意点】 本科目は選択科目ではあるが、健康運動指導士、健康運動実践指導者、日本体育協会公認スポーツ指導者共通科目、GFI（グループエクササイズ・フィットネス・インストラクター）資格取得のための必修科目である。1年次開講の「機能解剖学」、「スポーツ生理学」を履修済みであることを前提とする。2年次前期開講の「救急処置法」を履修していることが望ましい。						
【教科書・参考書など】 参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第2版）」、小出清一他編、南江堂 「健康運動指導士養成講習会テキスト上」、公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ」、公益財団法人 日本体育協会 「アスレティックトレーナー専門科目テキスト 4」、公益財団法人 日本体育協会						
【関連科目】 栄養学入門、生理・生化学入門、スポーツ生理学、機能解剖学、救急処置法						
【成績評価方法】 全講義に出席した者を単位認定の対象とし、試験成績（100%）で成績を評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	救急処置法				担当者	夏井裕明	
英文名	First Aid						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		専門基礎・選択		専門・選択		
【目的とねらい】 本講義は臨床スポーツ医学の前編（外科系）として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本体育協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅲに関する内容を扱う。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 講義の目的、進め方、単位認定の方法について理解する。受講に際しての注意点を理解する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして、授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。			第9回 体幹のスポーツ外傷・障害Ⅰ（頸部から胸部） 【 到達目標 】 頸部から胸部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 58 - 61, 90 を読む。				
第2回 外傷総論 【 到達目標 】 外傷とは何か、その受傷機転・症状・診断・治療過程について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 29 - 36 を読む。			第10回 体幹のスポーツ外傷・障害Ⅱ（腰部から骨盤） 【 到達目標 】 腰部のスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 89 - 100 を読む。				
第3回 応急処置総論 【 到達目標 】 RICE処置の内容・方法・効果について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 42 - 47 を読む。			第11回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（膝の外傷） 【 到達目標 】 膝のスポーツ外傷について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 105 - 115 を読む。				
第4回 頭部のスポーツ外傷 【 到達目標 】 意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 36 - 39, 55 - 58, 157 - 160 を読む。			第12回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（膝の障害、大腿部） 【 到達目標 】 膝のスポーツ障害と大腿部のスポーツ外傷について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 115 - 123 を読む。				
第5回 顔面のスポーツ外傷 【 到達目標 】 顔面外傷、鼻出血、歯牙損傷について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 233 - 241 を読む。			第13回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅲ（大腿・下腿・足部） 【 到達目標 】 大腿および下腿から足部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 100 - 105, 123 - 139 を読む。				
第6回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（鎖骨から肩関節） 【 到達目標 】 鎖骨から肩関節までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 62 - 72 を読む。			第14回 心肺蘇生法の理論 【 到達目標 】 心肺蘇生法の理論について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 213 - 220 を読む。				
第7回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（上腕から前腕） 【 到達目標 】 上腕から前腕までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 72 - 83 を読む。			第15回 心肺蘇生法実習 【 到達目標 】 心肺蘇生法実習を通じて、BLS（Basic Life Support）ができるようになる。 【授業時間外学習】 BLSヘルスケアプロバイダー マニュアル を読む。				
第8回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅲ（手関節から指） 【 到達目標 】 手関節から指までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 83 - 89 を読む。							
【学習上の留意点】 本科目は選択科目ではあるが、教員免許、健康運動指導士、健康運動実践指導者、日本体育協会公認スポーツ指導者共通科目、GFI（グループエクササイズ・フィットネス・インストラクター）資格取得のための必修科目である。1年次開講の「機能解剖学」、「スポーツ生理学」を履修済みであることを前提とする。2年次後期開講の「スポーツ医学」も併せて履修することが望ましい。 第15回の実習は夏休みの補講・集中講義期間中に実施する。							
【教科書・参考書など】 参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第2版）」、小出清一他編、南江堂 「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」、公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ」、公益財団法人 日本体育協会							
【関連科目】 栄養学入門、生理・生化学入門、スポーツ生理学、機能解剖学、スポーツ医学							
【成績評価方法】 全講義に出席した者を単位認定の対象とし、試験成績（100%）で成績を評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	スポーツ調査法			担当者	小野里真弓	
英文名	Investigation Methods for Sports					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別			専門・選択	
【目的とねらい】 健康・スポーツ科学領域では、多岐にわたるテーマや課題に対して様々なアプローチによる研究が進められている。その研究手法の多くは、測定や調査データを用いて現象を数値化するものであり、客観的なデータの統計処理に基づき検討されている。 本講義では、各種調査法およびデータ解析法を学び、Excelや統計ソフトSPSSを活用した基本的な統計の手法を実践的に学習するとともに、健康・スポーツ科学の分野における多様な研究テーマに対する調査のデザインやプロセスを理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 講義ガイダンス・スポーツ調査法の概要 【到達目標】 (1) スポーツ調査法の講義で学習する内容について理解する。 【授業時間外学習】 シラバス等を活用し、講義内容を確認する。			第9回 アンケート調査の実施（データ収集） 【到達目標】 (1) 受講生を対象とし、アンケート調査を実施する。 【授業時間外学習】 回収した調査票を整理し、回答状況を確認する。			
第2回 健康・スポーツ科学における調査研究について 【到達目標】 (1) 健康・スポーツ科学の研究分野で用いられている統計手法について理解する。 【授業時間外学習】 健康・スポーツ科学分野の様々な研究アプローチについて復習する。			第10回 データ処理・集計方法 【到達目標】 (1) データ入力のためのコーディング、集計方法を理解する。 (2) Excelを活用したデータ入力の手法を理解する。 【授業時間外学習】 回収した調査票をデータ化し、Excelに入力する。			
第3回 統計解析の基本（1）（度数分布・クロス集計） 【到達目標】 (1) データの特性（質的データ・量的データ）を理解する。 (2) 度数分布やクロス集計について理解する。 【授業時間外学習】 講義で配布された資料の内容について復習する。			第11回 データ解析の理解（基礎集計・発展分析等） 【到達目標】 (1) ExcelデータをSPSSに変換する手法を理解する。 (2) SPSSによるデータ集計（度数分布・クロス集計）を理解する。 【授業時間外学習】 統計ソフトSPSSを活用し、データを分析する。			
第4回 統計解析の基本（2）（χ^2検定・t検定） 【到達目標】 (1) χ^2 検定・t検定の意味を理解する。 【授業時間外学習】 講義で配布された資料の内容について復習する。			第12回 調査結果のまとめ方・プレゼンテーションの作成 【到達目標】 (1) 分析結果のまとめ方（グラフの作成）を理解する。 (2) 結果の考察、プレゼンテーションの作成ができる。 【授業時間外学習】 統計ソフトSPSSにより分析した結果をExcelを活用しグラフ化する。			
第5回 統計解析の基本（3）（F検定・分散分析） 【到達目標】 (1) F検定・分散分析の意味を理解する。 【授業時間外学習】 講義で配布された資料の内容について復習する。			第13回 調査報告プレゼンテーション（1） 【到達目標】 (1) Power Pointを活用したプレゼンテーションができる。 (2) 発表グループへのコメント・ディスカッションができる。 【授業時間外学習】 発表グループのプレゼンテーションを参考にし、自身のプレゼンテーションを作成する。			
第6回 多変量解析による発展分析 【到達目標】 (1) 因子分析・重回帰分析・数量化などの多変量解析を用いた分析結果を考察する。 【授業時間外学習】 講義で配布された資料の内容について復習する。			第14回 調査報告プレゼンテーション（2） 【到達目標】 (1) Power Pointを活用したプレゼンテーションができる。 (2) 発表グループへのコメント・ディスカッションができる。 【授業時間外学習】 プレゼンテーション作成のポイントを理解し、自身のレポート課題に取り組む。			
第7回 調査研究の企画・研究計画 【到達目標】 (1) 健康・スポーツ科学の視点から、研究計画を検討する。 (2) グループワークにより研究調査計画書を作成する。 【授業時間外学習】 各グループで検討した研究テーマに関連する事項や情報を収集する。			第15回 本講義の総評・プレゼンテーションスキルの理解 【到達目標】 (1) 本講義で学習した内容について理解できたことなどを確認する。 (2) 調査報告プレゼンテーションの作成について理解を深める。 【授業時間外学習】 より有効なプレゼンテーション作成のためのPower Point活用スキルを復習する。			
第8回 調査票の作成と留意点 【到達目標】 (1) 研究計画を踏まえ、必要に応じた調査票の構成・作成を理解する。 【授業時間外学習】 各グループの調査テーマに即した調査票を作成する。						
【学習上の留意点】 講義では、配布資料やパワーポイントを用いて要点を示し、口頭でその詳細を説明する。受講者は、説明された内容を理解するだけでなく、グループワークによる調査研究計画の作成や調査の実践に取り組むことになるため、各講義での到達目標をしっかりと理解することが必要である。パソコン等の活用が必須となるが、受講するにあたり特別なスキルは不要であり、講義の中で課題に取り組むことによりExcelやSPSS、Power Point等のスキルを身に付けることが可能である。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配布する。 <参考書> 「図解 アンケート調査と統計解析がわかる本」 酒井 隆 著（日本能率協会マネジメントセンター）、「SPSSのススメ①」 竹原 貞真 著（北大路書房）						
【関連科目】 情報処理（情報機器の操作を含む）、卒業研究						
【成績評価方法】 グループワークによる課題への取り組みを40%、各自で作成するレポート課題を60%として評価する。						

科目名	健康福祉スポーツ論（高齢者）			担当者	佐伯徹郎	
英文名	Theory of Welfare Sports for Aged People					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3				専門・選択	
【目的とねらい】 高齢者を対象とした運動・スポーツのあり方について、社会および個人の活動の実態を把握し、現状を理解することをねらいとする。また、現場のニーズに応える運動・スポーツプログラムが作成でき、実際に指導するための知識、理論、実技能力について学ぶことを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業のねらいと進め方 【到達目標】 (1)授業のねらいと進め方について理解する。 【授業時間外学習】 健康福祉と運動・スポーツの関係、役割について調査・考察する。			第9回 高齢者の運動・スポーツプログラムに関するまとめ 【到達目標】 (1)高齢者の運動・スポーツプログラムの理解度を評価する。 【授業時間外学習】 高齢者の運動・スポーツプログラムについて友人とディスカッションする。			
第2回 高齢者の運動・スポーツの実態① 【到達目標】 (1)高齢者の運動・スポーツの目的について理解する。 【授業時間外学習】 高齢者の運動・スポーツの目的について調査・考察する。			第10回 高齢者の運動・スポーツ指導能力について 【到達目標】 (1)高齢者の運動・スポーツ指導能力について理解する。 【授業時間外学習】 高齢者の運動・スポーツ指導能力について調査・考察する。			
第3回 高齢者の運動・スポーツの実態② 【到達目標】 (1)高齢者の運動・スポーツの方法について理解する。 【授業時間外学習】 高齢者の運動・スポーツの方法について調査・考察する。			第11回 高齢者の運動・スポーツ指導能力の高め方① 【到達目標】 (1)高齢者の運動・スポーツの指導能力の高め方を理解する。 【授業時間外学習】 高齢者の運動・スポーツ指導能力の高め方について調査・考察する。			
第4回 高齢者の健康体力の特徴① 【到達目標】 (1)高齢者の健康体力の特徴について理解する。 【授業時間外学習】 高齢者の健康体力の特徴について調査・考察する。			第12回 高齢者の運動・スポーツ指導能力の高め方② 【到達目標】 (1)高齢者の運動・スポーツを実践・指導する。 【授業時間外学習】 高齢者の運動・スポーツ指導能力の実際について調査・考察する。			
第5回 高齢者の健康体力の特徴② 【到達目標】 (1)高齢者の健康体力のトレーニング効果について理解する。 【授業時間外学習】 高齢者の健康体力のトレーニング効果について調査・考察する。			第13回 高齢者の運動・スポーツの実践・指導能力の評価 【到達目標】 (1)高齢者の運動・スポーツの実践・指導の評価法を理解する。 【授業時間外学習】 高齢者の運動・スポーツの実践能力および指導能力の評価法について調査・考察する。			
第6回 高齢者の運動・スポーツプログラムの作成法① 【到達目標】 (1)高齢者の運動・スポーツプログラムの作成法を学ぶ。 【授業時間外学習】 高齢者の運動・スポーツプログラムについて調査・考察する。			第14回 高齢者の運動・スポーツプログラムの作成・実行①：発表① 【到達目標】 (1)高齢者の運動・スポーツプログラムを作成し、実践する。 【授業時間外学習】 高齢者の運動・スポーツプログラムの作成法・実行法・指導法について調査・考察する。			
第7回 高齢者の運動・スポーツプログラムの作成法② 【到達目標】 (1)高齢者の運動・スポーツプログラムを作成する。 【授業時間外学習】 高齢者の運動・スポーツプログラムの作成法について調査・考察する。			第15回 高齢者の運動・スポーツプログラムの作成・実行②：発表② 【到達目標】 (1)高齢者の運動・スポーツプログラムを作成し、実践する。 【授業時間外学習】 高齢者の運動・スポーツプログラムの指導法について友人とディスカッションする。			
第8回 高齢者の運動・スポーツプログラムの実際例 【到達目標】 (1)高齢者の運動・スポーツプログラムの実際を知る。 【授業時間外学習】 高齢者の運動・スポーツプログラムの実際について調査・考察する。						
【学習上の留意点】 介護が必要な高齢者については対象としない。そのような高齢者の運動に興味関心ある学生は、健康福祉スポーツ演習（障害者）の受講を薦める。 高齢者の運動・スポーツに関する情報をもとに、プログラム作成に取り組むこと。グループごとの活動が中心となるので、協力して取り組めるかどうかが必要となる。						
【教科書・参考書など】 配布資料、ビデオ視聴などによる。						
【関連科目】 健康科学論、生涯スポーツ論、社会福祉、健康運動指導論、運動処方論						
【成績評価方法】 中間課題30%、最終課題70%で評価する。						

科目名	健康づくりのための運動生理学			担当者	定本朋子	
英文名	Exercise Physiology for Health					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3					専門・選択
【目的とねらい】 本講義の目的は、生活習慣病を予防し、体力・健康を維持増進させる役割を担う運動指導の専門家（健康運動指導士）に必要とされる運動生理学領域の高度な専門的知識を学ぶことである。実践的な知識を効率的に習得するために、健康運動指導士養成のテキスト内容を中心に講義し、各テーマに関する模擬テストや受講生の発表を含む形式で進める。したがって、健康運動指導士資格試験を受験する人の受講が望ましい。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 健康づくりのための運動生理学とは？ 【到達目標】 (1)健康づくり運動の理論で取り扱う内容や分野を理解する。 (2)健康運動指導士等の運動指導の専門家の役割を理解する。 【授業時間外学習】 今回の講義内容（テキスト）を読む。			第9回 内分泌系と運動 【到達目標】 (1)内分泌腺とそこから出る種々のホルモンについて説明できる。 (2)運動およびトレーニングに伴う内分泌の変化を理解する。 【授業時間外学習】 復習用配布プリントを完成させて、今回の講義内容（テキスト）を読む。			
第2回 呼吸器系と運動 【到達目標】 (1)呼吸器系の構造・機能、運動時の換気応答について理解する。 (2)持久性トレーニングに伴う変化について理解する。 【授業時間外学習】 復習用配布プリントを完成させて、今回の講義内容（テキスト）を読む。			第10回 運動と免疫能 【到達目標】 (1)細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。 (2)運動が免疫に及ぼす影響を理解する。 【授業時間外学習】 復習用配布プリントを完成させて、今回の講義内容（テキスト）を読む。			
第3回 循環器系と運動(1) 【到達目標】 (1)心臓の構造と機能について理解する。 (2)血管の構造と機能および動脈血圧について理解する。 【授業時間外学習】 復習用配布プリントを完成させて、今回の講義内容（テキスト）を読む。			第11回 筋力と筋量を増強するための運動条件とその効果 【到達目標】 (1)健康づくり運動の基礎となるトレーニングの原理・原則を理解する。 (2)筋力と筋量を増強するための運動条件とその効果について理解する。 【授業時間外学習】 復習用配布プリントを完成させて、今回の講義内容（テキスト）を読む。			
第4回 循環器系と運動(2) 【到達目標】 (1)運動時の心拍出量の応答と血流再配分が説明できる。 (2)持久性トレーニングの効果について説明できる。 【授業時間外学習】 復習用配布プリントを完成させて、今回の講義内容（テキスト）を読む。			第12回 筋パワーと筋持久力を高めるための運動条件とその効果 【到達目標】 (1)筋パワー向上のための運動条件について理解する。 (2)筋持久力向上のための運動条件について理解する。 (3)筋パワーと筋持久力トレーニング実施時の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 復習用配布プリントを完成させて、今回の講義内容（テキスト）を読む。			
第5回 神経系と運動(1) 【到達目標】 (1)運動の発現に関わる脳神経系の構造と機能を理解する。 (2)運動の発現と制御について理解する。 【授業時間外学習】 復習用配布プリントを完成させて、今回の講義内容（テキスト）を読む。			第13回 全身持久力を高めるための有酸素性運動 【到達目標】 (1)有酸素性運動と無酸素性運動の違いを理解する。 (2)有酸素性運動を高める運動条件について説明できる。 (3)有酸素性運動の強度表示について説明できる。 【授業時間外学習】 復習用配布プリントを完成させて、今回の講義内容（テキスト）を読む。			
第6回 神経系と運動(2) 【到達目標】 (1)上述の生理学的仕組みについて理解する。 (2)運動が脳・神経系に与える効果について理解する。 【授業時間外学習】 復習用配布プリントを完成させて、今回の講義内容（テキスト）を読む。			第14回 青少年期の成長発育と運動 【到達目標】 (1)青少年期における体型と体組成の発育について説明できる。 (2)青少年期における神経系の発育について説明できる。 (3)青少年期の筋力および持久性機能の発育について説明できる。 【授業時間外学習】 復習用配布プリントを完成させて、今回の講義内容（テキスト）を読む。			
第7回 骨格筋系と運動(1) 【到達目標】 (1)骨格筋の構造と機能について理解する。 (2)骨格筋の力学的特性とエネルギー供給機構について理解する。 【授業時間外学習】 復習用配布プリントを完成させて、今回の講義内容（テキスト）を読む。			第15回 女性の体力・運動能力の特徴および加齢に伴う体力低下と運動 【到達目標】 (1)女性の身体的特徴、体力・運動能力および運動効果について理解する。 (2)加齢に伴う体力・運動能力の低下について理解し、運動効果について説明できる。 (3)女性や高齢者を対象とした場合における、指導上の留意点等について理解する。 【授業時間外学習】 復習用配布プリントを完成させて、今回の講義内容（テキスト）を読む。			
第8回 骨格筋系と運動(2) 【到達目標】 (1)筋力を規定する要因について説明できる。 (2)筋力トレーニングに伴う変化について説明できる。 【授業時間外学習】 復習用配布プリントを完成させて、今回の講義内容（テキスト）を読む。						
【学習上の留意点】 講義はテキストを用いて行う。受講者は講義前にテキストを読み、知らない専門用語をマークしておく。その後に講義を聴き、内容を理解するように努める。また復習として、配布されるプリントに重要事項をまとめるようにする。さらに講義内容に関する小テストを適宜設けるので、それにより自分の学習の到達度を確認する。したがって、この科目には講義前の予習と講義後の宿題があることを念頭において学習してほしい。						
【教科書・参考書など】 指定教科書は「健康運動指導士養成講習会テキスト（書名）、健康・体力づくり事業団発行、2016年」である。健康運動指導士資格を目指す人はこのテキストが必須であるが、上・下巻二冊でセットになった高価な本であることに留意してほしい。本講義のテキストとしては上巻を用いる。						
【関連科目】 運動処方論、生活習慣と健康、運動プログラム管理演習、スポーツ医学						
【成績評価方法】 小テスト（50%）と期末レポート（50%）の結果に基づいて評価する。						

科目名	スポーツ政策論			担当者	齊藤隆志	
英文名	Sport Social Policy and Administration					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4		専門基礎・選択		専門・選択	
【目的とねらい】 我が国や諸外国のスポーツ政策史、現在のスポーツ政策、スポーツを利用したまちづくりなどを知り、日本のスポーツのあり方を政策レベルで述べられるようにする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 スポーツ政策論概説 【 到達目標 】 (1)授業ガイダンス、スポーツ政策関連用語を理解する。 【授業時間外学習】 政策とは何かをインターネットで調べる。			第9回 地域スポーツクラブ政策（3） 【 到達目標 】 (1)総合型地域スポーツクラブの具体的事例について理解する。 【授業時間外学習】 総合型地域スポーツクラブについてインターネットで調べる。			
第2回 スポーツ政策の歴史と政策史観 【 到達目標 】 (1)スポーツをめぐる政策史を理解する。 (2)「政策」からみたスポーツの歴史観を理解する。 【授業時間外学習】 政策とは何かをインターネットで調べる。			第10回 競技力向上政策（1） 【 到達目標 】 (1)我が国の競技力向上政策について理解する。 【授業時間外学習】 JISSとNTCの活動についてインターネットで調べる。			
第3回 スポーツ基本計画（1） 【 到達目標 】 (1)スポーツ基本計画の全体構想と意義を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ基本計画についてインターネットで調べる。			第11回 競技力向上政策（2） 【 到達目標 】 (1)諸外国の競技力向上政策を理解する。 【授業時間外学習】 JISSとNTCの活動についてインターネットで調べる。			
第4回 スポーツ基本計画（2） 【 到達目標 】 (1)スポーツ基本計画の下位施策の目標を理解する。 (2)スポーツ基本計画の下位施策の具体的展開を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ基本計画についてインターネットで調べる。			第12回 競技力向上政策（3） 【 到達目標 】 (1)マルチサポート政策について理解する。 (2)スポーツ団体の競技力向上政策について理解する。 【授業時間外学習】 JISSのマルチサポートシステムについてインターネットで調べる。			
第5回 「スポーツ推進」という考え方 【 到達目標 】 (1)スポーツ基本法を理解する。 (2)「みんなのスポーツ」を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ基本法についてインターネットで調べる。			第13回 スポーツ指導者養成政策（1） 【 到達目標 】 (1)我が国のスポーツ指導者養成の具体的考え方を理解する。 【授業時間外学習】 日本体育協会の指導者資格についてインターネットで調べる。			
第6回 コミュニティスポーツ推進政策 【 到達目標 】 (1)スポーツの公共性について理解する。 (2)スポーツによるコミュニティ形成について理解する。 【授業時間外学習】 地域におけるコミュニティ活動についてインターネットで調べる。			第14回 スポーツ指導者養成政策（2） 【 到達目標 】 (1)スポーツ指導者資格制度について理解する。 【授業時間外学習】 日本体育協会の指導者資格についてインターネットで調べる。			
第7回 地域スポーツクラブ政策（1） 【 到達目標 】 (1)総合型地域スポーツクラブとまちづくりについて理解する。 【授業時間外学習】 総合型地域スポーツクラブについてインターネットで調べる。			第15回 スポーツ政策の展望と課題 【 到達目標 】 (1)我が国のスポーツの将来像を具体的に述べるができる。 (2)我が国のスポーツ法制度・行政制度を述べるができる。 (3)我が国の具体的スポーツ政策を述べるができる。 【授業時間外学習】 第1回目から第14回目までの授業内容を復習する。			
第8回 地域スポーツクラブ政策（2） 【 到達目標 】 (1)総合型地域スポーツクラブの具体的事例について理解する。 【授業時間外学習】 総合型地域スポーツクラブについてインターネットで調べる。						
【学習上の留意点】 授業中の私語、携帯電話使用、飲食を禁じる。						
【教科書・参考書など】 特に指定しない。 適宜、印刷物を配布する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業における課題達成度(50%)、4回程度のテスト(50%)で評価する。						

科目名	健康スポーツ総合科目			担当者	佐伯 徹郎・都筑 真	
英文名	Interdisciplinary Studies Sports Wellness Sciences					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別			専門・選択	
【目的とねらい】 ライフサイクルの各段階に応じた豊かな生活のために、ふさわしい健康運動とスポーツをどのように考え、どのように具体化するかを深く考察することをねらいとする。各ライフステージでの効果的なスポーツの行ない方・扱い方から、広く教育・文化・政治などの社会状況を踏まえて、各教員が以下の計画により、講義形式で分担し、授業の終盤に総合討論を予定している。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業のねらいと進め方 【 到達目標 】 (1)授業のねらいと進め方について理解する。 【授業時間外学習】 健康・運動・スポーツ、教育・文化・政策について調査・考察する。			第9回 スポーツの伝播と普及Ⅰ（都筑） 【 到達目標 】 (1)スポーツの伝播と普及、スポーツの特徴や問題点について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第2回 健康運動とスポーツの相違について（佐伯） 【 到達目標 】 (1)運動とスポーツの相違について理解する。 【授業時間外学習】 運動とスポーツの相違について調査・考察する。			第10回 スポーツの伝播と普及Ⅱ（都筑） 【 到達目標 】 (1)スポーツの伝播と普及、スポーツの特徴や問題点について自分の意見を出す。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第3回 運動・スポーツの目標達成について（佐伯） 【 到達目標 】 (1)運動・スポーツの目標達成法について考える。 【授業時間外学習】 運動・スポーツの目標達成法について調査・考察する。			第11回 スポーツの伝播と普及Ⅲ（都筑） 【 到達目標 】 (1)スポーツの伝播と普及、スポーツの特徴や問題点について討論する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第4回 人生における運動・スポーツの役割について（佐伯） 【 到達目標 】 (1)人生における運動・スポーツの役割について考える。 【授業時間外学習】 人生における運動・スポーツの役割について調査・考察する。			第12回 スポーツ・ナショナリズム・グローバリゼーションⅠ（都筑） 【 到達目標 】 (1)スポーツ・ナショナリズム・グローバリゼーションについて理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第5回 健康体力と運動・スポーツ：高齢期（佐伯） 【 到達目標 】 (1)高齢期の運動・スポーツの役割について考える。 【授業時間外学習】 高齢期の運動・スポーツの役割について調査・考察する。			第13回 スポーツ・ナショナリズム・グローバリゼーションⅡ（都筑） 【 到達目標 】 (1)スポーツ・ナショナリズム・グローバリゼーションについて自分の意見を出す。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第6回 健康体力と運動・スポーツ：子ども（佐伯） 【 到達目標 】 (1)子ども時代の運動・スポーツの役割について考える。 【授業時間外学習】 子ども時代の運動・スポーツの役割について調査・考察する。			第14回 スポーツ・ナショナリズム・グローバリゼーションⅢ（都筑） 【 到達目標 】 (1)スポーツ・ナショナリズム・グローバリゼーションについて討論する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。			
第7回 健康体力と運動・スポーツ：成人（佐伯） 【 到達目標 】 (1)青年期から中高年期の運動・スポーツの役割について考える。 【授業時間外学習】 青年期から中高年期の運動・スポーツの役割について調査・考察する。			第15回 総合討論：現代における生活とスポーツを問う 【 到達目標 】 (1)現代における生活とスポーツについて討論する。 【授業時間外学習】 現代における生活とスポーツに関するレポートを作成する。			
第8回 課題討論：人生と健康運動・スポーツの関わり（佐伯） 【 到達目標 】 (1)人生と運動・スポーツの関わりについて討論する。 【授業時間外学習】 人生と運動・スポーツの関わりについて友人とディスカッションする。						
【学習上の留意点】 1回目・15回目は都筑・佐伯担当。2～8回目は佐伯が担当し、9～14回目は都筑が担当する。 教員による情報提供、考え方の提示をもとに、自分の考えをまとめて、発表できるようにする。 討論（グループディスカッション）では、役割を決め、スムーズかつ活発になる工夫と努力をする。						
【教科書・参考書など】 配布資料、ビデオ視聴などによる。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 中間課題40%、最終課題60%で評価する。各担当教員の評価を合わせた評価となる。						

科目名	生活習慣と健康			担当者	刈 間 理 介	
英 文 名	Chronic Disease and Healthy Lifestyle					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別			専門・選択	
【目的とねらい】 生活習慣病と健康についての理解を深め、重要な生活習慣病についてそれぞれの疾患の定義や成因、病態や合併症について理解する。また、生活習慣を改善するための行動変容についての基本的な事項を理解し、生活習慣の修正による疾患の予防や治療における効果(特に運動による効果)について理解する。さらに国民の健康を向上させる取り組みにはどのようなものがあるか、個人レベルから国家レベルまでの段階ごとに理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 生活習慣病概論－生活習慣病についての総括的理解 【 到達目標 】 生活習慣病とは何か、生活習慣病に含まれる疾病について理解し、予防や治療に運動が及ぼす効果について総括的に理解する。またわが国の疾病構造の変化における生活習慣病の比重を国際比較を含めて理解する。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を用いて授業内容の復習をする。			第9回 糖尿病－糖尿病の予防と治療、運動の効果、運動療法 【 到達目標 】 糖尿病の予防や治療に重要な生活習慣変容の効果について、食事療法及び運動療法を中心に学ぶ。またそれらの実践に有用な健康行動理論について具体的なケースに基づいて理解を深める。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を用いて授業内容の復習をする。			
第2回 生活習慣病と行動医学－健康行動理論とその理解 【 到達目標 】 生活習慣病における健康学習、個人の行動変容に必要な健康行動理論について理解する。また2次予防、3次予防の重要性についても理解する。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を用いて授業内容の復習をする。			第10回 虚血性心疾患－虚血性心疾患の定義、成因、合併症、予防と治療、運動の効果 【 到達目標 】 虚血性心疾患の定義、分類について心疾患における位置づけや疫学的事項と合わせて理解する。虚血性心疾患の成因、経過について知り、危険因子についても理解する。予防と治療における運動療法の効果や、心疾患リハビリテーションの基本事項について学ぶ。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を用いて授業内容の復習をする。			
第3回 メタボリックシンドローム－概念、予防と治療、運動の効果、運動療法 【 到達目標 】 メタボリックシンドロームの概念を社会疫学的な背景を含めて理解する。メタボリックシンドロームの成因や病態についての知識を得て、予防や治療のための生活習慣の変容について運動の効果を中心に理解する。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を用いて授業内容の復習をする。			第11回 慢性腎臓病(CKD)－慢性腎臓病の定義、成因と合併症、予防と治療、運動の効果 【 到達目標 】 慢性腎臓病(CKD)の概念や成因、病態や疫学について、メタボリックシンドロームとの関連を含めて理解する。CKDの予防や治療における基本事項を運動の及ぼす効果を含めて理解する。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を用いて授業内容の復習をする。			
第4回 肥満症－肥満、肥満症の定義、成因、合併症 【 到達目標 】 肥満および肥満症の定義、分類および疫学等について理解する。肥満症の成因や合併症を病態ごとに理解する。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を用いて授業内容の復習をする。			第12回 脳血管障害－脳血管障害の病態、合併症、予防と治療、リハビリテーション 【 到達目標 】 脳血管障害の定義や分類、病態および合併症について疫学的事項も含めて理解する。脳血管障害の予防や治療、リハビリテーションの概要について理解し、高齢化社会における位置づけを含めて考える。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を用いて授業内容の復習をする。			
第5回 肥満症－肥満の予防と治療、運動の効果、運動療法 【 到達目標 】 肥満症の予防や治療のための生活習慣の変容について運動の効果を中心に理解する。また運動療法の適応、運動の種類と強度、実施上の注意点などについて具体的に学ぶ。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を用いて授業内容の復習をする。			第13回 骨粗鬆症－骨粗鬆症の理解、骨への運動の影響、予防のための運動 【 到達目標 】 骨粗鬆症の病態や診断治療法について理解する。骨粗鬆症に及ぼす生活習慣の影響を運動を中心に理解する。骨粗鬆症を合併するための高齢者に対する運動指導の適応、転倒予防・骨折予防のための運動指導についても学ぶ。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を用いて授業内容の復習をする。			
第6回 高血圧症－高血圧症の定義、成因、合併症、予防と治療、運動の効果、運動療法 【 到達目標 】 高血圧症の定義、診断分類、有病割合などについて理解する。高血圧症の予防や治療における非薬物的アプローチ(減塩、運動、禁煙等)の基本事項について理解する。また体重減量療法(食事療法等)の効果について、運動療法の適応や具体的な手法を中心に理解する。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を用いて授業内容の復習をする。			第14回 関節リウマチと変形性関節症－関節リウマチ、変形性関節症の病態、運動療法 【 到達目標 】 関節リウマチおよび変形性関節症の病態や診断治療法について理解する。それぞれの疾患の運動療法について理解し、運動の適応、運動の種類と強度、実施上の注意や効果判定の指標について学ぶ。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を用いて授業内容の復習をする。			
第7回 高脂血症(高尿酸血症)－定義、成因、予防と治療、運動の効果 【 到達目標 】 高脂血症および高尿酸血症の定義や分類、有病割合および合併症や経過について理解する。また予防と治療における生活習慣変容の効果について食事療法及び運動療法の効果を中心に学ぶ。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を用いて授業内容の復習をする。			第15回 介護予防概論－加齢による機能低下、ADLやQOL、介護予防の政策と対策 【 到達目標 】 加齢に伴う機能低下について理解し、高齢者の総合的ケアについてQOL、ADLの概念を含めて理解する。またわが国の高齢者の現状について疫学統計を含めて理解し、わが国の介護予防の現状や関連する法律や施策についても学ぶ。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を用いて授業内容の復習をする。			
第8回 糖尿病－糖尿病の定義、成因、合併症 【 到達目標 】 糖尿病の定義や分類、疫学について学ぶ。糖尿病の合併症や経過について知り、治療法の基本について理解する。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を用いて授業内容の復習をする。						
【学習上の留意点】 疾患についての医学的な事項が多いため、事前にテキストを読むなどの予習をすることが望ましい。重要事項については講義後に復習し、次回講義時に発表することにより講義内容の十分な理解を進める。 授業は集中講義3日間で実施するため、一部でも欠席した場合には単位を認定しない。						
【教科書・参考書など】 「健康運動指導士養成講習会テキスト」 刊行：(財)健康・体力づくり事業財団 それ以外にも適宜資料を配布する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業における課題達成度(50%)、課題発表(50%)。						

科目名	健康スポーツ演習 (アクアスポーツ)			担当者	山 川 啓 介	
英文名	Seminar in Sports for Health (Aquatic Sports)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2				専門・選択	
【目的とねらい】 健康の維持及び体力作りのための水泳・水中運動の考え方を理解し、安全管理と指導のための実践能力を養成する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション：授業の進め方、水中運動の効果 【 到達目標 】 授業の進め方を理解する。 水中運動の特性を理解する。 【授業時間外学習】 水中運動と陸上運動の相違点に関して、書籍やメディア等を利用して理解を深める。			第9回 受講生による指導実習② 【 到達目標 】 受講生が事前に準備した指導計画に則り、指導実習を行う。 運動強度の指標としての心拍数を測定する。 【授業時間外学習】 指導実習の評価及び反省をまとめる。			
第2回 水の特性と水中環境が及ぼす身体への影響 【 到達目標 】 水の特性（浮力、水圧、水温、抵抗）を理解する。 水中環境が身体に与える影響を理解する。 【授業時間外学習】 水中環境が身体に与える影響に関して、書籍やメディア等を利用して理解する。			第10回 受講生による指導実習③ 【 到達目標 】 受講生が事前に準備した指導計画に則り、指導実習を行う。 運動強度の指標としての心拍数を測定する。 【授業時間外学習】 指導実習の評価及び反省をまとめる。			
第3回 水中運動プログラム作成上の実践および留意点 【 到達目標 】 水中運動プログラム作成の実践を、留意点と共に理解する。 【授業時間外学習】 水中運動プログラム実践に関する書籍を読み、理解を深める。			第11回 受講生による指導実習④ 【 到達目標 】 受講生が事前に準備した指導計画に則り、指導実習を行う。 運動強度の指標としての心拍数を測定する。 【授業時間外学習】 指導実習の評価及び反省をまとめる。			
第4回 泳法実習（クロール） 【 到達目標 】 水泳・水中運動指導者に必要な泳力を身につけるための泳法としてのクロールを修得する。 【授業時間外学習】 クロールの技術について、書籍やメディア等を活用して理解を深める。			第12回 受講生による指導実習⑤ 【 到達目標 】 受講生が事前に準備した指導計画に則り、指導実習を行う。 運動強度の指標としての心拍数を測定する。 【授業時間外学習】 指導実習の評価及び反省をまとめる。			
第5回 泳法実習（背泳ぎ） 【 到達目標 】 水泳・水中運動指導者に必要な泳力を身につけるための泳法としての背泳ぎを修得する。 【授業時間外学習】 背泳ぎの技術について、書籍やメディア等を活用して理解を深める。			第13回 受講生による指導実習⑥ 【 到達目標 】 受講生が事前に準備した指導計画に則り、指導実習を行う。 運動強度の指標としての心拍数を測定する。 【授業時間外学習】 指導実習の評価及び反省をまとめる。			
第6回 泳法実習（平泳ぎ） 【 到達目標 】 水泳・水中運動指導者に必要な泳力を身につけるための泳法としての平泳ぎを修得する。 【授業時間外学習】 平泳ぎの技術について、書籍やメディア等を活用して理解を深める。			第14回 指導実習のまとめおよび問題点の検討 【 到達目標 】 指導実習のまとめとして、受講生個々が他の受講生の指導を参考にしながら振り返り、今後の課題を明確にする。 【授業時間外学習】 指導実習の自己評価および他者評価より、今後の課題を整理する。			
第7回 水中運動実習（水中歩行、水中ストレングス） 【 到達目標 】 水中運動の中から、ウォーキングとストレングスを取り上げ実践し、種目、目的や正しいフォームを理解する。 【授業時間外学習】 ウォーキングやストレングスに関する書籍を読み、陸上にて自身のフォームを確認する。			第15回 救助法を含む、水泳・水中運動時の安全管理・対策 【 到達目標 】 特にプール環境における安全管理および対策を理解する。 救助法の基礎を実践する。 【授業時間外学習】 水泳を対象とした安全教育に関する書籍を読み、理解を深める。			
第8回 受講生による指導実習⑦ 【 到達目標 】 受講生が事前に準備した指導計画に則り、指導実習を行う。 運動強度の指標としての心拍数を測定する。 【授業時間外学習】 心拍数の測定や評価の方法に関して事前に予習し、指導実習の評価及び反省をまとめる。						
【学習上の留意点】 本演習は、水泳・水中運動の指導者としての第一歩を踏み出す内容であり、科学的理論背景に基づいた指導を実践することに加え、指導者としての心構えも含めた内容も修得する。そのため、指導者とはどうあるべきか、を考えた受講態度が求められる。プールでの安全管理および安全対策の理解の一環として、アクセサリー系の着用は不可とする。						
【教科書・参考書など】 「アクアフィットネス教本」 柴田義晴、原英喜編著、大修館書店 「安全水泳」 財団法人日本水泳連盟編、大修館書店						
【関連科目】 スポーツ方法実習B（水泳）、スポーツプログラミング演習、スポーツ指導演習（水泳）						
【成績評価方法】 1. 指導実習の計画書（30%）、2. 水泳・水中運動指導の実践（40%）、3. 水泳・水中運動に関する筆記試験（30%）。 評価は、上記に加えて受講態度を含め、総合的に判定する。						

科目名	健康スポーツ演習（ウォーキング・ジョギング）			担当者	井筒 紫乃・佐伯 徹郎 沼澤 秀雄	
英文名	Seminar in Sports for Health (Walking and Jogging)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別			専門・選択	
【目的とねらい】 ウォーキングとジョギングの身体的・精神的・社会的な効果に関する理論と方法について習得する。ウォーキング・ジョギングの運動特性を理解し、さまざまな効果を目指した実践法、指導法の習得を目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ウォーキング・ジョギングの特性と効果について 【 到達目標 】 (1)ウォーキング・ジョギングの特性と効果について理解する。			第9回 ジョギングのフォーム 【 到達目標 】 (1)ジョギングの良いフォームについて理解し実感する。			
【授業時間外学習】 ウォーキング・ジョギングの特性と効果について調査・考察する。			【授業時間外学習】 ジョギングのフォームについて調査・考察し、実践する。			
第2回 ウォーキングのフォーム 【 到達目標 】 (1)ウォーキングの良いフォームについて理解し実感する。			第10回 ジョギングのペース（強度） 【 到達目標 】 (1)ジョギングの最適ペースについて理解し実感する。			
【授業時間外学習】 ウォーキングのフォームについて調査・考察し、実践する。			【授業時間外学習】 ジョギングのペースについて調査・考察し、実践する。			
第3回 ウォーキングのペース（強度） 【 到達目標 】 (1)ウォーキングの最適ペースについて理解し実感する。			第11回 最適ペースによるジョギング 【 到達目標 】 (1)最適ペースによる効果的なジョギングを実践する。			
【授業時間外学習】 ウォーキングのペースについて調査・考察し、実践する。			【授業時間外学習】 最適ペースによるジョギングを実践または指導する。			
第4回 最適ペースによるウォーキング 【 到達目標 】 (1)最適ペースによる効果的なウォーキングを実践する。			第12回 ジョギングの実際①：時間で走る 【 到達目標 】 (1)時間を目安にしたジョギングを実践する。			
【授業時間外学習】 最適ペースによるウォーキングを実践または指導する。			【授業時間外学習】 時間によるジョギングを実践または指導する。			
第5回 ウォーキングの実際①：時間で歩く 【 到達目標 】 (1)時間を目安にしたウォーキングを実践する。			第13回 ジョギングの実際②：距離で走る 【 到達目標 】 (1)距離を目安にしたジョギングを実践する。			
【授業時間外学習】 時間によるウォーキングを実践または指導する。			【授業時間外学習】 距離によるジョギングを実践または指導する。			
第6回 ウォーキングの実際②：距離で歩く 【 到達目標 】 (1)距離を目安にしたウォーキングを実践する。			第14回 いろいろなジョギング法 【 到達目標 】 (1)ねらいに応じたいろいろなジョギングを実践する。			
【授業時間外学習】 距離によるウォーキングを実践または指導する。			【授業時間外学習】 いろいろなジョギング法について調査・考察し、実践する。			
第7回 いろいろなウォーキング法 【 到達目標 】 (1)ねらいに応じたいろいろなウォーキングを実践する。			第15回 目的・対象に応じた指導法：ジョギング 【 到達目標 】 (1)ジョギングの指導法について理解し実践する。			
【授業時間外学習】 いろいろなウォーキング法について調査・考察し、実践する。			【授業時間外学習】 ジョギングの指導法について調査・考察し、指導する。			
第8回 目的・対象に応じた指導法：ウォーキング 【 到達目標 】 (1)ウォーキングの指導法について理解し実践する。						
【授業時間外学習】 ウォーキングの指導法について調査・考察し、指導する。						
【学習上の留意点】 まず自身の健康管理に努めて授業参加すること。汗をかく、寒くなるなどの状況にも適切に対応すること。自分が安全・効果的にウォーキング・ジョギングできることが目標だが、できるだけ指導する立場になって取り組むこと。記録や筆算による計算も多いが、めげずにしっかり記入しながら取り組むこと。						
【教科書・参考書など】 配布資料による。						
【関連科目】 体力トレーニング論、健康運動指導論、運動処方論、スポーツ運動学						
【成績評価方法】 毎回の課題記入状況70%、最終課題30%で評価する。						

科目名	子どものスポーツ指導演習			担当者	井筒紫乃	
英文名	Seminar in Sport Coaching Children					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別			専門・選択	
【目的とねらい】 子どもたちの体力や運動能力の低下が心配されている今日、子どもの発達を理解し運動指導ができる人材が求められている。子どもたちが主体的に身体を動かす意欲を育み、動くことの楽しさを体験することのできる運動遊びを設定するために、年齢に応じた運動発達の過程を理解する。 また、子どもとの遊びを実践的に行い、子どもの遊びと体力や運動能力について考える。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 授業の進め方、服装、持ち物等について理解する。 【授業時間外学習】 子どもの運動についての関連書籍を読む。			第9回 集団による楽しい運動遊び1 いろいろな鬼ごっこ 【 到達目標 】 全身の運動能力向上を図るとともにルールも学んでいく。鬼ごっこのバリエーションを広げ、展開する。 【授業時間外学習】 子どもの運動についての関連書籍を読む。			
第2回 子どもの心身の発達を促す豊かな楽しい運動遊びとは 【 到達目標 】 子どもの年齢に応じた運動発達の過程を理解し支援していく方法について学ぶ。 【授業時間外学習】 子どもの運動についての関連書籍を読む。			第10回 集団による楽しい運動遊び2 集団でのボール運動遊び 【 到達目標 】 ボールから得られる多様な動作を楽しむ。また、自分と相手の役割を理解させるゲームを展開する。 【授業時間外学習】 子どもの運動についての関連書籍を読む。			
第3回 身体操作系の楽しい運動遊び1 基本的な運動発達を促す動き 【 到達目標 】 運動発達の中で最も基礎となる「歩く」「走る」「跳ぶ」の運動について楽しさを体験できる種目を工夫する。 【授業時間外学習】 子どもの運動についての関連書籍を読む。			第11回 集団による楽しい運動遊び3 伝承遊び 【 到達目標 】 伝承遊びは歌と遊びが一体となっていることが特徴である。多面的に子どもの発育発達を促す遊びであることを理解する。 【授業時間外学習】 子どもの運動についての関連書籍を読む。			
第4回 身体操作系の楽しい運動遊び2 運動用具を活用した基本の動き 【 到達目標 】 子どもの「遊びたい」という欲求を引き出すための魅力ある運動用具について理解する。 【授業時間外学習】 子どもの運動についての関連書籍を読む。			第12回 運動会の種目1 かけっこ・リレー 【 到達目標 】 「走る」ことは、運動経験や体格等の個人差など発達の度合いによって差が生じやすいことを理解し、プログラムを工夫する。 【授業時間外学習】 子どもの運動についての関連書籍を読む。			
第5回 身体操作系の楽しい運動遊び3 楽しい身体表現遊び 【 到達目標 】 からだの部位をまんべんなく動かし、器用さ、調整力、動きのリズムを獲得させるための動きを創作する。 【授業時間外学習】 子どもの運動についての関連書籍を読む。			第13回 運動会の種目2 対抗ゲーム 【 到達目標 】 様々な動きを加え遊びの要素を高めるためのプログラムづくりを行い、検討する。 【授業時間外学習】 子どもの運動についての関連書籍を読む。			
第6回 道具操作系の楽しい運動遊び1 ボール運動遊び 【 到達目標 】 操作する動作の獲得に加え、自分のからだをコントロールする能力、柔軟性やリズム感を養う遊びを工夫する。 【授業時間外学習】 子どもの運動についての関連書籍を読む。			第14回 運動会の種目3 表現・組体操 【 到達目標 】 身近な題材を使い、子どもが想像や表現しやすいように配慮する技術を養う。 【授業時間外学習】 子どもの運動についての関連書籍を読む。			
第7回 道具操作系の楽しい運動遊び2 縄跳び遊び 【 到達目標 】 縄跳びは一定のリズムを予測してからだを動かす必要がある遊びである。個人差の大きい遊びでもあり支援の方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 子どもの運動についての関連書籍を読む。			第15回 運動会の実際 ミニ運動会 【 到達目標 】 プログラム・進行等、実際に運動会を企画しミニ運動会を行う。 【授業時間外学習】 授業で学んだ内容をレポートにまとめる。			
第8回 道具操作系の楽しい運動遊び3 生活用品を使った運動遊び 【 到達目標 】 生活の中で触れる身近な用具は子どもの創造性を育む。いろいろな生活用品を用い、運動遊びを展開する。 【授業時間外学習】 子どもの運動についての関連書籍を読む。						
【学習上の留意点】 授業は実技を中心に行う。実際に子どもたちと一緒に遊ぶ場面もあることから、服装やシューズ等には注意すること。						
【教科書・参考書など】 教科書は使用しないが、参考図書等については授業内で説明する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業における課題達成度70%、レポート30%で評価する。						

科目名	エアロビクス・エクササイズ			担当者	佐伯徹郎	
英文名	Practice of Aerobic Exercise					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別			専門・選択	
【目的とねらい】 健康体力づくりからスポーツ能力向上まで、さまざまな目標達成に役立つエアロビクス・エクササイズ（有酸素性運動）の理論（VO2maxやATなど）を実践的に理解することを目的とする。そのために、代表的な有酸素性運動を中心として、さまざまな運動・スポーツにおける有酸素系の負荷特性を体感する。その際、それぞれの運動強度を心拍数応答および主観的運動強度（RPE）から検討し、プログラミングや指導に関する資料が作成できるようになることを目指す。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業のねらいと進め方 【 到達目標 】 (1)授業のねらいと進め方について理解する。 【授業時間外学習】 エアロビクス・エクササイズについて調査・考察する。			第9回 いろいろな運動の負荷特性②：実技 【 到達目標 】 (1)いろいろな運動の有酸素系の負荷特性を実感する。 【授業時間外学習】 いろいろな無酸素性運動の種類について調査・考察する。			
第2回 有酸素性運動の理論 【 到達目標 】 (1)有酸素性運動の理論について理解する。 【授業時間外学習】 有酸素性運動の理論について調査・考察する。			第10回 いろいろな運動の負荷特性②：解説 【 到達目標 】 (1)いろいろな運動の有酸素系の負荷特性について理解する。 【授業時間外学習】 いろいろな無酸素性運動の負荷特性および効果について調査・考察する。			
第3回 有酸素系能力の評価の実際①：実技 【 到達目標 】 (1)有酸素系能力（AT）の評価を実践する。 【授業時間外学習】 ATの測定評価法（実技）について調査・考察する。			第11回 有酸素性運動プログラムの作成法 【 到達目標 】 (1)有酸素性運動のプログラムを作成する。 【授業時間外学習】 有酸素性運動のプログラムの理論や作成法について調査・考察する。			
第4回 有酸素系能力の評価の実際①：理論 【 到達目標 】 (1)有酸素系能力（AT）の評価法について理解する。 【授業時間外学習】 ATの測定評価法（理論）について調査・考察する。			第12回 有酸素性運動プログラムの発表①：実技 【 到達目標 】 (1)有酸素性運動のプログラムを体験し、評価する。 【授業時間外学習】 有酸素性運動のプログラムの実際について調査・考察する。			
第5回 有酸素系能力の評価の実際②：実技 【 到達目標 】 (1)有酸素系能力（VO2max）の評価を実践する。 【授業時間外学習】 VO2maxの測定評価法（実技）について調査・考察する。			第13回 有酸素性運動プログラムの発表②：実技 【 到達目標 】 (1)有酸素性運動のプログラムを体験し、評価する。 【授業時間外学習】 有酸素性運動のプログラムの実際についてさらに調査・考察し、理解を深める。			
第6回 有酸素系能力の評価の実際②：理論 【 到達目標 】 (1)有酸素系能力（VO2max）の評価法について理解する。 【授業時間外学習】 VO2maxの測定評価法（理論）について調査・考察する。			第14回 プログラムおよび指導法の評価①：個人 【 到達目標 】 (1)有酸素性運動のプログラム作成および指導の評価法について理解する。 【授業時間外学習】 有酸素性運動の指導理論や習得法について調査・考察する。			
第7回 いろいろな運動の負荷特性①：実技 【 到達目標 】 (1)いろいろな運動の有酸素系の負荷特性を実感する。 【授業時間外学習】 いろいろな有酸素性運動の種類について調査・考察する。			第15回 プログラムおよび指導法の評価②：対論 【 到達目標 】 (1)有酸素性運動のプログラム作成および指導の評価法について討論する。 【授業時間外学習】 有酸素性運動の指導法の実際についてさらに調査・考察する。			
第8回 いろいろな運動の負荷特性①：解説 【 到達目標 】 (1)いろいろな運動の有酸素系の負荷特性について理解する。 【授業時間外学習】 いろいろな運動の有酸素系の負荷特性および効果について調査・考察する。						
【学習上の留意点】 実技の内容を講義で確認（解説）する、という形をとるので、理論と実践を関連付けながら取り組むこと。 配布資料が多いので紛失等に気をつけて整理しておくこと。 実技の際は、しっかり記録をつけながら取り組むこと。						
【教科書・参考書など】 配布資料、ビデオ視聴などによる。						
【関連科目】 生理・生化学入門、スポーツ生理学、体力トレーニング論、健康スポーツ演習（ウォーキング・ジョギング）						
【成績評価方法】 毎回の課題記入状況40%、最終課題60%で評価する。						

科目名	レジスタンス・エクササイズ			担当者	佐伯 徹郎・渡部 誠 小林 敬和	
英文名	Practice of Resistance Exercise					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3				専門・選択	
【目的とねらい】 レジスタンスエクササイズ（筋力・パワー・筋持久力の向上をはかるエクササイズの総称）の理論と方法について習得することを目的とする。負荷のかけ方（静的、動的、自体重、パートナー、マシン、フリーウエイトなど）、動作の習得法、負荷の決め方（強度、反復回数、セット数）、プログラムの組み方（種目の選択、実施頻度、期間など）について理解し、さまざまな対象者の、さまざまな目的に応じたプログラムを作成し、実施・指導できる能力を養成する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 レジスタンス・トレーニングとは 【 到達目標 】 (1)レジスタンス・トレーニングについて理解する。 【授業時間外学習】 レジスタンス・エクササイズについて調査・考察する。			第9回 サーキット・トレーニングの種類と方法 【 到達目標 】 (1)サーキット・トレーニングについて理解する。 【授業時間外学習】 サーキット・トレーニングについて調査・考察する。			
第2回 レジスタンス・トレーニングの処方 【 到達目標 】 (1)レジスタンス・トレーニングの処方について理解する。 【授業時間外学習】 レジスタンス・トレーニングについて調査・考察する。			第10回 サーキット・トレーニングの実際 【 到達目標 】 (1)サーキット・トレーニングを実践する。 【授業時間外学習】 サーキット・トレーニングのメニューを作成し実践する。			
第3回 マシン・トレーニング① 【 到達目標 】 (1)マシン・トレーニングについて理解し実践する。 【授業時間外学習】 マシン・トレーニングについて調査・考察する。			第11回 目的別プログラムの作成・実行① 【 到達目標 】 (1)対象者の特性・目標を想定したプログラムを作成し実行する。 【授業時間外学習】 自分の目的に合ったプログラムを作成し実践する。			
第4回 マシン・トレーニング② 【 到達目標 】 (1)マシン・トレーニングを用いたプログラムを作成する。 【授業時間外学習】 マシン・トレーニングのメニューを作り実践する。			第12回 目的別プログラムの作成・実行② 【 到達目標 】 (1)対象者の特性・目標を想定したプログラムを作成し実行する。 【授業時間外学習】 対象者を想定してプログラムを作成し指導（サポート）する。			
第5回 フリーウエイト・トレーニング① 【 到達目標 】 (1)フリーウエイト・トレーニングについて理解し実践する。 【授業時間外学習】 フリーウエイト・トレーニングについて調査・考察する。			第13回 目的別プログラムの作成・実行③ 【 到達目標 】 (1)対象者の特性・目標を想定したプログラムを作成し実行する。 【授業時間外学習】 第12回と異なる対象者を想定してプログラムを作成し指導（サポート）する。			
第6回 フリーウエイト・トレーニング② 【 到達目標 】 (1)フリーウエイト・トレーニングを用いたプログラムを作成する。 【授業時間外学習】 フリーウエイト・トレーニングのメニューを作り実践する。			第14回 トレーニング効果の評価法 【 到達目標 】 (1)筋力、持久力の評価法について理解し実践する。 【授業時間外学習】 トレーニング効果の評価法について調査・考察する。			
第7回 器具を用いないレジスタンス・トレーニング① 【 到達目標 】 (1)自体重によるトレーニングについて理解し実践する。 【授業時間外学習】 器具を用いないレジスタンス・トレーニングについて調査・考察する。			第15回 トレーニングプログラムの作成・実施 【 到達目標 】 (1)レジスタンス・トレーニングのプログラムを作成・実践し、その内容の良し悪しを評価する。 【授業時間外学習】 トレーニングプログラムについて調査・考察する。			
第8回 器具を用いないレジスタンス・トレーニング② 【 到達目標 】 (1)バランストレーニングについて理解し実践する。 【授業時間外学習】 器具を用いないレジスタンス・トレーニングのメニューを作り実践する。						
【学習上の留意点】 トレーニングに適した服装、室内シューズを用意し、過剰なアクセサリ等は控えること。 安全・効果的にトレーニングできるように体調管理に努めること。 グループおよび個人ごとの学習活動において、記録をつけながらの実技となる。						
【教科書・参考書など】 配布資料による。						
【関連科目】 スポーツ生理学、機能解剖学、体力トレーニング論、体力測定評価法						
【成績評価方法】 中間課題40%、最終課題60%で評価する。						

科目名	健康福祉スポーツ演習（障害者）			担当者	松原 豊	
英文名	Seminar in Welfare Sports for Disabled					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別			専門・選択	
【目的とねらい】 福祉、医療の現場において身体運動、スポーツは健康増進、交流、レクリエーション、リハビリテーションなど様々な役割を期待されている。本演習では障害者を対象とした健康福祉スポーツの現状について知り、課題となっていることについて考察する。また、与えられた課題に対してグループ毎の討論や実践演習を通して障害の状態や興味など個別のニーズに応じた運動・スポーツプログラムの作成や指導方法に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 福祉、医療場面における身体運動、スポーツ 【 到達目標 】 福祉、医療場面における身体運動、スポーツに関する用語など基本的な知識を習得する。 【授業時間外学習】 授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。			第9回 車椅子使用者に対するスポーツプログラム発表及び講評 【 到達目標 】 作成したプログラムのミニティーチングを行い、講評を得ることで指導の工夫や支援方法などの基礎的な知識や技能を習得する。 【授業時間外学習】 課題に基づき、関連する教材、資料の準備を行う。			
第2回 障害者を対象とした健康福祉スポーツの現状と課題 【 到達目標 】 障害者を対象とした健康福祉スポーツの意義や現状を理解し、課題となる事柄について考察する。 【授業時間外学習】 授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。			第10回 知的障害者に対するスポーツプログラム作成（グループ討論） 【 到達目標 】 知的障害者に対するスポーツプログラムをグループ毎の討論によって作成することができる。 【授業時間外学習】 課題に基づき、関連する教材、資料の準備を行う。			
第3回 じゃんけんのユニバーサルデザイン（グループ演習） 【 到達目標 】 障害に応じたじゃんけんの方法をグループ毎に考えることでスポーツプログラム作成の基礎的な方法を習得する。 【授業時間外学習】 課題に基づき、関連する教材、資料の準備を行う。			第11回 知的障害者に対するスポーツプログラム発表及び講評 【 到達目標 】 作成したプログラムのミニティーチングを行い、講評を得ることで指導の工夫や支援方法などの基礎的な知識や技能を習得する。 【授業時間外学習】 課題に基づき、関連する教材、資料の準備を行う。			
第4回 障害児の運動遊びについての考察（屋内編） 【 到達目標 】 障害児の運動遊び（屋内）の基礎的な知識を学び指導の工夫などを考察する。 【授業時間外学習】 授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。			第12回 ムーブメントプログラム作成（グループ討論） 【 到達目標 】 ムーブメントプログラムをグループ毎の討論によって作成することができる。 【授業時間外学習】 課題に基づき、関連する教材、資料の準備を行う。			
第5回 障害児の運動遊びについての考察（屋外編） 【 到達目標 】 障害児の運動遊び（屋外）の基礎的な知識を学び指導の工夫などを考察する。 【授業時間外学習】 授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。			第13回 ムーブメントプログラム発表及び講評 【 到達目標 】 作成したムーブメントプログラムのミニティーチングを行い、講評を得ることで指導の工夫や支援方法などの基礎的な知識や技能を習得する。 【授業時間外学習】 課題に基づき、関連する教材、資料の準備を行う。			
第6回 視覚障害者に対するスポーツプログラム作成（グループ討論） 【 到達目標 】 視覚障害者に対するスポーツプログラムをグループ毎の討論によって作成することができる。 【授業時間外学習】 課題に基づき、関連する教材、資料の準備を行う。			第14回 障害者レクダンスの理解と活用 【 到達目標 】 福祉現場のレクリエーションとして用いられることが多いレクダンス活動についての基礎的な知識と方法を習得する。 【授業時間外学習】 課題に基づき、関連する教材、資料の準備を行う。			
第7回 視覚障害者に対するスポーツプログラム発表及び講評 【 到達目標 】 作成したプログラムのミニティーチングを行い、講評を得ることで指導の工夫や支援方法などの基礎的な知識や技能を習得する。 【授業時間外学習】 課題に基づき、関連する教材、資料の準備を行う。			第15回 将来への展望と課題、学習の振り返り 【 到達目標 】 福祉スポーツの将来への展望と課題について考察すると共に、これまでの演習を振り返りながら習得した知識の確認を行う。 【授業時間外学習】 授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。			
第8回 車椅子使用者に対するスポーツプログラム作成（グループ討論） 【 到達目標 】 車椅子使用者に対するスポーツプログラムをグループ毎の討論によって作成することができる。 【授業時間外学習】 課題に基づき、関連する教材、資料の準備を行う。						
【学習上の留意点】 グループ毎に作成したスポーツプログラムの発表を体育館などで行うため必要に応じて演習の場所を変更する。必要に応じてレポートを課す。						
【教科書・参考書など】 参考書：『発達に気になる子の運動遊び88』 松原 豊編著 学研教育出版 必要に応じて資料用のプリントを配付する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 グループ討論の内容に関する評価（20％） レポートによる評価（20％） 課題作成および実践による評価（60％）						

科目名	運動プログラム管理演習			担当者	夏井 裕明・佐藤 耕平	
英文名	Seminar in Medical Management for Exercise Program					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4				専門・選択	
【目的とねらい】 メディカルチェックをはじめ、運動プログラム作成と管理に関わる医学的基礎知識を学び、種々の疾病予防のための運動プログラムの作成理論とプログラム実施時の留意点などについて講義および実習を行う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 授業の進め方、講義内容に関わる背景を理解する。 健康運動指導士の資格および認定条件について理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習テキストを購入し、内容を把握してくる。			第9回 生活習慣病に対する運動療法 プログラム作成実習 (2) 【 到達目標 】 肥満、高血糖、糖尿病を併発した患者に対する運動プログラムが作成できる。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習テキストP.611-618を事前に読んでくる。			
第2回 運動プログラム作成の基本 (1) 【 到達目標 】 運動プログラム作成の基本原則を理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習テキストP.561-566を事前に読んでくる。			第10回 生活習慣病に対する運動療法 プログラム作成実習 (3) 【 到達目標 】 高血圧患者に対する運動プログラムが作成できる。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習テキストP.619-622を事前に読んでくる。			
第3回 運動プログラム作成の基本 (2) 【 到達目標 】 対象者に合わせた包括的運動プログラム作成の基本を理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習テキストP.567-572を事前に読んでくる。			第11回 高血圧症を合併する場合のプログラム 【 到達目標 】 高血圧者に対する運動プログラム作成の基本事項を理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習テキストP.623-628を事前に読んでくる。			
第4回 健診結果の読み方 【 到達目標 】 健診項目、基準値を理解し、指導判定値を説明できる。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習テキストP.573-580を事前に読んでくる。			第12回 生理検査 (1) 【 到達目標 】 血圧・心拍数の測定法を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。			
第5回 安静時心電図の読み方 【 到達目標 】 安静時心電図の基本を理解し、電極装着の補助ができる。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習テキストP.580-585を事前に読んでくる。			第13回 生理検査 (2) 【 到達目標 】 肺機能検査の方法を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。			
第6回 メディカルチェックの重要性 【 到達目標 】 内科的メディカルチェックの重要性を理解し、内容が説明できる。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習テキストP.587-593を事前に読んでくる。			第14回 心電図実習 【 到達目標 】 実際に心電図を測り、判定する技術を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。			
第7回 服薬者の運動プログラム作成上の注意 【 到達目標 】 生活習慣病患者が服用する薬が運動プログラム作成に及ぼす影響を理解し、内容を調整できる。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習テキストP.595-603を事前に読んでくる。			第15回 運動負荷実習 【 到達目標 】 自転車エルゴメーター、トレッドミルによる運動負荷試験の基本技術を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。			
第8回 生活習慣病に対する運動療法 プログラム作成実習 (1) 【 到達目標 】 包括的運動プログラムの基本例が作成できる。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習テキストP.605-609を事前に読んでくる。						
【学習上の留意点】 この講義は、健康運動指導士の資格取得を目指す学生には必修科目であり、出席を極めて重視する。また、授業は、講義形式と実習形式を交えて行うため、教場が週毎に変更することがある。教員からの指示に留意すること。また、学外への施設見学なども企画する場合もある。尚、教育実習などで講義への参加学生が少なくなる場合は、別途集中講義期間に授業を行う場合もある。						
【教科書・参考書など】 健康運動指導士養成テキストは事前に受講者全員が購入すること。図書館などで「測定評価」「生理学」「生化学」「解剖学」などのテキストを借り参考にすること。						
【関連科目】 運動負荷試験演習、運動処方論、体力測定評価法						
【成績評価方法】 実習レポート (50%)、テキスト理解を確認するテスト (50%) により評価する。						

科目名	運動負荷試験演習			担当者	夏井 裕明・佐藤 耕平	
英文名	Seminar in Exercise Testing					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4				専門・選択	
【目的とねらい】 [講義前半] 運動負荷試験に関わる基本的知識およびその実際について、負荷試験実習を通して学ぶ。 [講義後半] 運動負荷試験時や体力測定時に多用される計測方法について、実習やデモンストレーションを通して理解を深める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 授業の進め方・運動負荷試験の概要を理解する。 健康運動指導士の役割について理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習テキストを購入し、内容を把握してくる。			第9回 運動負荷試験に用いられる測定概説、測定用プロトコル解説 【 到達目標 】 実習により得られたデータの解析・分析を行い、データを判定する力を習得する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。			
第2回 運動負荷試験の実際 【 到達目標 】 運動負荷試験の目的を理解し、その実際を習得する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習テキストP.631-636を事前に読んでくる。			第10回 呼吸ガス分析方法 (1) 【 到達目標 】 毎分換気量、酸素摂取量、二酸化炭素排出量などの計算方法を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。			
第3回 運動負荷試験実習 (1) 【 到達目標 】 トレッドミルによる運動負荷試験の実際を理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習テキストP.637-640を事前に読んでくる。			第11回 呼吸ガス分析方法 (2) 【 到達目標 】 呼吸交換比とMETSの理解、ATの算出を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。			
第4回 運動負荷試験実習 (2) 【 到達目標 】 自転車エルゴメーターによる運動負荷試験の実際を理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習テキストP.641-646を事前に読んでくる。			第12回 データ解析・分析 【 到達目標 】 負荷試験より得られたデータを患者にフィードバックする方法を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。			
第5回 運動負荷試験の実際―判定の実際、運動に対する反応の個人差 【 到達目標 】 判定の実際、運動に対する生理反応の個人差を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。			第13回 推定最大酸素摂取量―事例デモ 【 到達目標 】 最大下の運動による最大酸素摂取量の推定法を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。			
第6回 運動負荷試験中における心電図の測定 (1) 【 到達目標 】 トレッドミルでの運動負荷中の心電図測定法を理解し、実践できる。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。			第14回 身体活動量の推定法 【 到達目標 】 加速度計や心拍数を用いた身体活動量を把握する方法論を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。			
第7回 運動負荷試験中における心電図の測定 (2) 【 到達目標 】 自転車エルゴメーターでの運動負荷中の心電図測定法を理解し、実践できる。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。			第15回 データカンファレンス―実習時のデータに関する討論 【 到達目標 】 データを用いたディスカッションを行い理解を深める。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。			
第8回 フィールドでのテレメータ心電図記録 【 到達目標 】 テレメータを用いた心電図を記録し、その方法論を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。						
【学習上の留意点】 この講義は、健康運動指導士の資格取得を目指す学生には必須であり、出席を極めて重視する。また、授業は、講義形式と実習形式を交えて行うため、教員からの指示に留意すること。実習データをまとめる際にはPCを使用する。尚、教育実習などで講義への参加学生が少なくなる場合は、別途集中講義期間に授業を行う場合もある。						
【教科書・参考書など】 健康運動指導士養成テキストは事前に受講者全員が購入すること。図書館などで「測定評価」「生理学」「生化学」「解剖学」などのテキストを借り参考にすること。						
【関連科目】 運動プログラム管理演習、運動処方論、体力測定評価法						
【成績評価方法】 実習レポート (50%)、テキスト理解を確認するテスト (50%) により評価する。						

科目名	スポーツ活動特別実習			担当者	佐々木直基	
英文名	Practice of Special Sports Activity					
単位数	3	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1～3				専門・選択	
【目的とねらい】						
<p>本学における部活動を通して得られた経験や成果をまとめ、より専門的なスポーツ活動に繋げることを目的とする。1年次から3年次にかけて年次ごとに報告書を作成し、さらに優れた実績に繋がるようにすることがねらいとなる。</p> <p>履修者は上記のことを踏まえ、単に活動状況を報告するのではなく自らのパフォーマンス向上に繋がるような考察をすることが求められる。</p>						
【授業内容】						
<p>1. 1年次4月 ガイダンス 授業の目的やねらいについて説明を行う。また活動報告書の作成方法および提出についての説明を行う。</p> <p>2. 1年次 各自の部活動を継続して行い、活動報告書を作成し提出する（1月）。1年次は主に高校と大学の活動の違いについて考察を行い、2年次以降の充実に繋がることを目的に報告書を作成する。また、4年次にどのような選手になっていきたいかの目標についても記述する。11～12月にガイダンスを実施する。</p> <p>3. 2年次 各自の部活動を継続して行い、活動報告書を作成し提出する（1月）。2年次は大学生競技者としての自分を振り返り、大学における残りの競技生活の目標や計画について考察する。また次年度の活動目標についても記述する。11～12月にガイダンスを実施する。</p> <p>4. 3年次 各自の部活動を継続して行い、活動報告書を作成し提出する（1月）。3年次はこれまでの活動を振り返り、最終年次の活動を具体的に計画し報告書を作成する。またどのように大学での競技を終え、卒業後に大学での経験をどのように生かしていくのかについても記述する。11～12月にガイダンスを実施する。</p>						
【到達目標】						
<p>継続した活動を通して、競技者として競技力を向上させ、より優れた結果を残すことが到達目標となる。さらに大学生競技者として、年次を重ねるごとに人間的にも成長していることを実感できることが目標となる。卒業後、競技者の継続を希望する者、指導者を希望する者は将来の自分をイメージしながら日々の活動を行い、報告書を作成することが望ましい。</p>						
【授業時間外学習】						
<p>日々の部活動に対し目的意識を明確にして取り組み、さらに練習ノートなどにその日の練習内容に加えて気づいた点などを簡単にまとめる。さらに、自らの課題を解決するために必要な情報を書籍等を活用しながら積極的に取り入れ、これらを継続する中で競技力向上に対する興味関心を高めるとともに、根拠に基づいたトレーニングに取り組めるようにする。</p>						
【学習上の留意点】						
<p>大学でスポーツ活動を実施する学生が、さらにそのスポーツ活動を継続させて実施する場合に受講できる。受講を希望する学生は、スポーツ活動に関する書類を事前に提出し、受講可否の審査を受ける。受講学生は1年ごとに実施したスポーツ活動の内容について報告書を提出する（1月頃）。不定期でガイダンスを実施するので、掲示をよく見て必ず出席すること。また、学年をまたいでの課題提出はいかなる理由であっても認めない。その場合は次年度の履修を取り消すので注意すること。</p>						
【教科書・参考書など】						
各競技種目に関する専門書や指導書など						
【関連科目】						
スポーツ生理学、スポーツ心理学、機能解剖学、スポーツ運動学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ栄養学、体力トレーニング論、スポーツリハビリテーション論など						
【成績評価方法】						
3年間を通したスポーツ活動実績と活動報告書に基づき総合的に評価を行う。						

科目名	健康スポーツ特別実習			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Practice of Special Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3				専門・選択	
【目的とねらい】 健康スポーツ学専攻での専門科目として講義と実習を統合して、実践的な知識や能力を拡大させることがねらいである。本科目では、障害のある子どもとその運動発達支援に関する基礎的な知識を習得するとともに、学外で実施されている障害のある子どもたちのスポーツ活動に参加し、実践的な学習を行う。平成27年度の実習先は、世田谷区スポーツ振興財団の障害児運動教室（学齢期）、NPO法人アダプティブワールドの障害児者運動教室（学齢期・青年期）、療育施設におけるスポーツセラピー（乳幼児期）であった。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 実習準備（1）障害のある子どもの理解と支援 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。 身体障害、知的障害、発達障害に関する理解を深め、障害に応じた支援方法を理解する。			第9回 実習 【 到達目標 】 それぞれの施設で実習を行い、実習内容について理解できる。			
第2回 実習準備（2）運動支援プログラムとアセスメント 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。 障害特性に応じた運動発達支援プログラムとアセスメント手法について理解する。			第10回 実習 【 到達目標 】 それぞれの施設で実習を行い、実習内容について理解できる。			
第3回 実習準備（3）障害のある子どものムーブメントと遊びの活動 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。 障害のある子どものムーブメントと遊びの活動について、理論と実際を理解する。			第11回 実習 【 到達目標 】 それぞれの施設で実習を行い、実習内容について理解できる。			
第4回 実習準備（4）実習先について 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。 実習先の特徴を理解し、活動内容を選択する。			第12回 実習 【 到達目標 】 それぞれの施設で実習を行い、実習内容について理解できる。			
第5回 実習準備（5）実習先について 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。 実習先の特徴を理解し、活動内容を選択する。			第13回 実習 【 到達目標 】 それぞれの施設で実習を行い、実習内容について理解できる。			
第6回 実習 【 到達目標 】 それぞれの施設で実習を行い、実習内容について理解できる。			第14回 レポート作成（中間報告） 【 到達目標 】 実習の内容について、レポートとしてまとめ中間報告できる。			
第7回 実習 【 到達目標 】 それぞれの施設で実習を行い、実習内容について理解できる。			第16回 レポート作成（中間報告） 【 到達目標 】 実習の内容について、レポートとしてまとめ中間報告できる。			
第8回 実習 【 到達目標 】 それぞれの施設で実習を行い、実習内容について理解できる。						

次ページに続く

科目名	健康スポーツ特別実習			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Practice of Special Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別			専門・選択	
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 実習 【 到達目標 】 障害のある子どもの運動発達支援について、実務的な内容について理解し、実践できる。			第24回 実習 【 到達目標 】 障害のある子どもの運動発達支援について、実務的な内容について理解し、実践できる。			
第17回 実習 【 到達目標 】 障害のある子どもの運動発達支援について、実務的な内容について理解し、実践できる。			第25回 実習 【 到達目標 】 障害のある子どもの運動発達支援について、実務的な内容について理解し、実践できる。			
第18回 実習 【 到達目標 】 障害のある子どもの運動発達支援について、実務的な内容について理解し、実践できる。			第26回 実習 【 到達目標 】 障害のある子どもの運動発達支援について、実務的な内容について理解し、実践できる。			
第19回 実習 【 到達目標 】 障害のある子どもの運動発達支援について、実務的な内容について理解し、実践できる。			第27回 実習 【 到達目標 】 障害のある子どもの運動発達支援について、実務的な内容について理解し、実践できる。			
第20回 実習 【 到達目標 】 障害のある子どもの運動発達支援について、実務的な内容について理解し、実践できる。			第28回 実習 【 到達目標 】 障害のある子どもの運動発達支援について、実務的な内容について理解し、実践できる。			
第21回 実習 【 到達目標 】 障害のある子どもの運動発達支援について、実務的な内容について理解し、実践できる。			第29回 レポート作成（最終報告） 【 到達目標 】 レポートとしてまとめ報告できる。			
第22回 実習 【 到達目標 】 障害のある子どもの運動発達支援について、実務的な内容について理解し、実践できる。			第30回 レポート作成（最終報告） 【 到達目標 】 レポートとしてまとめ報告できる。			
第23回 実習 【 到達目標 】 障害のある子どもの運動発達支援について、実務的な内容について理解し、実践できる。						
【授業時間外学習】 障害に関する文献や映像による学習のほか、実習以外でも障害のある子どもと触れ合う機会を積極的に作り、多角的な理解に努める。障害のある本人や障害のある子どもを育てる家族の手記を読むことも大変有効である。						
【学習上の留意点】 専門機関の協力のもとに行っており、学外の参加者の安全に十分留意し、責任あるしっかりした態度で臨むこと。 特別支援学校教諭を目指すものは、特に履修することを勧める。履修後もボランティア活動として継続し、実践力をさらに高めることも可能である。 ※2016年度入学生から科目名・単位数が変更となる。「科目名：健康スポーツ特別演習、単位数：2単位」						
【教科書・参考書など】 特になし。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 実習での取り組みが50%、レポート・報告が50%として評価する。						

科目名	健康スポーツ特別実習			担当者	井筒紫乃	
英文名	Practice of Special Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3				専門・選択	
【目的とねらい】 健康スポーツ学専攻での専門科目として、講義と実習を統合して実践的な知識や能力を拡大させることがねらいである。具体的には、学内及び学外で実施されている様々なスポーツ活動や健康・福祉活動に参加し、そのような機会を最大限に活用して実践的な業務の学習をする。以下の各プログラムはそれぞれ独立している。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 スポーツ活動実習の準備1 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			第9回 スポーツ活動実習の実際4 【 到達目標 】 それぞれの施設での実習を行い、実習内容について理解できる。			
第2回 スポーツ活動実習の準備2 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			第10回 スポーツ活動実習の実際5 【 到達目標 】 それぞれの施設での実習を行い、実習内容について理解できる。			
第3回 スポーツ活動実習の準備3 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			第11回 スポーツ活動実習の実際6 【 到達目標 】 それぞれの施設での実習を行い、実習内容について理解できる。			
第4回 スポーツ活動実習の準備4 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			第12回 スポーツ活動実習の実際7 【 到達目標 】 それぞれの施設での実習を行い、実習内容について理解できる。			
第5回 スポーツ活動実習の準備5 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			第13回 スポーツ活動実習の実際8 【 到達目標 】 それぞれの施設での実習を行い、実習内容について理解できる。			
第6回 スポーツ活動実習の実際1 【 到達目標 】 それぞれの施設での実習を行い、実習内容について理解できる。			第14回 実習の中間報告1 【 到達目標 】 実習の内容についてレポートとしてまとめ、報告できる。			
第7回 スポーツ活動実習の実際2 【 到達目標 】 それぞれの施設での実習を行い、実習内容について理解できる。			第16回 実習の中間報告2 【 到達目標 】 実習の内容についてレポートとしてまとめ、報告できる。			
第8回 スポーツ活動実習の実際3 【 到達目標 】 それぞれの施設での実習を行い、実習内容について理解できる。						

次ページに続く

科目名	健康スポーツ特別実習			担当者	井筒紫乃	
英文名	Practice of Special Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3				専門・選択	
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 スポーツ活動の実践1 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			第24回 スポーツ活動の実践9 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			
第17回 スポーツ活動の実践2 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			第25回 スポーツ活動の実践10 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			
第18回 スポーツ活動の実践3 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			第26回 スポーツ活動の実践11 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			
第19回 スポーツ活動の実践4 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			第27回 スポーツ活動の実践12 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			
第20回 スポーツ活動の実践5 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			第28回 スポーツ活動の実践13 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			
第21回 スポーツ活動の実践6 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			第29回 スポーツ実践活動のまとめと報告1 【 到達目標 】 レポートとしてまとめができ、報告できる。			
第22回 スポーツ活動の実践7 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			第30回 スポーツ実践活動のまとめと報告2 【 到達目標 】 レポートとしてまとめができ、報告できる。			
第23回 スポーツ活動の実践8 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。						
【授業時間外学習】 スポーツイベントやボランティア活動に参加し、企画や運営に携わる。						
【学習上の留意点】 内容の詳細は授業時に説明する。 対象者・施設が学外になることがあるので、服装等に留意し、しっかりした態度で臨むこと。 ※2016年度入学生から科目名および単位数が変更となる。「科目名：健康スポーツ特別実習、単位数：2単位」						
【教科書・参考書など】 特に指定しない。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 実習での取り組みが50%、レポート・報告が50%として評価する。						

科目名	健康スポーツ特別実習			担当者	佐伯徹郎	
英文名	Practice of Special Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3				専門・選択	
【目的とねらい】 健康スポーツ学専攻での専門科目として講義と実習を統合して、実践的な知識や能力を拡大させることがねらいである。具体的には、学内及び学外で実施されている様々なスポーツ活動や健康・福祉活動に参加し、そのような機会を最大限に活用して実践的な業務の学習をする。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 授業のねらいと進め方 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			第9回 ウォーキング教室アシスタント③ 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			
第2回 ウォーミングアップ①：講義 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			第10回 ウォーキング教室アシスタント④ 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			
第3回 ウォーミングアップ②：実技 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			第11回 ウォーキング教室アシスタント⑤ 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			
第4回 ウォーキング教室の実際①：講義 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			第12回 ウォーキング教室アシスタント⑥ 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			
第5回 ウォーキング教室の実際②：実技 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			第13回 ウォーキング教室の評価①：自己の取り組み方 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			
第6回 ウォーキング教室の実際③：討論 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			第14回 ウォーキング教室の評価②：他者および内容 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			
第7回 ウォーキング教室アシスタント① 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			第16回 ウォーキング教室の評価③：討論 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。			
第8回 ウォーキング教室アシスタント② 【 到達目標 】 実習の目的を理解し、実習へ向けての準備ができる。						

次ページに続く

科目名	健康スポーツ特別実習			担当者	佐伯徹郎	
英文名	Practice of Special Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3				専門・選択	
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 ジョギング教室の実際①：講義 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			第24回 ジョギング教室アシスタント③ 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			
第17回 ジョギング教室の実際②：実技 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			第25回 ジョギング教室アシスタント④ 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			
第18回 ジョギング教室の実際③：討論 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			第26回 ジョギング教室アシスタント⑤ 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			
第19回 ジョギング指導の実際①：フォーム 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			第27回 ジョギング教室の評価①：自己の取り組み方 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			
第20回 ジョギング指導の実際②：ペース 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			第28回 ジョギング教室の評価②：他者および内容 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			
第21回 補強運動の実際および指導法 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			第29回 ジョギング教室の評価③：討論 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			
第22回 ジョギング教室アシスタント① 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			第30回 ウォーキング・ジョギング教室企画案作成 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。			
第23回 ジョギング教室アシスタント② 【 到達目標 】 実務的な内容について理解でき、実践できる。						
【授業時間外学習】 ウォーキング・ジョギングの指導法、講習会や教室について調査・考察し、自ら実践を反復・継続しながら、指導法に関する知識と技能を高めること。						
【学習上の留意点】 地域の方を対象としたウォーキング・ジョギング教室、あるいは外部のイベントが学習の場になるので、しっかりした態度で臨むこと。 16～30回は集中授業となる。 ※2016年度入学生から科目名および単位数が変更となる。「科目名：健康スポーツ特別演習、単位数：2単位」						
【教科書・参考書など】 特に使用しない。						
【関連科目】 スポーツマネジメント、生涯スポーツ論、スポーツ心理学、スポーツ運動学、健康運動指導論、健康スポーツ演習（ウォーキング・ジョギング）						
【成績評価方法】 準備段階25%、実技のアシスタント50%、評価段階25%で評価する。						

科目名	健康スポーツ特別実習			担当者	笹本重子	
英文名	Practice of Special Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3				専門・選択	
【目的とねらい】 健康スポーツ学専攻での専門科目として講義と実習を統合して、実践的な知識や能力を拡大させることがねらいである。具体的には、健康な中高齢者を対象とした地域住民の健康体操教室や障害のある人の健康体操が行われている現場に参加し、指導補助や指導を経験する。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 実習計画 【 到達目標 】 実習計画の確認と実習の割当 実習の概要と授業の進め方を理解する。			第9回 トレーニング系体操の構成 【 到達目標 】 ねらいに応じた体操を構成し、工夫を加える。			
第2回 中高齢者の身体特性と運動 【 到達目標 】 中高齢者の身体特性や体力の実態を理解する。			第10回 リズム系体操の構成 【 到達目標 】 ねらいに応じた体操を構成し、工夫を加える。			
第3回 中高齢者の運動の実際：トレーニング系体操 【 到達目標 】 中高齢者向けの体操の構成を理解し、実施できる。			第11回 ゲーム系体操の構成 【 到達目標 】 ねらいに応じた体操を構成し、工夫を加える。			
第4回 中高齢者の運動の実際：リズム系体操 【 到達目標 】 中高齢者向けの体操の構成を理解し、実施できる。			第12回 模擬指導1：中高齢者 【 到達目標 】 中高齢者用に構成した体操で指導する一受ける一評価する。			
第5回 中高齢者の運動の実際：ゲーム系体操 【 到達目標 】 中高齢者向けの体操の構成を理解し、実施できる。			第13回 模擬指導2：中高齢者 【 到達目標 】 中高齢者用に構成した体操で指導する一受ける一評価する。			
第6回 障がい者と運動の理論 【 到達目標 】 障がいをもった人の運動効果を文献等で理解する。			第14回 模擬指導3：障害者 【 到達目標 】 障害をもった人用に構成した体操で指導する一受ける一評価する。			
第7回 現場を知る（VTR鑑賞） 【 到達目標 】 指導現場の実際を知る。			第16回 模擬指導4：障害者 【 到達目標 】 中高齢者用に構成した体操で指導する一受ける一評価する。			
第8回 生涯スポーツ指導の理論 【 到達目標 】 言葉掛けや演示の方法等について理解する。						

次ページに続く

科目名	健康スポーツ特別実習			担当者	笹本重子	
英文名	Practice of Special Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3				専門・選択	
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 現場実習 【到達目標】 現場における実務的な内容について理解でき、指導・指導補助できる。			第24回 現場実習 【到達目標】 現場における実務的な内容について理解でき、指導・指導補助できる。			
第17回 現場実習 【到達目標】 現場における実務的な内容について理解でき、指導・指導補助できる。			第25回 現場実習 【到達目標】 現場における実務的な内容について理解でき、指導・指導補助できる。			
第18回 現場実習 【到達目標】 現場における実務的な内容について理解でき、指導・指導補助できる。			第26回 現場実習 【到達目標】 現場における実務的な内容について理解でき、指導・指導補助できる。			
第19回 現場実習 【到達目標】 現場における実務的な内容について理解でき、指導・指導補助できる。			第27回 現場実習 【到達目標】 現場における実務的な内容について理解でき、指導・指導補助できる。			
第20回 現場実習 【到達目標】 現場における実務的な内容について理解でき、指導・指導補助できる。			第28回 現場実習 【到達目標】 現場における実務的な内容について理解でき、指導・指導補助できる。			
第21回 現場実習 【到達目標】 現場における実務的な内容について理解でき、指導・指導補助できる。			第29回 実習報告とレポート作成 【到達目標】 現場実習で学んだことをレポートとしてまとめ、報告できる。			
第22回 現場実習 【到達目標】 現場における実務的な内容について理解でき、指導・指導補助できる。			第30回 実習報告とレポート作成 【到達目標】 現場実習で学んだことをレポートとしてまとめ、報告できる。			
第23回 現場実習 【到達目標】 現場における実務的な内容について理解でき、指導・指導補助できる。						
【授業時間外学習】 大学での学びを活用しながら、現場で感じたこと・考えた事柄を自分の課題や修正点として日常生活に活かせるように記録をとる。						
【学習上の留意点】 対象者・施設が学外になることがあるので、しっかりした態度で臨むこと。 ※2016年度入学生から科目名および単位数が変更となる。「科目名：健康スポーツ特別演習、単位数：2単位」						
【教科書・参考書など】 特になし。						
【関連科目】 スポーツプログラミング演習						
【成績評価方法】 実習での取り組みが50%、レポート・報告が50%として評価する。						

科目名	健康スポーツ特別実習			担当者	森山進一郎	
英文名	Practice of Special Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3					専門・選択
【目的とねらい】 学内及び学外で実施されている様々なスポーツ活動や健康・福祉活動に参加し、そのような機会を最大限に活用して実践的な業務を学習する。また、本授業で実施する実習は、健康運動指導士資格を取得するための「健康産業施設等現場実習」を兼ねる内容である。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 具体的な研修時期を確定し、現場実習の目的を理解する。			第9回 運動指導時の安全管理・リスクマネージメント 【 到達目標 】 健康産業施設等における緊急時の対応、運動時の事故・ケガの対応を理解する。			
第2回 フィットネスクラブの役割 【 到達目標 】 今日のフィットネスクラブ業界の実際を理解する。			第10回 健康度測定（負荷心電図、呼吸機能検査、生活状況調査および体力測定など）への参加① 【 到達目標 】 保健センター等で実施されている一般健診および体力測定に参加し、実際の測定を経験すると共に得られた測定データの活用法を理解する。			
第3回 健康運動指導士の役割 【 到達目標 】 健康産業施設などにおける健康運動指導士の役割を理解する。			第11回 健康度測定（負荷心電図、呼吸機能検査、生活状況調査および体力測定など）への参加② 【 到達目標 】 保健センター等で実施されている一般健診および体力測定に参加し、実際の測定を経験すると共に得られた測定データの活用法を理解する。			
第4回 健康産業施設等での接客・接遇方法の基礎 【 到達目標 】 健康産業施設に在籍する会員等への接し方の基礎（笑顔、身だしなみ、挨拶、立ち居振る舞い、聞き方・話し方、接客上の注意点など）を理解する。			第12回 学外の健康教室への参加① 【 到達目標 】 これまで身につけた知識を基に、運動指導現場に触れることで、実務能力を身につける。 なお、健康運動指導士資格希望者は、健康運動指導士としての活動現場における役割などを体験し、理解する。			
第5回 健康産業施設等での接客・接遇方法の実践① 【 到達目標 】 健康産業施設などでの指導員としての立ち居振る舞いを実践し、いくつかの場面を設定してロールプレイすることで、指導現場での様々な状況への対応の仕方を理解する。 また、指導者役を演じた後には、その内容や指導態度に対して自己評価および他者評価を行うことで、今後の指導に活用する資料を得る。			第13回 学外の健康教室への参加② 【 到達目標 】 これまで身につけた知識を基に、運動指導現場に触れることで、実務能力を身につける。 なお、健康運動指導士資格希望者は、健康運動指導士としての活動現場における役割などを体験し、理解する。			
第6回 健康産業施設等での接客・接遇方法の実践② 【 到達目標 】 健康産業施設などでの指導員としての立ち居振る舞いを実践し、いくつかの場面を設定してロールプレイすることで、指導現場での様々な状況への対応の仕方を理解する。 また、指導者役を演じた後には、その内容や指導態度に対して自己評価および他者評価を行うことで、今後の指導に活用する資料を得る。			第14回 学外の健康教室への参加③ 【 到達目標 】 これまで身につけた知識を基に、運動指導現場に触れることで、実務能力を身につける。 なお、健康運動指導士資格希望者は、健康運動指導士としての活動現場における役割などを体験し、理解する。			
第7回 健康産業施設等での接客・接遇方法の実践③ 【 到達目標 】 健康産業施設などでの指導員としての立ち居振る舞いを実践し、いくつかの場面を設定してロールプレイすることで、指導現場での様々な状況への対応の仕方を理解する。 また、指導者役を演じた後には、その内容や指導態度に対して自己評価および他者評価を行うことで、今後の指導に活用する資料を得る。			第16回 健康教室での現場実習のまとめ 【 到達目標 】 健康教室で学んだ内容について発表し、反省点を含めて討論することで、指導者として必要な資質などについての理解を深める。			
第8回 健康産業施設等での接客・接遇方法の実践に対するまとめ 【 到達目標 】 3回のロールプレイに見られた事例をまとめ、事例ごとの自己評価および他者評価を再度行うことで、指導上の課題を明確にする。						

次ページに続く

科目名	健康スポーツ特別実習			担当者	森山進一郎	
英文名	Practice of Special Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3					専門・選択
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 健康産業施設等での現場実習への参加（学外施設実習1日目） 【 到達目標 】 これまで身につけた知識を基に、運動指導現場に触れることで、実務能力を身につける。 なお、健康運動指導士資格希望者は、健康運動指導士としての活動現場における役割などを体験し、理解する。			第24回 健康産業施設等での現場実習への参加（学外施設実習3日目） 【 到達目標 】 これまで身につけた知識を基に、運動指導現場に触れることで、実務能力を身につける。 なお、健康運動指導士資格希望者は、健康運動指導士としての活動現場における役割などを体験し、理解する。			
第17回 健康産業施設等での現場実習への参加（学外施設実習1日目） 【 到達目標 】 これまで身につけた知識を基に、運動指導現場に触れることで、実務能力を身につける。 なお、健康運動指導士資格希望者は、健康運動指導士としての活動現場における役割などを体験し、理解する。			第25回 健康産業施設等での現場実習への参加（学外施設実習4日目） 【 到達目標 】 これまで身につけた知識を基に、運動指導現場に触れることで、実務能力を身につける。 なお、健康運動指導士資格希望者は、健康運動指導士としての活動現場における役割などを体験し、理解する。			
第18回 健康産業施設等での現場実習への参加（学外施設実習1日目） 【 到達目標 】 これまで身につけた知識を基に、運動指導現場に触れることで、実務能力を身につける。 なお、健康運動指導士資格希望者は、健康運動指導士としての活動現場における役割などを体験し、理解する。			第26回 健康産業施設等での現場実習への参加（学外施設実習4日目） 【 到達目標 】 これまで身につけた知識を基に、運動指導現場に触れることで、実務能力を身につける。 なお、健康運動指導士資格希望者は、健康運動指導士としての活動現場における役割などを体験し、理解する。			
第19回 健康産業施設等での現場実習への参加（学外施設実習2日目） 【 到達目標 】 これまで身につけた知識を基に、運動指導現場に触れることで、実務能力を身につける。 なお、健康運動指導士資格希望者は、健康運動指導士としての活動現場における役割などを体験し、理解する。			第27回 健康産業施設等での現場実習への参加（学外施設実習4日目） 【 到達目標 】 これまで身につけた知識を基に、運動指導現場に触れることで、実務能力を身につける。 なお、健康運動指導士資格希望者は、健康運動指導士としての活動現場における役割などを体験し、理解する。			
第20回 健康産業施設等での現場実習への参加（学外施設実習2日目） 【 到達目標 】 これまで身につけた知識を基に、運動指導現場に触れることで、実務能力を身につける。 なお、健康運動指導士資格希望者は、健康運動指導士としての活動現場における役割などを体験し、理解する。			第28回 健康産業施設等での現場実習の報告① 【 到達目標 】 それぞれの施設で行った実習の内容と感想をプレゼンテーションし、なお一層の理解を深めると共に、他の受講者と知識を共有する。			
第21回 健康産業施設等での現場実習への参加（学外施設実習2日目） 【 到達目標 】 これまで身につけた知識を基に、運動指導現場に触れることで、実務能力を身につける。 なお、健康運動指導士資格希望者は、健康運動指導士としての活動現場における役割などを体験し、理解する。			第29回 健康産業施設等での現場実習の報告② 【 到達目標 】 それぞれの施設で行った実習の内容と感想をプレゼンテーションし、なお一層の理解を深めると共に、他の受講者と知識を共有する。			
第22回 健康産業施設等での現場実習への参加（学外施設実習3日目） 【 到達目標 】 これまで身につけた知識を基に、運動指導現場に触れることで、実務能力を身につける。 なお、健康運動指導士資格希望者は、健康運動指導士としての活動現場における役割などを体験し、理解する。			第30回 健康産業施設等での現場実習の報告③ 【 到達目標 】 それぞれの施設で行った実習の内容と感想をプレゼンテーションし、なお一層の理解を深めると共に、他の受講者と知識を共有する。			
第23回 健康産業施設等での現場実習への参加（学外施設実習3日目） 【 到達目標 】 これまで身につけた知識を基に、運動指導現場に触れることで、実務能力を身につける。 なお、健康運動指導士資格希望者は、健康運動指導士としての活動現場における役割などを体験し、理解する。						
【授業時間外学習】 単にスポーツ指導者としてだけでなく、一人の人間としての礼節を身につけることを重んじて、自己研鑽に励む。すなわち、学外実習時の利用者に対する適切な指導補助を行うことに加え、接し方を学ぶことは極めて重要である。そのため、スポーツクラブの指導現場の見学のみならず、様々なサービス業の立ち居振るまいを参考にする。						
【学習上の留意点】 対象者・施設が学外になることがあるので、報告、連絡および相談は密にとれなければならない。 ※2016年度入学生から科目名および単位数が変更となる。「科目名：健康スポーツ特別演習、単位数：2単位」						
【教科書・参考書など】 適宜プリントを配布する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 実習での取り組みが50%、レポート・報告が50%として評価する。						

科目名	健康スポーツ特別実習			担当者	渡部 誠	
英文名	Practice of Special Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		専門・選択			
【目的とねらい】 健康スポーツ学専攻での専門科目として講義と実習を統合して、実践的な知識や能力を拡大させることがねらいである。具体的には、スポーツ実習を充実させ、それぞれの実習体験を通して、地域住民のスポーツ意識、年齢差や能力差を考慮した指導の方法、安全を留意した効果的なプログラムなどを体得し、実践的な実習活動を積極的に進めていくことが望まれる。そのために、事前の実習に向けての準備と、これからの地域スポーツ全般について理解することが必要である。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 スポーツ教室の実習の目的 【 到達目標 】 スポーツ教室の実習の目的について理解する。			第9回 各スポーツ教室での実習1-4 受講者の様子 【 到達目標 】 受講者の様子について理解する。			
第2回 実習場所と対象者の把握 【 到達目標 】 実習場所と対象者について把握し理解する。			第10回 各スポーツ教室での実習2-1 (なぎなた・バドミントン・ビリヤード・ボーリングなど) 【 到達目標 】 スポーツ教室の内容について理解する。			
第3回 実習種目のルール 【 到達目標 】 実習種目のルールについて理解する。			第11回 各スポーツ教室での実習2-2 指導者の指導方法 【 到達目標 】 指導者の指導方法について理解する。			
第4回 実習種目の基本的な技能 【 到達目標 】 実習種目の基本的な技能について理解する。			第12回 各スポーツ教室での実習2-3 実際の指導 【 到達目標 】 実際の指導について理解する。			
第5回 実習へ向けての準備 【 到達目標 】 実習担当者に集合時間・場所など、実習へ向けての準備を確認し全体を把握する。			第13回 各スポーツ教室での実習2-4 受講者の様子 【 到達目標 】 受講者の様子について理解する。			
第6回 各スポーツ教室での実習1-1 活動の内容(ソフトバレー・ショートテニス・弓道・卓球など) 【 到達目標 】 スポーツ教室の内容について理解する。			第14回 活動への評価 【 到達目標 】 活動への評価をレポートとしてまとめる。			
第7回 各スポーツ教室での実習1-2 指導者の指導方法 【 到達目標 】 指導者の指導方法について理解する。			第16回 プレゼンテーション 【 到達目標 】 プレゼンテーションについて理解する。			
第8回 各スポーツ教室での実習1-3 実際の指導 【 到達目標 】 実際の指導について理解する。						

次ページに続く

科目名	健康スポーツ特別実習			担当者	渡部 誠	
英文名	Practice of Special Sports Wellness Sciences					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3					専門・選択
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 イベント事業の目的 【 到達目標 】 イベント事業の目的について理解する。			第24回 イベント事業2-1 イベントの内容(区民スポーツまつり・世田谷ハーフマラソン・子ども駅伝・ドッジボールなど) 【 到達目標 】 イベントの内容について理解する。			
第17回 イベントの場所と対象者の把握 【 到達目標 】 イベントの場所と対象者について把握し理解する。			第25回 イベント事業2-2 活動の実際1 【 到達目標 】 スタッフの指導について理解する。			
第18回 イベント事業への準備 【 到達目標 】 イベント担当者に集合時間・場所など、イベントへ向けての準備を確認し全体を把握する。			第26回 イベント事業2-3 活動の実際2 【 到達目標 】 指導補助の仕方について理解する。			
第19回 イベント事業1-1 イベントの内容(多摩川ウォーク・親と子のつどい・かけっこクリニックなど) 【 到達目標 】 イベントの内容について理解する。			第27回 イベント事業2-4 活動の実際3 【 到達目標 】 イベント参加者の様子について理解する。			
第20回 イベント事業1-2 活動の実際1 【 到達目標 】 スタッフの指導について理解する。			第28回 イベント事業2-5 活動のまとめ 【 到達目標 】 活動について理解したかをレポートとしてまとめる。			
第21回 イベント事業1-3 活動の実際2 【 到達目標 】 指導補助の仕方について理解する。			第29回 プレゼンテーション用のスライドの作成 【 到達目標 】 プレゼンテーション用のスライドを作成できる。			
第22回 イベント事業1-4 活動の実際3 【 到達目標 】 イベント参加者の様子について理解する。			第30回 プレゼンテーション 【 到達目標 】 プレゼンテーションを明瞭に行うことができる。			
第23回 イベント事業1-5 活動のまとめ 【 到達目標 】 活動について理解度確認のためにレポートとしてまとめる。						
【授業時間外学習】 配付された実習日誌について、実習したイベント事業ごとに毎回(スタッフの指導・指導補助・イベント参加者の様子など)まとめ記載する。						
【学習上の留意点】 世田谷区民の地域スポーツ活動での実習対象者であり、しっかりとした言葉と態度で臨み、また実習場所の施設が学外になることがあることに留意すること。 ※2016年度入学生から科目名および単位数が変更となる。「科目名：健康スポーツ特別実習、単位数：2単位」						
【教科書・参考書など】						
【関連科目】						
【成績評価方法】 実習における課題達成度50%、レポート・報告が50%として評価する。						

科目名	卒業研究				担当者	
英文名	Graduation Thesis					
単位数	6	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3～4				専門・選択	
【目的とねらい】						
<p>3年次からの2年間にわたる活動をとおして健康スポーツ学の理解をさらに深めるとともに、研究方法にふれながら、健康スポーツ学を展開する専門的な能力を高めていく。さらに、具体的な研究手法の実践、自分の考え方や研究結果のまとめとプレゼンテーション（発表）の開発を目指していく。</p>						
【授業内容】						
<p>具体的な内容や方法は、各研究室の特色に応じて展開するが、以下のような内容・手順を基本とする。</p> <p>1～15回（3年前期）：基本的な研究課題・内容、研究方法、研究手順の理解</p> <p>16～30回（3年後期）：研究テーマと基本的な研究計画の設定、研究方法及び具体的な手法の確立</p> <p>31～45回（4年前期）：研究活動の展開（実験、調査、資料収集・分析など）</p> <p>46～60回（4年後期）：結果の考察とまとめ、論文の完成、研究成果の報告・発表</p>						
【到達目標】						
<p>1～15回：研究課題を考えることができ、研究方法、研究手順について理解できる。</p> <p>16～30回：研究テーマを決定し、基本的な研究計画を設定でき、研究方法や手法について確立できる。</p> <p>31～45回：各自のテーマに即した研究活動を展開することができる。</p> <p>46～60回：研究結果の考察とまとめができ、論文として完成させる。また、研究成果を報告や発表できる。</p>						
【授業時間外学習】						
<p>1～15回：研究課題を明らかにし、研究方法、研究手順について考えよう。</p> <p>16～30回：研究テーマを明らかにし、基本的な研究計画を立案し、研究方法や手法について考えよう。</p> <p>31～45回：実験、調査、資料収集・分析などの手順について、確認しながら実行しよう。</p> <p>46～60回：研究結果の考察を考え、論文としてまとめよう。また、研究成果を報告や発表の準備をし実行しよう。</p>						
【学習上の留意点】						
<p>興味や関心を持ち、積極的かつ継続的に研究を進めること。研究室での仲間との相互の学習などの機会を活用し総合的に専門性を高めること。</p>						
【教科書・参考書など】						
各研究室により提示。						
【関連科目】						
【成績評価方法】						
2年間の論文作成にいたる過程での状況と論文の内容・発表力などを総合的に評価する。						

科目名	教職論				担当者	青木純一	
英文名	Study of Teaching Profession						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教職科目	教職科目	教職科目		
【目的とねらい】 教職論は、教職課程履修者がその仕事・職業の特質について理解を深めることが第1の課題である。その上で、履修学生一人ひとりが、教員免許取得を目指すかどうかを判断する機会を提供することも、課題としている。教師の主たる仕事である、授業や生徒指導等の理解を深めるとともに、学校の仕組みや運営体制、教職の専門性の意義と養成および採用制度について理解を深める。教職に関わる近年の改革動向と課題を理解する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 教師という仕事 【 到達目標 】 オリエンテーション。教師の仕事の特徴を理解し、本科履修の意思を確認する。 【授業時間外学習】 最近の教職がおかれている状況について学ぶ。				第9回 教師の研修—教職に就いてから 【 到達目標 】 教師は教職に就いた後も様々な研修を受ける機会が保障されており、専門性を高めることが期待されていることを理解する。 【授業時間外学習】 教員にとって重要な研修について、法的根拠や制度の背景について学ぶ。			
第2回 「私が出会った教師」を思い出す 【 到達目標 】 履修学生自身がこれまでに出会った教師について振り返り、教職 免許取得にあたっての出発点とする。 【授業時間外学習】 過去に出会った教師についてそれぞれの個性や特徴を振り返る。				第10回 教師の仕事とジェンダー 【 到達目標 】 学校は女性にとって働きやすい職場だといわれるが、その学校においても、性別役割分業が存在していることを理解する。 【授業時間外学習】 とくに女性教員に焦点を当て、最近の教員の実態や問題点をジェンダーの視点から学ぶ。			
第3回 授業をつくる 【 到達目標 】 教師が果たす仕事のうち、多くの比重を占めている授業実践について考察し、理解する。 【授業時間外学習】 授業づくりをする際の留意点について学ぶ。				第11回 教師の身分と服務 【 到達目標 】 教師が職務上有している種々の権利や責任について、およびそれらを適切に行使することが必要であることを理解する。 【授業時間外学習】 教員の身分や服務について、実態を法律と絡めて学ぶ。			
第4回 特別活動と生徒指導 【 到達目標 】 授業実践だけでなく、特別活動や生徒指導も教師の仕事として重要であることを理解する。 【授業時間外学習】 特別活動や生徒指導における留意点について学ぶ。				第12回 教師像の探求 【 到達目標 】 時代とともに数多くの理想的教師像がつけられてきたことを、具体的な例とともに理解する。 【授業時間外学習】 明治以降の学校や社会がどのような「教師像」を求めていたかを学ぶ。			
第5回 校務分掌 【 到達目標 】 教師の仕事には様々なものがあり、校内で分担することで学校が運営されていることを理解する。 【授業時間外学習】 学校における校務分掌の在り方や運営する際の留意点について学ぶ。				第13回 教育改革・学校改革の動向と教師の役割（1） 【 到達目標 】 近年の教育改革・学校改革の動向についての理解を深め、新たに期待される教師の在り方について関心を持つ。 【授業時間外学習】 戦後の教育改革について、とくに教員政策を中心に学ぶ。			
第6回 同僚性と教師文化 【 到達目標 】 同じ職場で働く同僚との協力によって、学校運営が円滑となり、児童生徒のよりよい成長が促されることを理解する。 【授業時間外学習】 学校という組織において教師の同僚性がいかに大切か、事例をもとに学ぶ。				第14回 教育改革・学校改革の動向と教師の役割（2） 【 到達目標 】 前回の続き。 【授業時間外学習】 とくに21世紀に入ってから教育改革について、教員政策を中心に学ぶ。			
第7回 教員養成制度—教職に就くまで 【 到達目標 】 「専門職」としての教師を養成する制度である教員養成制度、とりわけ大学における教員養成のシステムを理解する。 【授業時間外学習】 養成、採用、研修を一体化した教育養成制度の在り方について学ぶ。				第15回 現代の教職をめぐる課題 【 到達目標 】 これまでの授業をもとに、各自現代の教職をめぐる課題を整理し、自らがめざす教師像をまとめる。 【授業時間外学習】 今日の教員に求められている資質・能力とはなにかについて学ぶ。			
第8回 教師の資格と任用、採用試験の動向—教職に就くとき 【 到達目標 】 免許制度と実際の学校に任用される採用試験制度を理解する。また、近年の採用試験の動向を理解する。 【授業時間外学習】 最近の教育採用の実態と特徴について学ぶ。							
【学習上の留意点】 本科目を履修することは、学生諸君が「教わる側」から「教える側」へと、立場を移す作業を始めることを意味する。その意味の重さを自覚し、単に出席することとどまらず、積極的な授業参加を心がけること。また、この授業をきっかけにして、新聞やテレビなどから、教育に関する情報を手に入れる習慣を身につけてほしい。							
【教科書・参考書など】 授業の初回に指示する。							
【関連科目】 教育社会学							
【成績評価方法】 小レポート（30%）および試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	教育原論				担当者	青木 純一・小堀 哲郎	
英文名	Theory of Education						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目		
【目的とねらい】 教育について基本を理解し、教育に対する自らの見方、考え方を身につけることを目的とする。教育は人類の歴史とともに行われてきた大変に古くからある人間形成に関わる営みである。現代はこの教育という営みに対して、どのようなことを求めているのか。子どもから大人まで、どのような学習をしていくことがよいか。学校は何を目的として創られ、どのような活動をしている場なのか。生徒の希望や夢が育まれ、人間としての形成の課題を実現する教育とはどのようなものなのか、学校、地域社会の教育、家庭教育のあり方を通じて考えてみたい。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 教育と人間形成 【 到達目標 】 教育と人間形成の意味を正確に理解する。 【授業時間外学習】 教育の目的とはなにか、その基本的な意味を学ぶ。				第9回 学校と生徒・保護者 【 到達目標 】 学校および学校の教員と生徒・保護者との信頼による学校・学級の運営についてよく考えながら、これからの学校と生徒・保護者の関係についてグループ研究により理解を深める。 【授業時間外学習】 地域と学校との連携・協力についてコミュニティ・スクールを具体例にその運営方法を学ぶ。			
第2回 教育の歴史 【 到達目標 】 教育の歴史について、古代から現代までの構造的な理解を進める。 【授業時間外学習】 古代から現代にいたる教育の歴史について学ぶ。				第10回 学校のカリキュラム（教育課程） 【 到達目標 】 学校のカリキュラム（教育課程）に関する理解を深める。 【授業時間外学習】 教育課程とはなにか、作成にいたる手順や留意事項について学ぶ。			
第3回 教育の思想—ヨーロッパ 【 到達目標 】 教育の思想、特にヨーロッパの教育思想、代表的なロック、ルソー、ヘルバルトなどを学び、教育の思想が教育の実際と関わりがあることを理解する。 【授業時間外学習】 ヨーロッパを中心とする近代の教育思想を理解し、今日の教育に与える影響を学ぶ。				第11回 教材と教具、教育方法・情報と教育 【 到達目標 】 具体的に教育活動を行う場合、教材と教具にはどのようなものがあるかを知り、教育方法の選択が必要であることを理解する。情報と教育、ICT活用など現代の課題も理解する。 【授業時間外学習】 とくに最近の学校について、特徴的な教材や教具、教育方法について学ぶ。			
第4回 教育の思想—日本古代から近世 【 到達目標 】 教育の思想、日本の古代から近世までを通して学ぶ。日本の教育の独自の歴史、思想文化的な背景を理解する。 【授業時間外学習】 古代から近世にいたる日本の教育について学ぶ。				第12回 社会教育・生涯学習 【 到達目標 】 学校教育は社会での教育・生涯学習との関連で進められる現代教育の特徴を理解し、教員の生涯学習の必要をグループ研究により理解する。 【授業時間外学習】 学校外の教育について、公民館や博物館などの教育的役割を学ぶ。			
第5回 学校の形成 【 到達目標 】 学校がどのようにして出来るのか。古代から近世までを範囲として学校の歴史を理解する。外国と日本の両方を扱う。 【授業時間外学習】 学校の成立過程について日本と諸外国の違いについて学ぶ。				第13回 学力問題 【 到達目標 】 学校教育と生涯学習ともに課題である学力の問題について、最新の状況を理解し、今後への課題を発見する。 【授業時間外学習】 とくにPISA調査以降の学力政策の変化を学ぶ。			
第6回 近代の学校 【 到達目標 】 現代の学校の始まりである近代の学校の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 日本における近代学校の始まりについてその特徴を学ぶ。				第14回 教育の改革・改善 【 到達目標 】 教育の改革・改善について、国、地方自治体、学校のそれぞれの段階について事例を研究し、理解を深める。 【授業時間外学習】 地方分権化のもとに進められた自治体の教育改革について学ぶ。			
第7回 教員の誕生と発展 【 到達目標 】 教員の誕生と発展について、日本の場合を中心に扱う。その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 日本における教員の歴史について、その特徴を学ぶ。				第15回 世界の教育と日本の教育 【 到達目標 】 世界の教育と日本の教育の今後のあり方を考えて、教育への理解を深める。教員を志望する学生としての課題を発見する。 【授業時間外学習】 語外国の教育制度と日本を比較することでその違いを学ぶ。			
第8回 地域社会と学校 【 到達目標 】 地域社会と学校について、その理論を学び、実際について事例を知ること、地域と学校との関わりを理解する。 【授業時間外学習】 地域と学校との連携・協力の在り方について事例を通して学ぶ。							
【学習上の留意点】 本授業は、講義とともに、学生のグループ討論や発表会を取り入れて進めていく。特に第9回以降はしばしば行うので、遠慮せず積極的に調べたり、グループで討論したり、発表したりしよう。							
【教科書・参考書など】 授業の初回に指示する。							
【関連科目】 教職論							
【成績評価方法】 グループ討論、発表など（30%）、試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	教育心理学			担当者	酒井久実代	
英文名	Educational Psychology					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2				教職科目	
【目的とねらい】						
<p>本講義は、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）に関する心理学を学習することを目的とする。教育の現場では、授業を行うだけでなく、子どもたちが示す様々な問題に対処していくことが望まれる。しっかりとした体系をもつ理論を学ぶことで、それらの問題の背景を正しく理解し、心理学に基づいた適切な対処法を考えることができるようになる。そのための基盤作りが本講義のねらいである。</p>						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 人格発達の基礎			第9回 動機づけの基礎			
【 到達目標 】 (1) エリクソンの発達理論について理解する。 (2) 青年期のアイデンティティの確立について理解する。			【 到達目標 】 (1) 達成動機、原因帰属について理解する。 (2) 内発的動機づけを育む手段について理解する。			
【授業時間外学習】 アイデンティティ概念の理解に関する課題を行う。			【授業時間外学習】 動機づけと原因帰属理論の理解に関する課題を行う。			
第2回 社会性・道徳性の発達			第10回 動機づけの応用			
【 到達目標 】 (1) 児童期の仲間関係の特徴について理解する。 (2) 道徳性の発達と学校での育成について理解する。			【 到達目標 】 (1) 学習動機の二要因モデルに基づく指導について理解する。 (2) 自己効力感概念を教育に活かす方法について理解する。			
【授業時間外学習】 道徳性の発達理論の理解に関する課題を行う。			【授業時間外学習】 学習動機と自己効力感の理解に関する課題を行う。			
第3回 社会性と認知の発達段階			第11回 教育評価			
【 到達目標 】 (1) 役割取得能力の発達について理解する。 (2) 認知の発達理論について理解する。			【 到達目標 】 (1) 評価の目的・基準について理解する。 (2) 学力・知能・性格を測定するための方法について理解する。 (3) 性格検査の結果をもとに自己分析する。			
【授業時間外学習】 役割取得能力、認知の発達理論の理解に関する課題を行う。			【授業時間外学習】 教育評価の理解と性格検査による自己分析に関する課題を行う。			
第4回 発達と教育			第12回 学校適応			
【 到達目標 】 (1) ピアジェの発達理論の応用について理解する。 (2) 発達の最近接領域について理解する。			【 到達目標 】 (1) 学校ストレス・学校内不安について理解する。 (2) 学校不適応の改善について理解する。 (3) ストレスマネジメント教育について理解する。			
【授業時間外学習】 発達理論の教育への応用の理解に関する課題を行う。			【授業時間外学習】 学校ストレス、学校不適応、ストレスマネジメント教育の理解に関する課題を行う。			
第5回 学習のメカニズム			第13回 学級雰囲気			
【 到達目標 】 (1) 古典的条件づけについて理解する。 (2) オペラント条件づけ・観察学習について理解する。			【 到達目標 】 (1) リーダーシップ・学習目標との関わりについて理解する。 (2) 教師期待効果、学級崩壊について理解する。 (3) ピアサポート活動について理解する。			
【授業時間外学習】 学習理論の理解に関する課題を行う。			【授業時間外学習】 学級雰囲気の理解に関する課題を行う。			
第6回 記憶の分類			第14回 発達障害			
【 到達目標 】 (1) 短期記憶・作動記憶・長期記憶について理解する。 (2) 手続き記憶と宣言記憶について理解する。			【 到達目標 】 (1) 発達障害の分類、認知の偏りについて理解する。 (2) 障害特性の理解と支援について理解する。			
【授業時間外学習】 記憶理論の理解に関する課題を行う。			【授業時間外学習】 発達障害の理解に関する課題を行う。			
第7回 記憶概念を教育に生かす			第15回 特別支援教育			
【 到達目標 】 (1) 手続き記憶概念を教育に活かす方法について理解する。 (2) 効果的な覚え方、記憶の種類に合った教え方について理解する。			【 到達目標 】 (1) 特別支援教育の対象・体制作りについて理解する。 (2) 特別支援教育の課題について理解する。			
【授業時間外学習】 記憶理論の教育への応用の理解に関する課題を行う。			【授業時間外学習】 特別支援教育の理解に関する課題を行う。			
第8回 学習方略						
【 到達目標 】 (1) 学習方略のタイプについて理解する。 (2) 学習方略の熟達について理解する。						
【授業時間外学習】 学習方略の理解に関する課題を行う。						
【学習上の留意点】						
<p>講義ではパワーポイントを使用し、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成する。教育評価の回では性格テストを実施し、自己分析をする。毎回、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題の内容は期末テストと対応しているので、しっかり復習すること。</p>						
【教科書・参考書など】						
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。						
【関連科目】						
精神発達						
【成績評価方法】						
毎回出す課題の提出30%、期末テスト（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。						

科目名	教育心理学			担当者	中道直子	
英文名	Educational Psychology					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		教職科目	教職科目		
【目的とねらい】 教師の役割は、児童・生徒の学習を支えることと、適応を支えることにある。本講義では、これら2つの役割を果たす教師になるために必要な心理学的知識を習得することを目的とする。特に、青年期の発達の特徴を踏まえた上で、学習の意欲や学習の仕組み、教授技法や教育評価について理解することをねらいとする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 教育心理学の考え方 【 到達目標 】 (1) 学習や適応などの教育心理学の基礎的概念を獲得する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第9回 教授技法 【 到達目標 】 (1) 児童・生徒の主体的な学びを可能にする教授方法について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第2回 青年期の身体・認知 【 到達目標 】 (1) 性成熟とその心理的影響について説明できる。 (2) 認知の発達や学校生活について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第10回 個に応じた教授技法 【 到達目標 】 (1) 認知や人格における個人差を理解し、その個人差に応じた教授技法について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第3回 青年期の対人関係 【 到達目標 】 (1) 友人関係の特徴や変化について説明できる。 (2) 恋愛関係の現状や特徴について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第11回 教育評価 【 到達目標 】 (1) 教育評価の目的とその視点や方法を理解する。 (2) 評価のための情報を得る方法と各方法の特徴について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第4回 青年期におけるアイデンティティの確立 【 到達目標 】 (1) エリクソンの発達理論について理解する。 (2) アイデンティティの確立と進路選択について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第12回 学級集団 【 到達目標 】 (1) 学級集団とその構造について理解する。 (2) 教師と児童・生徒の人間関係について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第5回 学習理論 【 到達目標 】 (1) 学習に対する成熟論的アプローチ、行動主義的アプローチについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第13回 発達障害 【 到達目標 】 (1) 様々な発達障害の特徴について理解する。 (2) 発達障害児に対する指導法について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第6回 動機づけ 【 到達目標 】 (1) 動機づけと原因帰属について理解する。 (2) 無力感の学習と自己効力感について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第14回 適応の理解と支援 【 到達目標 】 (1) いじめ、不登校、非行の現状を把握し、これらの状態にある生徒を支援する方法を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第7回 記憶と知識(1) 【 到達目標 】 (1) 記憶のメカニズムについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第15回 教師の成長 【 到達目標 】 (1) 教師の役割や仕事を理解する。 (2) 教師としての成長の過程を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第8回 記憶と知識(2) 【 到達目標 】 (1) 記憶や知識の種類やその性質について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。						
【学習上の留意点】 講義ではパワーポイントを使用し、教科書を軸として展開する。パワーポイントそのものの資料は配布しないため、受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成すること。なお、教科書に掲載されていない講義内容については適宜資料（図表のみ）を配布する。また、事後学習として、各回の講義で扱った内容の復習を受講者の義務とする。						
【教科書・参考書など】 「よくわかる教育心理学」 中澤 潤（編） ミネルヴァ書房						
【関連科目】 精神発達						
【成績評価方法】 授業時の提出物の内容を30%、期末試験の結果（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。						

科目名	教育社会学			担当者	小堀哲郎	
英文名	Sociology of Education					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	教職科目	教職科目	教職科目	
【目的とねらい】 現代社会では〈教育〉をめぐる問題やトピックには事欠かない。また、今日の日本では、ほとんどの人が高校に進学し、さらに大学や短大などの高等教育を受ける人が7割に至る。このように、現代社会に生きる私たちは、〈教育〉と無縁であることはできないと言える。教育社会学は、現代社会と密接な関係にある〈教育〉というものに、社会学という学問的立場からアプローチをするものである。社会学の特長の1つである相対的な思考を身につけ、毎回の具体的なトピックを通じて〈教育〉の分野の「常識」を疑ってみることで、〈教育〉に対する理解を深めてほしい。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 はじめに—教育社会学とは何か 【 到達目標 】 教育社会学がどのような学問であるかについての概要ならびに、授業のスケジュール等を理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			第9回 高校多様化の可能性 【 到達目標 】 高校のありようが多様化している現状について捉え、今後の可能性について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			
第2回 学校化社会 【 到達目標 】 学校制度の発達によって教育と社会の関係がどのように変化したかを「学校化社会」という観点から理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			第10回 入試と選抜 【 到達目標 】 入試という選抜方式が社会的にどのような意味を持つのかについて理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			
第3回 ライフコース 【 到達目標 】 急速に変化をしている日本人のライフコースにおける教育の意味や役割について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			第11回 資格社会と就職 【 到達目標 】 日本における学校卒業後の就職の状況について、歴史的経緯をふまえて理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			
第4回 少子社会の家族と子ども 【 到達目標 】 少子社会における家族と子どものありようについて、教育を軸に理解を深める。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			第12回 インターネット社会と若者 【 到達目標 】 インターネットの普及による社会変動をどう捉えていくのかを若者を中心に理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			
第5回 教育とジェンダー 【 到達目標 】 性別を社会的に規定されるもの(＝ジェンダー)として捉える視点から、男女の区別がどのような役割を果たしているかを理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			第13回 少年犯罪 【 到達目標 】 現状における少年犯罪の減少傾向と、社会一般における認識のズレについて理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			
第6回 カリキュラムと知識 【 到達目標 】 教育のカリキュラムや学校で学ぶべき知識がどのように選ばれ、正統化されていくかを理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			第14回 いじめ・不登校 【 到達目標 】 教育社会学の主要テーマである「いじめ」と「不登校」について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			
第7回 メリトクラシーと学歴 【 到達目標 】 メリトクラシー(＝能力主義)と学歴主義が社会に及ぼしてきた影響について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			第15回 教育社会学の課題 【 到達目標 】 本講義全体を振り返り、重要事項の復習と今後の課題を考察する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。			
第8回 学力と意欲の階層差 【 到達目標 】 格差社会との関連で、学力と意欲の階層差について提起されている問題点を理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。						
【学習上の留意点】 授業は主として教員による講義形式とするが、毎回の授業終了時に500字程度の「授業内レポート」を作成し、評価に算入する。私語その他、他の学生に迷惑となる行為は厳禁。場合によっては退出してもらふこともある。						
【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。適宜、資料等を配布。 参考書等については授業時に紹介する。						
【関連科目】 教職論、教育原論						
【成績評価方法】 試験は「試験期間中に別途実施する」。 授業内レポート(40%)、定期試験(60%)						

科目名	教育課程論				担当者	瀬川大	
英文名	Theory of Curriculum						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目		
【目的とねらい】 学校における教育課程の全般的な知識の習得をねらいとする。すなわち教育課程とは何か、教育課程の歴史、教育課程の編成原理と学習指導要領の変遷、諸外国のカリキュラム改革の動向等について取り上げる。本科目では教育課程の基本的な理解を深めるとともに、急速に変化しつつある教育課程とその編成原理への影響についても取り上げていきたい。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 学校教育と教育課程 【 到達目標 】 学校教育の目標と教育課程の関係について理解し、カリキュラム・教育課程の意味について理解する。 【授業時間外学習】 学校教育の目標と教育課程の関係、カリキュラム・教育課程の意味に関連する文献を図書館等で探して読む。				第9回 教育課程改革の動向（2）外国の場合 【 到達目標 】 わが国の教育課程が諸外国の教育課程から様々な影響を受けていること、およびその改革動向を理解する。 【授業時間外学習】 諸外国の教育課程に関連する文献を図書館等で探して読む。			
第2回 教育課程の歴史的展開（1）教科の成立と教育課程 【 到達目標 】 近代教科の成立と教育課程の関わりについて理解する。また体育科の教育課程への導入について関心を深めることができる。 【授業時間外学習】 近代教科の成立と教育課程の関わり、体育科の教育課程への導入に関連する文献を図書館等で探して読む。				第10回 保健体育のカリキュラムを考える（1）保健体育で何を学ぶか 【 到達目標 】 中学校、高等学校における保健体育科が掲げる教科目標、および内容領域について理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 中学校、高等学校における保健体育科が掲げる教科目標、および内容領域に関連する文献を図書館等で探して読む。			
第3回 教育課程の歴史的展開（2）戦前の教科課程（日本の場合） 【 到達目標 】 日本では戦前「教育課程」ではなく「教科課程」であったこと、および両者の違いを理解し、戦前の教科課程の特徴を説明できる。 【授業時間外学習】 「教育課程」と「教科課程」の違いに関連する文献を図書館等で探して読む。				第11回 保健体育のカリキュラムを考える（2）「楽しい体育」の授業 【 到達目標 】 1980年代以降、体育の授業で試みられた「楽しい授業」の特徴について、事例をもとに考察できる。 【授業時間外学習】 楽しい体育の授業に関連する文献を図書館等で探して読む。			
第4回 教育課程の歴史的展開（3）戦後教育改革と教育課程 【 到達目標 】 戦後教育改革の中で教育課程はどのような理念のもとで編成されたか、その経緯と教科・科目の変遷を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 戦後教育改革における教科課程の編成の経緯に関連する文献を図書館等で探して読む。				第12回 保健体育のカリキュラムを考える（3）保健 【 到達目標 】 近年、保健分野において取り上げられている、様々な健康課題や実践の取り組みについて理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 保健分野に関連する文献を図書館等で探して読む。			
第5回 教育課程の編成原理 【 到達目標 】 教育課程の編成原理としての「児童中心主義」と「学問中心主義」について理解する。 【授業時間外学習】 「児童中心主義」、「学問中心主義」に関連する文献を図書館等で探して読む。				第13回 学校文化と教育課程／隠れたカリキュラム 【 到達目標 】 教育課程を見る場合に教師が意図しない、隠れたカリキュラムへ関心を持つ必要性と意味を理解し、具体例を挙げられる。 【授業時間外学習】 隠れたカリキュラムに関連する文献を図書館等で探して読む。			
第6回 教育課程編成と学習指導要領 【 到達目標 】 学校教育の教育課程における学習指導要領の役割を理解し、その構造を説明できる。 【授業時間外学習】 学校教育の教育課程における学習指導要領の役割に関連する文献を図書館等で探して読む。				第14回 カリキュラムをどう評価するか 【 到達目標 】 教育課程を実践するに際しては評価が伴うこと、およびそのレベルや方法に様々な種類があることを理解し、説明できる。カリキュラム・マネジメントについても理解する。 【授業時間外学習】 教育評価、カリキュラム・マネジメントに関連する文献を図書館等で探して読む。			
第7回 学力問題 【 到達目標 】 近年の教育課程改革をもたらした「学力問題」について、その概要と本質を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 「学力問題」に関連する文献を図書館等で探して読む。				第15回 学習指導要領の改訂とアクティブ・ラーニングの導入 【 到達目標 】 現在進行している学習指導要領の改訂の動きの中で、とりわけ教育実践で重要視されているアクティブ・ラーニングについて、理解する。 【授業時間外学習】 次期学習指導要領、アクティブ・ラーニングに関連する文献を図書館等で探して読む。			
第8回 教育課程改革の動向（1）日本の場合 【 到達目標 】 近年の学習指導要領のキーワード、とりわけ「生きる力」や「確かな学力」などの概念を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 「生きる力」、「確かな学力」に関連する文献を図書館等で探して読む。							
【学習上の留意点】 本科目によって、学校教育における教育課程の全体像を把握することが、教員として教育実践に携わるためには不可欠である。授業においては、できるだけわかりやすい説明を心がけるつもりである。また、講義に加え、グループワーク、ディスカッション、授業内における小レポートなどの方法を用いる予定である。学生諸君には、授業への積極的な参加を求めたい。							
【教科書・参考書など】 文部科学省『中学校学習指導要領』 文部科学省『高等学校学習指導要領』							
【関連科目】							
【成績評価方法】 小レポート（30%）、期末試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	保健体育科教育法 I (教育の方法・技術含む)			担当者	沢井 史穂・助友 裕子 沢田真喜子	
英文名	Teaching Methods in Health and Physical Education I					
単位数	4	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
【目的とねらい】 保健科教育について、その特質を理解するとともに、意欲的に取り組むことのできる姿勢を身につけることが目的である。前期では、学習指導要領の位置づけや内容、具体的な指導方法、授業づくり、評価のあり方についての基礎的な知識を身につけることをねらいとする。後期は、前期内容と既修の健康科学論、衛生学・公衆衛生学、学校保健などによる知識を応用した模擬授業を実施し、保健科の授業を担当できる技術の習得をめざす。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 保健科教育とは(概論) 【 到達目標 】 保健科教育、健康教育の意義と方向性について理解を深める。			第9回 教材研究II 【 到達目標 】 保健の指導計画に応じた教材研究の工夫について理解を深める。			
【授業時間外学習】 科目保健を教える上で不安な点を整理しておく。			【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成を進める。			
第2回 現代社会における健康問題および他教科等との関連 【 到達目標 】 現代の健康問題の動向と保健科教育におけるそれらの位置について理解する。			第10回 保健科教育のための研究方法 【 到達目標 】 現場ニーズに応じた保健科教育の工夫について理解を深める。			
【授業時間外学習】 中央教育審議会答申を読んでおく。			【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。			
第3回 保健の目標と内容 【 到達目標 】 小学校、中学校、高等学校における保健の目標や内容の違いを理解する。			第11回 小学校の保健の授業 【 到達目標 】 中学校と高等学校の保健の基礎となる小学校の内容について理解する。			
【授業時間外学習】 中・高の学習指導要領解説の保健体育科(保健分野)と科目保健の項を読んでおく。			【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。			
第4回 保健の指導計画 【 到達目標 】 指導計画作成の意義、種類、作成上の基本について理解する。			第12回 中学校の保健の授業 【 到達目標 】 個人生活における健康・安全に関する内容について説明できる。			
【授業時間外学習】 学習指導案で取り上げる単元の選定、教材研究を行う。			【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。			
第5回 保健科教育の実際 I 【 到達目標 】 知識を活用する学習活動について理解を深める。			第13回 高等学校の保健の授業 【 到達目標 】 個人及び社会生活における健康・安全に関する内容について説明できる。			
【授業時間外学習】 学習指導案の作成、教材研究を進める。			【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。			
第6回 保健科教育の実際 II 【 到達目標 】 ブレインストーミングなど具体的な指導方法を習得する。			第14回 学習指導案の作成 【 到達目標 】 1時間の学習指導案を作成できるようにする。			
【授業時間外学習】 学習指導案の作成、教材研究を進める。			【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。			
第7回 保健の学習評価 【 到達目標 】 評価の意義、局面、観点、規準などについて理解する。			第15回 模擬授業の実施と授業運営のまとめ 【 到達目標 】 作成した学習指導案の有用性を高めるための授業運営について理解を深める。			
【授業時間外学習】 学習指導案の作成、教材研究を進める。			【授業時間外学習】 作成した学習指導案を用いて実際に模擬授業を行い、必要に応じて修正する。			
第8回 教材研究 I 【 到達目標 】 教材研究の目的、過程、方法について理解する。						
【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成を進める。						

次ページに続く

科目名	保健体育科教育法Ⅰ（教育の方法・技術含む）			担当者	沢井 史穂・助友 裕子 沢田真喜子	
英文名	Teaching Methods in Health and Physical Education Ⅰ					
単位数	4	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 オリエンテーション（模擬授業の手順、授業への心構えなど） 【 到達目標 】 模擬授業の準備をする。 【授業時間外学習】 「受講者用評価票」を熟読し、自分の模擬授業のイメージ形成を図っておく。			第24回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【 到達目標 】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			
第17回 保健の授業研究 【 到達目標 】 模擬授業の様子を観察し、授業技術のポイントを理解する。 【授業時間外学習】 授業で記入した「保健の授業研究」を復習し、模擬授業のイメージ形成を図る。			第25回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【 到達目標 】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			
第18回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【 到達目標 】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			第26回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【 到達目標 】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			
第19回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【 到達目標 】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			第27回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【 到達目標 】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			
第20回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【 到達目標 】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			第28回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【 到達目標 】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			
第21回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【 到達目標 】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			第29回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【 到達目標 】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			
第22回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【 到達目標 】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。			第30回 保健の授業運営のまとめ 【 到達目標 】 自他の模擬授業を振り返り、生徒の学習意欲を向上させる。 教師の役割について説明できる。 【授業時間外学習】 模擬授業で得たフィードバックをもとに、教育実習に向けた保健の指導計画を立てる。			
第23回 班別模擬授業（マイクロティーチング） 【 到達目標 】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術を養成する。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。						
【学習上の留意点】 前期はおもにパワーポイントや配布資料で要点を示し、詳細は口頭にて説明する。後期は模擬授業を通して保健の授業に必要な技術を習得する。前後期とも高い意識を持ち、毎回の授業に積極的に参加することで、将来自らが授業づくりの担い手になることへの強い認識が求められる。このことから、授業への出席が大前提となる。遅刻や無断欠席、授業中の私語は慎むことが必須である。						
【教科書・参考書など】 杉山重利、園山和夫、高橋健夫編．保健体育科教育法―教師を目指す学生必携、大修館書店。 文部科学省．高等学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省．中学校学習指導要領解説 保健体育編 中学校と高等学校で使用した保健の教科書を各自準備する。このほかに適宜資料を配布する。						
【関連科目】 健康科学論、衛生学・公衆衛生学、学校保健、保健体育科教育法Ⅱ（教育の方法・技術含む）						
【成績評価方法】 原則として前期は授業中の課題達成度50%と定期試験の結果50%（試験は試験期間中に別途実施）、後期は授業中の課題達成度50%、模擬授業と反省レポート50%として評価し、前後期合わせて本講義の評価とする。なお、前期の評価状況によっては後期受講を認めないことがある。						

科目名	保健体育科教育法Ⅱ（教育の方法・技術含む）			担当者	須 甲 理 生	
英文名	Teaching Methods in Health and Physical Education Ⅱ					
単位数	4	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	教職科目	教職科目	教職科目	
【目的とねらい】 本講義では、保健体育科における、中学校体育分野、高等学校科目体育に関する目標・内容・方法を総合的に学んでいく。具体的には、講義、体育授業のVTR視聴、模擬授業、指導案作成等を通して、学校体育が置かれている現状をはじめとして、生徒にとって意味のある「良い体育授業」を計画、実践するための基礎的知識と技術を習得することがねらいとなる。また、模擬授業の反省会等を通して、授業改善や教師としての実践的力量を高めるための体育授業の効果的な反省方法も習得していく。これらの学習を通して、「授業で勝負することのできる保健体育教師」、「学び続けることのできる保健体育教師」という教師観の確立を目指す。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 本講義の目的、学校体育の現状、被教育体験期の体育授業イメージとの照合 【 到達目標 】 (1)本講義の目的を理解し、学習の見通しを立てることができる。 (2)被教育体験の体育授業イメージを想起することができる。 【授業時間外学習】 保健体育科教育法Ⅱにおける1年間の授業時間外学習の計画を立てる。			第9回 体育授業の学習指導方法論(2) (アクティブラーニングの視点を含む) 【 到達目標 】 (1)体育授業における学習指導のポイントを理解し、具体的に説明できる。 (2)アクティブラーニングを取り入れた体育授業の学習指導方法について具体的に説明できる。 (3)特別の支援を必要とする生徒を配慮した学習指導方法の具体例を挙げることができる。 【授業時間外学習】 学習指導のポイント及び、アクティブラーニングを理解し、具体例を挙げておく。			
第2回 保健体育科の目標論 【 到達目標 】 (1)体育目標の歴史の変遷、目標構造を理解する。 【授業時間外学習】 体育目標の歴史の変遷、目標構造について学習する。			第10回 体育授業の観察、分析、評価 【 到達目標 】 (1)期間記録、相互作用行動を記録する意義を理解する。 (2)テスト映像で適切に記録することができる。 【授業時間外学習】 体育授業を観察・分析することの意義や視点について予習・復習する。			
第3回 保健体育科の教育課程論(1)：学習指導要領の内容(1) 【 到達目標 】 (1)学習指導要領の性格を理解する。 (2)学習指導要領における運動部活動と体育授業の関連性や位置付けについて理解する。 (3)次期学習指導要領の要点を理解する。 【授業時間外学習】 学習指導要領の性格について予習・復習する。			第11回 マイクロティーチング(1) 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの計画、反省を行う。			
第4回 保健体育科の教育課程論(2)：学習指導要領の内容(2) 【 到達目標 】 (1)中学校学習指導要領の内容構成を理解する。 【授業時間外学習】 中学校学習指導要領の内容構成について予習・復習する。			第12回 マイクロティーチング(2) 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの計画、反省を行う。			
第5回 保健体育科の教育課程論(3)：学習指導要領の内容(3) 【 到達目標 】 (1)高等学校学習指導要領の内容構成を理解する。 【授業時間外学習】 高等学校学習指導要領の内容構成について予習・復習する。			第13回 マイクロティーチング(3) 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの計画、反省を行う。			
第6回 体育授業の教材・教具論(1) (ICTの活用を含む) 【 到達目標 】 (1)体育授業における教材・教具の果たす役割を具体的に説明できる。 (2)体育授業におけるICTの活用について具体的に説明できる。 【授業時間外学習】 素材－目標－学習内容－教材－教具の関係性及び、ICTの役割について予習・復習する。			第14回 マイクロティーチング(4) 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの計画、反省を行う。			
第7回 体育授業の教材・教具論(2) (ICTの活用を含む) 【 到達目標 】 (1)体育授業における効果的な教材や教具について具体例を用いて説明できる。 (2)体育授業におけるICTの活用について、具体例を挙げながら説明できる。 【授業時間外学習】 効果的な教材・教具及び、ICT活用の具体例を挙げておく。			第15回 マイクロティーチングまとめ 【 到達目標 】 (1)効果的な指導、教材・教具について効果的に反省できる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの経験を踏まえ、改めて良い体育授業の特徴について考察する。			
第8回 体育授業の学習指導方法論(1) (アクティブラーニングの視点を含む) 【 到達目標 】 (1)体育教師の4大教師行動について理解できる。 (2)アクティブラーニングの利点と学習指導方法への応用の仕方について説明できる。 (3)特別の支援を必要とする生徒を配慮した学習指導方法について理解できる。 【授業時間外学習】 体育教師の4大教師行動、アクティブラーニングについて予習・復習する。						

次ページに続く

科目名	保健体育科教育法Ⅱ（教育の方法・技術含む）			担当者	須 甲 理 生	
英文名	Teaching Methods in Health and Physical Education Ⅱ					
単位数	4	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	教職科目	教職科目	教職科目	
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 体育の授業づくり論(1)：単元計画、指導案の作成手順(1) 【 到達目標 】 (1)単元計画及び指導案作成の原理、原則を理解する。 【授業時間外学習】 学習指導案作成の意義や方法について予習・復習する。			第24回 模擬授業の反省会(3) 【 到達目標 】 (1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。 (2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。 【授業時間外学習】 e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。			
第17回 体育の授業づくり論(2)：単元計画、指導案の作成手順(2) 【 到達目標 】 (1)単元計画及び指導案作成の手続きを理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 学習指導案作成の意義や方法について予習・復習する。			第25回 模擬授業の反省会(4) 【 到達目標 】 (1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。 (2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。 【授業時間外学習】 e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。			
第18回 体育の授業づくり論(3)：教材づくりの視点 【 到達目標 】 (1)教材づくりの視点を理解し、具体的に説明できる。 【授業時間外学習】 学習指導案における授業の明確な目標を設定し、その目標達成のための教材を計画する。			第26回 模擬授業の反省会(5) 【 到達目標 】 (1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。 (2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。 【授業時間外学習】 e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。			
第19回 体育の授業づくり論(4)：指導と評価の一体化 【 到達目標 】 (1)指導計画への評価の組み込み方を理解する。 【授業時間外学習】 具体的な指導と評価の計画を立てる。			第27回 優れた実践に学ぶ(1)：体育授業VTRの視聴と解説(1) 【 到達目標 】 (1)優れた体育授業のVTRから、効果的な指導のポイントをあげることができる。 【授業時間外学習】 模擬授業と優れた授業実践を比較し、自身の課題について考察する。			
第20回 体育の授業づくり論(5)：単元計画、指導案、教材・教具の作成(1) 【 到達目標 】 (1)適切な計画を立てるためにグループ内で積極的に討論できる。 【授業時間外学習】 グループ内で議論しながら学習指導案を作成する。			第28回 優れた実践に学ぶ(2)：体育授業VTRの視聴と解説(2) 【 到達目標 】 (1)優れた体育授業のVTRから、効果的な教材・教具について説明できる。 【授業時間外学習】 模擬授業と優れた授業実践を比較し、自身の課題について考察する。			
第21回 体育の授業づくり論(6)：単元計画、指導案、教材・教具の作成(2) 【 到達目標 】 (1)グループ内で適切な計画を立てることができる。 【授業時間外学習】 グループ内で議論しながら学習指導案を作成する。			第29回 体育授業の存在意義 【 到達目標 】 (1)体育授業の存在意義について説明できる。 【授業時間外学習】 体育授業の存在意義について考察する。			
第22回 模擬授業の反省会(1) 【 到達目標 】 (1)模擬授業の観察データから授業の改善点を説明できる。 【授業時間外学習】 e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。			第30回 スポーツ基本法、スポーツ基本計画、スポーツ立国戦略からみた体育授業 【 到達目標 】 (1)我が国のスポーツ政策における体育授業の位置付けを理解する。 【授業時間外学習】 我が国のスポーツ政策における体育授業の位置付けを理解する。			
第23回 模擬授業の反省会(2) 【 到達目標 】 (1)模擬授業の観察データから授業の改善点を説明できる。 【授業時間外学習】 e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。						
【学習上の留意点】 将来の教職に対する希望の有無に関わらず、教育実習において、学校現場の生徒に少なからぬ影響を与えることを十分に自覚し、教職免許を取るのにふさわしい態度で講義に臨むこと。毎回の講義は相互に関連しているため、講義内容について集中してノートを取り、予習・復習を行っていくことが必要になる。グループでの指導案作成、模擬授業、テスト、レポートにも積極的に取り組むことが大切である。						
【教科書・参考書など】 「体育科教育学入門」、高橋健夫編著、大修館書店、2010年 中学校学習指導要領解説－保健体育編－ 高等学校学習指導要領解説－保健体育編／体育編－						
【関連科目】 教職科目全般。特に、「教育実習（教育実践研究を含む）」においては、模擬授業の計画、実践、反省を通して、本講義との関連させながら進めていく。						
【成績評価方法】 模擬授業や指導案作成等のグループによる活動の課題達成度と提出物20%、テスト2回80%として評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	道徳教育の研究				担当者	瀬川 大	
英文名	Moral Education						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目		
【目的とねらい】 学校での道徳教育について概説し、その指導について基本を習得することを目的とする。その際、保健体育科教育との関連をも押さえておきたい。道徳とは人間社会が成立する根本である他者との共存の原理を中心に、人間のより良いあり方を毎日の生活のなかに実践することである。こうした行いをなし得る人間の性質を道徳性という。生徒が毎日の学校での学習を通じて、道徳性を身につけられるようにすることが道徳教育の目的である。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 はじめに—教育と道徳 【 到達目標 】 教育が人間形成に関わる営みとする立場から、教育において道徳教育が持つ意味について考え、自分なりに説明できる。 【授業時間外学習】 教育において道徳教育が持つ意味に関連する文献を図書館等で探して読む。				第9回 道徳教育の領域3—自分を大切にすること、生命・人間の尊厳 【 到達目標 】 自尊感情の形成（自分を大切にすること）、生命・人間の尊厳について理解する。 【授業時間外学習】 自尊感情の形成（自分を大切にすること）、生命・人間の尊厳に関連する文献を図書館等で探して読む。			
第2回 道徳教育とは何か—重要な教育課題の登場 【 到達目標 】 学校教育における道徳教育の役割、目的、カリキュラム、教育の実践例を理解する。 【授業時間外学習】 学校教育における道徳教育の役割に関連する文献を図書館等で探して読む。				第10回 道徳教育の領域4—薬物乱用の防止、性的非行のとりえ方 【 到達目標 】 薬物の乱用防止、性的その他の非行について理解する。 【授業時間外学習】 薬物の乱用防止、性的その他の非行に関連する文献を図書館等で探して読む。			
第3回 現代の青年期—発達課題とは何か 【 到達目標 】 中学校、高等学校の生徒は青年期を生きていることを理解し、人間のなかの青年、特有の成長課題、発達課題を考えることができる。 【授業時間外学習】 青年期と発達課題に関連する文献を図書館等で探して読む。				第11回 道徳教育の領域5—国際理解と道徳性 【 到達目標 】 諸外国における道徳教育について理解する。あわせて国際理解について考え、自分の考えを説明できる。 【授業時間外学習】 諸外国における道徳教育、国際理解に関連する文献を図書館等で探して読む。			
第4回 現代の青年期—その現状と課題 【 到達目標 】 現代の青年に特有の発達課題を理解する。また抱える問題の特徴をとらえることができる。 【授業時間外学習】 現代の青年期における問題に関連する文献を図書館等で探して読む。				第12回 道徳教育と参加型学習・ファシリテーション 【 到達目標 】 道徳教育の実践例を学びながら、具体的な方法を理解する。参加型あるいはファシリテーション型の例をここでは学ぶ。 【授業時間外学習】 ファシリテーション型の授業に関連する文献を図書館等で探して読む。			
第5回 道徳性の発達と学校カリキュラム 【 到達目標 】 学校のカリキュラムにおいて、道徳教育は道徳性の発達を目的としている。その目的を具体的に理解する。「道徳の時間」（中学校）の目的を理解する。 【授業時間外学習】 道徳性の発達、「道徳の時間」に関連する文献を図書館等で探して読む。				第13回 教育実習における道徳の指導—指導の内容・方法 【 到達目標 】 体育専門学生であるが、教育実習では道徳の指導も行う。ここでは教育実習の際の道徳の指導について特に理解する。 【授業時間外学習】 教育実習における道徳指導に関連する文献を図書館等で探して読む。			
第6回 道徳教育の歴史 【 到達目標 】 道徳教育の目的と内容の歴史的な変化をたどり、現代の道徳教育の目的と課題を総合的に理解する。 【授業時間外学習】 道徳教育の歴史に関連する文献を図書館等で探して読む。				第14回 学習指導案の作成 【 到達目標 】 以上の学習を踏まえ、「道徳の時間」の学習指導案を作成することができる。高等学校教育をより深く学ぶ学生は、高等学校における道徳教育を構想することができる。 【授業時間外学習】 「道徳の時間」の学習指導案作成に関連する文献を図書館等で探して読む。			
第7回 道徳教育の領域1—人間理解、生徒間関係・人間関係 【 到達目標 】 道徳教育の領域について、5区分にして理解する。まず人間の理解、生徒間関係、人間関係について理解する。 【授業時間外学習】 人間の理解、生徒間関係、人間関係に関連する文献を図書館等で探して読む。				第15回 「特別の教科 道徳」へ 【 到達目標 】 小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から、「特別の教科 道徳」が誕生するにあたり、その特徴と、現行の「道徳の時間」との相違点について説明できる。 【授業時間外学習】 「特別の教科 道徳」に関連する文献を図書館等で探して読む。			
第8回 道徳教育の領域2—社会規範・伝統、社会と自分の関係 【 到達目標 】 社会規範、伝統と自国の文化、社会と人間・自分との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 社会規範、伝統と自国の文化、社会と人間・自分との関わりに関連する文献を図書館等で探して読む。							
【学習上の留意点】 各回のテーマに沿いながら学習を深め、同時に講義全体で学校における道徳教育のあり方を理解することを目標とする。授業時間内だけでなく、日頃から新聞、テレビのニュースなどから社会、学校のなかの道徳や道徳教育の様子、中高校生の生き方など、幅広くとらえるようにしたい。単なるタメエではない道徳教育のあり方を考えてほしい。							
【教科書・参考書など】 文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』							
【関連科目】							
【成績評価方法】 小レポート（30%）、期末試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	特別活動指導法				担当者	笹本 重子・宮本 乙女	
英文名	Special Activities						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教職科目	教職科目	教職科目		
【目的とねらい】 特別活動は各教科、道徳（中学校）と並ぶ教育課程の一領域として、全人的形成を図る上で重要な教育活動である。そこで、中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領に位置づけられている特別活動について理解し、中学校・高等学校の学級担任として、この指導ができる知識と能力を培い、望ましい指導のあり方を研究する。また、学校行事の中の体育的行事の代表格である体育祭を企画し、特別活動の存在意義について考える。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション、特別活動とは 【 到達目標 】 特別活動について学習するに当たり、構想的に学級を作る。学習指導要領解説により、特別活動がどんな活動か理解する。 【授業時間外学習】 学習指導要領解説にざっと目を通し、全体の構成を把握する。				第9回 体育と特別活動 【 到達目標 】 保健体育科の教員としてどのように特別活動と関わるのか具体的な場面を想定して理解する。 【授業時間外学習】 体育祭の企画作成について、必要な内容を調べておく。			
第2回 「生きる力」をはぐくむ 【 到達目標 】 現代社会の特長と、現代の子どもの抱える問題に気づき、学校の教育活動に求められていることを考察する。 【授業時間外学習】 自分で考える、現代の子どもの抱える課題について発言できるようにしておく。				第10回 体育祭企画書の作成 【 到達目標 】 体育の教員として、職員会議に提案する体育祭の企画書を作成する。 【授業時間外学習】 企画書を仕上げてくる。			
第3回 特別活動改善の方針と目標の理解 【 到達目標 】 学習指導要領の改訂に伴って、特別活動にどのような改善が求められているのかと、掲げられている目標を理解する。 【授業時間外学習】 授業内で確認した社会的スキルについて、他の事例を探しておく。				第11回 体育祭企画書の修正と交流 【 到達目標 】 企画書について、検討すべき内容を理解し、修正をする。企画書を交換し体育的行事の視点について理解を深める。 【授業時間外学習】 交流した企画書の修正を行う。			
第4回 「学級活動」の目標と内容 【 到達目標 】 学級活動の目標と、掲げられた項目それぞれについて具体的な活動内容を理解する。 【授業時間外学習】 作成する学級通信のタイトルと内容を考え、資料を用意する。				第12回 体育祭に向けた学級指導案の作成 【 到達目標 】 体育祭に向けて学級をどのように導くかを考えながら、学級指導案を作成する。 【授業時間外学習】 学級担任として作成する指導案を完成させる。			
第5回 学級通信の作成 【 到達目標 】 学級通信の作成を通じて、学級担任の役割や、どのような姿勢で生徒に向き合っていくかについて考察する。 【授業時間外学習】 学級通信の仕上げをする。				第13回 学級指導案の交流、学級経営 【 到達目標 】 作成した指導案を交流する。学級経営、という考え方を理解し、改めて自分の指導案を見直す。 【授業時間外学習】 交流して検討した仲間の指導案も参考にして、修正すべき点を検討する。			
第6回 学級通信の発表と学級活動指導の実際 【 到達目標 】 お互いの学級通信の発表から、学級活動の指導に対して考えを深める。また、学級担任の実務について理解する。 【授業時間外学習】 担任の実務について、検討してくる。				第14回 特別活動の内容の取り扱い、道徳・総合的な学習との関わり 【 到達目標 】 学校教育の中で、特別活動がどのような役割を担うのか、道徳や総合的な学習との関わりを検討しながら理解する。 【授業時間外学習】 道徳と、総合的な学習の時間の内容、目標について確認する。			
第7回 「生徒会活動」の目標と内容 【 到達目標 】 生徒会活動の目標と、掲げられた項目それぞれについて具体的な活動内容を理解する。 【授業時間外学習】 自分の出身校の生徒会規則を確認してくる。				第15回 特別活動指導で押さえておきたいことと今後の課題 【 到達目標 】 特別活動の意義を確認し、実施する上で押さえるべきことと、自分自身の課題を明らかにする。 【授業時間外学習】 授業内容の整理をして、学習指導要領解説を読み、自分の理解を確認する。			
第8回 「学校行事」の目標と内容 【 到達目標 】 学校行事の目標と、掲げられた項目それぞれについて具体的な活動内容を理解する。 【授業時間外学習】 授業内で発表した自分の出身校の学校行事の意義を検討してくる。							
【学習上の留意点】 これまで出会った中学校・高等学校時代の先生やクラスメートとのやり取りを振り返りながら、「学校の先生」になるためのイメージを膨らませ、受け身の授業にならないように努める。指導要領の解説書をよく読み込むことと、具体的な教員の業務などのシミュレーションや、学生同士のディスカッションに積極的に参加することで、理解を深め、指導力を身につけていってもらいたい。							
【教科書・参考書など】 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」文部科学省 毎時間持参する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 毎時間のミニレポート・各種提出課題40%、定期試験60%として評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。							

科目名	生徒指導法				担当者	酒井久実代	
英文名	Guidance Services in School						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教職科目	教職科目	教職科目		
【目的とねらい】 生徒指導は学習指導とともに教育の二大支柱の一つであり、学習指導に劣らず重要なものである。特に、いじめ、不登校、非行などの問題の改善・克服は生徒指導上の重要な課題である。本講義は、生徒指導の目的や方法、意義などの基本的な内容を理解した上で、今日的課題の特徴やそれに対する対応についての理解を深めることを目的とする。生徒指導は幅が広くかつ高い専門性を必要とするため、教職についてからも継続的に自己研鑽を積むことが必要である。そのための基盤作りをすることが本講義のねらいである。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 生徒指導の概念、目的と必要性 【 到達目標 】 (1) 生徒指導の概念について理解する。 (2) 生徒指導の目的とその必要性について理解する。 【授業時間外学習】 生徒指導の概念の理解に関する課題を行う。				第9回 カウンセリング技法と新しい手法 【 到達目標 】 (1) カウンセリング技法について理解する。 (2) 生徒指導の新しい手法について理解する。 【授業時間外学習】 カウンセリング技法、新しい手法の理解に関する課題を行う。			
第2回 生徒指導の領域と今日的課題 【 到達目標 】 (1) 生徒指導の6つの領域について理解する。 (2) 今日的課題を4つの側面から理解する。 【授業時間外学習】 生徒指導の領域の理解に関する課題を行う。				第10回 進路指導 【 到達目標 】 (1) 進路指導の課題について理解する。 (2) 進路指導の基礎となる理論について理解する。 【授業時間外学習】 進路指導の理解に関する課題を行う。			
第3回 生徒指導と教育課程との関連 【 到達目標 】 (1) 生徒指導と教科との関連を理解する。 (2) 生徒指導と道徳、特別活動との関連を理解する。 【授業時間外学習】 生徒指導と教育課程との関連の理解に関する課題を行う。				第11回 非行 【 到達目標 】 (1) 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導について理解する。 (2) 非行の背景について理解する。 (3) 非行への対応の基本について理解する。 【授業時間外学習】 非行の理解に関する課題を行う。			
第4回 生徒指導の組織 【 到達目標 】 (1) 生徒指導の組織体制について理解する。 (2) 生徒指導における外部機関との連携について理解する。 【授業時間外学習】 生徒指導の組織体制の理解に関する課題を行う。				第12回 不登校 1 【 到達目標 】 (1) 不登校の実態について理解する。 (2) 不登校の形成要因について理解する。 (3) 不登校への早期対応について理解する。 【授業時間外学習】 不登校の実態と早期対応についての理解に関する課題を行う。			
第5回 児童・生徒理解 【 到達目標 】 (1) 児童・生徒理解の意味と機能について理解する。 (2) 児童・生徒理解のための情報収集の方法について理解する。 【授業時間外学習】 児童・生徒理解に関する課題を行う。				第13回 不登校 2 【 到達目標 】 (1) 不登校になる様々な要因と不登校の生徒の内面について理解する。 (2) 不登校の経過について理解する。 (3) 不登校への対応について理解する。 【授業時間外学習】 不登校の背景と対応の理解に関する課題を行う。			
第6回 生徒指導における集団指導 1 【 到達目標 】 (1) 集団指導の意義について理解する。 (2) 集団指導の形態について理解する。 【授業時間外学習】 集団指導の意義・形態の理解に関する課題を行う。				第14回 いじめ 1 【 到達目標 】 (1) いじめの実態について理解する。 (2) いじめの発生要因について理解する。 (3) いじめ防止対策推進法について理解する。 【授業時間外学習】 いじめの実態と防止対策の理解に関する課題を行う。			
第7回 生徒指導における集団指導 2 【 到達目標 】 (1) 集団活動の種類について理解する。 (2) 望ましい学級集団づくりについて理解する。 【授業時間外学習】 学級集団づくりの理解に関する課題を行う。				第15回 いじめ 2 【 到達目標 】 (1) いじめへの対応について理解する。 (2) 取り組みにおける難しさと目指す方向について理解する。 (3) いじめへのサポートグループアプローチについて理解する。 【授業時間外学習】 いじめへの対応の理解に関する課題を行う。			
第8回 生徒指導における個別指導 【 到達目標 】 (1) 教師のカウンセリング・マインドについて理解する。 (2) 個別指導の種類・ポイントについて理解する。 【授業時間外学習】 個別指導の理解に関する課題を行う。							
【学習上の留意点】 講義ではパワーポイントを使用し、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながら、メモを取り、自分なりのノートを作成する。毎回、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題を通して、生徒指導に関する様々な問題について自分の考えをまとめていくことが必要である。課題の内容は期末テストとも対応しているので、しっかり復習すること。							
【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 レポート15%、毎回出す課題15%、期末テスト（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。							

科目名	教職実践演習（中・高）			担当者	亀井 良和・小堀 哲郎 助友 裕子・宮本 乙女 山下敬織子・佐々木直基 瀬川 大・高野美和子 湯澤 芳貴・沢田真喜子	
英文名	Practical Seminar for the Teaching Profession					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4		教職科目	教職科目	教職科目	
【目的とねらい】 この科目は、教職課程の総仕上げとして、教育実習経験を踏まえて、学生による発表やグループ討論によって、学生ひとり一人が自己の学修課題を見つけ、課題解決のための学修を積極的に進めていく。そのため教育実習を踏まえた課題の発表は、中学校・高等学校の体育実技の授業を分けて検討する。また、保健分野及び学級活動を含む特別活動との関わりで、学級担任としての役割と使命を十分に理解できるように演習を構成する。演習全体として、保健体育の教科の指導力と学校経営の視点を持った学級経営ができる実践的な力量形成を目指す。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 教職課程学修の振り返りと自己の課題確認 【 到達目標 】 授業開始までの夏季休業期間中に、教育実習を振り返り、課題レポートを提出する。 【授業時間外学習】 教育実習を振り返り、課題レポートを作成する。			第9回 教科外における生徒指導について 「学校生活改善プロジェクト」の実践② 【 到達目標 】 プロジェクト活動の続きを行い、報告書を完成させ、グループ間で発表を行う。 【授業時間外学習】 プロジェクトを継続して行い、問題点等を記録しておく。			
第2回 保健体育科教員の使命と責任（講義） 【 到達目標 】 今日の学校教育における保健体育の重要性、およびそれを担う教員の意義や責任について、再確認する。 【授業時間外学習】 今日の学校教育における保健体育の重要性、およびそれを担う教員の意義や責任について理解を深める。			第10回 特別活動・部活動から学んだこと 【 到達目標 】 事例に基づきグループ討論を行う。 【授業時間外学習】 グループ討論から学んだことや気づいたことを整理する。			
第3回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）① 【 到達目標 】 中学校保健体育科（体育分野）の授業研究（実習生による授業のVTR視聴とディスカッション） 【授業時間外学習】 中学校保健体育科（体育分野）の授業研究から得られたことを整理する。			第11回 自己の学修課題の確認と研究活動 【 到達目標 】 第3回～10回の発表・討論を踏まえ、とりわけ不足している知識と実技能力の課題の補完に向けて各自研究活動を進める。 【授業時間外学習】 これまでに学んできたことを生かして、新たな指導案を作成する。			
第4回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）② 【 到達目標 】 高等学校保健体育科（科目体育）の授業研究（実習生による授業のVTR視聴とディスカッション） 【授業時間外学習】 高等学校保健体育科（科目体育）の授業研究から得られたことを整理する。			第12回 教員として求められる社会性・対人関係能力は何か（講話） 【 到達目標 】 現職教員を招き、現場の実情について講話を聞くことにより、教職現場で求められている教員としての能力を把握し、これから何をすべきかを明確にする。 【授業時間外学習】 教員として求められる社会性・対人関係能力について理解を深める。			
第5回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）③ 【 到達目標 】 中学校保健体育科（保健分野）および高等学校保健体育科（科目保健）の授業研究（実習生による授業のVTR視聴とディスカッション） 【授業時間外学習】 中学校保健体育科（保健分野）および高等学校保健体育科（科目保健）の授業研究から得られたことを整理する。			第13回 教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題（講話） 【 到達目標 】 現職教員を招き、教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題について理解を深め、教育現場で果たすべき義務と責任を果たすための心構えを養い、さらにはライフサイクルに応じた課題の変化についてどのように対応していくべきかについての準備をする。 【授業時間外学習】 教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題について理解を深める。			
第6回 保健体育科教員に求められる教科の指導力① 【 到達目標 】 第3～4回において指摘された場面の指導方法代替案シナリオを作成・発表する。 【授業時間外学習】 指摘された場面の指導方法代替案シナリオ発表から学んだことを整理する。			第14回 各自の研究活動の成果発表と学生の相互評価 【 到達目標 】 第11回における研究活動およびその後の授業時間外学習の成果を発表相互に発表しあい、討論を行う。 【授業時間外学習】 各自の研究活動の成果発表から学んだことを整理する。			
第7回 保健体育科教員に求められる教科の指導力② 【 到達目標 】 第5回において指摘された場面の指導方法代替案シナリオを作成・発表する。 【授業時間外学習】 指摘された場面の指導方法代替案シナリオ発表から学んだことを整理する。			第15回 魅力ある教員をめざして—まとめレポートの作成と意見交換— 【 到達目標 】 教員としての資質能力の確認：実技・知識・教職の適性。 【授業時間外学習】 教員としての資質能力（実技・知識・教職の適性）について理解を深める。			
第8回 教科外における生徒指導について 「学校生活改善プロジェクト」の実践④ 【 到達目標 】 あらかじめ考えてきた活動内容を持ち寄りプロジェクトを決定し、具体的な対策を検討。実際に現場に出て観察、聞き取り、巡回などを行った後、本日の活動をまとめ、次回までに取り組んでくる内容を決定する。 【授業時間外学習】 各自プロジェクト内容を考案してくる。						
【学習上の留意点】 夏季休業期間中に、6月に行った教育実習を振り返り、各自の実習中の課題等についてレポートを提出すること。そのため、各実習中に作成した指導案や資料等は整理しておくこと。						
【教科書・参考書など】 テキスト：「教職実践演習テキスト」（学内作成予定）、学習指導要領、「体育教育学入門」（大修館）、「体育実技書」 参考書・参考資料等：教育実習事前指導である「教育実践研究」の授業時に作成する教職課程履修チェックリスト、教育実習時に作成する教科指導案、「教育実習の手引き」「教育実習ノート」等						
【関連科目】 教育実習（教育実践研究を含む）						
【成績評価方法】 各種レポート等の提出状況と完成度等を総合的に評価する。（履修カルテ：10%、第2回から第10回までの授業内提出物：40%、自己の学修課題の確認と研究活動により作成した指導案：30%、「魅力ある教員をめざして」に関するまとめレポート：20%） なお、良好な出席状況は、当然の前提である。						

科目名	教育実習（教育実践研究を含む）			担当者	須甲 理生・小堀 哲郎 笹本 重子・宮本 乙女 山下敬織子・瀬川 大 高野美和子・湯澤 芳貴 亀井 良和	
英文名	Teaching Practice					
単位数	5	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4		教職科目	教職科目	教職科目	
【目的とねらい】 「教育実習」は、大学内で行う「教育実践研究」（1単位）と実習校で行う「実習校実習」（4単位）からなる。「教育実践研究」は2年次後期11月から始まり、講義、外部講師による講話、上級生からの報告とディスカッション、模擬授業等の他、教育実習に関する諸事項と、介護等体験に関する事前指導も含めて展開する。これらのことを通して、教員として必要な実践的力量を向上させていくことを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 教員養成と免許法について、授業日程、介護等体験について（2年次） 【 到達目標 】 (1)説明を聞いて理解し、4年次の自分の姿をイメージする。 (2)学び続ける教員像について理解できる。 【授業時間外学習】 自身の目指すべき教員像について考察する。			第9回 授業研究5（模擬授業の実践3） 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
第2回 本学の教員養成の特色、口頭内諾の進め方（2年次） 【 到達目標 】 (1)本学の教員養成の特色と口頭内諾の進め方を理解する。 【授業時間外学習】 本学の教員養成の特色について復習する。			第10回 授業研究6（模擬授業の実践4） 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
第3回 保健体育教師の使命、内諾手続きについて 【 到達目標 】 (1)保健体育教師の使命について理解する。 (2)正式な内諾手続きについて理解する。 【授業時間外学習】 学び続ける教員像や授業で勝負できる教員像の視点から改めて理想の教師像について考察する。			第11回 授業研究7（模擬授業の実践5） 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
第4回 4年生の教育実習体験報告 【 到達目標 】 (1)4年生の報告から、自己の課題を明確にする。 【授業時間外学習】 自己の課題を明確にし、教育実習のイメージを深める。			第12回 外部講師による講話（中学校教員） 【 到達目標 】 (1)中学校での教育実習の進め方や中学校保健体育科教員としての在り方を理解する。 (2)中学校における職務内容、地域との連携、学校安全について理解する。 (3)中学校における道徳、総合的な学習の時間、キャリア教育等について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
第5回 授業研究1（模擬授業の意義と進め方について） 【 到達目標 】 (1)模擬授業の意義と進め方について理解する。 (2)アクティブラーニングやICTを取り入れた授業計画や実践について理解する。 (3)特別の支援を必要とする生徒の理解を踏まえた授業計画や実践について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			第13回 外部講師による講話（高等学校教員） 【 到達目標 】 (1)高等学校での教育実習の進め方や高等学校保健体育科教員としての在り方を理解する。 (2)高等学校における職務内容、地域との連携、学校安全について理解する。 (3)高等学校における総合的な学習の時間、キャリア教育等について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
第6回 授業研究2（体育授業におけるマネジメント技術の習得） 【 到達目標 】 (1)体育授業の基礎的条件となるマネジメント技術について、実技を通して理解する。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			第14回 教育実習直前の諸注意 【 到達目標 】 (1)教育実習期間中（3週間）の過ごし方、事務処理、報告方法を理解する。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
第7回 授業研究3（模擬授業の実践1） 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			《教育実習校実習 3週間》			
第8回 授業研究4（模擬授業の実践2） 【 到達目標 】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】 教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			第16回 教育実習の報告会 【 到達目標 】 (1)教育実習で学んだことをレポートにまとめ、報告する。 【授業時間外学習】 教育実習を省察し、改めて、自身の目指すべき保健体育教師像について考察する。			
【学習上の留意点】 教育実習校実習は4年次であるが、この授業は2年次の11月から始まり、教育実習事後指導までの長期間に亘る。この間の欠席は一切許されない。教職に就くことを目指す者として、真剣な態度で望んで欲しい。						
【教科書・参考書など】 「教育実習の手引き」						
【関連科目】 教職科目全般。特に、「保健体育科教育法Ⅱ（教育の方法・技術含む）」は、第5回から第11回の授業研究において、本授業と関連させながら進めていく。						
【成績評価方法】 「教育実践研究」の成績と教育実習校からの評価を総合して単位を認定する。						